
調布市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
結果報告書



令和6年3月
調布市

目次

第1部 調査の概要	1
調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査対象及び調査方法	3
3. 配布数及び回収結果	4
本調査の基本的な事項	4
1. 数値の基本的な取り扱いについて	4
2. 前回調査結果（参考）について（平成30年10月～平成30年11月に実施）	4
第2部 未就学児の保護者対象調査	5
子ども・子育て支援に関するニーズ調査【未就学児の保護者】	7
1. 居住地区について	7
(1) 居住地区	7
2. 本人と家庭の状況について	8
(1) 年齢	8
(2) 兄・姉の人数	8
(3) 弟・妹の人数	9
(4) きょうだいの人数	9
(5) 生計を一にする家族	10
(6) 生計を一にするが同居していない家族	10
(7) 回答者の配偶関係等	11
(8) 住まいの形態	12
3. 子育て環境について	13
(1) 日頃子どもをみてもらえる人の有無	13
4. 保護者の就労状況等について	14
(1) 世帯年収	14
(2) 経済的理由のために世帯で持っていないもの	15
(3) この1年で経済的理由のために見送ったもの	17
(4) 母親の就労状況	20
(5) 母親の就労希望について	21
(6) 希望の就労形態	21
(7) 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望	22
(8) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	23
(9) 母親のフルタイムへの転換希望	24
(10) 父親の就労状況	25
(11) 父親の就労希望について	25
(12) 希望の就労形態	26

(13) 父親：パートタイム・アルバイト等就労の希望	26
(14) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	27
(15) 父親のフルタイムへの転換希望	28
5. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	29
(1) 母親：育児休業取得後の職場復帰状況	29
(2) 母親：育児休業取得期間	30
(3) 父親：育児休業取得後の職場復帰状況	31
(4) 父親：育児休業取得期間	32
6. 子育ての不安・悩み等について	34
(1) 子育てでの不安や悩み	34
(2) 気軽に相談できる相談先	36
(3) 地域交流の場の利用の有無	38
(4) あるとよいと思う地域の活動	39
(5) 理想とする子どもの人数	40
(6) 理想とする人数の子どもの育てやすくなるための課題	41
7. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	42
(1) 定期的な教育・保育の事業の利用状況	42
(2) 平日定期的に利用している教育・保育の事業	43
(3) 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況	44
(4) 希望の利用日数/週	47
(5) 利用していない理由	50
(6) 平日定期的に利用したい教育・保育の事業	51
(7) 教育・保育の事業を希望する上で重視する条件	52
(8) 幼稚園の利用を開始したい子どもの年齢	53
(9) 幼稚園を利用していない理由	54
8. 土曜日・休日等の定期的な教育・保育事業の利用について	55
(1) 土曜日：利用希望	55
(2) 日曜日・祝日：利用希望	56
(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望	57
9. 地域子育て支援拠点事業の利用状況について	58
(1) 地域子育て支援事業の利用状況	58
(2) 地域子育て支援事業等の利用回数/月	59
(3) 地域子育て支援事業の利用意向	60
(4) 地域子育て支援事業の希望利用回数/月	61
10. 市の子育て支援サービス等について	62
(1) 子育てに関する情報の入手先	62
(2) 子育てに関して欲しい情報	64
(3) 事業・サービス等の認知状況	65
(4) 事業・サービス等の利用状況	67
(5) 事業・サービス等の利用意向	69
11. 子どもの病気の際の対応について	70

(1) 病気やケガで利用できなかったこと	70
(2) この1年間の対処方法	71
(3) この1年間の対処方法ごとの日数	72
(4) 病児・病後児保育の利用意向	77
(5) 利用希望日数/年	78
(6) 利用したいと思わない理由	79
12. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	80
(1) 不定期に利用している事業	80
(2) 不定期に利用している事業の利用日数	81
(3) 利用していない理由	86
(4) 今後利用したい事業	87
(5) 今後利用したい事業の利用希望日数	88
(6) 定期預かり事業の利用意向	92
(7) 定期預かり事業の利用希望	93
(8) 定期預かり事業を利用したい場所	95
(9) 定期預かり事業を利用したい理由	96
13. 体験の状況について	97
(1) 過去1年間の体験	97
(2) ない理由 ① アウトドアに行く	98
(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く	98
(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く	99
(5) ない理由 ④ 幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育	99
14. 児童虐待について	100
(1) 児童虐待の認知状況	100
(2) 児童虐待を発見した際の通告・通報先	101
(3) 児童虐待について知っていること	102
15. ヤングケアラーについて	103
(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか	103
16. 調布市子ども条例及び子どもの権利について	104
(1) 調布市子ども条例を知っているか	104
(2) 子どもの権利を知っているか	105
(3) 大切だと思う子どもの権利	106
(4) 行政や関係機関の取組として必要なこと	107
(5) 市の子育て環境や支援への満足度	109
(6) 魅力的だと思う、他自治体の子育て支援環境	110
(7) 市の子育て支援や子育て環境における課題と改善策	113
第3部 小学生の保護者対象調査	117
子ども・子育て支援に関するニーズ調査【小学生の保護者】	119
1. 居住地区について	119
(1) 居住地区	119

2. 本人と家庭の状況について	120
(1) 学年	120
(2) 兄・姉の人数	120
(3) 弟・妹の人数	121
(4) きょうだいの人数	121
(5) 生計を一にする家族	122
(6) 生計を一にするが同居していない家族	122
(7) 回答者の配偶関係等	123
(8) 住まいの形態	124
3. 子育て環境について	125
(1) 日頃子どもをみてもらえる人の有無	125
4. 保護者の就労状況等について	126
(1) 世帯年収	126
(2) 経済的理由のために世帯で持っていないもの	127
(3) 経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったもの	129
(4) 母親の就労状況	132
(5) 母親の就労希望について	133
(6) 母親：希望の就労形態	133
(7) 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望	134
(8) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	135
(9) 母親のフルタイムへの転換希望	136
(10) 父親の就労状況	137
(11) 父親の就労希望について	137
(12) 父親：希望の就労形態	138
(13) 父親：パートタイム・アルバイト等就労の希望	138
(14) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間	139
(15) 父親のフルタイムへの転換希望	140
5. 子育ての不安・悩み等について	141
(1) 子育てでの不安や悩み	141
(2) 気軽に相談できる相談先	143
(3) 地域交流の場の利用の有無	144
(4) あるとよいと思う地域の活動	145
(5) 理想とする子どもの人数	146
(6) 理想とする人数の子どもを育てやすくなるための課題	148
6. 市の子育て支援サービス等について	149
(1) 子育てに関する情報の入手先	149
(2) 子育てに関して欲しい情報	150
(3) 事業・サービス等の認知状況	151
(4) 事業・サービス等の利用状況	153
(5) 事業・サービス等の利用意向	155
7. 小学校就学後の放課後の過ごし方について	157
(1) 現状 ① 学校終了後～17:00	157

(2) 現状 ② 17:00～19:00.....	159
(3) 現状 ③ 19:00～	161
(4) ① 現在低学年：希望－低学年 (1) 学校終了後～17:00	163
(5) ① 現在低学年：希望－低学年 (2) 17:00～19:00	165
(6) ① 現在低学年：希望－低学年 (3) 19:00～	167
(7) ② 現在低学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17:00	169
(8) ② 現在低学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00	171
(9) ② 現在低学年：希望－高学年 (3) 19:00～	173
(10) 現在高学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17:00.....	175
(11) 現在高学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00.....	177
(12) 現在高学年：希望－高学年 (3) 19:00～	179
(13) 学童クラブ：利用希望学年	180
(14) 学童クラブ：利用希望時期 4年生	181
(15) 学童クラブ：利用希望時期 5年生	182
(16) 学童クラブ：利用希望時期 6年生	183
(17) 学童クラブ：利用していない理由	184
(18) 学童クラブ：利用したい理由	185
(19) あそびバへの登録，利用の有無	186
(20) 利用回数／週.....	186
(21) あそびバ：利用している理由	187
(22) 現状のあそびバの開設時間帯をどう感じているか	188
(23) あそびバ：利用希望時間 (1) 学校がある日	188
(24) あそびバ：利用希望時間 (2) 学校が休みの日	189
(25) あそびバ：利用・登録していない理由	190
(26) 児童館：利用していない理由	191
(27) 現状の児童館の開設時間帯をどう感じているか	192
(28) 放課後の過ごし方について心配なこと	192
(29) 「調布市青少年ステーション CAPS」を知っているか	193
8. 体験の状況について	193
(1) 過去1年間の体験	193
(2) ない理由 ① アウトドアに行く	194
(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く	194
(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く	195
(5) ない理由 ④ 塾に行く	195
(6) ない理由 ⑤ 習い事に行く	196
9. 児童虐待について	196
(1) 児童虐待の認知状況	196
(2) 児童虐待を発見した際の通告・通報先.....	197
(3) 児童虐待について知っていること.....	198
10. ヤングケアラーについて	199
(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか.....	199
11. 調布市子ども条例及び子どもの権利について	200
(1) 調布市子ども条例を知っているか.....	200

(2) 子どもの権利を知っているか	201
(3) 大切だと思う子どもの権利	202
(4) 行政や関係機関の取組として必要なこと	203
(5) 市の子育て環境や支援への満足度.....	204
(6) 魅力的だと思う，他自治体の子育て支援環境.....	205
(7) 市の子育て支援や子育て環境における課題と改善策.....	208

第 1 部 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第三期調布っ子すこやかプラン」（計画期間：令和7年度から令和11年度まで）を策定するにあたり、より多くの子ども・子育て家庭の現状やニーズを把握した上で、子ども・子育て支援施策を推進するために実施した。

2. 調査対象及び調査方法

(1) 未就学児の保護者

項目	今回調査	前回調査
調査対象	市内の未就学児の保護者	市内の未就学児の保護者
配布数	2,000	2,000
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送法・Web	郵送法
調査時期	令和5年12月～令和6年1月	平成30年10月～平成30年11月
調査地域	調布市全域	調布市全域

(2) 小学生の保護者

項目	今回調査	前回調査
調査対象	市内小学生の保護者	市内小学生の保護者
配布数	2,000	2,000
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送法・Web	郵送法
調査時期	令和5年12月～令和6年1月	平成30年10月～平成30年11月
調査地域	調布市全域	調布市全域

3. 配布数及び回収結果

(1) 未就学児の保護者

項目	今回調査	前回調査
配布数	2,000	1,995
有効回収数	紙による回答：497 web 回答：665 (合計：1,162)	1,187
有効回収率	紙による回答：24.85% web 回答：33.25% (合計：58.1%)	59.5%

(2) 小学生の保護者

項目	今回調査	前回調査
配布数	2,000	1,998
有効回収数	紙による回答：560 web 回答：512 (合計：1,072)	1,206
有効回収率	紙による回答：28.0% web 回答：25.6% (合計：53.6%)	60.4%

本調査の基本的な事項

1. 数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

2. 前回調査結果（参考）について（平成30年10月～平成30年11月に実施）

- 前回調査と同じ又は類似の設問については、前回調査結果を参考として掲載している。
- 前回調査結果と比較可能な設問については、前回調査結果との比較を行っている。

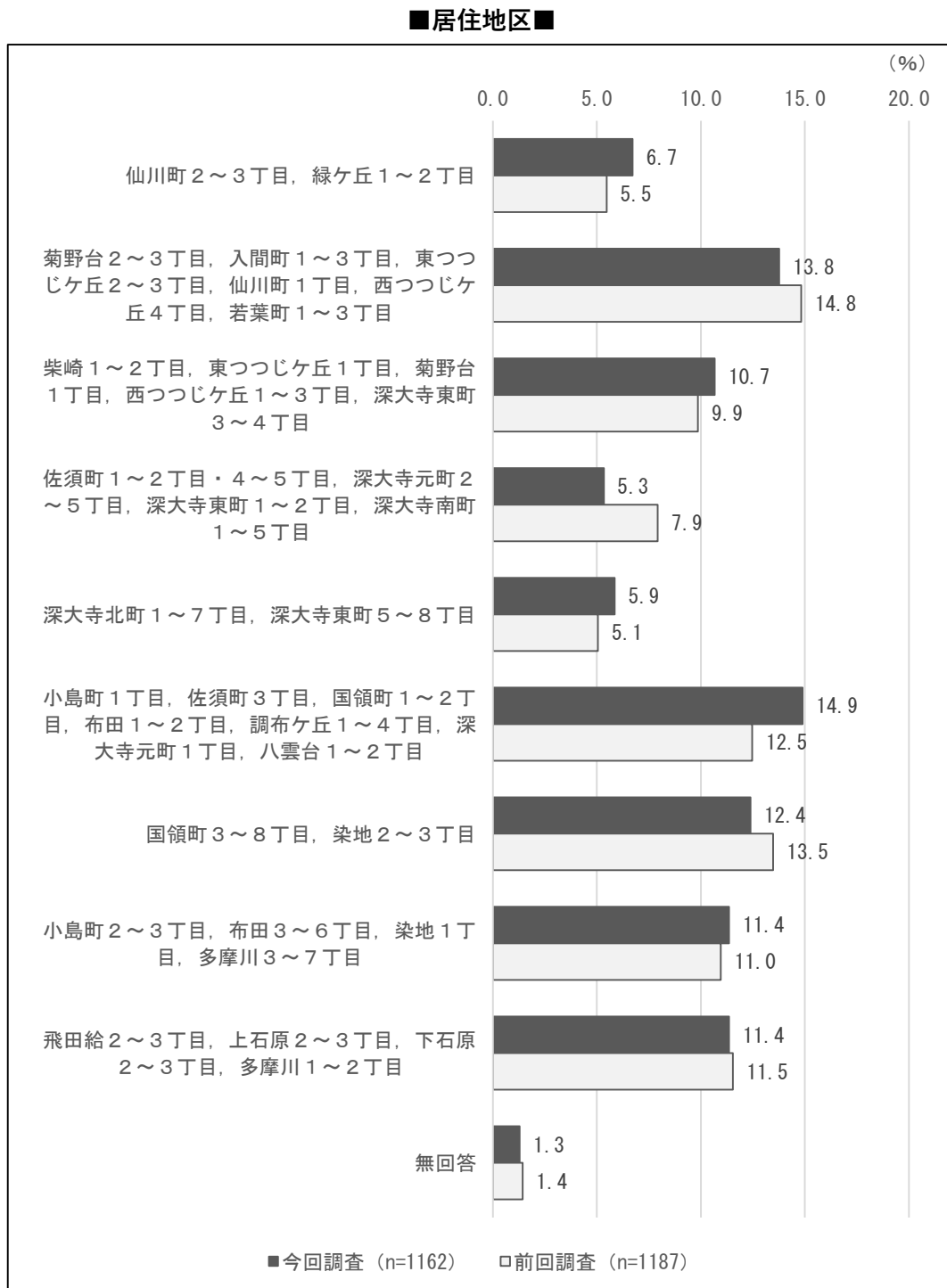
第2部 未就学児の保護者対象調査

子ども・子育て支援に関するニーズ調査【未就学児の保護者】

1. 居住地区について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地区としてあてはまるのは次のうちどれですか。

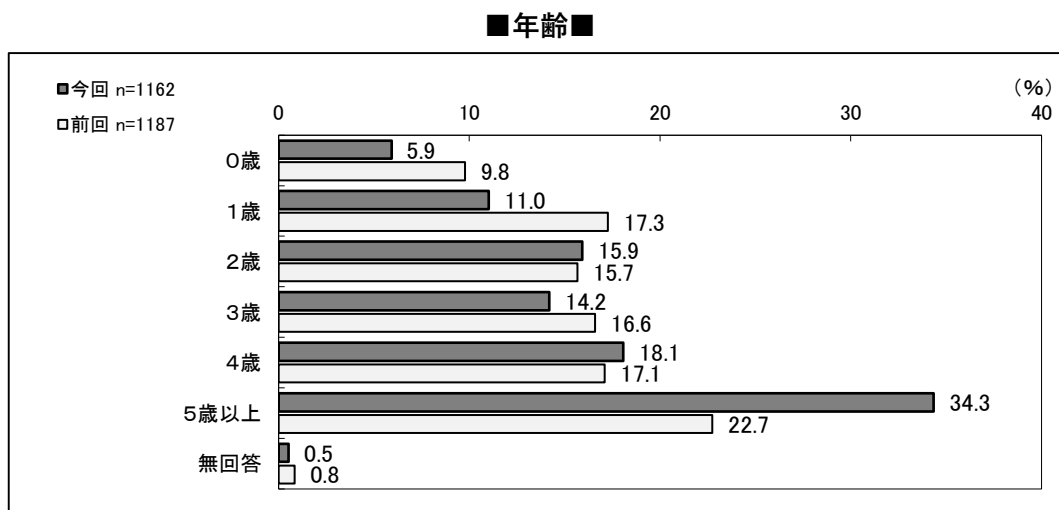


2. 本人と家庭の状況について

(1) 年齢

問2 宛名のお子さんの年齢はおいくつですか（令和5年4月1日時点）

「5歳」（34.3%）, 「4歳」（18.1%）, 「2歳」（15.9%）, 「3歳」（14.2%）, 「1歳」（11.0%）, 「0歳」（5.9%）。

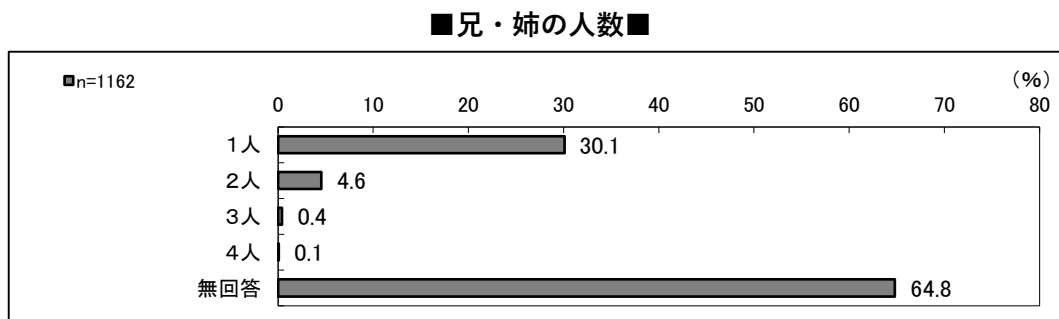


(2) 兄・姉の人数

問3 宛名のお子さんのきょうだいについて人数でお答えください。

(1) 宛名のお子さんの兄・姉

「1人」（30.1%）, 「2人」（4.6%）, 「3人」（0.4%）, 「4人」（0.1%）。

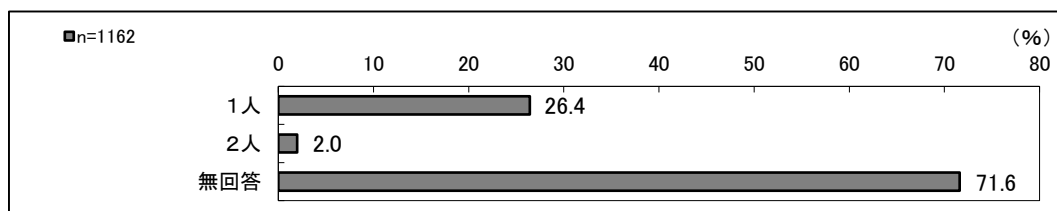


(3) 弟・妹の人数

(2)宛名のお子さんの弟・妹

「1人」(26.4%), 「2人」(2.0%)。

■ 弟・妹の人数 ■

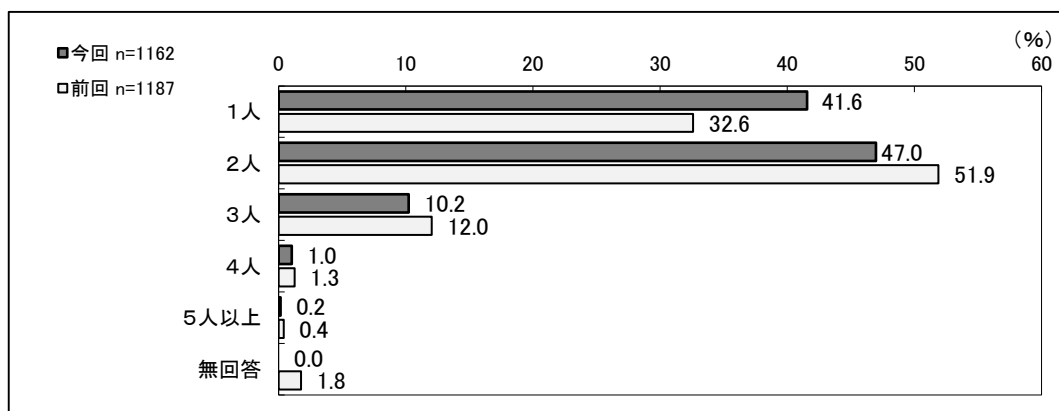


(4) きょうだいの人数

問3(1), (2)の回答から宛名のお子さんを含むきょうだいの人数を算出したところ, 「1人」(41.6%), 「2人」47.0%, 「3人」(10.2%), 「4人」(1.0%), 「5人」(0.2%) となった。

前回調査結果と比べると, 「1人」の割合が9.0ポイント増加しており, “2人以上”(58.4%)の割合は7.2ポイント減少している。

■ きょうだいの人数 ■

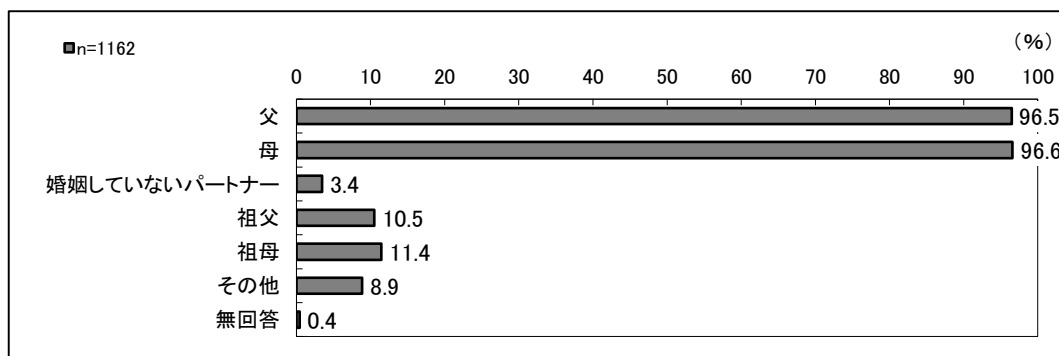


(5) 生計を一にする家族

問4 宛名のお子さんと生計を一にするご家族はどなたですか。【複数回答】

「母」(96.6%),「父」(96.5%),「祖母」(11.4%),「祖父」(10.5%),「婚姻していないパートナー」(3.4%),「その他」(8.9%)。

■生計を一にする家族■

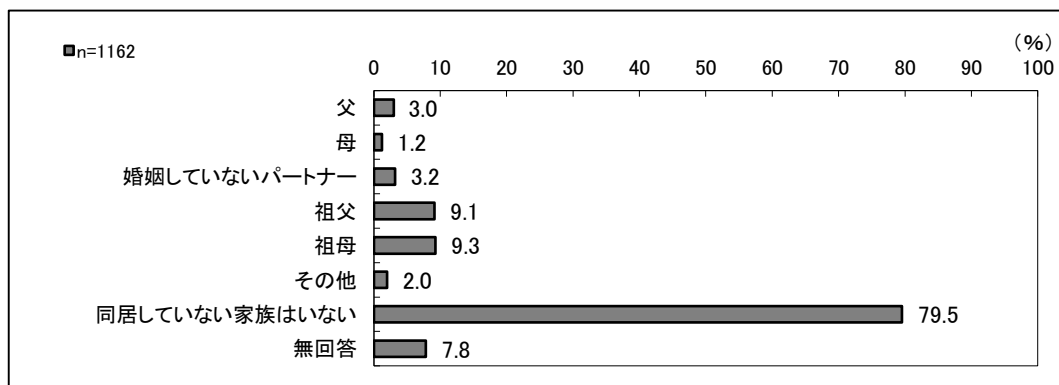


(6) 生計を一にするが同居していない家族

問5 宛名のお子さんと生計を一にするご家族のうち同居していない方はいますか。【複数回答】

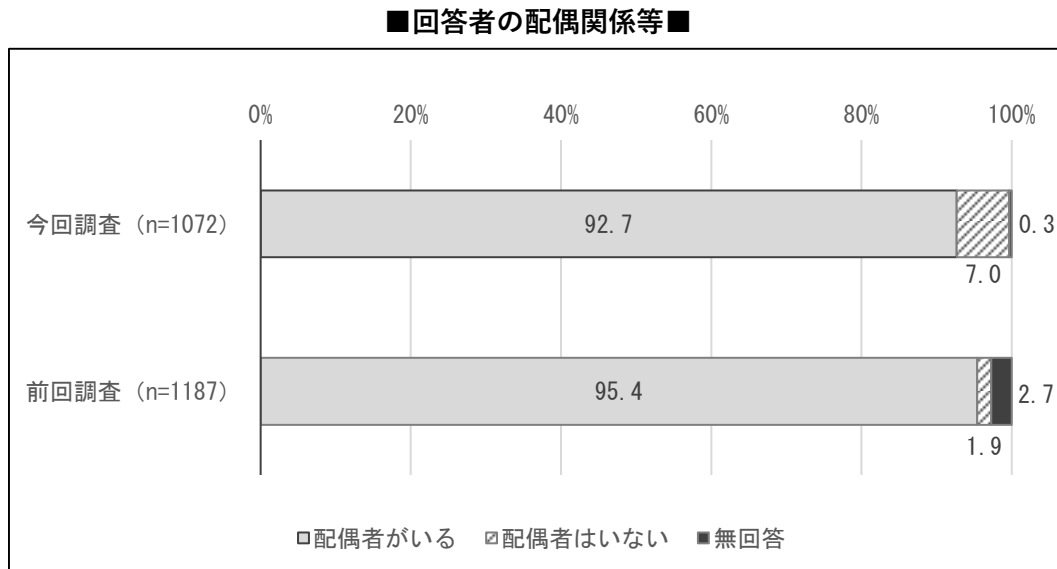
「祖母」(9.3%),「祖父」(9.1%),「婚姻していないパートナー」(3.2%),「父」(3.0%),「母」(1.2%),「その他」(2.0%),「同居していない家族はいない」(79.5%)。

■生計を一にするが同居していない家族■



(7) 回答者の配偶関係等

問4、問5の回答結果等から、回答者の配偶関係を整理した結果は次のとおりとなっている。「配偶者がいない」とする回答者の割合が、前回調査結果から5.1ポイント増加している。



(8) 住まいの形態

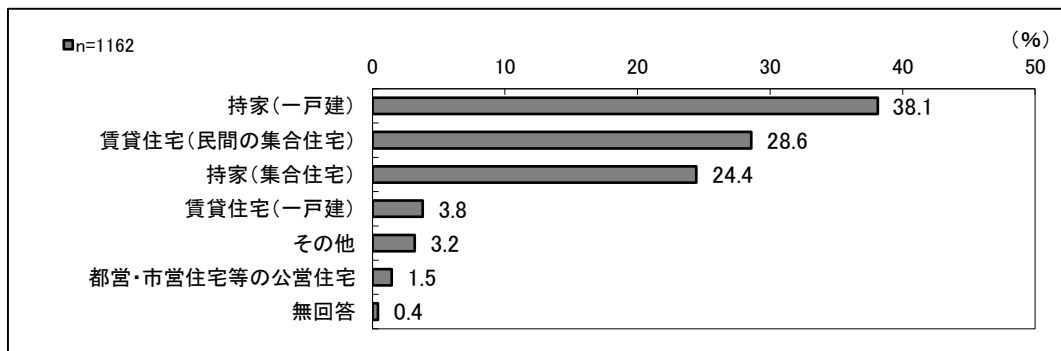
問6 宛名のお子さんの現在のお住まいについて、あてはまるものは次のうちどれですか。



「持家（一戸建）」(38.1%)、「賃貸住宅（民間の集合住宅）」(28.6%)、「持家（集合住宅）」(24.4%)、「賃貸住宅（一戸建）」(3.8%)、「都営・市営住宅等の公営住宅」（1.5%)、「その他」(3.2%)。「持家（一戸建）」、「持家（集合住宅）」の割合が62.5%で6割以上を占めている。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収（税込）“600万円以上”では「持家」の割合が高まることがわかる。

■住まいの形態■



■世帯年収と住まいの形態とのクロス集計表■

	合計	問6 住まいの形態						無回答	
		賃貸住宅 (一戸 建)	賃貸住宅 (民間の 集合住 宅)	持家(一 戸建)	持家(集 合住宅)	都営・市 営住宅等 の公営住 宅	その他		
全体	1162	44	332	443	284	17	37	5	
	100.0%	3.8%	28.6%	38.1%	24.4%	1.5%	3.2%	0.4%	
問8 世帯年収	収入なし	5	0	1	3	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	100万円未満	6	0	4	0	2	0	0	0
		100.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	100万円～200万円未満	9	1	4	1	1	1	1	0
		100.0%	11.1%	44.4%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%
	200万円～300万円未満	27	0	15	5	2	5	0	0
		100.0%	0.0%	55.6%	18.5%	7.4%	18.5%	0.0%	0.0%
	300万円～400万円未満	41	1	18	18	2	1	1	0
		100.0%	2.4%	43.9%	43.9%	4.9%	2.4%	2.4%	0.0%
	400万円～500万円未満	62	5	21	23	9	2	2	0
		100.0%	8.1%	33.9%	37.1%	14.5%	3.2%	3.2%	0.0%
500万円～600万円未満	102	2	43	38	15	3	1	0	
	100.0%	2.0%	42.2%	37.3%	14.7%	2.9%	1.0%	0.0%	
600万円～700万円未満	112	3	35	42	27	0	5	0	
	100.0%	2.7%	31.3%	37.5%	24.1%	0.0%	4.5%	0.0%	
700万円～800万円未満	150	6	41	58	38	1	6	0	
	100.0%	4.0%	27.3%	38.7%	25.3%	0.7%	4.0%	0.0%	
800万円～1,000万円未満	249	6	68	102	63	2	8	0	
	100.0%	2.4%	27.3%	41.0%	25.3%	0.8%	3.2%	0.0%	
1,000万円以上	377	19	75	149	121	1	11	1	
	100.0%	5.0%	19.9%	39.5%	32.1%	0.3%	2.9%	0.3%	

3. 子育て環境について

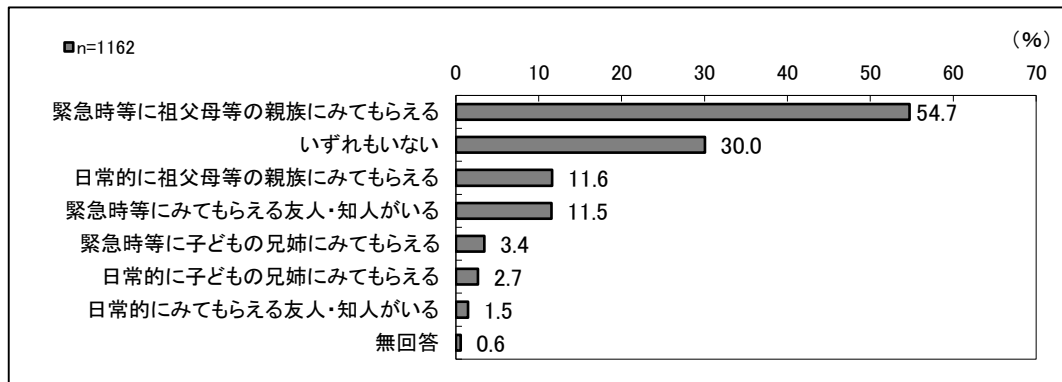
(1) 日頃子どもをみてもらえる人の有無

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる（保育園のお迎え、食事や入浴の世話、家事のお手伝いなど）親族・知人はいますか。【複数回答】

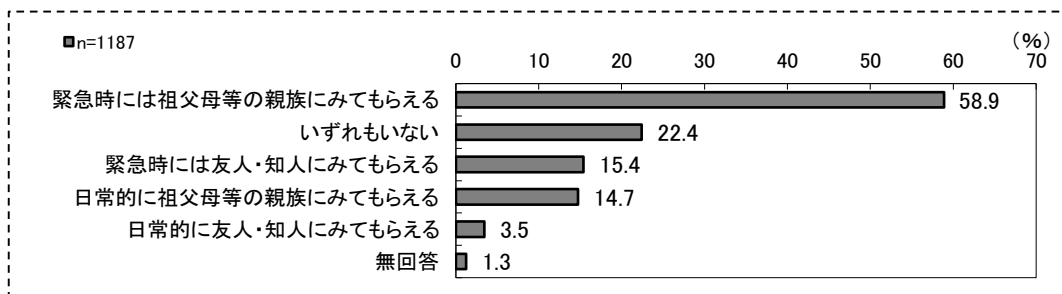
「緊急時等に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が54.7%で約半数を占めている。
「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(11.6%)、「緊急時等にみてもらえる友人・知人がいる」(11.5%)、「緊急時等に子どもの兄姉にみてもらえる」(3.4%)、「日常的に子どもの兄姉にみてもらえる」(2.7%)、「日常的にみてもらえる友人・知人がいる」(1.5%)等がこれに続く。
前回調査結果と比べると「いずれもない」の割合は30.0%と7.6ポイント増加しており、全体の3割となっている。

■日頃子どもをみてもらえる人の有無■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



4. 保護者の就労状況等について

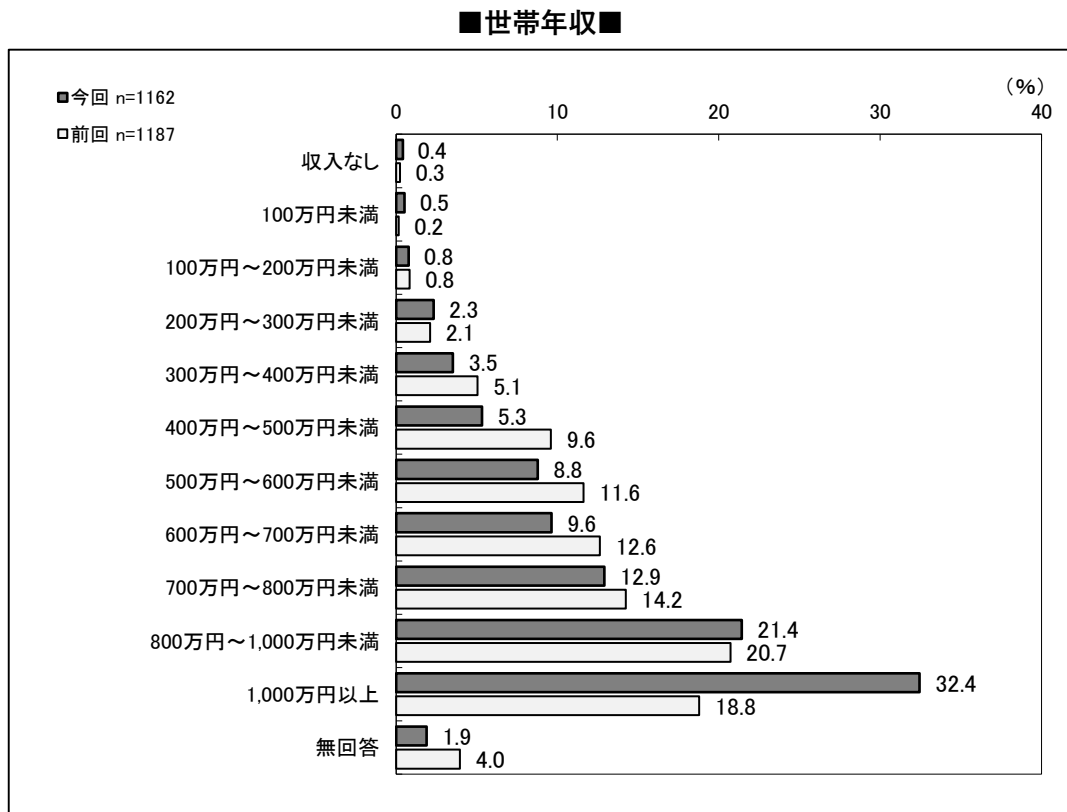
(1) 世帯年収

問8 世帯の年収（税込）は次のうちどれにあたりますか。

「1,000万円以上」が32.4%と前回調査結果から13.6ポイント増加し、最も高い割合となった。

「800万円～1,000万円未満」（21.4%）, 「700万円～800万円未満」（12.9%）, 「600万円～700万円未満」（9.6%）, 「500万円～600万円未満」（8.8%）, 等がこれに続く。

前回調査結果（39.5%）と比較して世帯年収（税込）“800万円以上”が14.3ポイント増加しており、過半数（53.8%）を占めている。



(2) 経済的理由のために世帯で持っていないもの

問9 次のうち、経済的理由のためにあなたの世帯で持っていないものはありますか。

【複数回答】



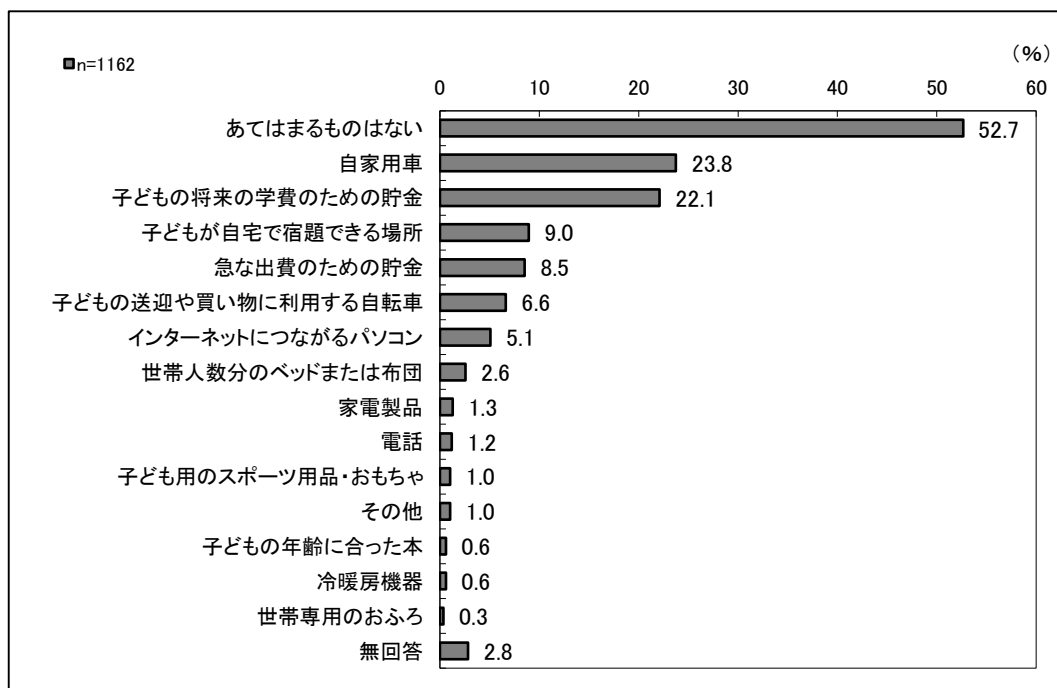
「あてはまるものはない」(52.7%)が最も高い割合を占めている。

あてはまるものとしては、「自家用車」(23.8%),「子どもの将来の学費のための貯金」(22.1%)への回答が多くなった。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収(税込)“600万円未満”で「子どもの将来の学費のための貯金」が最も高い割合を占める。

一方、世帯年収(税込)“600万円以上”では「あてはまるものはない」が最も高い割合を占める。

■経済的理由のために世帯で持っていないもの■



■世帯年収と経済的理由のために世帯で持っていないものとのクロス集計表■

	合計	問9 経済的理由のために世帯で持っていないもの								
		子どもの年齢に合った本	子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	子どもが自宅で宿題できる場所	子どもの送迎や買い物に利用する自転車	冷暖房機器	家電製品	電話	インターネットにつながるパソコン	
全体	1162	7	12	104	77	7	15	14	59	
	100.0%	0.6%	1.0%	9.0%	6.6%	0.6%	1.3%	1.2%	5.1%	
問8 世帯年収	収入なし	5	1	2	1	2	0	1	0	1
	100万円未満	6	0	0	2	0	0	0	0	2
	100万円～200万円未満	9	0	1	2	2	0	0	0	2
	200万円～300万円未満	27	1	3	7	3	0	0	1	5
	300万円～400万円未満	41	0	1	9	6	1	1	1	7
	400万円～500万円未満	62	1	1	10	7	0	3	2	4
	500万円～600万円未満	102	0	1	20	15	4	2	2	15
	600万円～700万円未満	112	1	1	10	8	0	3	1	9
	700万円～800万円未満	150	1	1	13	5	0	2	1	4
	800万円～1,000万円未満	249	1	1	18	16	1	1	2	4
	1,000万円以上	377	1	0	11	11	1	2	4	6
		100.0%	0.3%	0.0%	2.9%	2.9%	0.3%	0.5%	1.1%	1.6%

	合計	問9 経済的理由のために世帯で持っていないもの							無回答	
		世帯専用のおふろ	世帯人数分のベッドまたは布団	自家用車	子どもの将来の学費のための貯金	急な出費のための貯金	その他	あてはまるものはない		
全体	1162	4	30	276	257	99	12	612	33	
	100.0%	0.3%	2.6%	23.8%	22.1%	8.5%	1.0%	52.7%	2.8%	
問8 世帯年収	収入なし	5	0	1	3	2	0	1	0	
	100万円未満	6	0	1	5	4	0	1	0	
	100万円～200万円未満	9	0	5	7	5	0	1	0	
	200万円～300万円未満	27	1	3	13	22	14	1	2	
	300万円～400万円未満	41	0	2	15	17	8	0	10	
	400万円～500万円未満	62	1	2	26	32	13	1	14	
	500万円～600万円未満	102	0	7	30	42	21	2	29	
	600万円～700万円未満	112	1	4	27	26	8	3	54	
	700万円～800万円未満	150	0	3	38	37	9	1	71	
	800万円～1,000万円未満	249	1	2	56	30	6	1	155	
	1,000万円以上	377	0	5	60	34	8	3	268	
		100.0%	0.0%	1.3%	15.9%	9.0%	2.1%	0.8%	71.1%	2.7%

(3) この1年で経済的理由のために見送ったもの

問10 過去1年間において、経済的理由のためにはやむを得ず購入や契約、支払いを見送ったものがありますか。【複数回答】

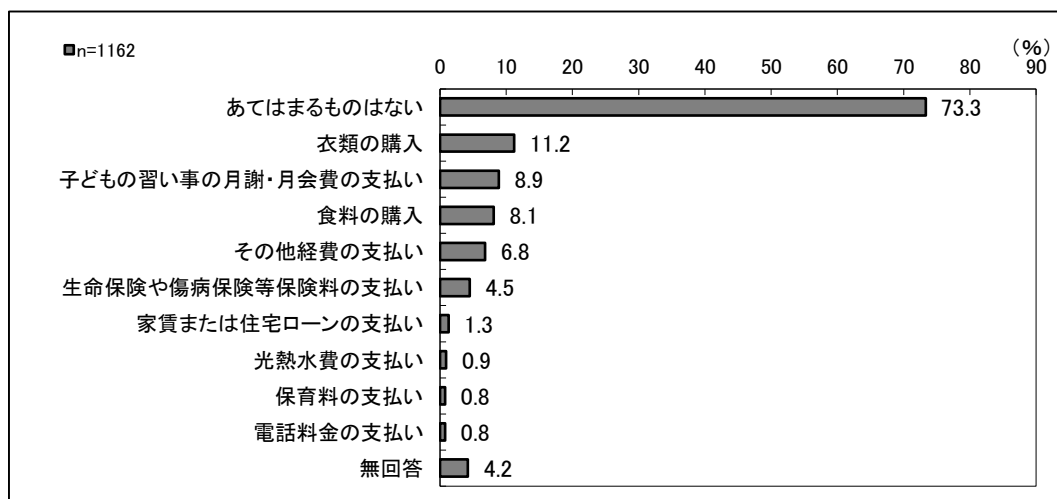


「あてはまるものはない」(73.3%)が最も高い割合を占めている。

あてはまるものとしては、「衣類の購入」(11.2%)、「子どもの習い事の月謝・月会費の支払い」(8.9%)、「食料の購入」(8.1%)が上位3位を占める。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収(税込)“300万円未満”では、約5割が衣類や食料の購入を見送ったことがあると回答している。

■ この1年で経済的理由のために見送ったもの ■



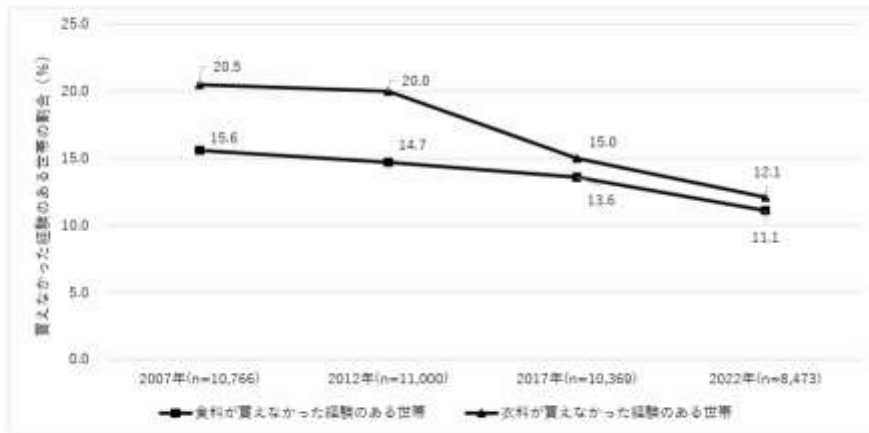
【世帯年収と経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったものとのクロス集計表】

	合計	問10 この1年で経済的理由のために見送ったもの							
		衣類の購入	食料の購入	保育料の支払い	子どもの習い事の月謝・月会費の支払い	家買または住宅ローンの支払い	光熱水費の支払い	電話料金の支払い	生命保険や傷病保険等保険料の支払い
全体	1162 100.0%	130 11.2%	94 8.1%	9 0.8%	103 8.9%	15 1.3%	11 0.9%	9 0.8%	52 4.5%
問8 世帯年収	収入なし	5 100.0%	3 60.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
	100万円未満	6 100.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%
	100万円～200万円未満	9 100.0%	5 55.6%	2 22.2%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%
	200万円～300万円未満	27 100.0%	12 44.4%	12 44.4%	1 3.7%	7 25.9%	1 3.7%	3 11.1%	5 18.5%
	300万円～400万円未満	41 100.0%	8 19.5%	6 14.6%	0 0.0%	4 9.8%	0 0.0%	1 2.4%	4 9.8%
	400万円～500万円未満	62 100.0%	15 24.2%	10 16.1%	0 0.0%	9 14.5%	4 6.5%	2 3.2%	8 12.9%
	500万円～600万円未満	102 100.0%	18 17.6%	17 16.7%	2 2.0%	14 13.7%	1 1.0%	1 1.0%	11 10.8%
	600万円～700万円未満	112 100.0%	15 13.4%	9 8.0%	3 2.7%	13 11.6%	3 2.7%	0 0.0%	6 5.4%
	700万円～800万円未満	150 100.0%	20 13.3%	10 6.7%	0 0.0%	12 8.0%	3 2.0%	0 0.0%	6 4.0%
	800万円～1,000万円未満	249 100.0%	17 6.8%	12 4.8%	3 1.2%	22 8.8%	2 0.8%	0 0.0%	5 2.0%
	1,000万円以上	377 100.0%	14 3.7%	12 3.2%	0 0.0%	16 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.1%

	合計	問10 この1年で経済的理由のために見送ったもの			
		その他経費の支払い	あてはまるものはない	無回答	
全体	1162 100.0%	79 6.8%	852 73.3%	49 4.2%	
問8 世帯年収	収入なし	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%
	100万円未満	6 100.0%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%
	100万円～200万円未満	9 100.0%	3 33.3%	2 22.2%	1 11.1%
	200万円～300万円未満	27 100.0%	6 22.2%	6 22.2%	0 0.0%
	300万円～400万円未満	41 100.0%	2 4.9%	25 61.0%	3 7.3%
	400万円～500万円未満	62 100.0%	11 17.7%	35 56.5%	1 1.6%
	500万円～600万円未満	102 100.0%	13 12.7%	57 55.9%	6 5.9%
	600万円～700万円未満	112 100.0%	5 4.5%	82 73.2%	4 3.6%
	700万円～800万円未満	150 100.0%	16 10.7%	107 71.3%	5 3.3%
	800万円～1,000万円未満	249 100.0%	12 4.8%	198 79.5%	7 2.8%
	1,000万円以上	377 100.0%	8 2.1%	325 86.2%	14 3.7%

【国立社会保障・人口問題研究所 生活と支え合いに関する調査（参考）】

図表 II-1 食料・衣料の困窮経験のある世帯の割合（2007年～2022年）



注) 世帯票により集計している。合計に無回答を含む。

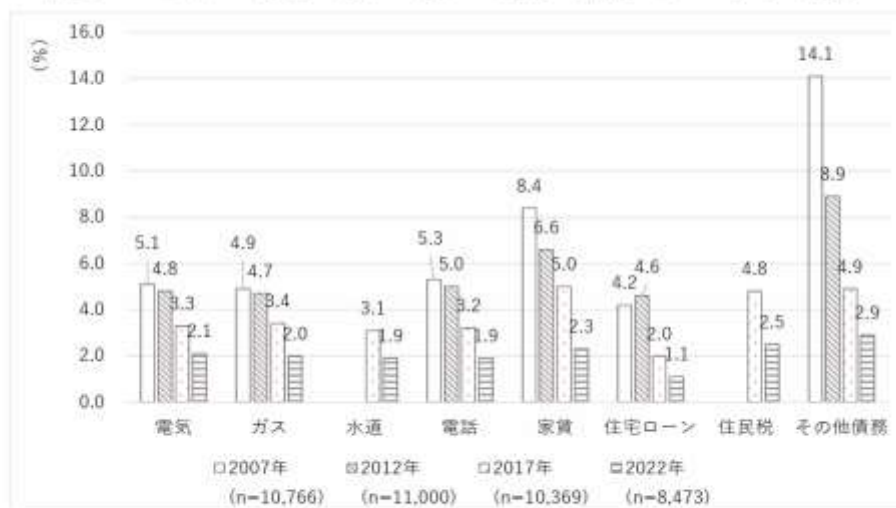
調査対象：令和4年国民生活基礎調査（厚生労働省実施）の調査地区 5,530 地区（令和2年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から選ばれた 300 地区内の全ての世帯の世帯主及び 18 歳以上の世帯員（世帯主を含む）

調査時期：2022年7月1日を調査の基準日としたもの

※ 「こども大綱」における“こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標”の1つ

【国立社会保障・人口問題研究所 生活と支え合いに関する調査（参考）】

図表 II-4 過去1年間に料金の未払い・債務の滞納があった世帯の割合



注) 世帯票により集計している。「あった」とした世帯数 / (「該当しない」と無回答を除く世帯数)。サンプルサイズは無回答と「該当しない」を除外する前の数値である。

調査対象：令和4年国民生活基礎調査（厚生労働省実施）の調査地区 5,530 地区（令和2年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から選ばれた 300 地区内の全ての世帯の世帯主及び 18 歳以上の世帯員（世帯主を含む）

調査時期：2022年7月1日を調査の基準日としたもの

※ 「こども大綱」における“こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標”の1つ

(4) 母親の就労状況

※ 主に母親の状況について

問 11 宛名のお子さんの「母親」の現在の就労状況（自営業，農業，家族従事者含む）についてお答えください。



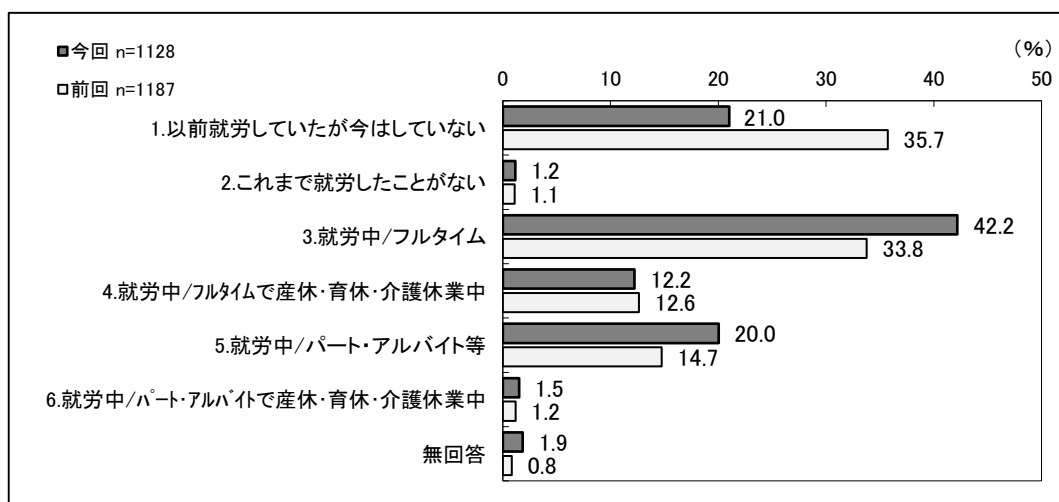
「就労中／フルタイム」(42.2%)，「以前就労していたが今はしていない」(21.0%)，「就労中／パート・アルバイト等」(20.0%)，「就労中／フルタイムで産休・育休・介護休業中」(12.2%)，「就労中／パート・アルバイトで産休・育休・介護休業中」(1.5%)，「これまで就労したことがない」(1.2%)。

前回調査結果と比較して，「以前就労していたが今はしていない」が 14.7 ポイント減少している。

一方，「就労中／フルタイム」が 8.4 ポイント増加しており，フルタイム就労の割合が高くなっている。

また，「配偶者がいる」回答者では「以前就労していたが今はしていない」の割合が高い。

■母親の就労状況■



(5) 母親の就労希望について

※ 問 11 で「1」または「2」に○をつけた方のみ

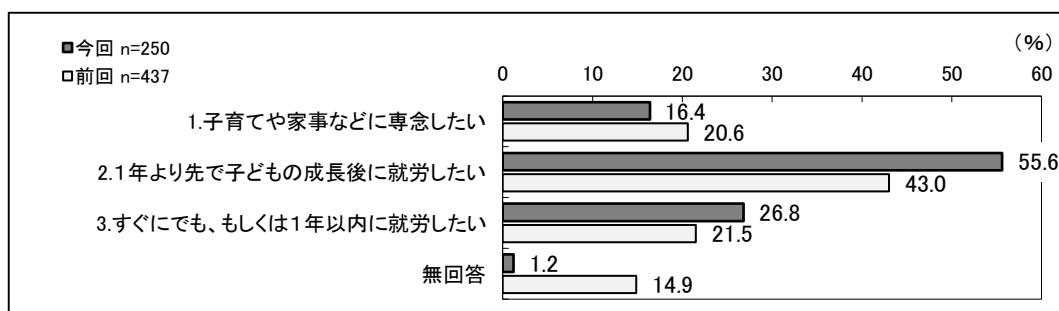
問 11-1 就労したいという希望はありますか。



「1年より先で子どもの成長後に就労したい」(55.6%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(26.8%)、「子育てや家事などに専念したい」(16.4%)。

前回調査結果と比較して、「1年より先で子どもの成長後に就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が増加しており、就労意向の割合が高くなっている。

■母親の就労希望について■



(6) 希望の就労形態

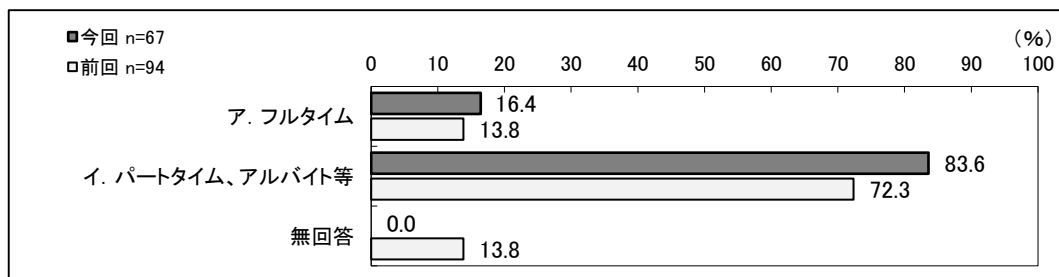
※ 問 11-1 で「3」に○をつけた方のみ

問 11-1-1 希望の就労形態



「パートタイム、アルバイト等」(83.6%)、「フルタイム」(16.4%)。

■希望の就労形態■



(7) 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望

※ 問 11-1-1 で「イ」に○をつけた方のみ

問 11-1-2 母親：希望就労日数／週

問 11-1-3 母親：希望就労時間／日

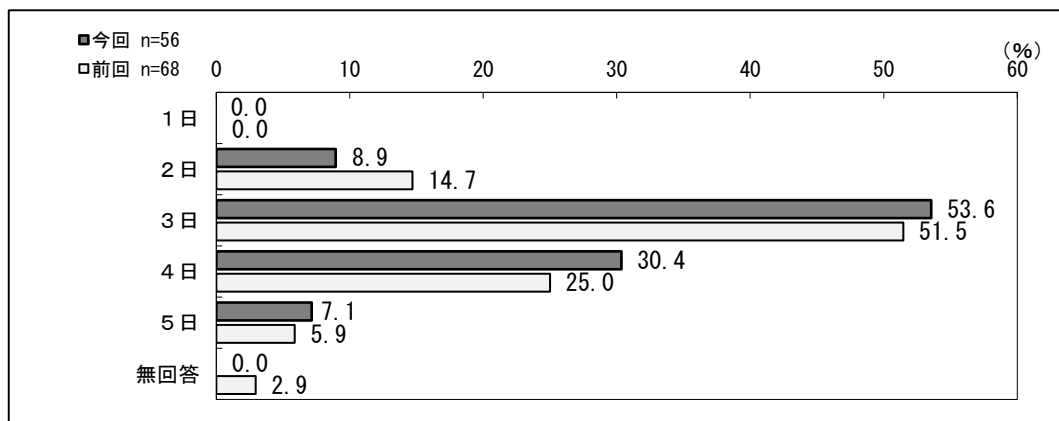


パート・アルバイトとしての母親の1週当たり希望就労日数は「週3日」(53.6%)，1日当たり希望就労時間は「4～6時間」(64.3%)が最も高い割合を占めている。

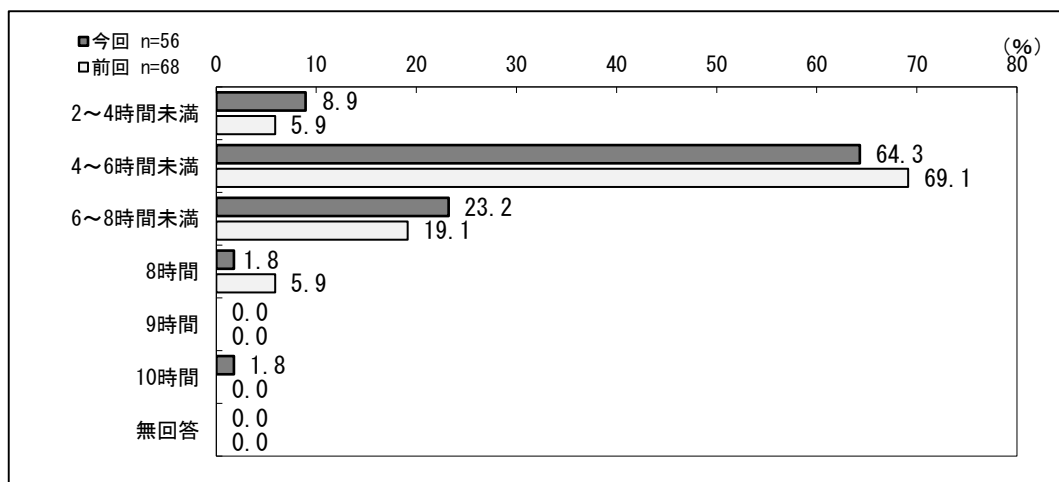
■集計結果 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望■

n=56	希望就労日数／週	希望就労時間／日
平均値	3.36 日	4.88 時間
最大値	5.00 日	10.00 時間
最小値	2.00 日	3.00 時間
無回答数	0 件	0 件

■母親：希望就労日数／週■



■母親：希望就労時間／日■



(8) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問11で「3」～「6」に○をつけた方のみ

問11-2 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 母親：週当たり就労日数
- ② 母親：1日当たり就労時間

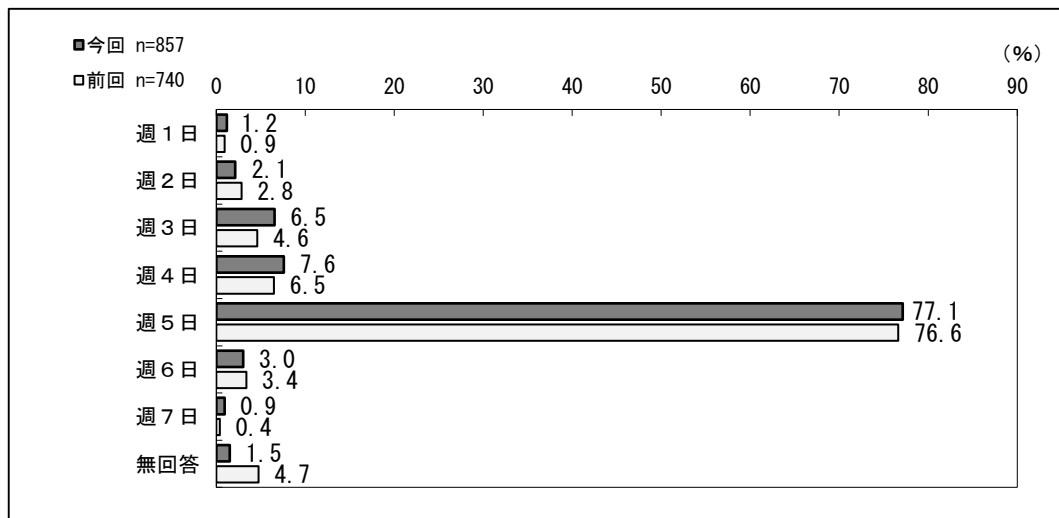


前回調査結果に引き続き、母親の1週当たり労働日数は「週5日」、1日当たり就労時間は“6～8時間”（「6～8時間未満」と「8時間の合計」）が7割以上を占めている。
回答者の12.7%は、1日当たり就労時間が“9時間以上”となっている。

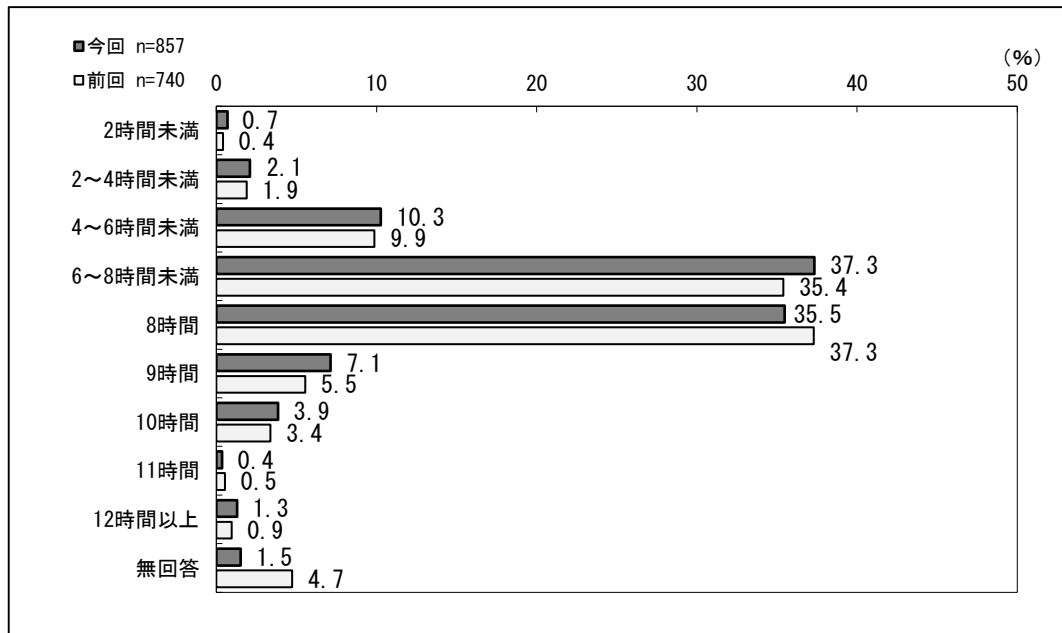
■集計結果 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間■

n=857	現在の就労日数／週	現在の就労時間／日
平均値	4.73 日	7.19 時間
最大値	7.00 日	16.00 時間
最小値	1.00 日	1.00 時間
無回答数	13 件	13 件

■母親：現在の就労日数／週■



■母親：現在の就労時間／日■



(9) 母親のフルタイムへの転換希望

※ 問11で「5」「6」に○をつけた方のみ

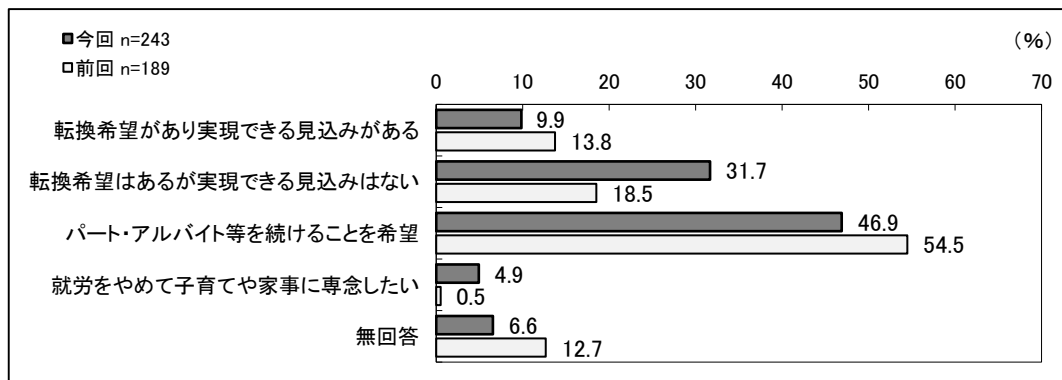
問11-3 フルタイム（1週5日程度，1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



「パート・アルバイト等を続けることを希望」（46.9%）、「転換希望はあるが実現できる見込みはない」（31.7%）、「転換希望があり実現できる見込みがある」（9.9%）、「就労をやめて子育てや家事に専念したい」（4.9%）。

前回調査結果に引き続き、「パート・アルバイト等を続けることを希望」が約5割を占めている。

■母親のフルタイムへの転換希望■



(10) 父親の就労状況

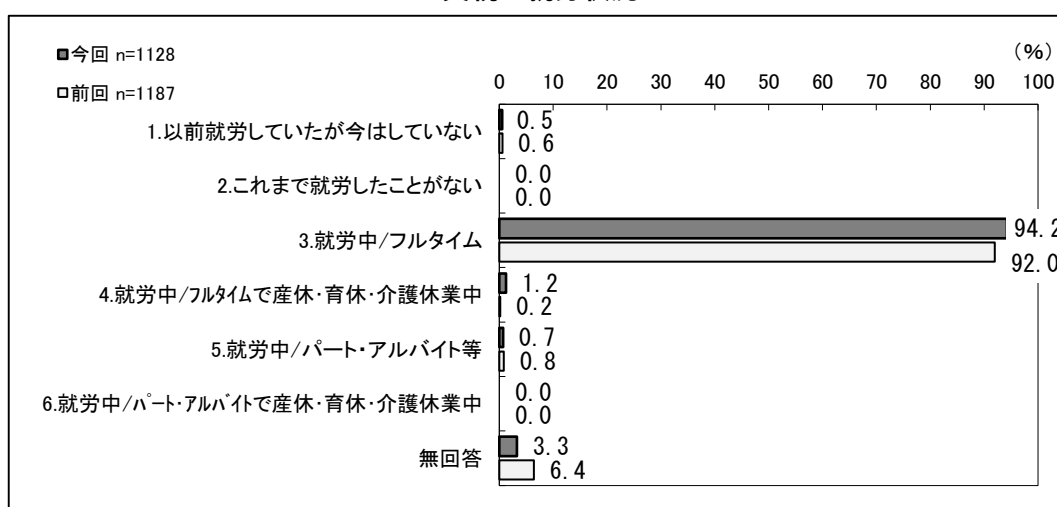
※ 主に父親の状況について

問 12 宛名のお子さんの「父親」の現在の就労状況（自営業，農業，家族従事者含む）についてお答えください。

「就労中／フルタイム」が94.2%で大半を占める。

「就労中／フルタイムで産休・育休・介護休業中」（1.2%）、「就労中／パート・アルバイト等」（0.7%）、「以前就労していたが今はしていない」（0.5%）がこれに続く。

■父親の就労状況■



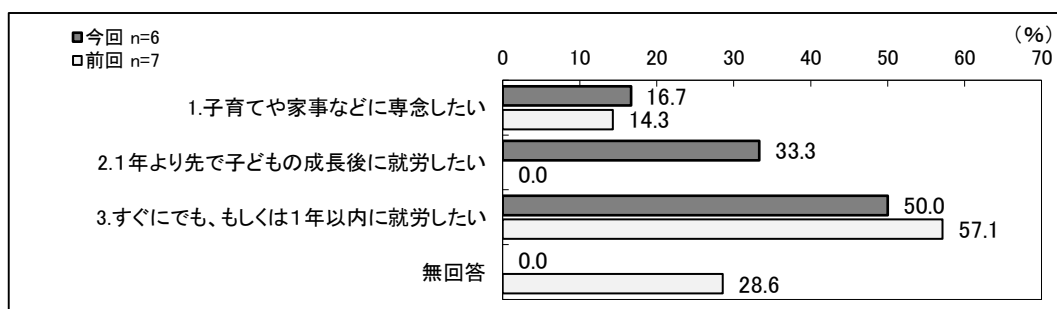
(11) 父親の就労希望について

※ 問 12 で「1」または「2」に○をつけた方のみ

問 12-1 就労したいという希望はありますか。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（50.0%）、「1年より先で子どもの成長後に就労したい」（33.3%）、「子育てや家事などに専念したい」（16.7%）。

■父親の就労希望について■



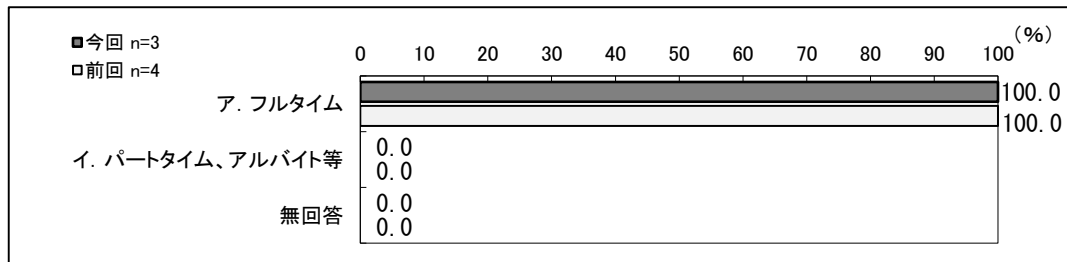
(12) 希望の就労形態

※ 問 12-1 で「3」に○をつけた方のみ

問 12-1-1 希望の就労形態

「フルタイム」(100.0%)。

■希望の就労形態■



(13) 父親：パートタイム・アルバイト等就労の希望

※ 問 12-1-1 で「イ」に○をつけた方のみ

問 12-1-2 父親：希望就労日数/週

問 12-1-3 父親：希望就労時間/日

該当者なし。

(14) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問12で「3」～「6」に○をつけた方のみ

問12-2 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 父親：週当たり就労日数
- ② 父親：1日当たり就労時間



父親の1週当たり労働日数は「週5日」（82.2%）、1日当たり就労時間は「8時間」（34.6%）が最も高い割合を占めている。

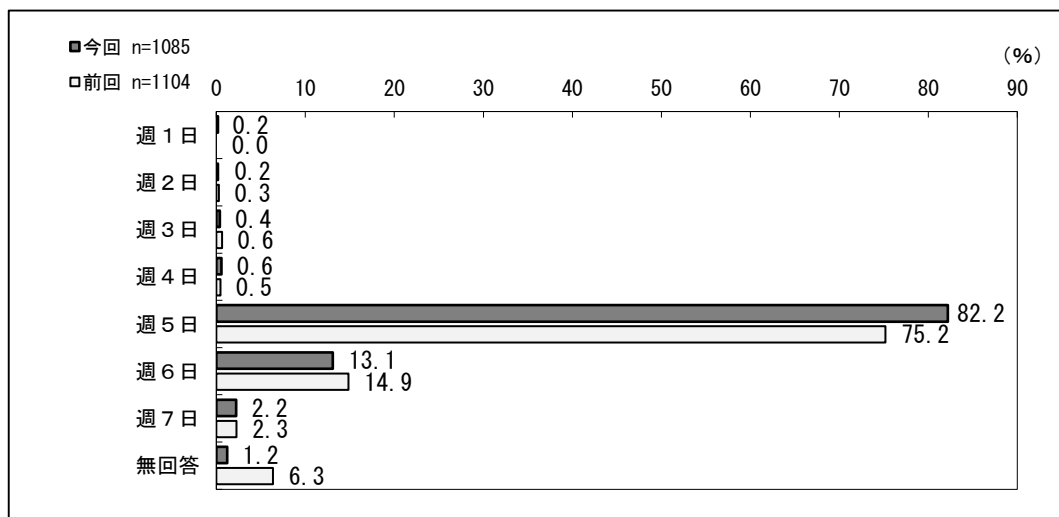
回答者の41.3%は、1日当たり就労時間が“10時間以上”となっている。

前回調査結果と比較して、就労時間が“10時間以上”の割合は、13.8ポイント減少している。

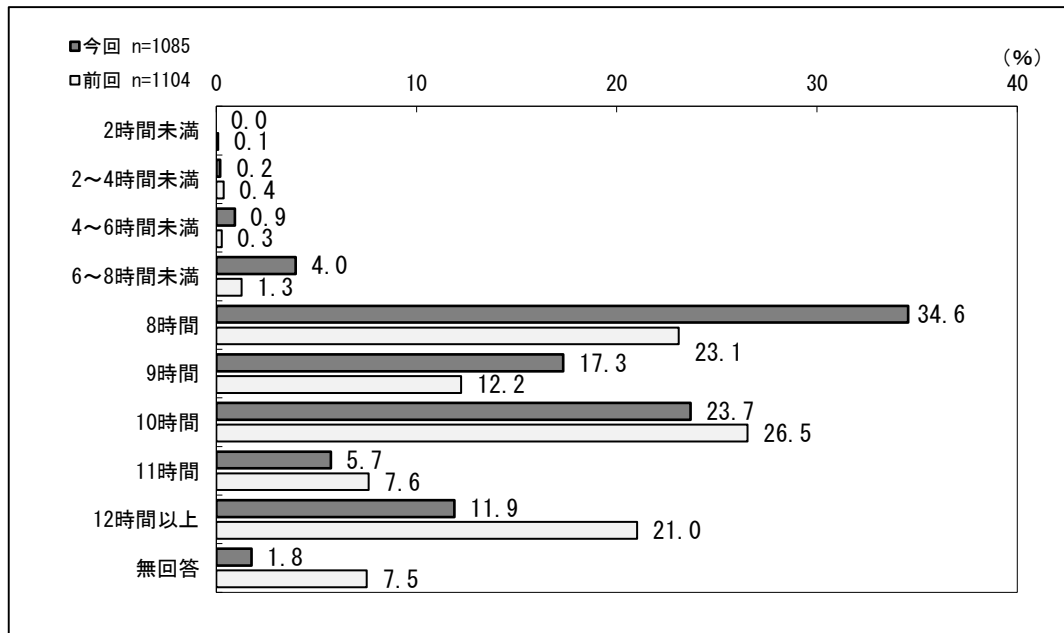
■集計結果 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間■

n=1085	現在の就労日数/週	現在の就労時間/日
平均値	5.15 日	9.38 時間
最大値	7.00 日	24.00 時間
最小値	1.00 日	3.00 時間
無回答数	13 件	19 件

■父親：現在の就労日数/週■



■父親：現在の就労時間／日■



(15) 父親のフルタイムへの転換希望

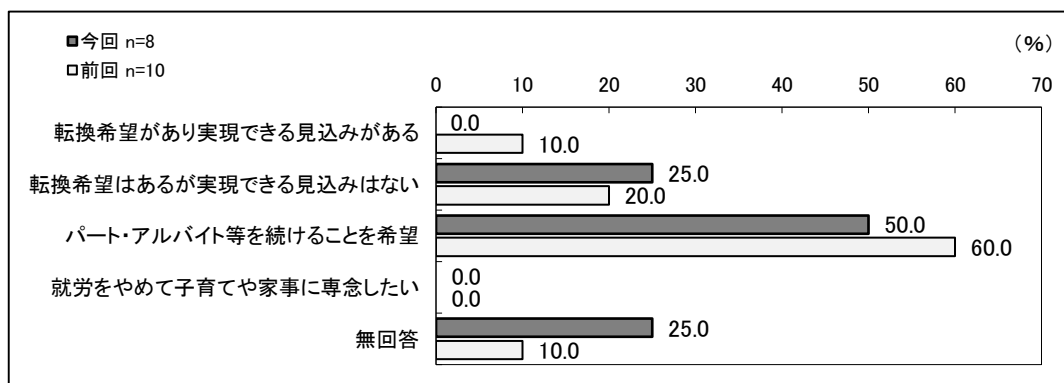
※ 問12で「5」「6」に○をつけた方のみ

問12-3 フルタイム（1週5日程度，1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



「パート・アルバイト等を続けることを希望」（50.0%）、「転換希望はあるが実現できる見込みはない」（25.0%）。

■父親のフルタイムへの転換希望■



5. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

(1) 母親：育児休業取得後の職場復帰状況

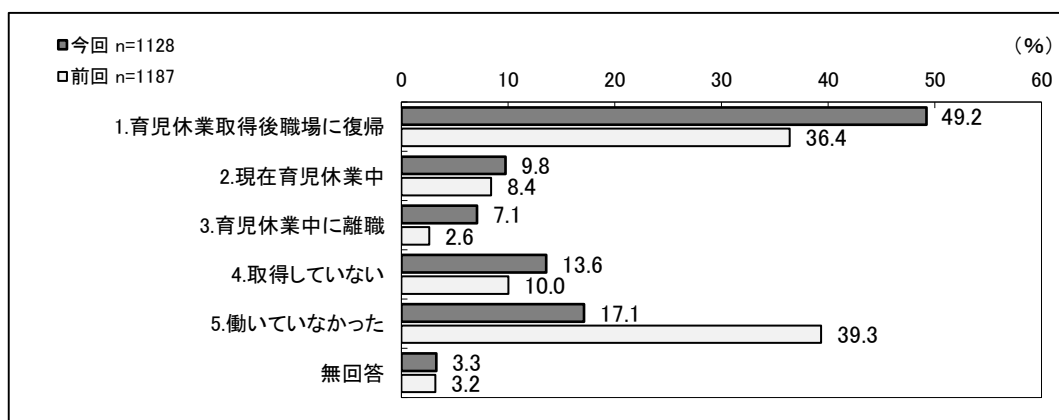
※ 主に母親の状況について

問 13 育児休業取得後の職場復帰の状況についてお答えください。

「育児休業取得後職場に復帰」(49.2%)、「働いていなかった」(17.1%)、「取得していない」(13.6%)、「現在育児休業中」(9.8%)、「育児休業中に離職」(7.1%)。

約5割(49.2%)の回答者が「育児休業取得後職場に復帰」と回答している。

■母親：育児休業取得後の職場復帰状況■



(2) 母親：育児休業取得期間

※ 問 13 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰」に○をつけた方のみ

問 13-1 宛名のお子さんが生まれた時の、「母親」の「(1) 実際」の育児休業の取得期間（これからの取得予定も含む）と、「(2) 理想」とする育児休業の取得期間について、それぞれお答えください。

- (1) 母親：実際の育児休業取得期間
- (2) 母親：理想とする育児休業取得期間



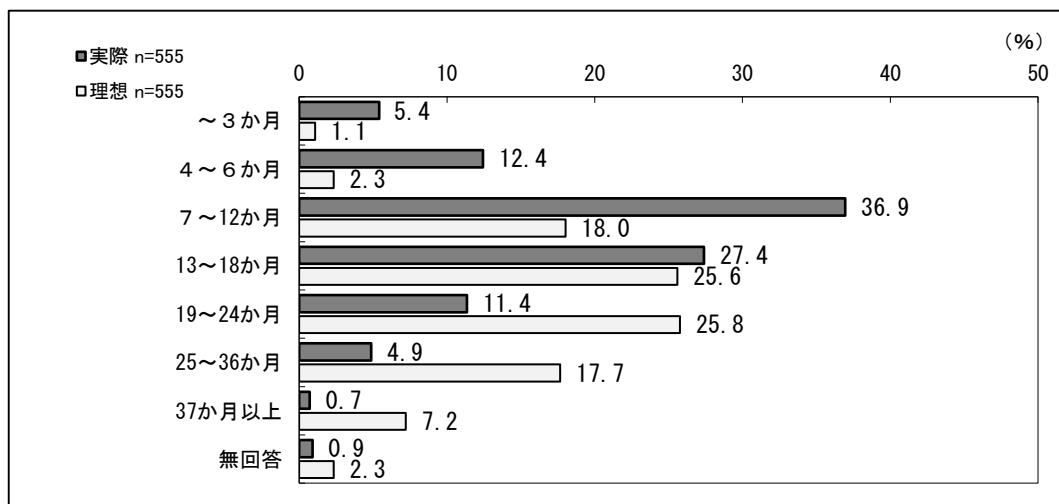
実際の育児休業の取得期間は、「7～12 か月」(36.9%)、「13～18 か月」(27.4%)、「4～6 か月」(12.4%)、「19～24 か月」(11.4%)、「～3 か月」(5.4%)、「25～36 か月」(4.9%)、「37 か月以上」(0.7%) となっており、「12 か月以内」の復帰が過半数 (54.7%) を占めている。

一方、希望する育児休業取得期間は「19～24 か月」(25.8%) が最も高い割合を占めており、「13～18 か月」(25.6%)、「7～12 か月」(18.0%)、「25～36 か月」(17.7%)、「37 か月以上」(7.2%)、「4～6 か月」(2.3%)、「～3 か月」(1.1%) がこれに続く。

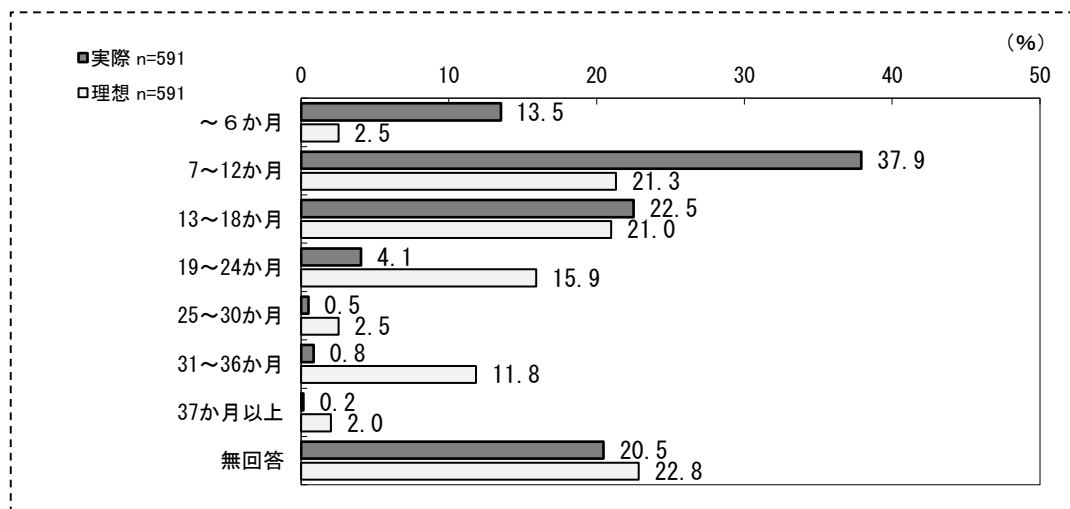
“問 13-1 (1) 母親：実際の育児休業取得期間”では“12 か月以内”の復帰が 54.7%であったが、“理想とする育児休業取得期間”では“12 か月以内”を希望する回答が 21.4%で実際の育児休業期間と理想の育児休業期間との間にギャップ (33.3 ポイント差) がみられ、“12 か月超”を希望する回答が 76.3%と 7 割以上を占めている。

■母親：育児休業取得期間（実際と理想）■

【今回調査】



【前回調査（参考）】育児休業取得期間の子どもの年齢（実際と理想）



(3) 父親：育児休業取得後の職場復帰状況

※ 主に父親の状況について

問 14 産後パパ育休，その他の育児休業等取得後，職場に復帰しましたか。

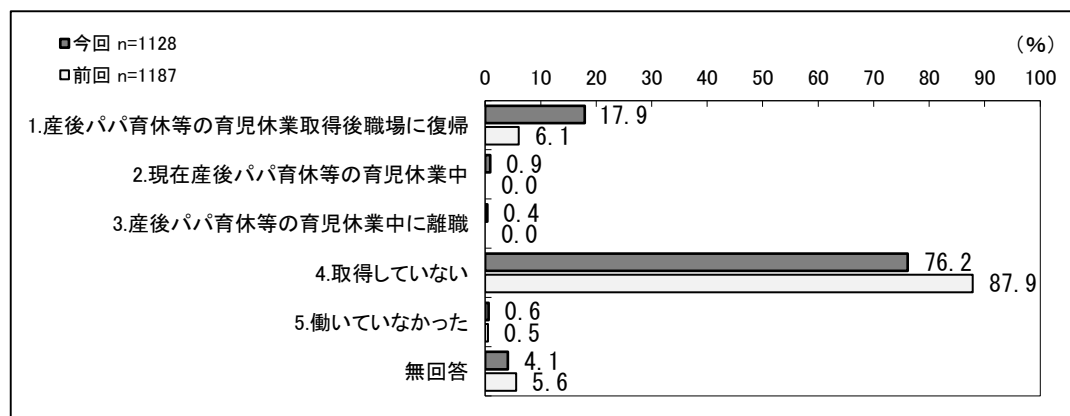


「取得していない」(76.2%) が最も高い割合を占めている。

「産後パパ育休等の育児休業取得後職場に復帰」(17.9%)，「現在産後パパ育休等の育児休業中」(0.9%)，「働いていなかった」(0.6%)，「産後パパ育休等の育児休業中に離職」(0.4%) がこれに続く。

前回調査結果と比較すると，「取得していない」の割合が 11.7 ポイント減少している。

■父親：育児休業取得後の職場復帰状況■



(4) 父親：育児休業取得期間

※ 問 14 で「1. 産後パパ育休, その他の育児休業取得後, 職場に復帰」に○をつけた方のみ
問 14-1 宛名のお子さんが生まれた時, 「父親」の「(1) 実際」の産後パパ育休, その他の育児休業の取得期間 (これからの取得予定も含む) と, 「(2) 理想」とする産後パパ育休, その他の育児休業の取得期間について, それぞれお答えください。

- (1) 父親：実際の育児休業取得期間
- (2) 父親：理想とする育児休業取得期間



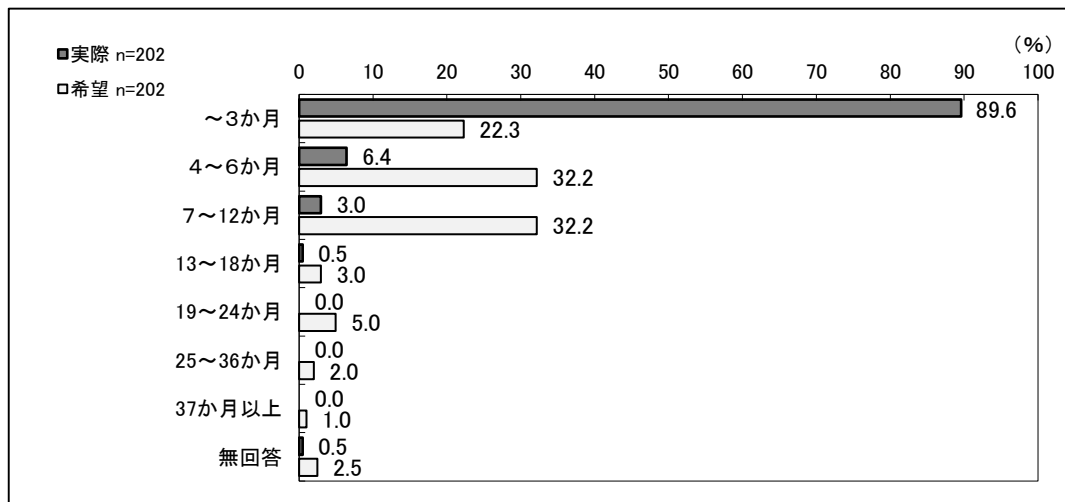
実際の育児休業の取得期間は, 「～3 か月」(89.6%), 「4～6 か月」(6.4%), 「7～12 か月」(3.0%), 「13～18 か月」(0.5%) となっている。

一方, 希望する育児休業取得期間は「4～6 か月」(32.2%) が最も高い割合を占めており, 「7～12 か月」(32.2%), 「～3 か月」(22.3%), 「19～24 か月」(5.0%), 「13～18 か月」(3.0%), 「25～36 か月」(2.0%), 「37 か月以上」(1.0%) がこれに続く。

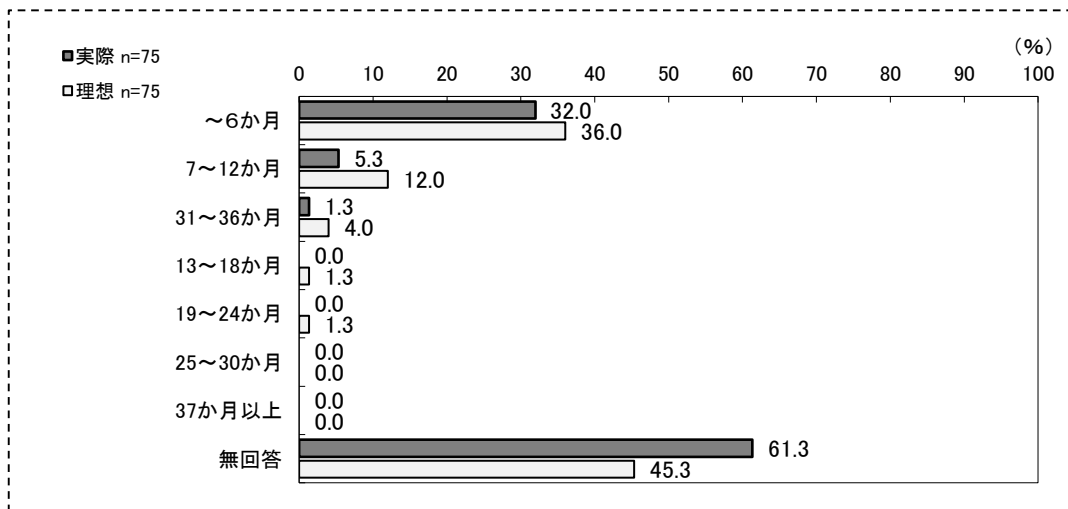
“問 14-1 (1) 父親：実際の育児休業取得期間”では「～3 か月」の復帰が 89.6%と大半を占めたが, “理想とする育児休業取得期間”では「～3 か月」を希望する回答が 22.3%となっており, 実際の育児休業期間と理想の育児休業期間との間にギャップ (67.3 ポイント差) がみられ, “3 か月超”を希望する回答が 75.4%と 7 割以上を占めている。

■父親：育児休業取得期間（実際と理想）■

【今回調査】



【前回調査（参考）】育児休業取得期間の子どもの年齢（実際と理想）



6. 子育ての不安・悩み等について

(1) 子育てでの不安や悩み

問 15 あなたは、子育てでどのような不安や悩みを持っていますか。【複数回答】

「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」(52.1%)、「自分の時間がとれず自由がない」(50.3%)がそれぞれ5割を超える。

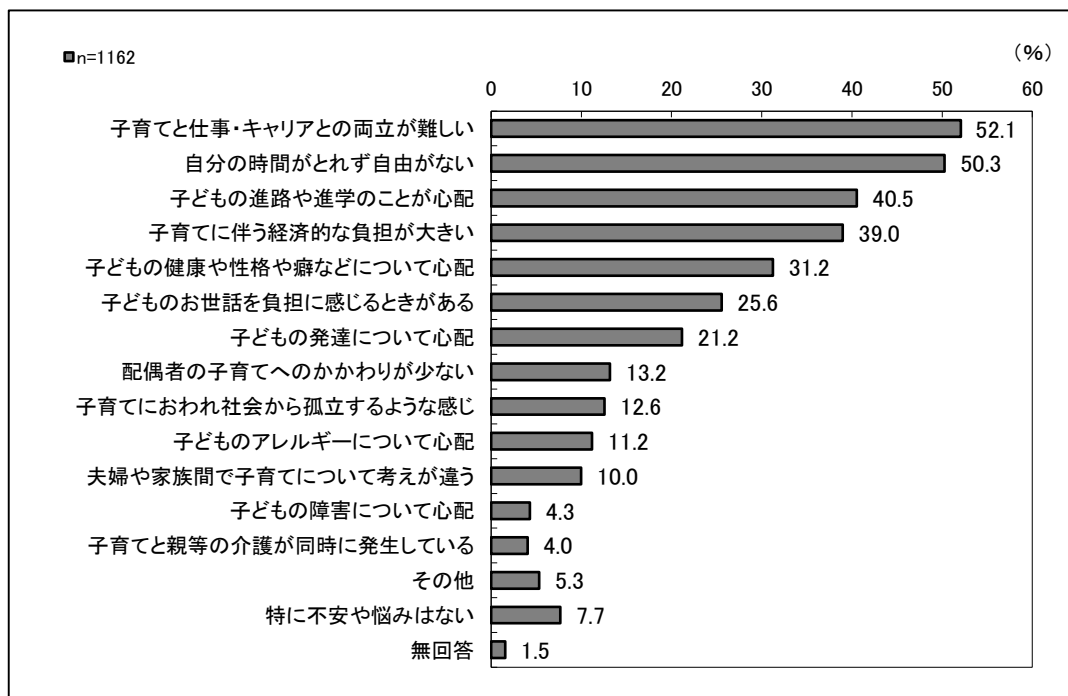
「子どもの進路や進学のこと心配」(40.5%)、「子育てに伴う経済的な負担が大きい」(39.0%)、「子どもの健康や性格や癖などについて心配」(31.2%)、等がこれに続く。

「特に不安や悩みはない」は7.7%。

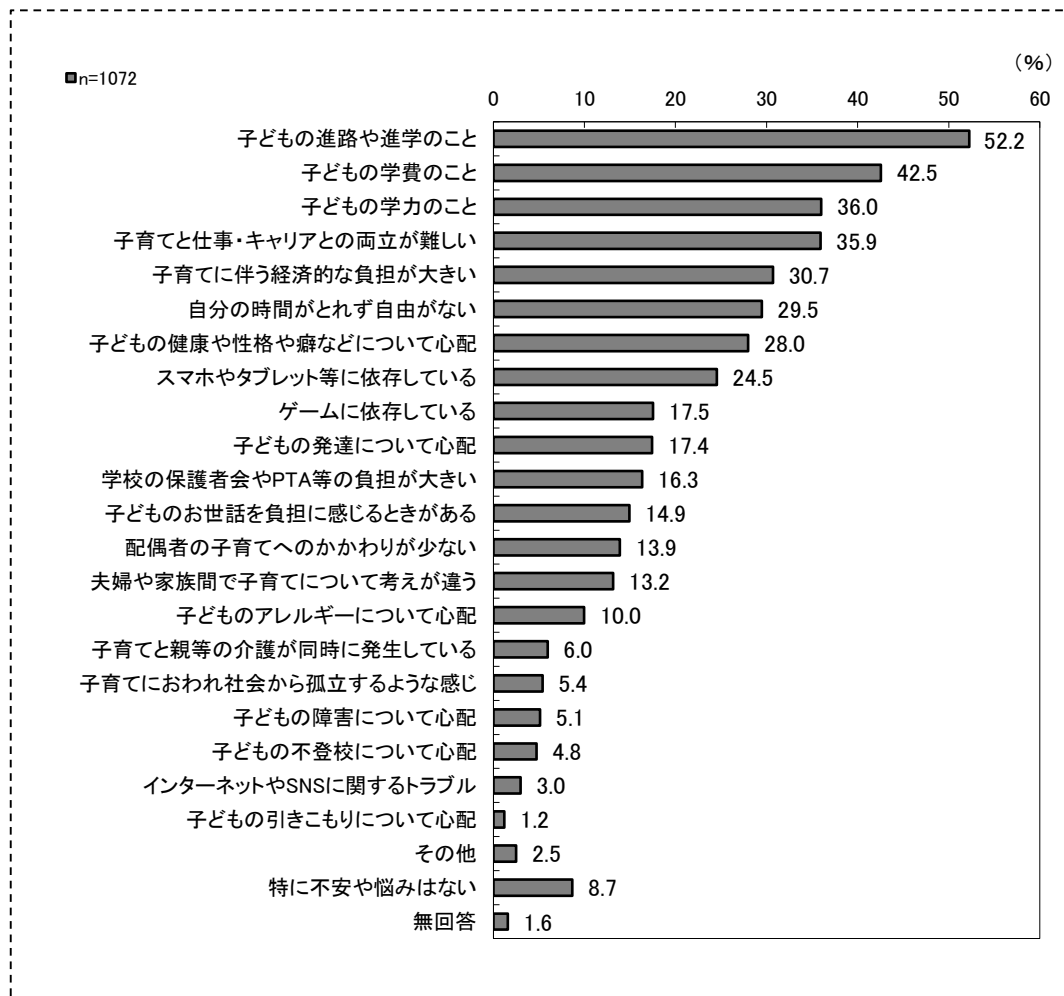
小学生保護者調査の結果と比較すると、「自分の時間がとれず自由がない」と回答した割合が20.8ポイント高くなったほか、「子育てにおわれ社会から孤立するような感じ」と回答した割合についても7.2ポイント高くなっている。

■子育てでの不安や悩み■

【今回調査】



【小学生保護者調査（参考）】



(2) 気軽に相談できる相談先

問 16 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人（場所）は誰（どこ）ですか。【複数回答】

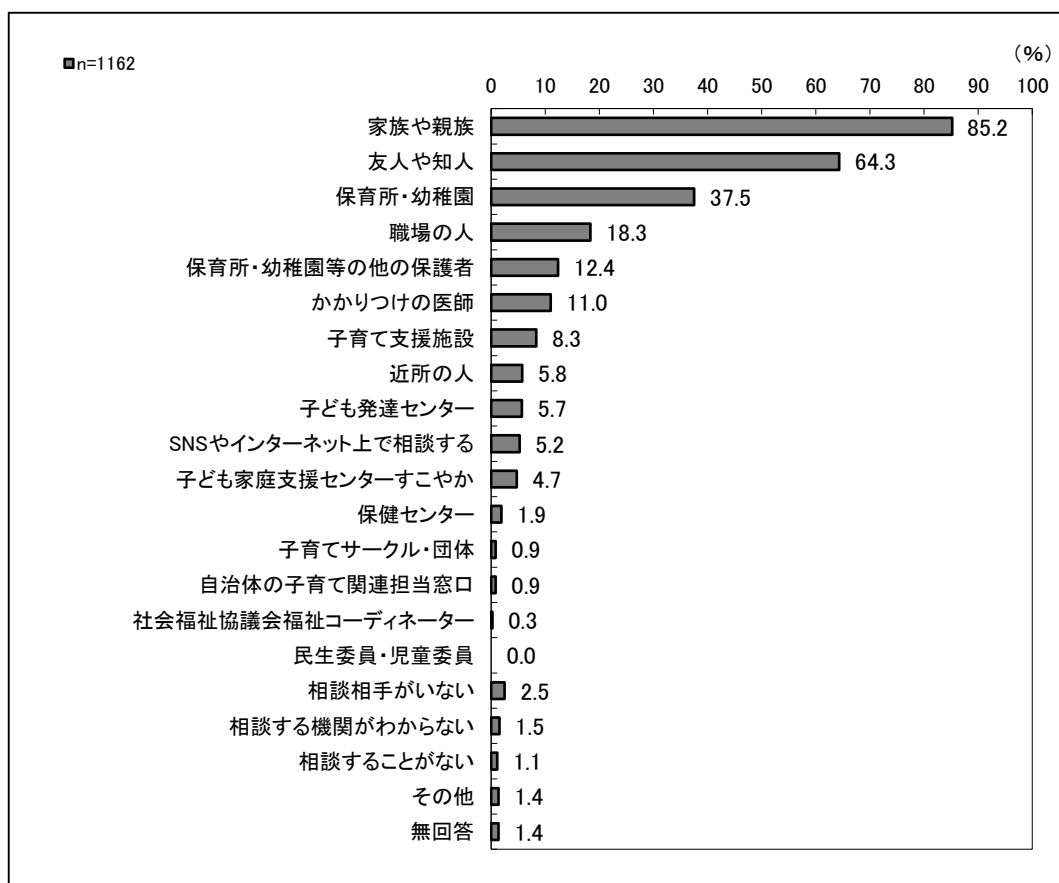
前回調査結果に引き続き「家族や親族」（85.2%）、「友人や知人」（64.3%）が回答の半数以上を占め身近な人を相談先とする傾向が強い。

「保育所・幼稚園」（37.5%）、「職場の人」（18.3%）、「保育所・幼稚園等の他の保護者」（12.4%）、「かかりつけの医師」（11.0%）等がこれに続く。

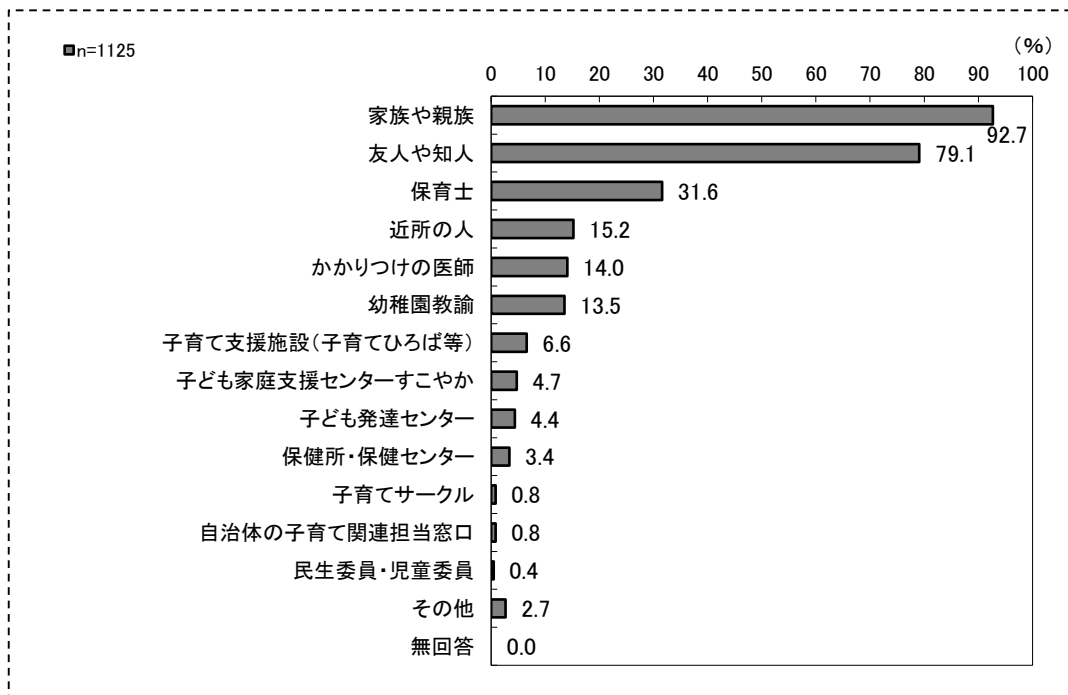
「相談相手がない」とする回答は2.5%となっている。

■ 気軽に相談できる相談先 ■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(3) 地域交流の場の利用の有無

問 17 地域との繋がりや交流ができる，次のような地域交流の場を利用したことがありますか。【複数回答】

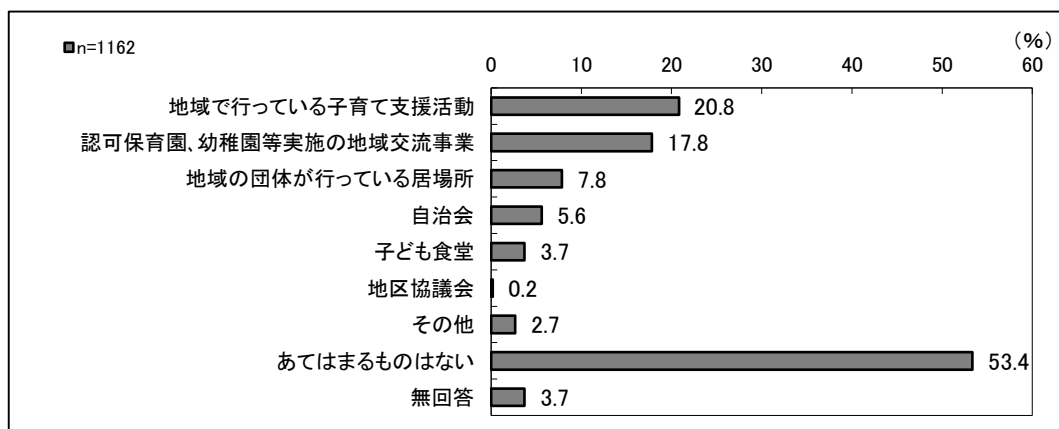


「あてはまるものはない」(53.4%)で地域での活動や場を利用したことがない回答が5割以上を占める。

「地域で行っている子育て支援活動」(20.8%)，「認可保育園，幼稚園等実施の地域交流事業」(17.8%)，「地域の団体が行っている居場所」(7.8%)，「自治会」(5.6%)，「子ども食堂」(3.7%)，等がこれに続く。

地域での活動や場を利用したことがある回答は3割未満となっている。

■地域交流の場の利用の有無■



(4) あるとよいと思う地域の活動

問 17-1 地域との繋がりや交流ができる場には、どのような活動があると良いと思いますか。

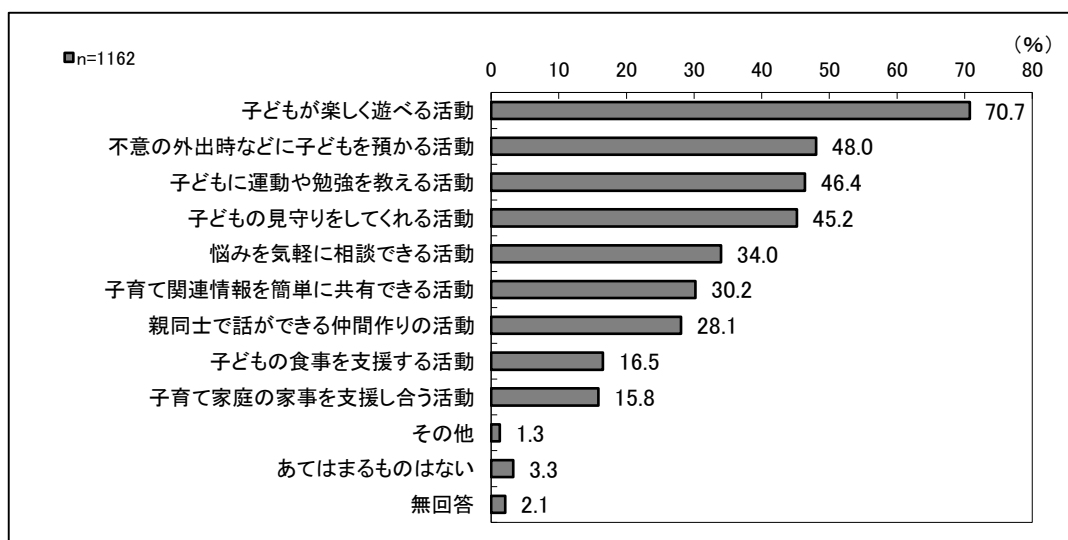
【複数回答】



「子どもが楽しく遊べる活動」(70.7%),「不意の外出時などに子どもを預かる活動」(48.0%),「子どもに運動や勉強を教える活動」(46.4%)が上位3位を占める。

「子どもの見守りをしてくれる活動」(45.2%),「悩みを気軽に相談できる活動」(34.0%),「子育て関連情報を簡単に共有できる活動」(30.2%)等がこれに続く。

■あるとよいと思う地域交流の活動■



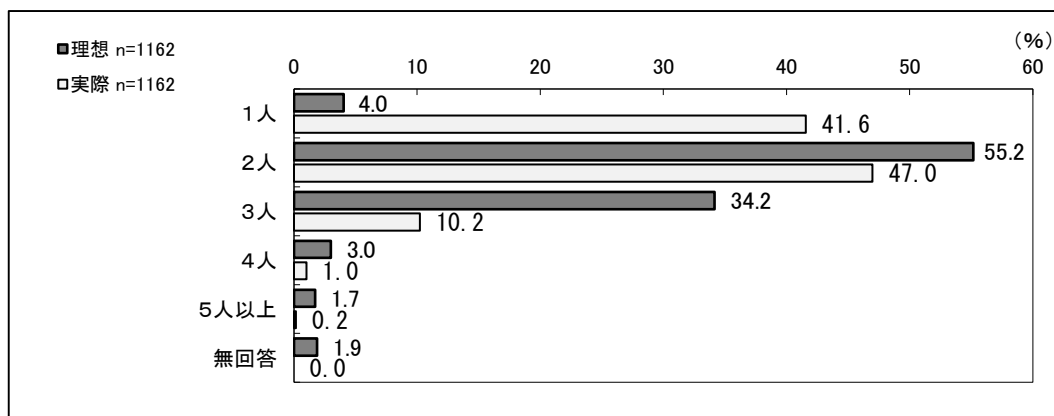
(5) 理想とする子どもの人数

問 18 理想とするお子さんの人数は何人くらいですか。

「2人」(55.2%)、「3人」(34.2%)、「1人」(4.0%)、「4人」(3.0%)、「5人以上」(1.7%)。
 “2人以上”の回答が94.1%で大半を占める。一方で、問3(1),(2)の回答から算出した(4)きょうだいの人数と比較すると理想とする子どもの人数よりも実際のきょうだいの人数は少ない。

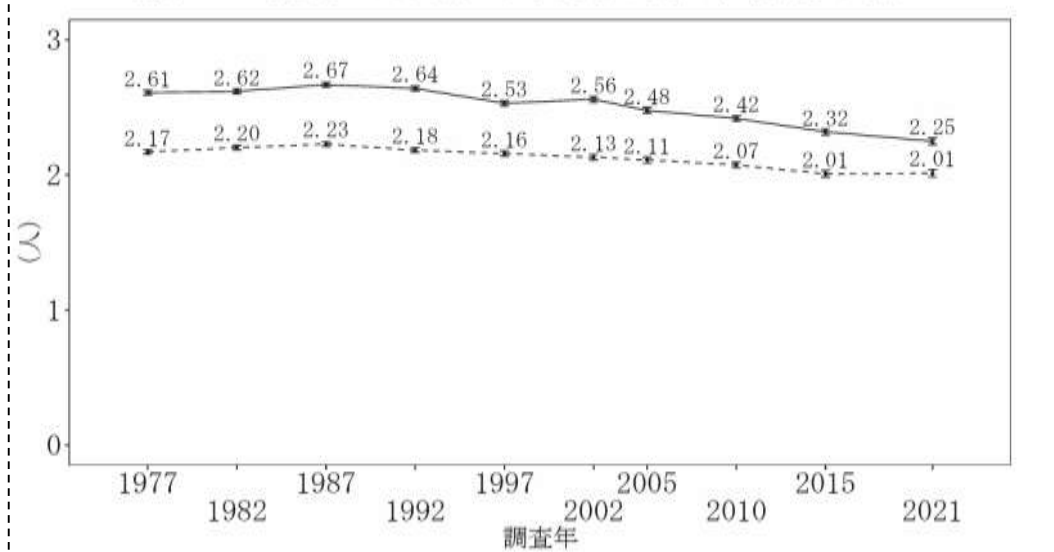
参考資料「国立社会保障・人口問題研究所 出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」をみると、調布市の調査結果と同様、国全体としても「平均予定子ども数」が「平均理想子ども数」を下回っている。

■理想とする子どもの人数■



【国立社会保障・人口問題研究所 出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)(参考)】

図表 7-1-1 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数



調査対象：「令和3年国民生活基礎調査」で設定された調査区から無作為に選ばれた全国1,000調査区に居住する18歳以上55歳未満の独身者と妻の年齢が55歳未満の夫婦(回答者は妻)

調査時期：2021年6月(6月30日現在の事実)

※「こども大綱」における“こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標”の1つ

(6) 理想とする人数の子どもを育てやすくなるための課題

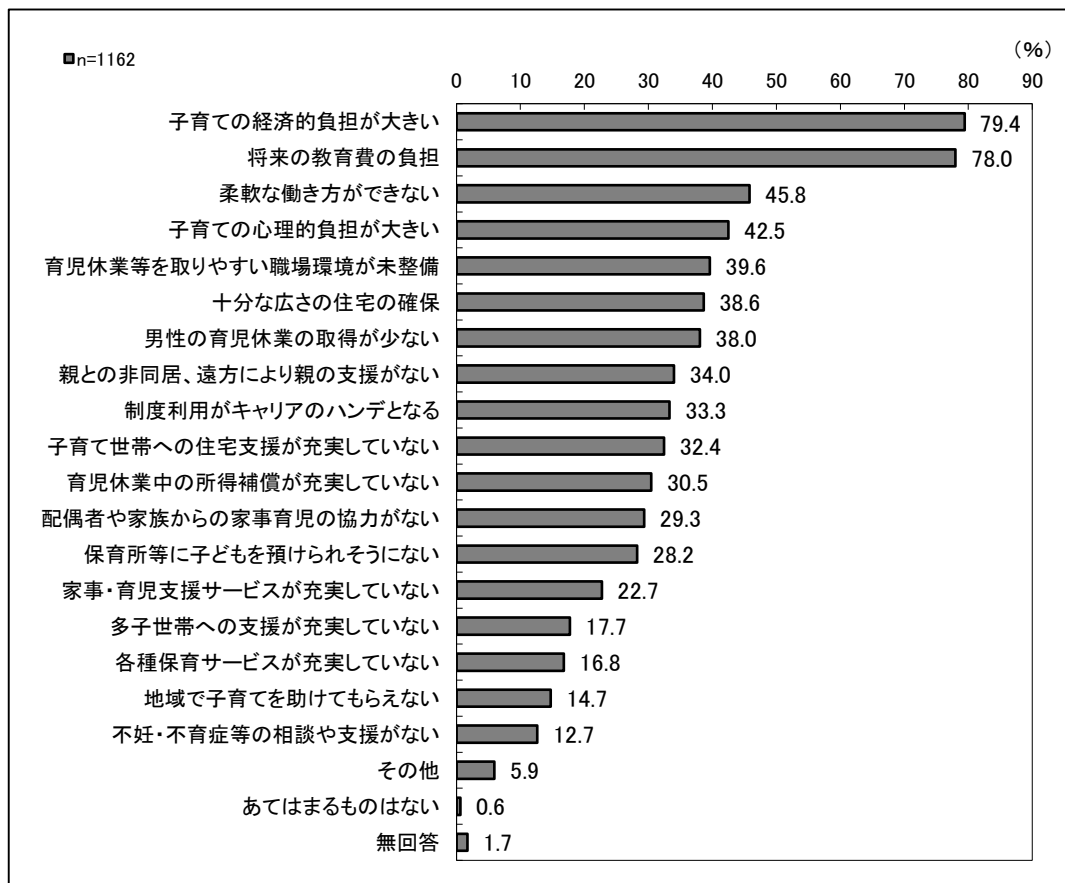
問 18-1 すべての人が理想とする人数の子どもを育てやすくなるためには、どのようなことが課題になるとお考えですか。【複数回答】



「子育ての経済的負担が大きい」(79.4%)、「将来の教育費の負担」(78.0%)で回答が7割以上を占める。子どもを育てやすくなるためには、経済的な要因を課題とする回答が多かった。

「柔軟な働き方ができない」(45.8%)、「子育ての心理的負担が大きい」(42.5%)、「育児休業等を取りやすい職場環境が未整備」(39.6%)、「十分な広さの住宅の確保」(38.6%)等がこれに続く。

■理想とする人数の子どもを育てやすくなるための課題■



7. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

(1) 定期的な教育・保育の事業の利用状況

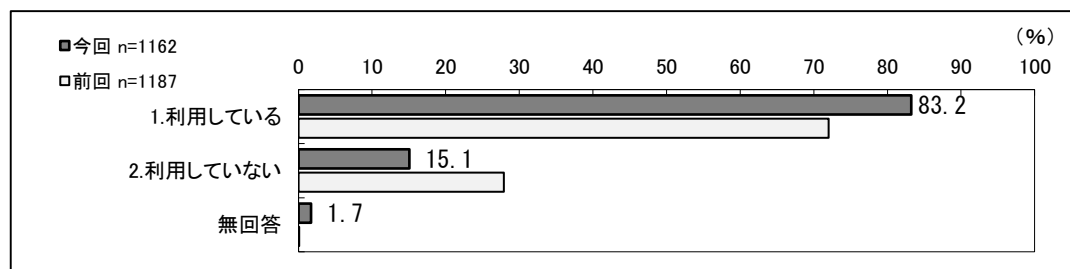
問 19 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。



「利用している」(83.2%)、「利用していない」(15.1%)。

前回調査結果と比較して、「利用している」が11.2ポイント増加している。

■ 定期的な教育・保育の事業の利用状況 ■



(2) 平日定期的に利用している教育・保育の事業

※ 問19で「1. 利用している」に○をつけた方のみ

問19-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。【複数回答】

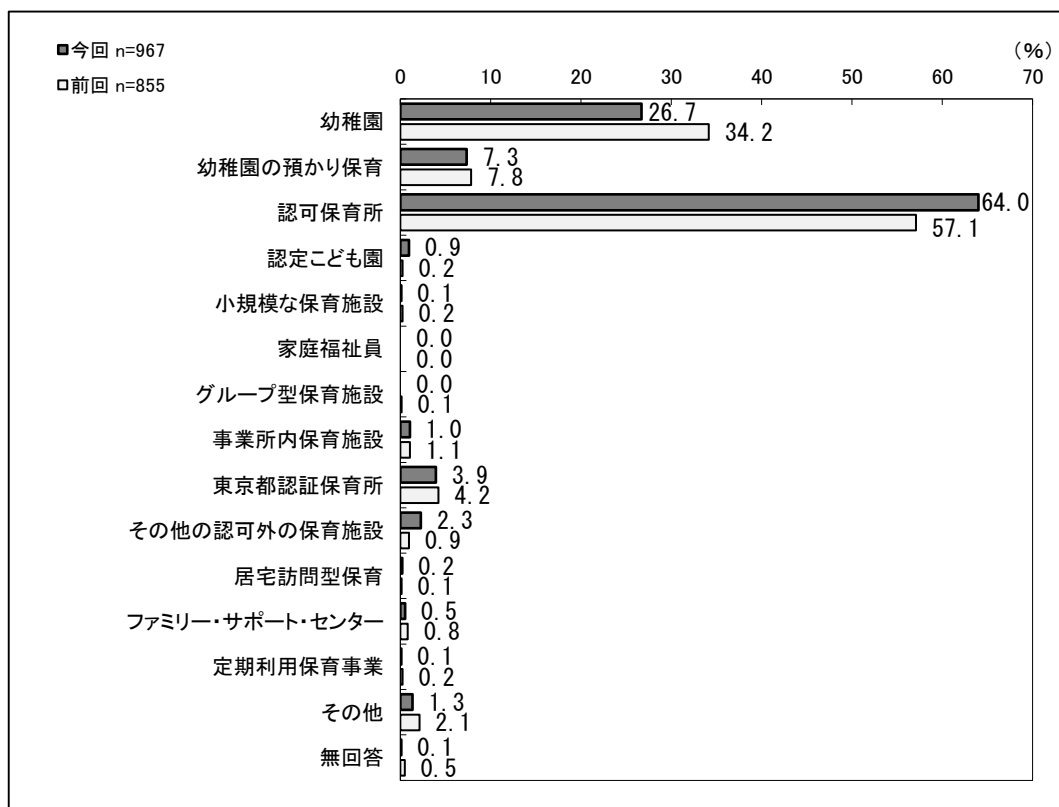


「認可保育所」(64.0%)が最も高い割合を占めている。

「幼稚園」(26.7%)、「幼稚園の預かり保育」(7.3%)、「東京都認証保育所」(3.9%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して、「幼稚園」が7.5ポイント減少し、「認可保育所」が6.9ポイント増加している。

■平日定期的に利用している教育・保育の事業■



(3) 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況

問 19-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、(1) 現在どのくらい利用していますか。

- (1) - 1 現在の利用日数/週
- (1) - 2 現在の利用時間/日
- (1) - 3 現在の開始時刻
- (1) - 4 現在の終了時刻



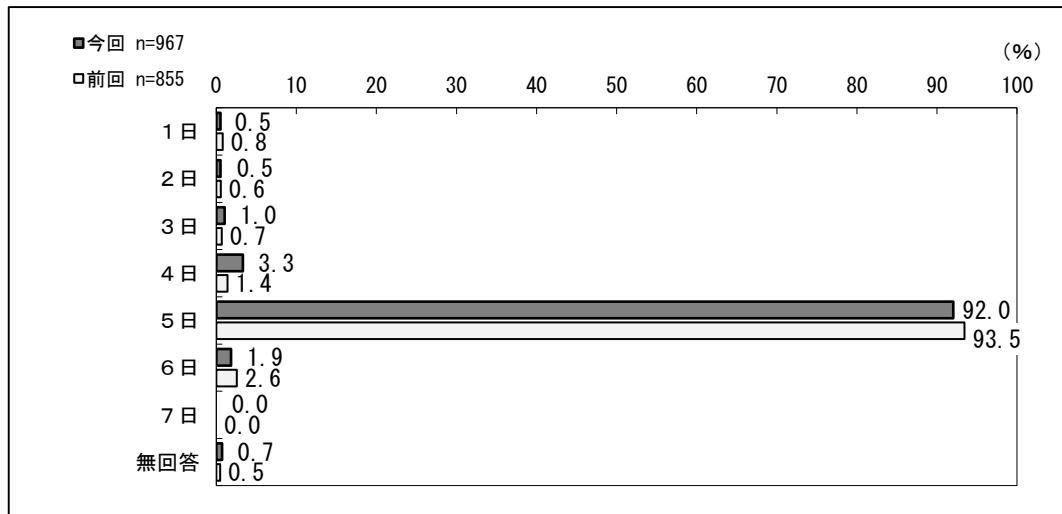
現在の利用日数は「5日」(92.0%) が最も高い割合を占めており、現在の利用時間は“8時間以上”が6割以上を占めている。

■集計結果 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況■

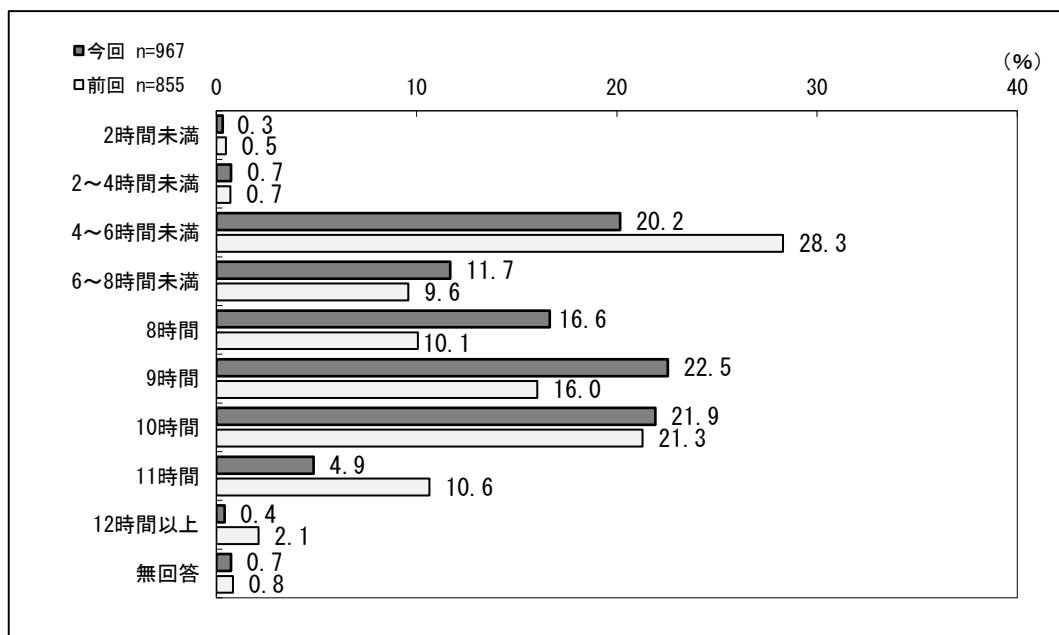
現在の利用状況 (利用頻度, 利用時間)

n=967	利用日数/週	利用時間/日
平均値	4.93 日	7.98 時間
最大値	6.00 日	12.00 時間
最小値	1.00 日	1.00 時間
無回答数	7 件	7 件

■現在の利用日数/週■



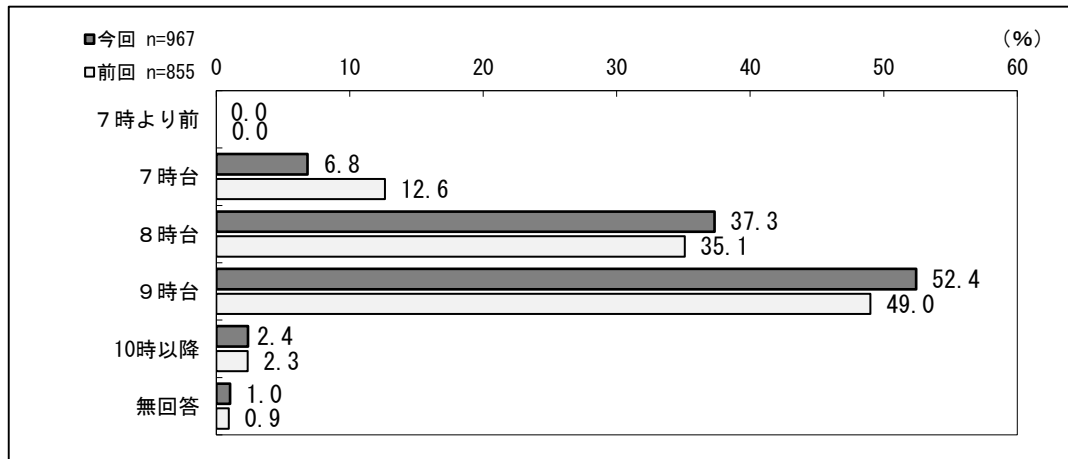
■現在の利用時間／日■



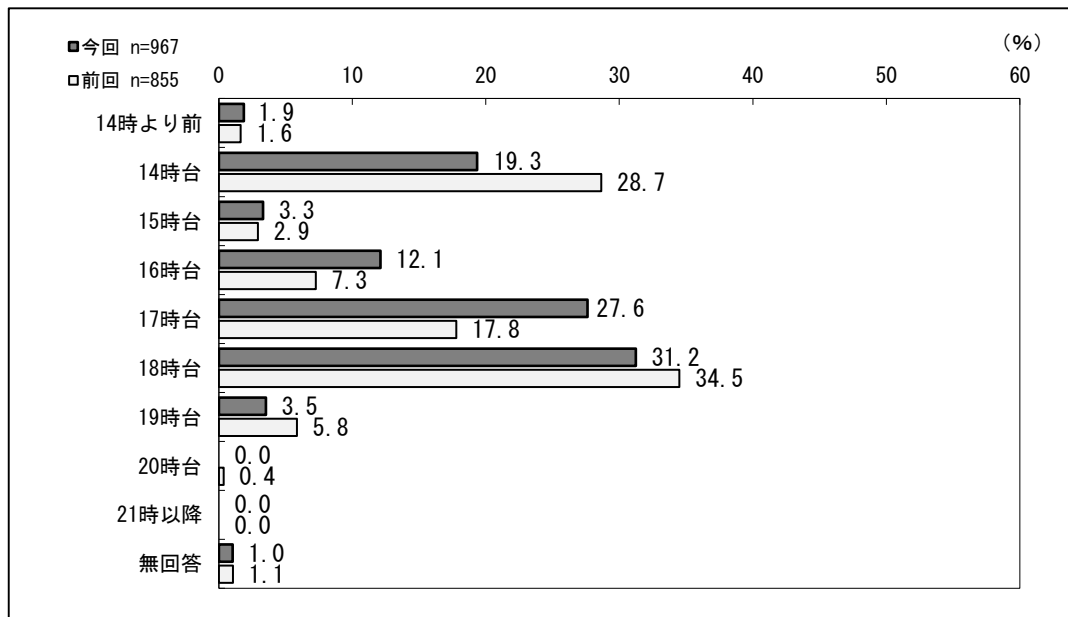
現在の利用状況（開始時刻，終了時刻）

n=967	開始時刻	終了時刻
最大値	15:00	19:00
最小値	7:00	11:00
無回答数	10件	10件

■現在の開始時刻■



■現在の終了時刻■



(4) 希望の利用日数／週

問 19-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、(2) 希望としてはどのくらい利用したいですか。

- (2) - 1 希望の利用日数／週
- (2) - 2 希望の利用時間／日
- (2) - 3 希望の開始時刻
- (2) - 4 希望の終了時刻



希望の利用日数／週は「週5日」、希望の利用時間／日は“8時間以上”が7割以上を占めている。

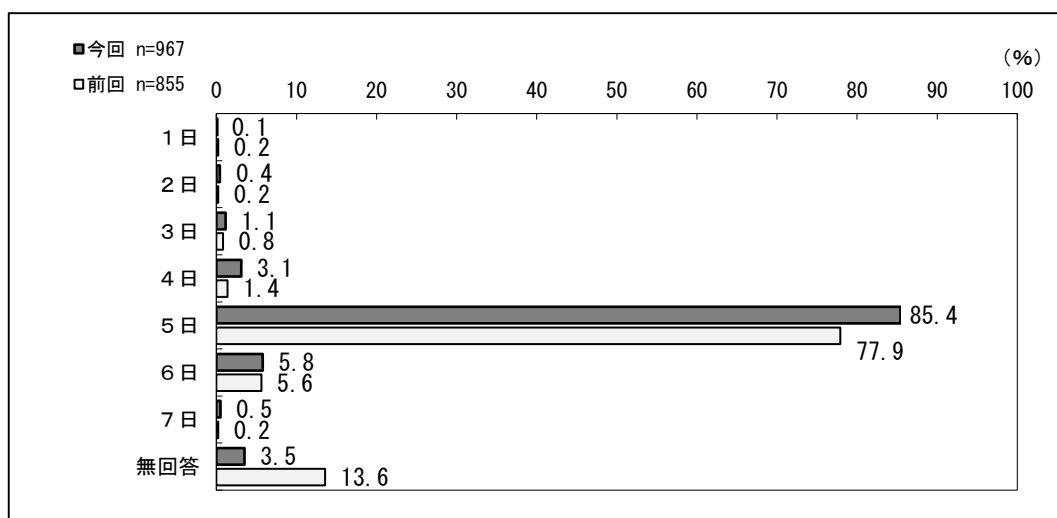
希望の開始時刻は“8時台～9時台”が8割以上、希望の終了時刻は“17時台～18時台”が過半数を占めている。

■集計結果 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況■

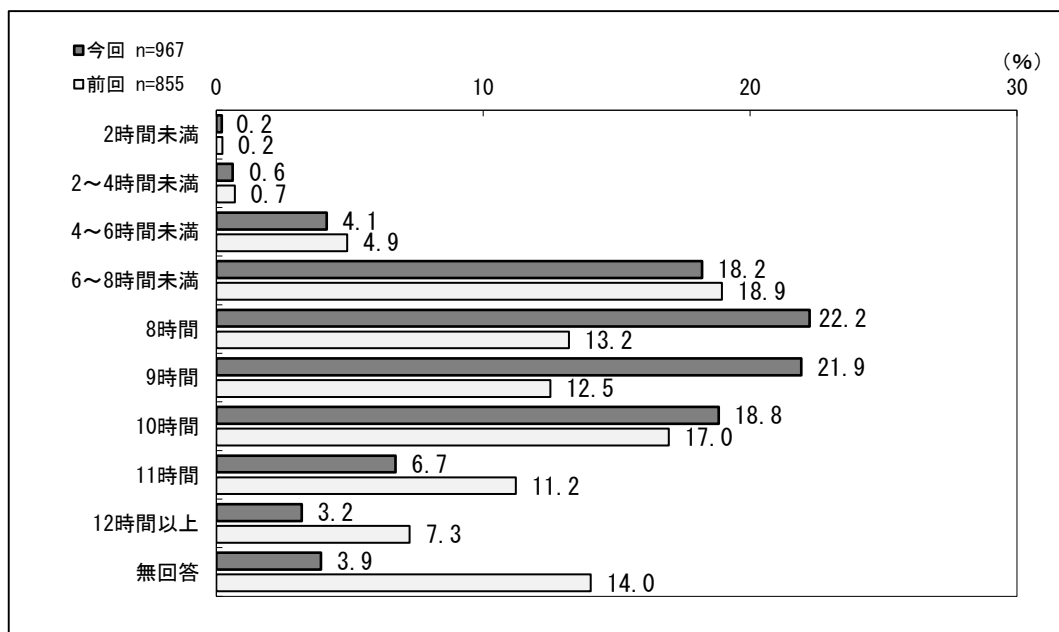
希望する利用状況 (利用頻度, 利用時間)

n=967	利用日数／週	利用時間／日
平均値	5.00 日	8.53 時間
最大値	7.00 日	24.00 時間
最小値	1.00 日	1.00 時間
無回答数	34 件	38 件

■希望の利用日数／週■



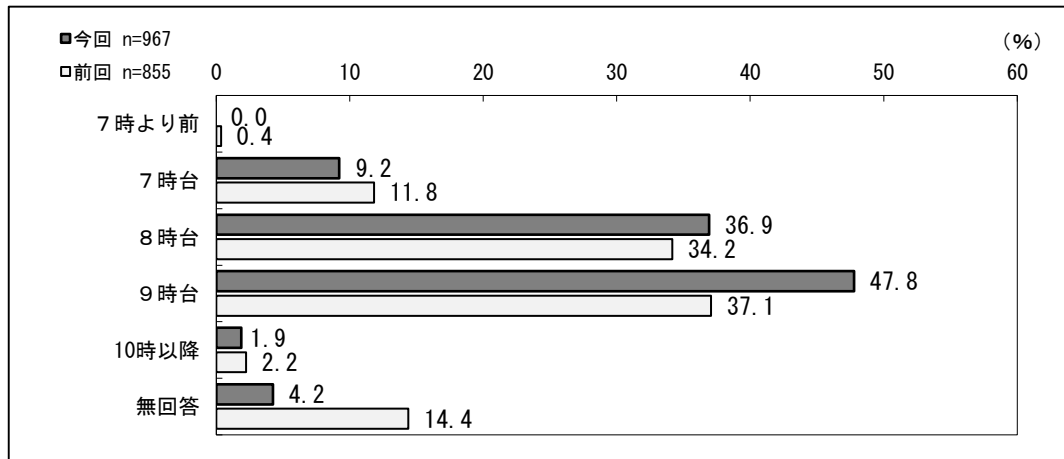
■希望の利用時間／日■



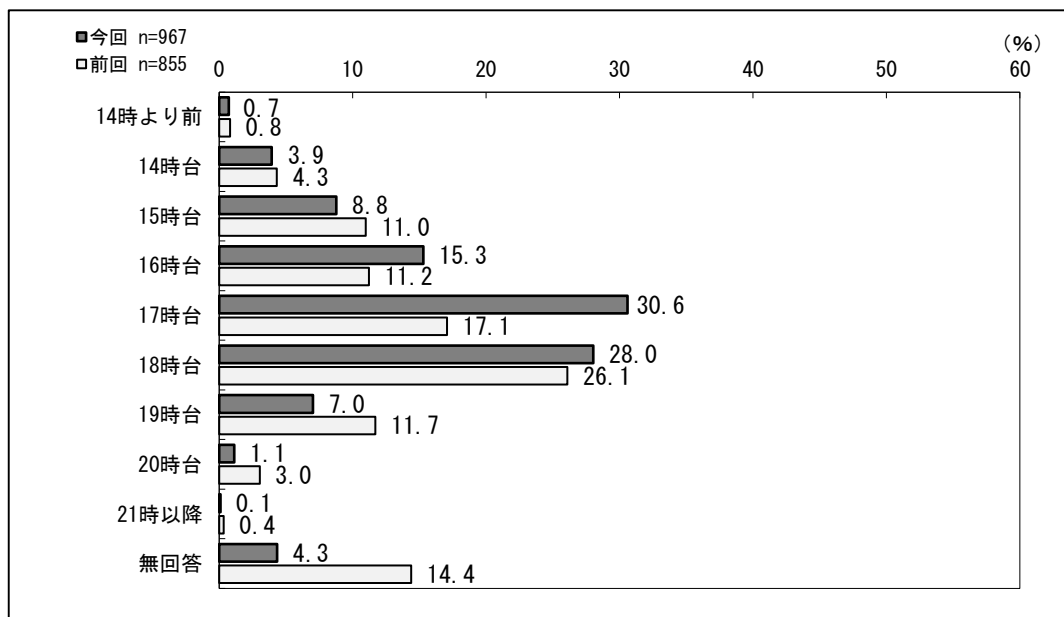
希望する利用状況（開始時刻，終了時刻）

n=967	開始時刻	終了時刻
最大値	15:00	19:00
最小値	7:00	11:00
無回答数	41件	42件

■希望の開始時刻■



■希望の終了時刻■



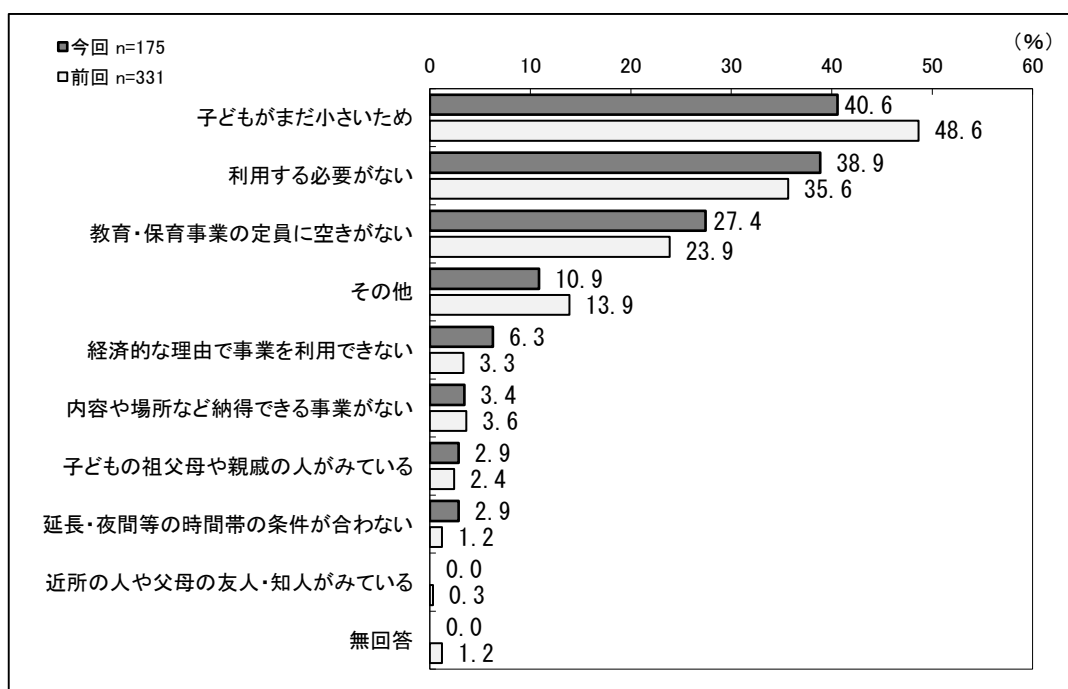
(5) 利用していない理由

※ 問19で「2. 利用していない」に○をつけた方のみ
 問19-3 利用していない理由は何ですか。【複数回答】



前回調査結果に引き続き、「子どもがまだ小さいため」(40.6%)、「利用する必要がある」(38.9%)、「教育・保育事業の定員に空きがない」(27.4%)が上位3位を占める。

■利用していない理由■



(6) 平日定期的に利用したい教育・保育の事業

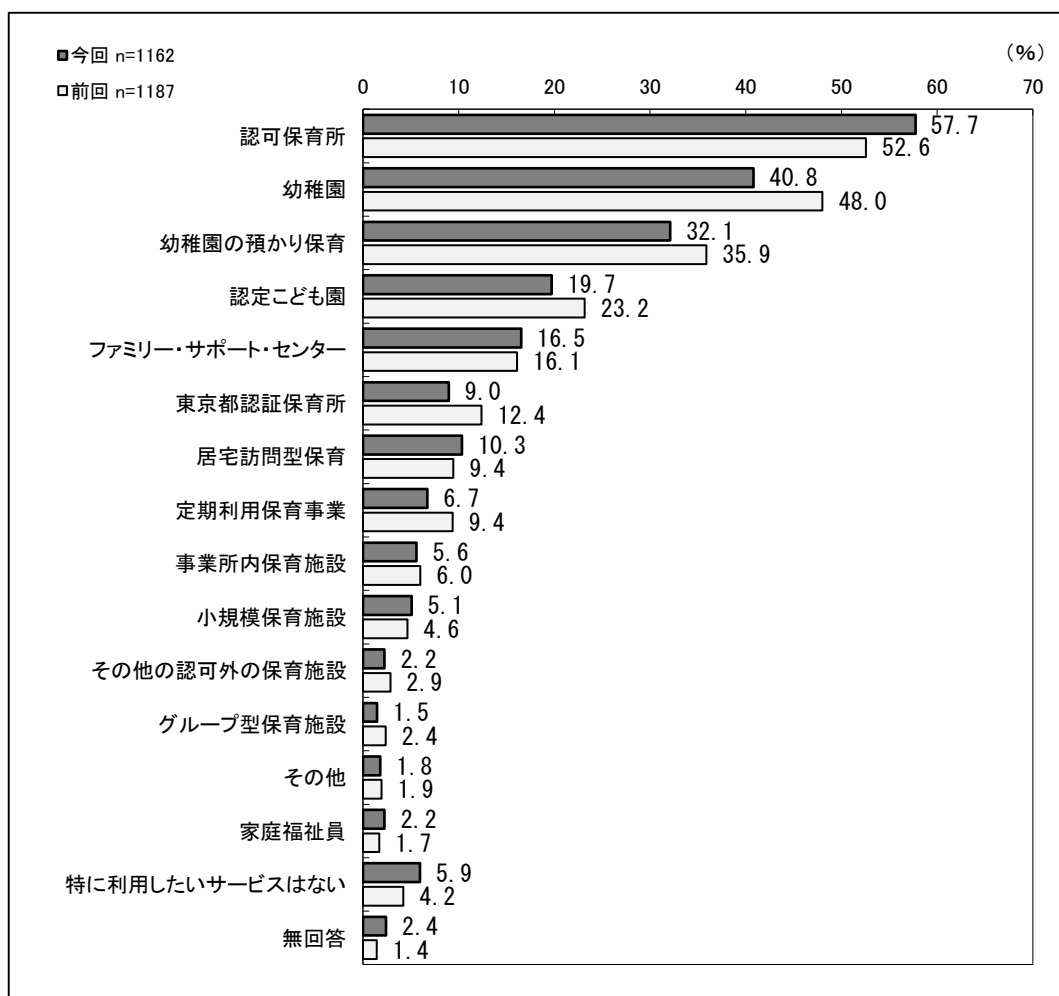
問 20 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。【複数回答】



前回調査結果に引き続き、「認可保育所」(57.7%)、「幼稚園」(40.8%)、「幼稚園の預かり保育」(32.1%)が上位3位を占める。

「認定こども園」(19.7%)、「ファミリー・サポート・センター」(16.5%)、「居宅訪問型保育」(10.3%)等がこれに続く。

■平日定期的にご利用したい教育・保育の事業■



(7) 教育・保育の事業を希望する上で重視する条件

問 21 問 20 で選んだ事業を希望する上で重視する条件は何ですか。【複数回答】

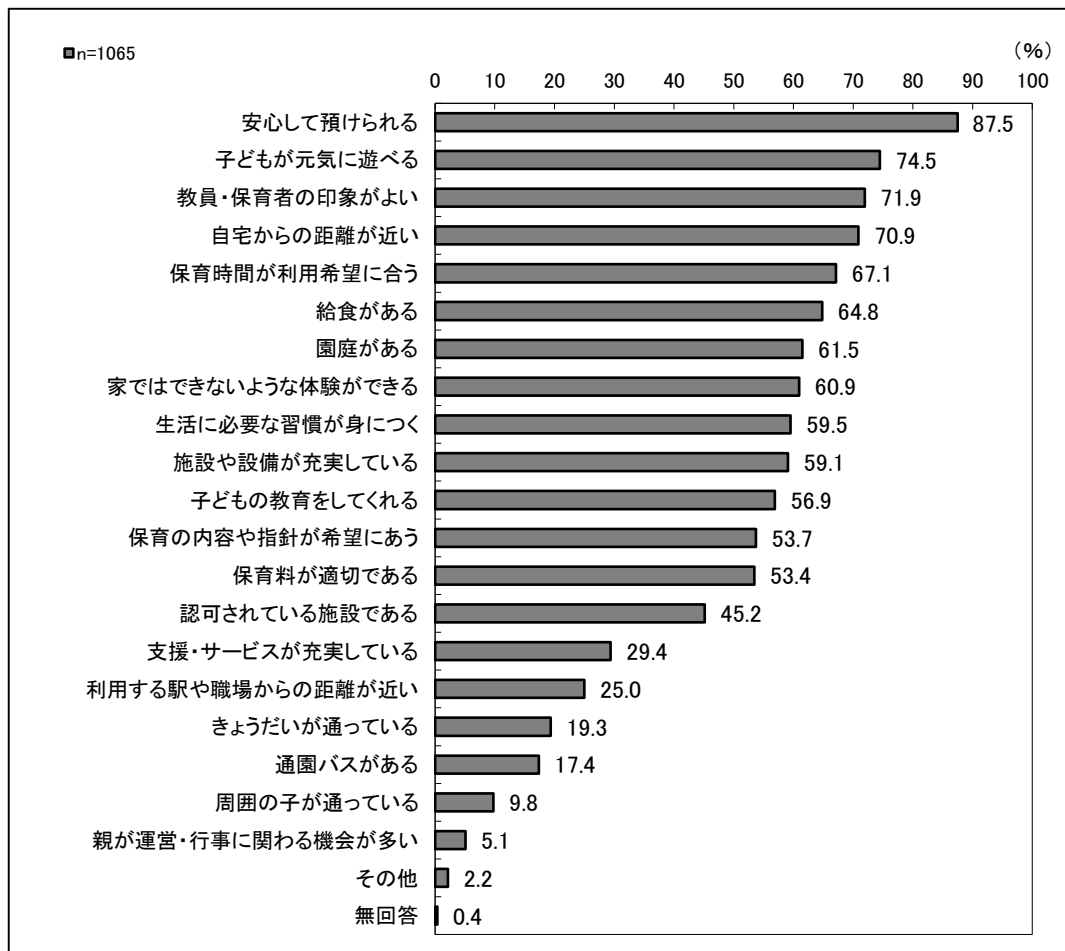
「安心して預けられる」(87.5%)、「子どもが元気に遊べる」(74.5%)、「教員・保育者の印象がよい」(71.9%) が上位 3 位を占める。

「自宅からの距離が近い」(70.9%)、「保育時間が利用希望に合う」(67.1%)、「給食がある」(64.8%) 等がこれに続く。

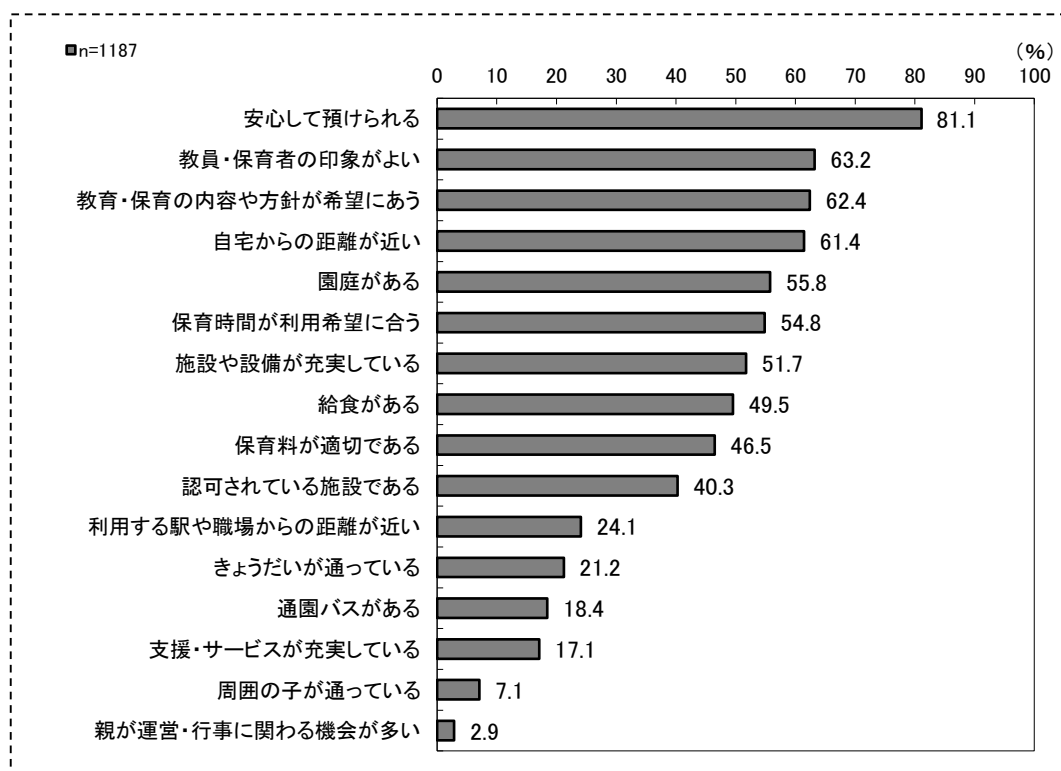
前回調査結果と比較して、「保育の内容や指針が希望にあう」が 8.7 ポイント減少し、「自宅からの距離が近い」が 9.5 ポイント増加している。

■教育・保育の事業を希望する上で重視する条件■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



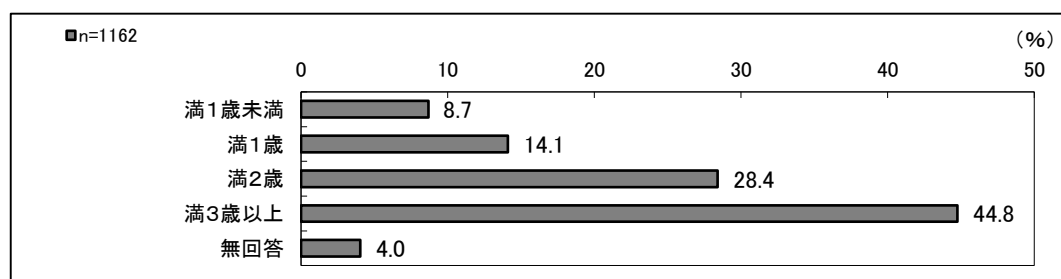
(8) 幼稚園の利用を開始したい子どもの年齢

問 22 平日の定期的な教育・保育の事業として、「幼稚園」を利用するとしたら、お子さんが何歳の時から利用したいと思いますか（現在、「幼稚園」を利用している場合、お子さんが何歳の時から利用可能だったら良かったと思いますか）。



「満3歳以上」(44.8%)、「満2歳」(28.4%)、「満1歳」(14.1%)、「満1歳未満」(8.7%)。

■幼稚園の利用を開始したい子どもの年齢■



(9) 幼稚園を利用していない理由

※ 問 19-1 で「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけなかった方のみ
問 23 幼稚園を利用していない理由は何ですか。【複数回答】



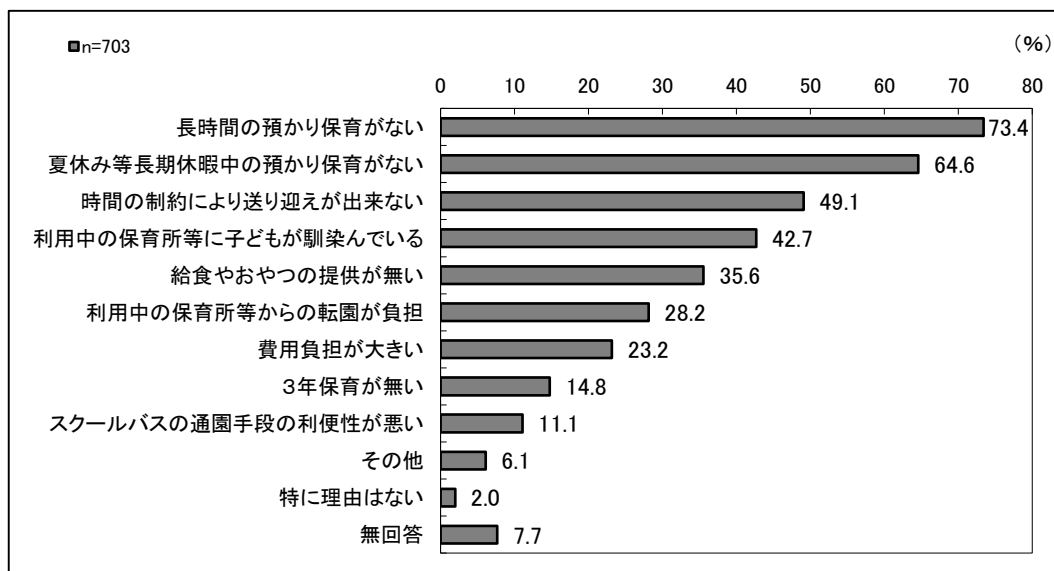
「長時間の預かり保育がない」(73.4%) が最も高い割合を占めている。

「夏休み等長期休暇中の預かり保育がない」(64.6%), 「時間の制約により送り迎えが出来ない」(49.1%), 「利用中の保育所等に子どもが馴染んでいる」(42.7%) 等がこれに続く。

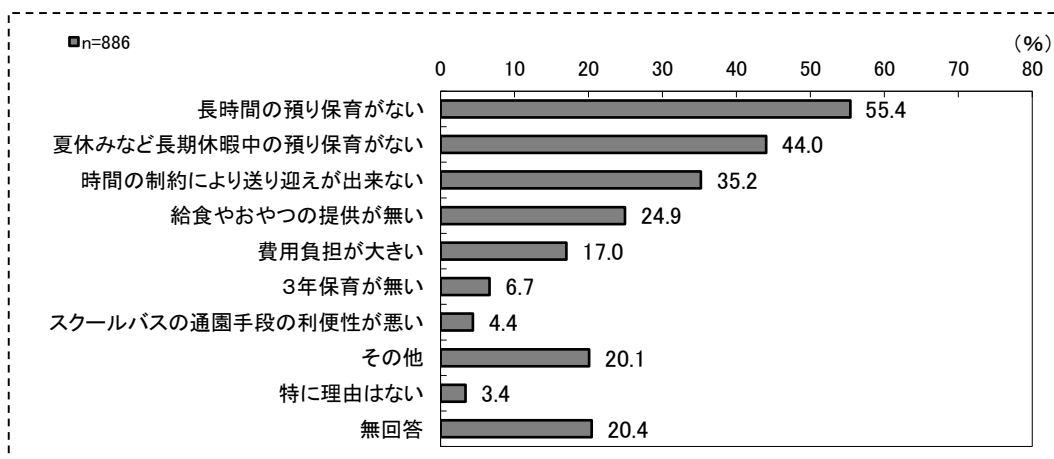
前回調査結果と比較して、「長時間の預かり保育がない」が 18.0 ポイント, 「夏休み等長期休暇中の預かり保育がない」が 20.6 ポイント, 「時間の制約により送り迎えが出来ない」が 13.9 ポイント増加している。

■ 幼稚園を利用していない理由 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



8. 土曜日・休日等の定期的な教育・保育事業の利用について

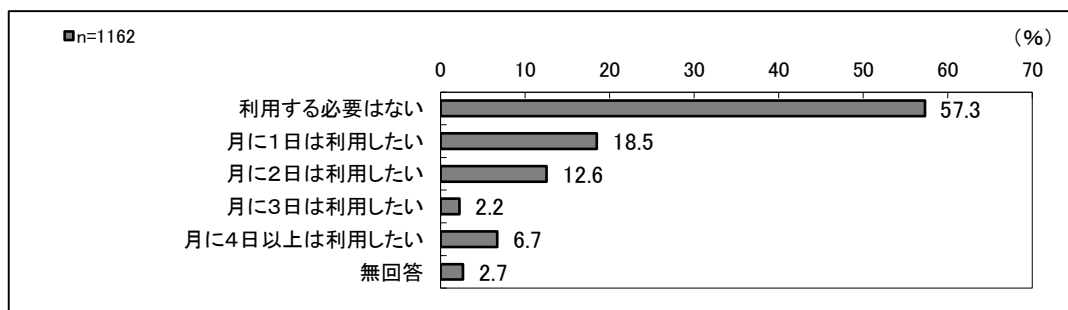
(1) 土曜日：利用希望

問 24 宛名のお子さんについて、土曜日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。

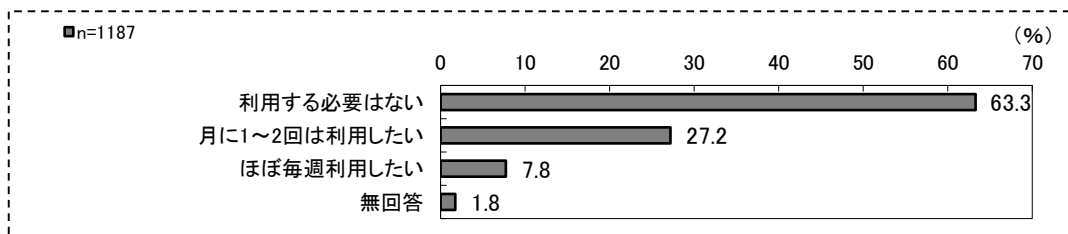
「利用する必要はない」(57.3%) が最も高い割合を占める。
「月に1日は利用したい」(18.5%), 「月に2日は利用したい」(12.6%), 「月に4日以上は利用したい」(6.7%), 「月に3日は利用したい」(2.2%)。

■土曜日：利用希望■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



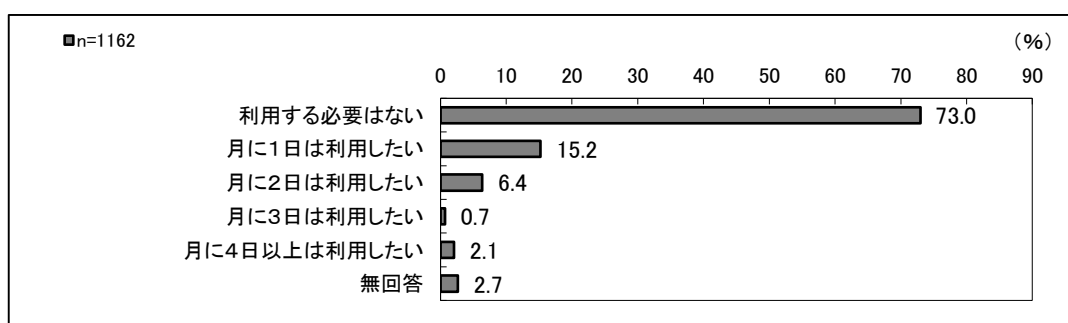
(2) 日曜日・祝日：利用希望

問 25 宛名のお子さんについて、日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。

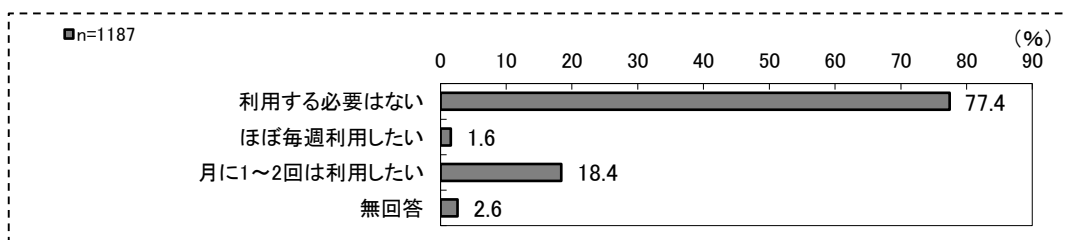
「利用する必要はない」(73.0%) が最も高い割合を占めている。
「月に1日は利用したい」(15.2%), 「月に2日は利用したい」(6.4%), 「月に4日以上は利用したい」(2.1%), 「月に3日は利用したい」(0.7%) がこれに続く。

■日曜日・祝日：利用希望■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(3) 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

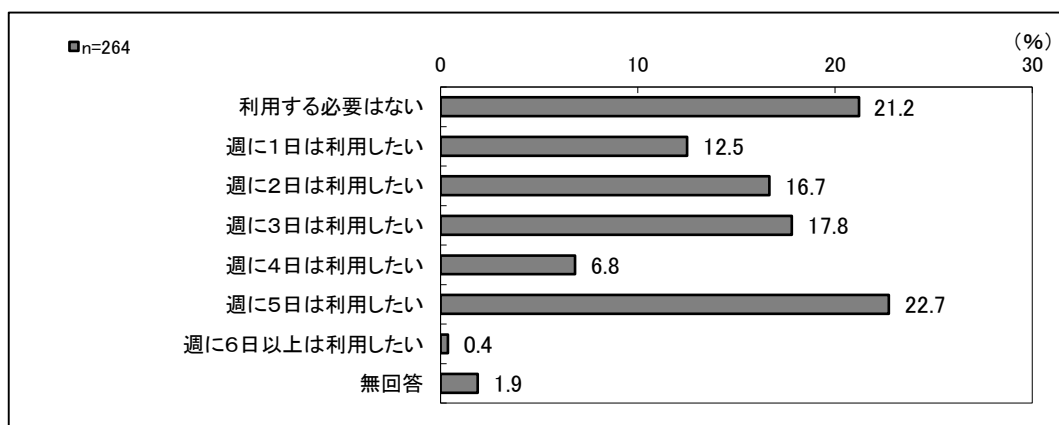
※ 問 19-1 で「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけた方のみ
問 26 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休み等の長期休暇中の「預かり保育」の利用希望
はありますか。



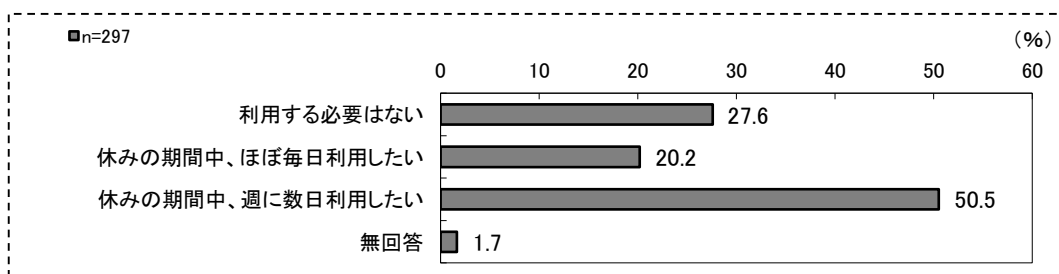
「週に5日は利用したい」(22.7%)が最も高い割合を占めている。
「週に3日は利用したい」(17.8%),「週に2日は利用したい」(16.7%),「週に1日は利用し
たい」(12.5%),「週に4日は利用したい」(6.8%)等がこれに続く。
「利用する必要はない」は21.2%。
前回調査結果に引き続き、「週に5日は利用したい(休みの期間中、ほぼ毎日利用したい)」,
「利用する必要はない」が回答の2割以上を占めている。

■長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望■

【今回調査】



【前回調査(参考)】



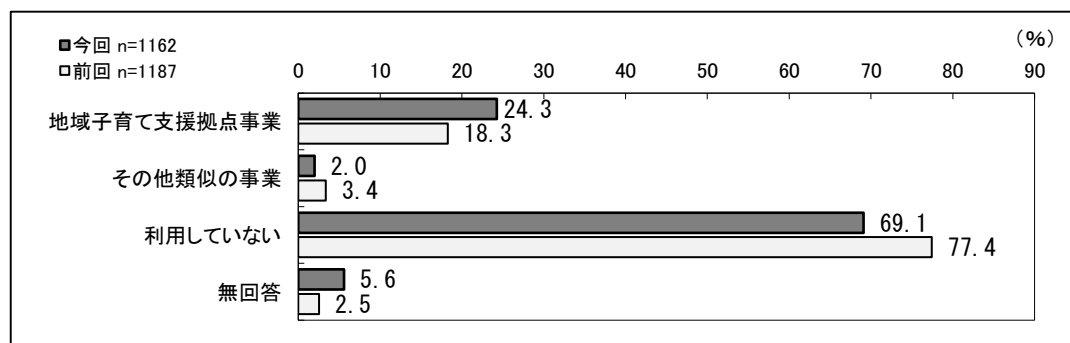
9. 地域子育て支援拠点事業の利用状況について

(1) 地域子育て支援事業の利用状況

問 27 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育てひろば」等と呼ばれ、市内の各児童館や子ども家庭支援センターすこやか、プレイセンター等で実施しています。）を利用していますか。

「地域子育て支援拠点事業」(24.3%)、「その他類似の事業」(2.0%)。
前回調査結果と比較して、「地域子育て支援拠点事業」を利用している回答割合は6ポイント増加している。

■地域子育て支援事業の利用状況■



(2) 地域子育て支援事業等の利用回数／月

1. 地域子育て支援事業：利用回数／月
2. その他類似の事業：利用回数／月

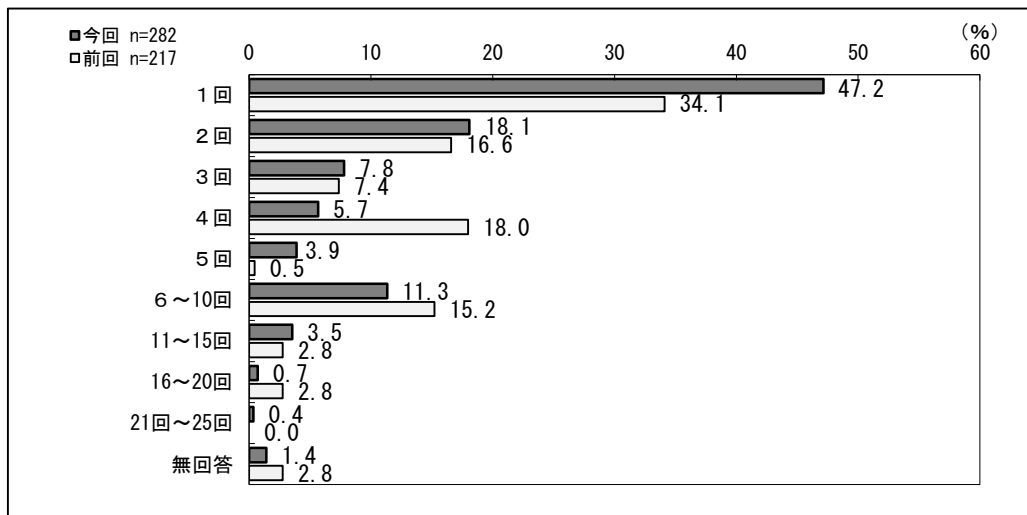


現在の利用状況は以下のとおり。

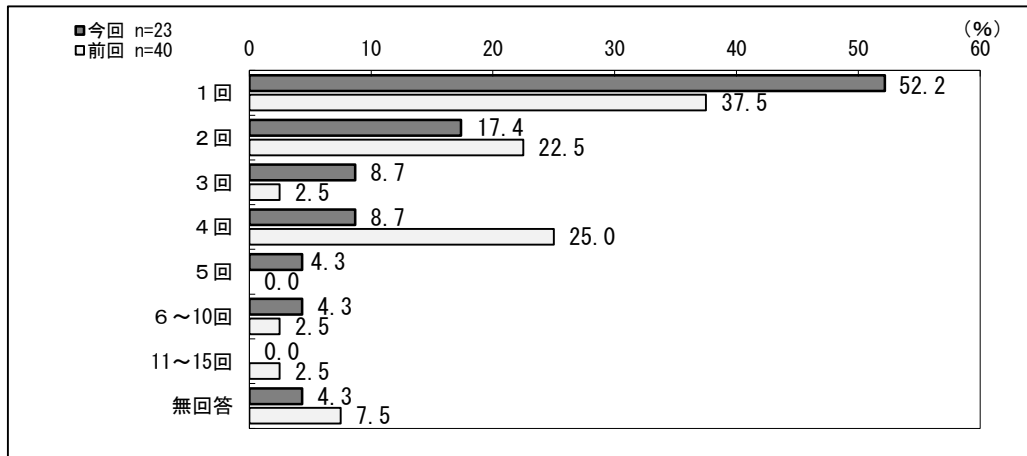
■集計結果 地域子育て支援事業等の利用回数／月■

	地域子育て支援事業 (n=282)	その他類似の事業 (n=23)
平均値	3.20 回	2.23 回
最大値	25.00 回	10.00 回
最小値	0.5 回	1.00 回
無回答数	4 件	1 件

■地域子育て支援事業の利用回数／月■



■その他類似の事業の利用回数／月■



(3) 地域子育て支援事業の利用意向

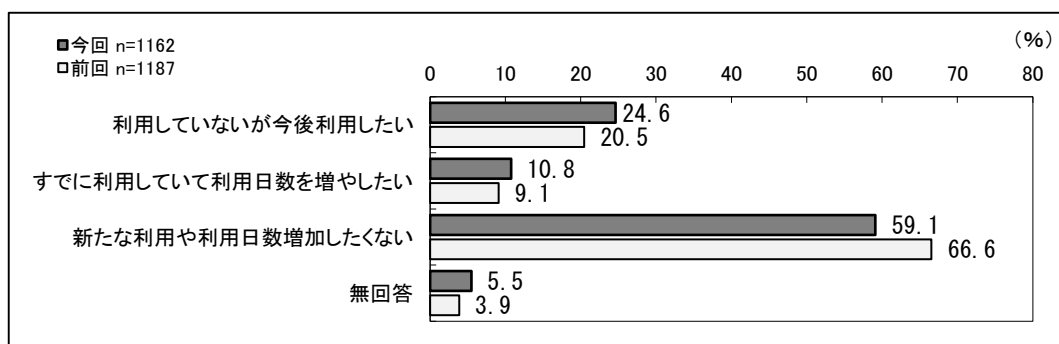
問 27-1 問 27 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。



「利用していないが今後利用したい」(24.6%)、「すでに利用していて利用日数を増やしたい」(10.8%)、「新たな利用や利用日数増加したくない」(59.1%)。

前回調査結果と比較して、「新たな利用や利用日数増加したくない」が7.5ポイント減少している。

■地域子育て支援事業：利用意向■



(4) 地域子育て支援事業の希望利用回数／月

1. (新規で利用したい) 希望利用回数／月
2. (利用を増やしたい) 希望利用回数／月

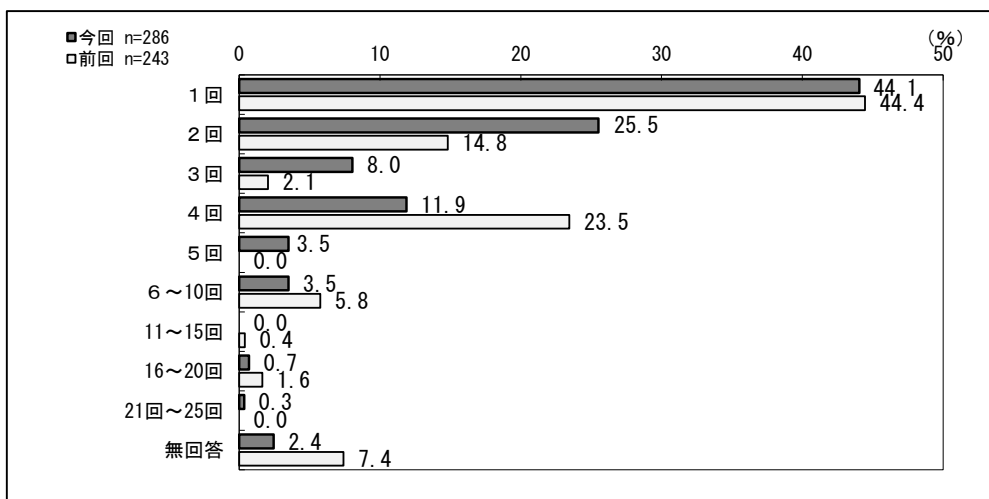


新規で利用したい希望回数は「月1回」、利用を増やしたい希望回数は「月4回」が最も高い割合を占めている。

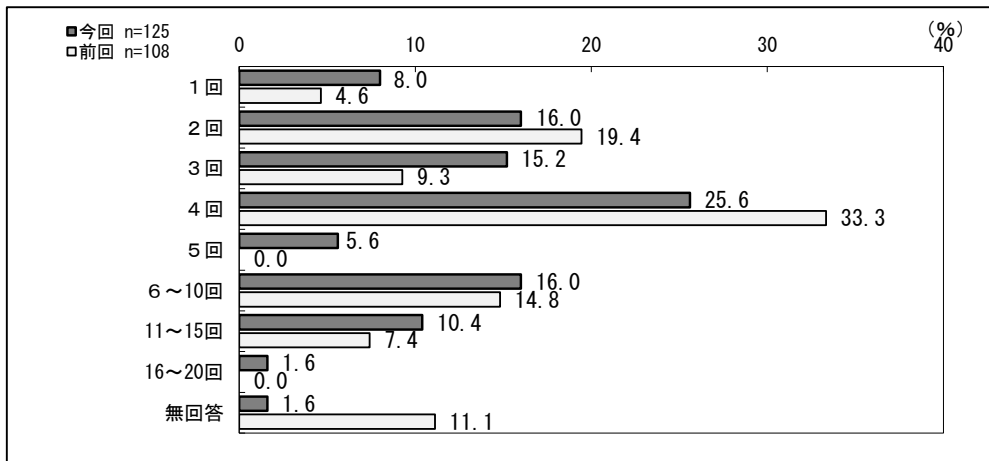
■集計結果 地域子育て支援事業の希望利用回数／月■

	新規で利用したい (n=286)	利用を増やしたい (n=125)
平均値	2.42 回	5.38 回
最大値	25.00 回	20.00 回
最小値	0.5 回	1.00 回
無回答数	7 件	2 件

■新規で利用したい希望回数／月■



■利用を増やしたい希望回数／月■



10. 市の子育て支援サービス等について

(1) 子育てに関する情報の入手先

問 28 あなたは、子育てに関する情報をどこ（誰・何）から入手していますか。【複数回答】

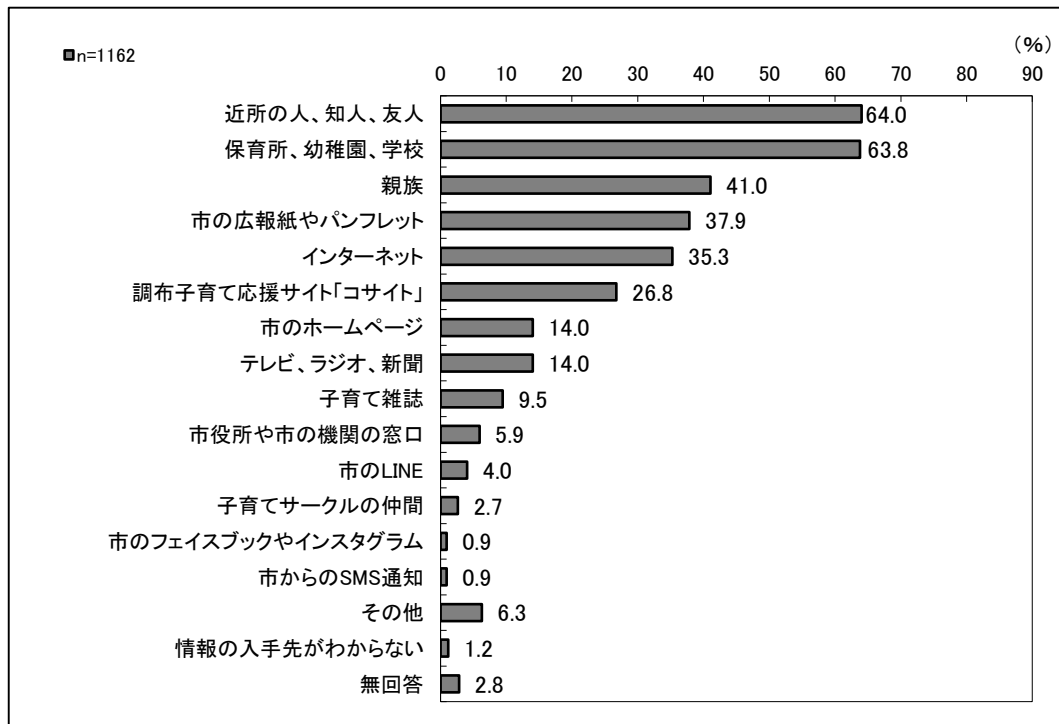
前回調査結果に引き続き、「近所の人、知人、友人」(64.0%)、「保育所、幼稚園、学校」(63.8%)が6割以上と高い割合を占めている。

「親族」(41.0%)、「市の広報紙やパンフレット」(37.9%)、「インターネット」(35.3%)、「調布子育て応援サイト「コサイト」」(26.8%)等がこれに続く。

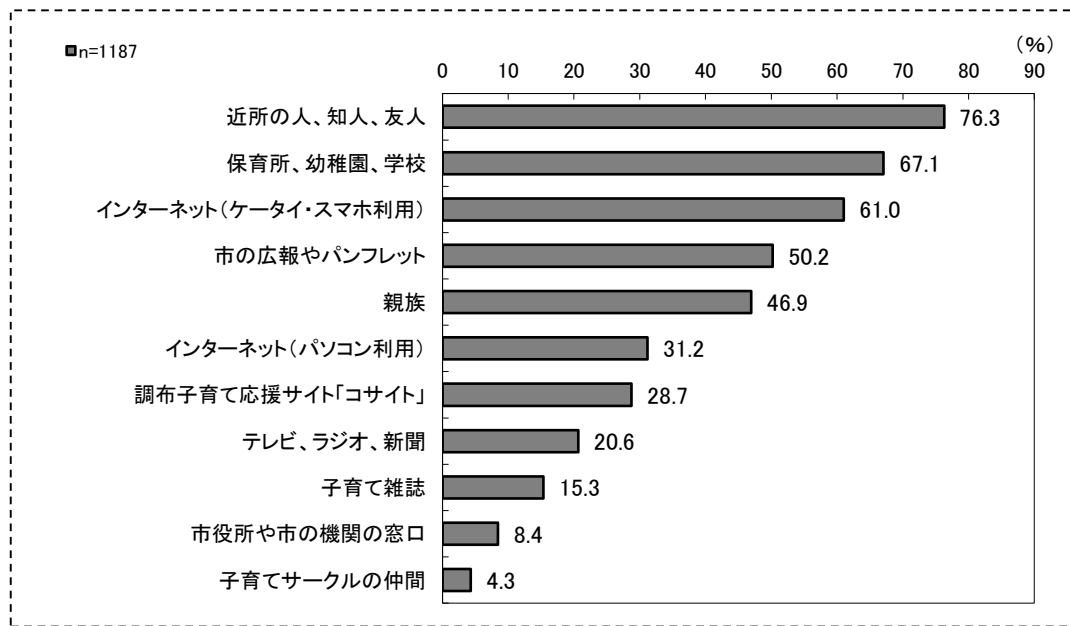
「情報の入手先がわからない」への回答は1.2%であるほか、市のホームページ、フェイスブックやインスタグラム、LINEなどのSNSなどの情報発信による情報の入手が少ない傾向にある。

■子育てに関する情報の入手先■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(2) 子育てに関して欲しい情報

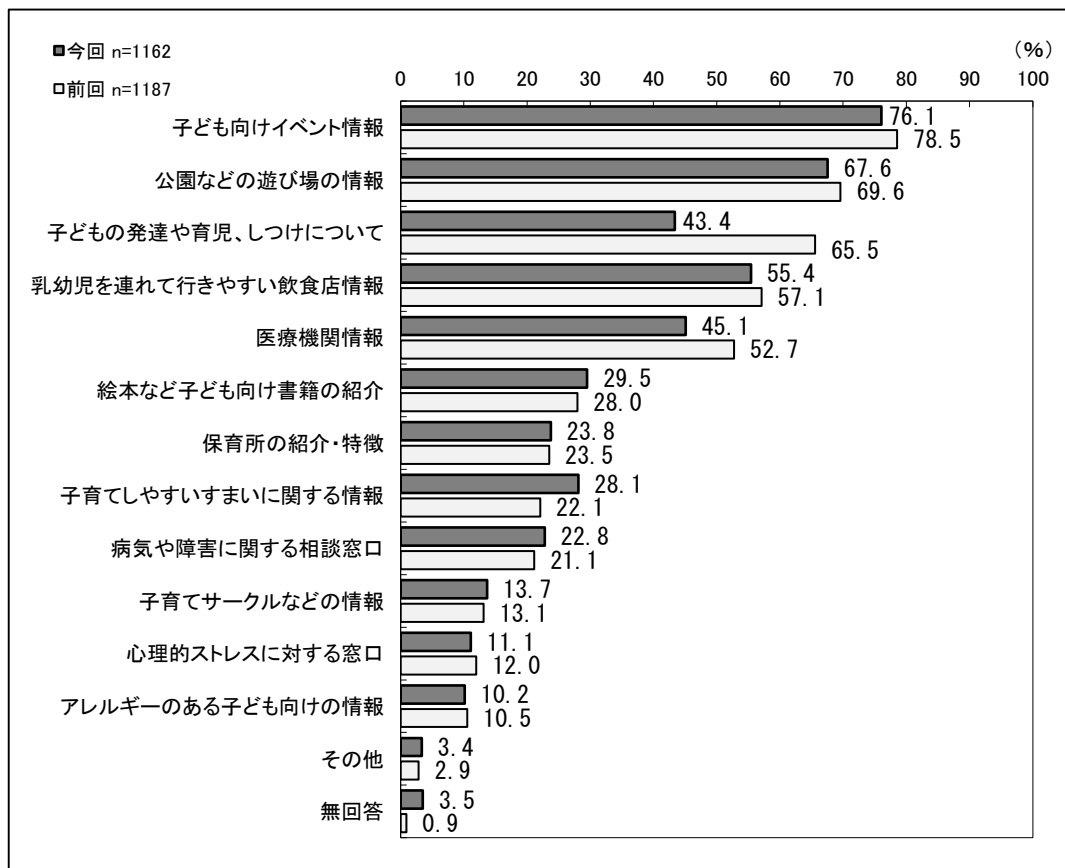
問 28-1 あなたは、子育てに関するどのような情報が欲しいですか。【複数回答】

前回調査結果に引き続き、「子ども向けイベント情報」(76.1%)、「公園などの遊び場の情報」(67.6%)が6割以上と高い割合を占めている。

「乳幼児を連れて行きやすい飲食店情報」,「医療機関情報」(45.1%),「子どもの発達や育児,しつけについて」(43.4%),「絵本など子ども向け書籍の紹介」(29.5%),「子育てしやすいすまいに関する情報」(28.1%),「保育所の紹介・特徴」(23.8%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して,「子どもの発達や育児,しつけについて」が22.1ポイント減少している。

■子育てに関して欲しい情報■



(3) 事業・サービス等の認知状況

問 29 下記の事業やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

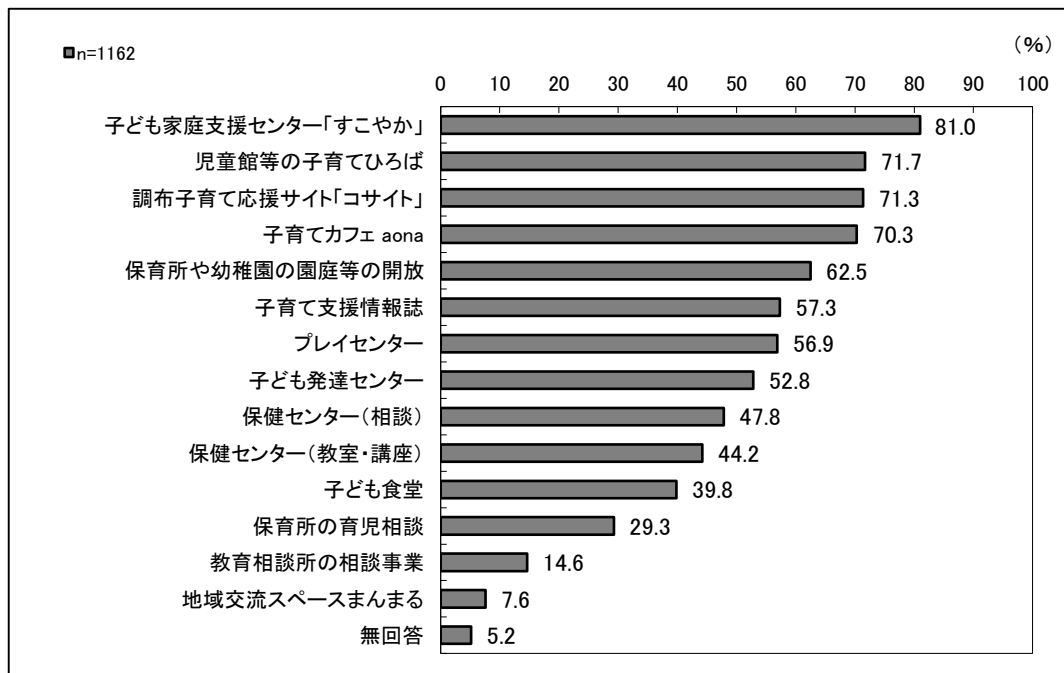
A 事業・サービス等の認知状況

前回調査結果に引き続き、最も認知状況が高かったのは「子ども家庭支援センター「すこやか」」で、81.0%の回答者に認知されている。

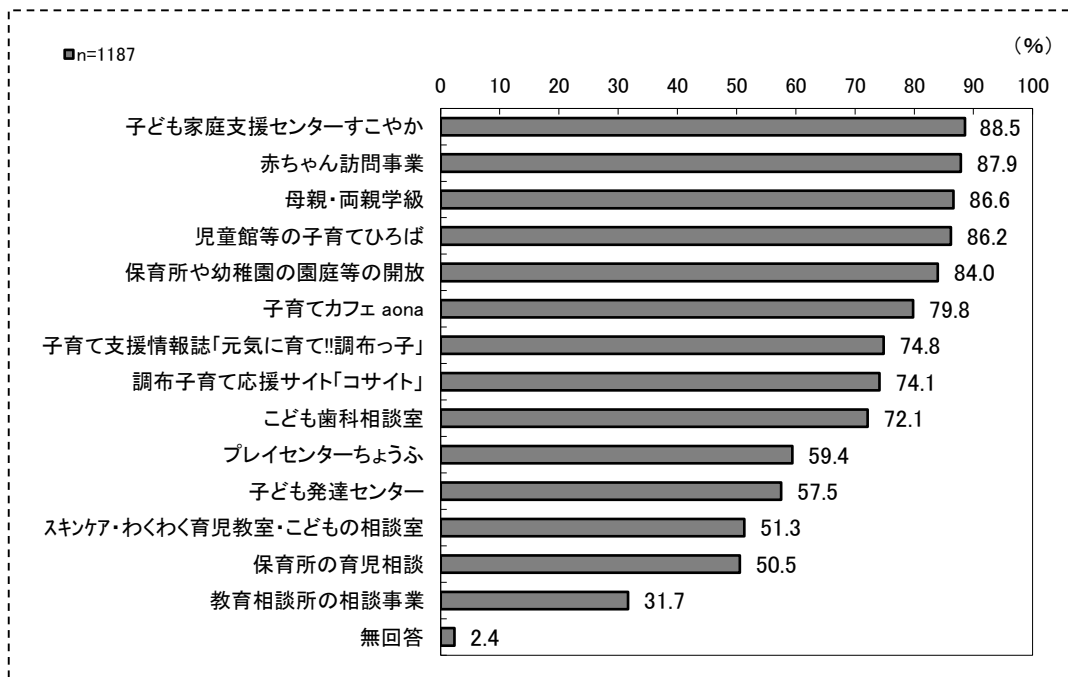
「児童館等の子育てひろば」(71.7%)、「調布子育て応援サイト「コサイト」」(71.3%)、「子育てカフェ aona」(70.3%)等がこれに続く。

■ 事業・サービス等の認知状況 ■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(4) 事業・サービス等の利用状況

問 29 次の施設やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

B 事業・サービス等の利用状況

最も利用されているのは「子ども家庭支援センター「すこやか」」で、59.4%の回答者が「利用経験あり」としている。

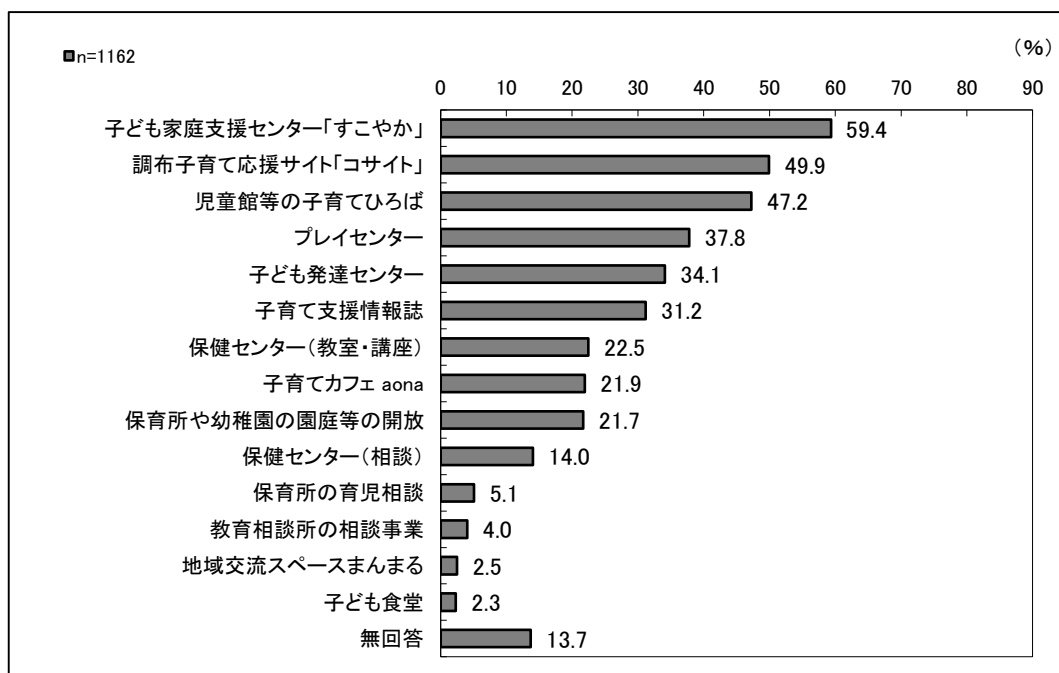
「調布子育て応援サイト「コサイト」」(49.9%)、「児童館等の子育てひろば」(47.2%)、「プレイセンター」(37.8%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して、「子育てカフェ aona」(38.2ポイント減)、「児童館等の子育てひろば」(19.4ポイント減)、「子ども家庭支援センター「すこやか」」(16.9ポイント減)等の「利用経験あり」が減っている。

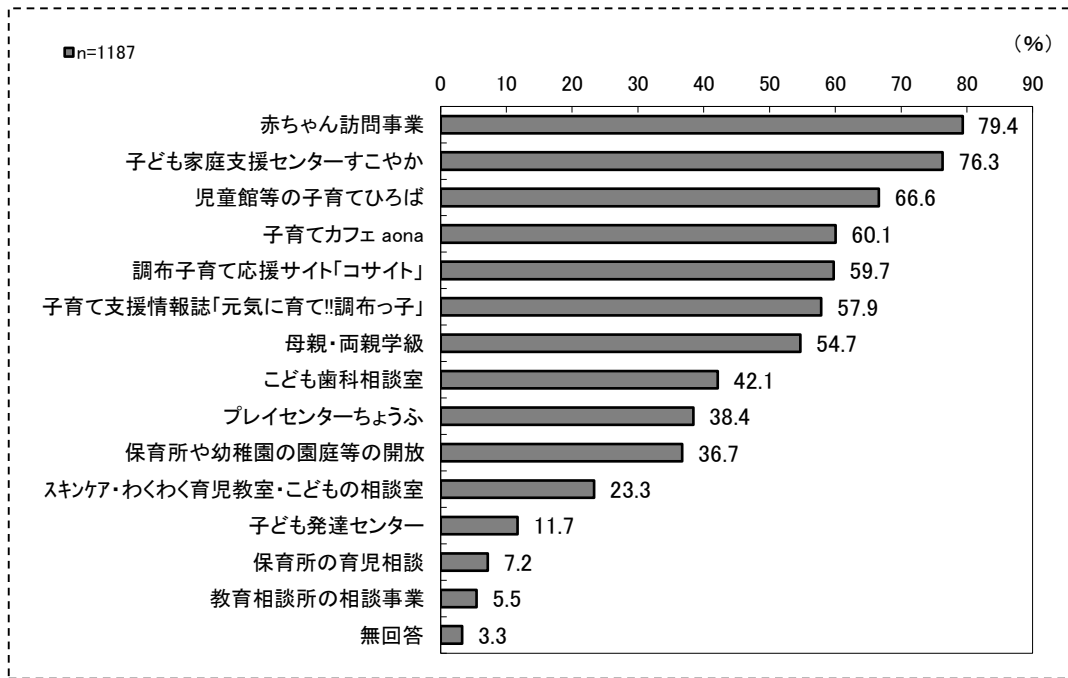
また、子どもの年齢と事業・サービス等の利用状況とクロス集計し、子どもの年齢別に「子ども家庭支援センター「すこやか」」に着目してみると過半数が「利用経験あり」としている。

■事業・サービス等の利用状況■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



【子どもの年齢と事業・サービス等の利用状況とのクロス集計表】

		合計	問29 B 事業・サービス等の利用状況							
			保健センター（教室・講座）	保健センター（相談）	児童館等の子育てひろば	プレイセンター	教育相談所の相談事業	保育所や幼稚園の園庭等の開放	保育所の育児相談	子ども発達センター
全体		1162 100.0	261 22.5	163 14.0	549 47.2	439 37.8	47 4.0	252 21.7	59 5.1	396 34.1
年齢	0歳	69 100.0	20 29.0	5 7.2	32 46.4	31 44.9	0 0.0	5 7.2	1 1.4	16 23.2
	1歳	128 100.0	43 33.6	23 18.0	60 46.9	62 48.4	3 2.3	18 14.1	6 4.7	28 21.9
	2歳	185 100.0	39 21.1	29 15.7	79 42.7	74 40.0	1 0.5	39 21.1	11 5.9	48 25.9
	3歳	165 100.0	26 15.8	23 13.9	77 46.7	62 37.6	6 3.6	34 20.6	15 9.1	54 32.7
	4歳	210 100.0	46 21.9	23 11.0	98 46.7	79 37.6	6 2.9	47 22.4	3 1.4	85 40.5
	5歳	399 100.0	87 21.8	60 15.0	200 50.1	129 32.3	31 7.8	106 26.6	23 5.8	163 40.9

		合計	問29 B 事業・サービス等の利用状況						無回答
			子ども家庭支援センター「すこやか」	子育て支援情報誌	調布子育て応援サイト「コサイト」	子育てカフェ aona	子ども食堂	地域交流スペース まんまる	
全体		1162 100.0	690 59.4	362 31.2	580 49.9	255 21.9	27 2.3	29 2.5	159 13.7
年齢	0歳	69 100.0	37 53.6	26 37.7	35 50.7	12 17.4	0 0.0	1 1.4	10 14.5
	1歳	128 100.0	77 60.2	44 34.4	65 50.8	24 18.8	3 2.3	1 0.8	16 12.5
	2歳	185 100.0	98 53.0	61 33.0	96 51.9	37 20.0	2 1.1	8 4.3	29 15.7
	3歳	165 100.0	94 57.0	45 27.3	87 52.7	36 21.8	4 2.4	2 1.2	29 17.6
	4歳	210 100.0	129 61.4	66 31.4	109 51.9	46 21.9	4 1.9	4 1.9	27 12.9
	5歳	399 100.0	251 62.9	119 29.8	185 46.4	99 24.8	14 3.5	13 3.3	46 11.5

(5) 事業・サービス等の利用意向

問 29 次の施設やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

C 事業・サービス等の利用意向

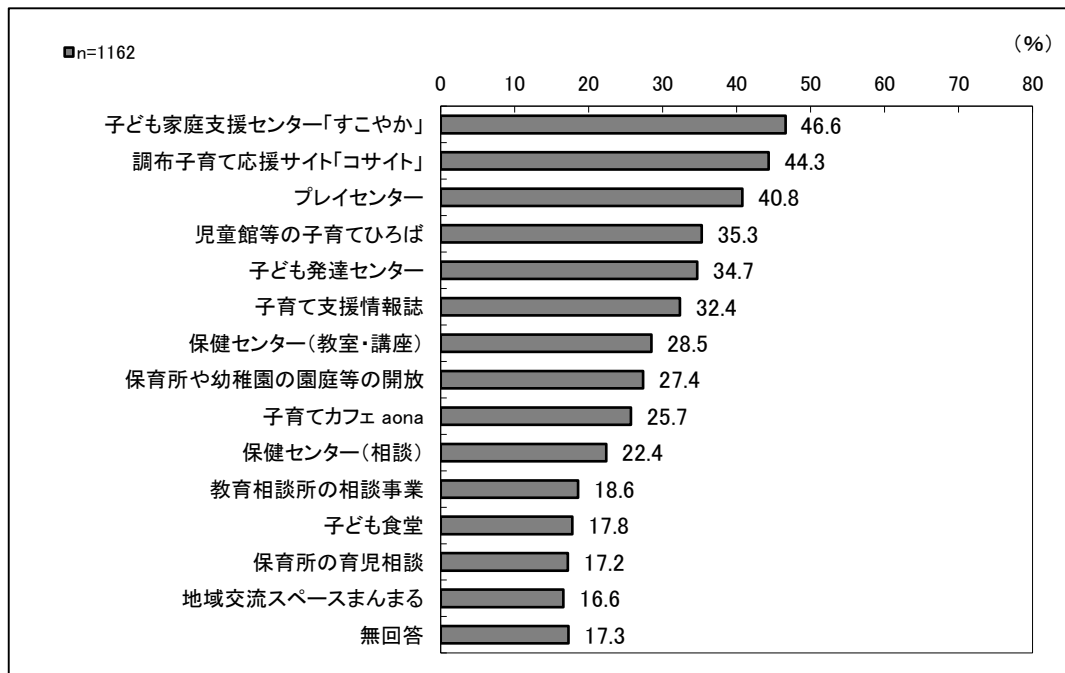
「子ども家庭支援センター「すこやか」(46.6%)、「調布子育て応援サイト「コサイト」(44.3%)、「プレイセンター」(40.8%)が上位3位を占める。

「児童館等の子育てひろば」(35.3%)、「子ども発達センター」(34.7%)、「子育て支援情報誌」(32.4%)、「保健センター(教室・講座)」(28.5%)等がこれに続く。

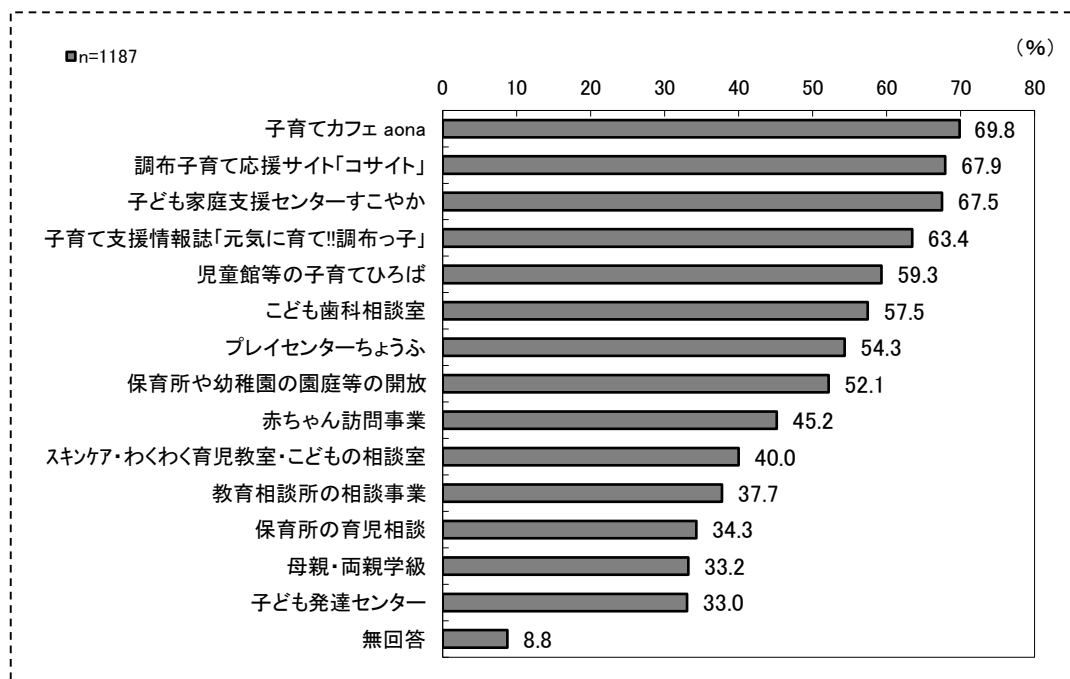
前回調査結果と比較して、「子育てカフェ aona」(44.1ポイント減)、「児童館等の子育てひろば」(24.0ポイント減)、「子ども家庭支援センター「すこやか」(20.9ポイント減)等の利用意向は減少している。

■事業・サービス等の利用意向■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



11. 子どもの病気の際の対応について

(1) 病気やケガで利用できなかったこと

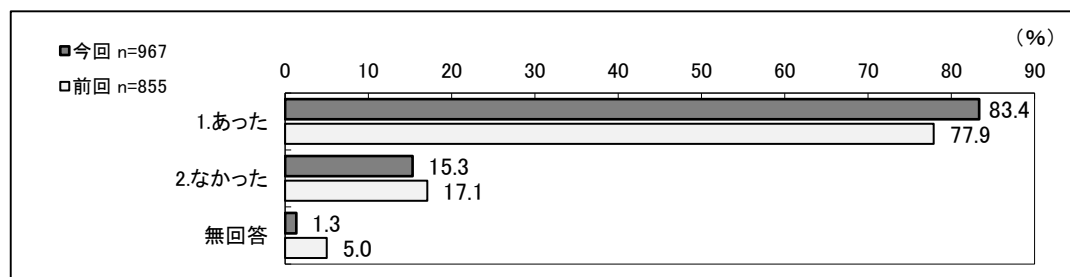
※ 問19で「1. 利用している」に○をつけた方のみ

問30 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

「あった」(83.4%)、「なかった」(15.3%)。

前回調査結果と比較して、「あった」が5.5ポイント増加している。

■病気やケガで利用できなかったこと■



(2) この1年間の対処方法

※ 問30で「1. あった」と回答した方のみ

問30-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

① この1年間の対処方法

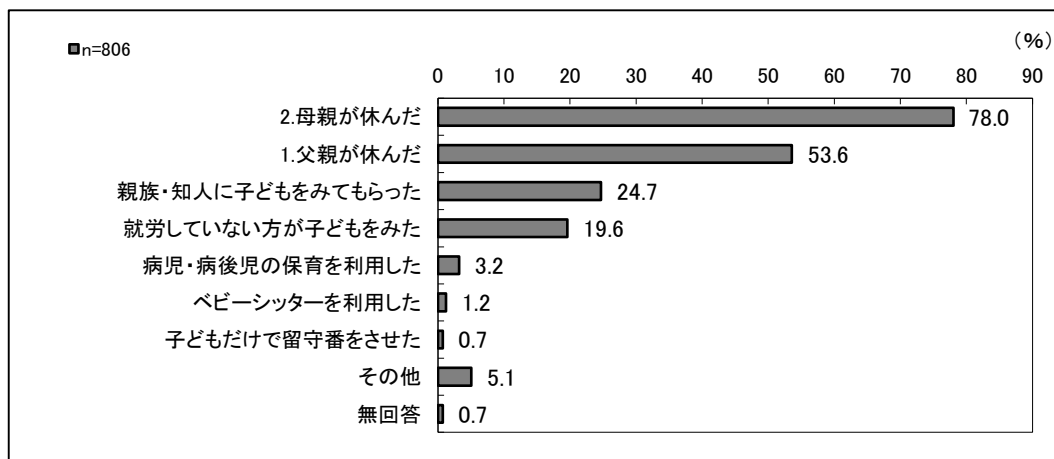
「母親が休んだ」(78.0%) が最も高い割合を占めている。

「父親が休んだ」(53.6%), 「親族・知人に子どもをみてもらった」(24.7%), 「就労していない方が子どもをみた」(19.6%), 「病児・病後児の保育を利用した」(3.2%), 「ベビーシッターを利用した」(1.2%), 「子どもだけで留守番をさせた」(0.7%) 等がこれに続く。

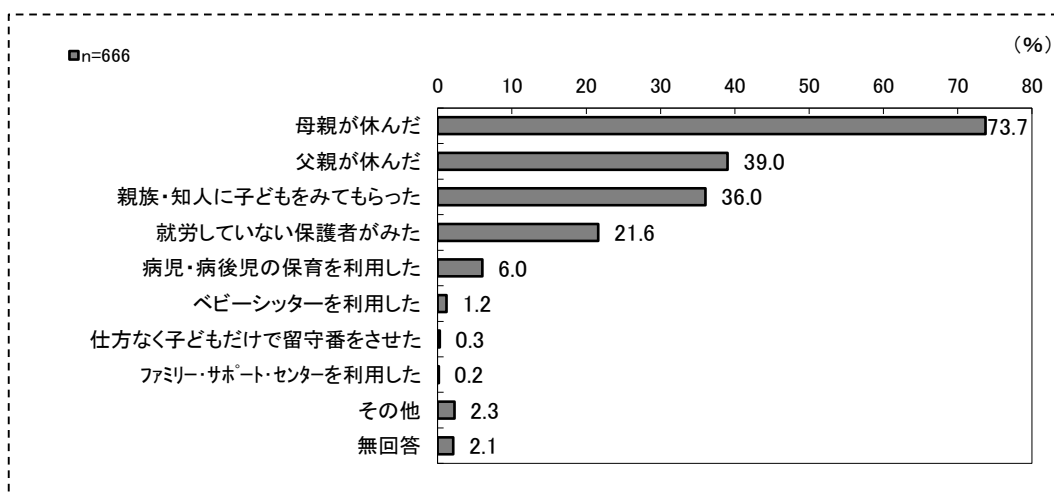
前回調査結果と比較して、「父親が休んだ」が14.6ポイント増加している。

■現状 この1年間の対処方法■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(3) この1年間の対処方法ごとの日数

※ 問30で「1. あった」と回答した方のみ

問30-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれの日数も□内に数字でご記入ください。

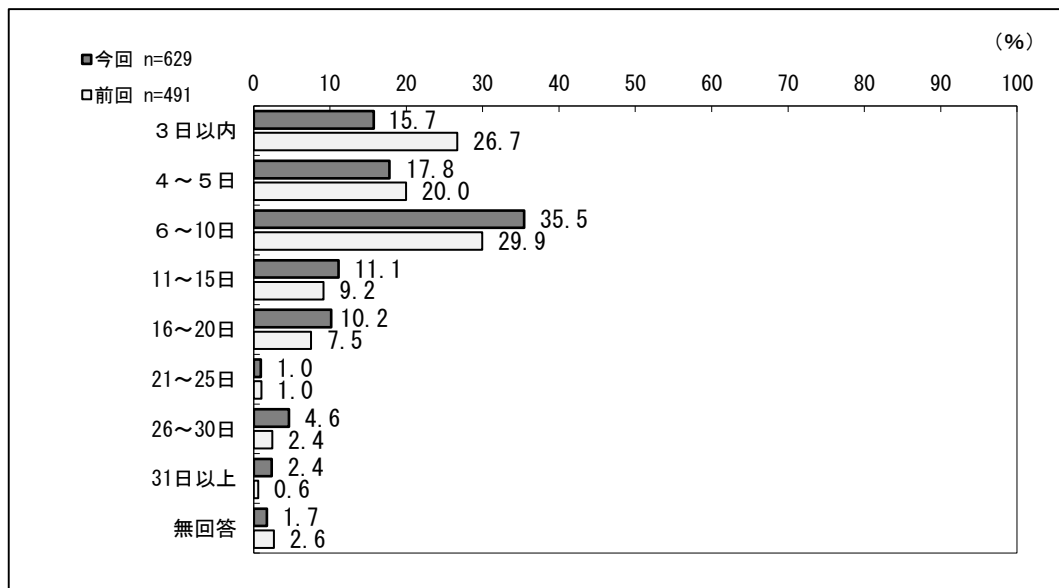


対処方法ごとの日数は以下のとおり。

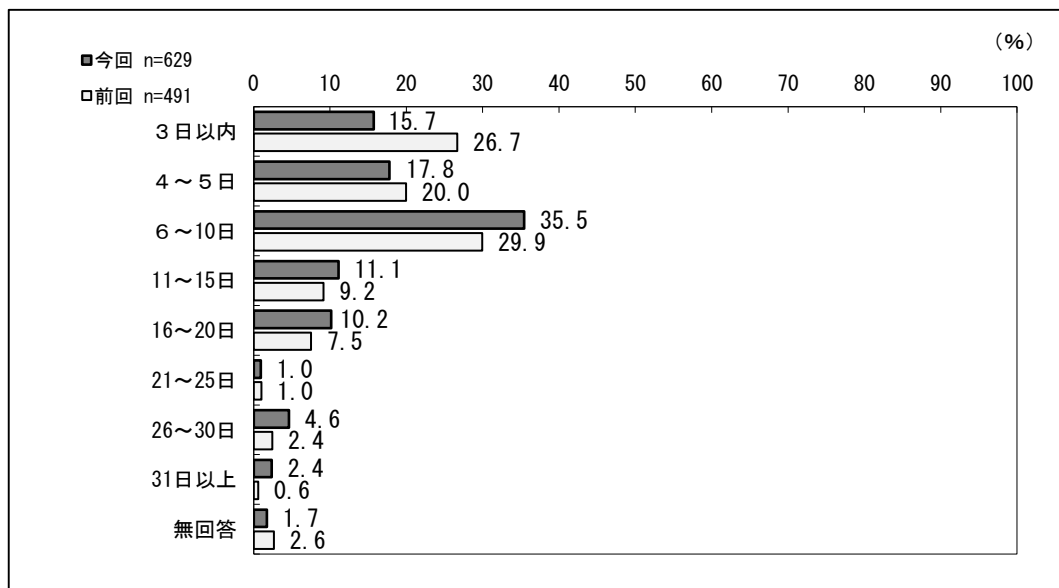
■集計結果 この1年間の対処方法ごとの日数■

	1 (n=432) 父親が休んだ	2 (n=629) 母親が休んだ	3 (n=199) 親族・知人に子どもをみてもらった	4 (n=158) 就労していない方が子どもをみた	5 (n=26) 病児・病後児の保育を利用した	6 (n=10) ベビーシッターを利用した	7 (n=6) 子どもだけで留守番をさせた	8 (n=41) その他
平均値	5.46日	10.81日	7.38日	17.86日	2.81日	7.00日	2.50日	17.27日
最大値	30.00日	60.00日	80.0日	365.00日	10.00日	20.00日	5.00日	200.00日
最小値	1.00日	1.00日	1.00日	1.00日	1.00日	1.00日	1.00日	1.00日
無回答数	2件	11件	5件	7件	0件	2件	0件	6件

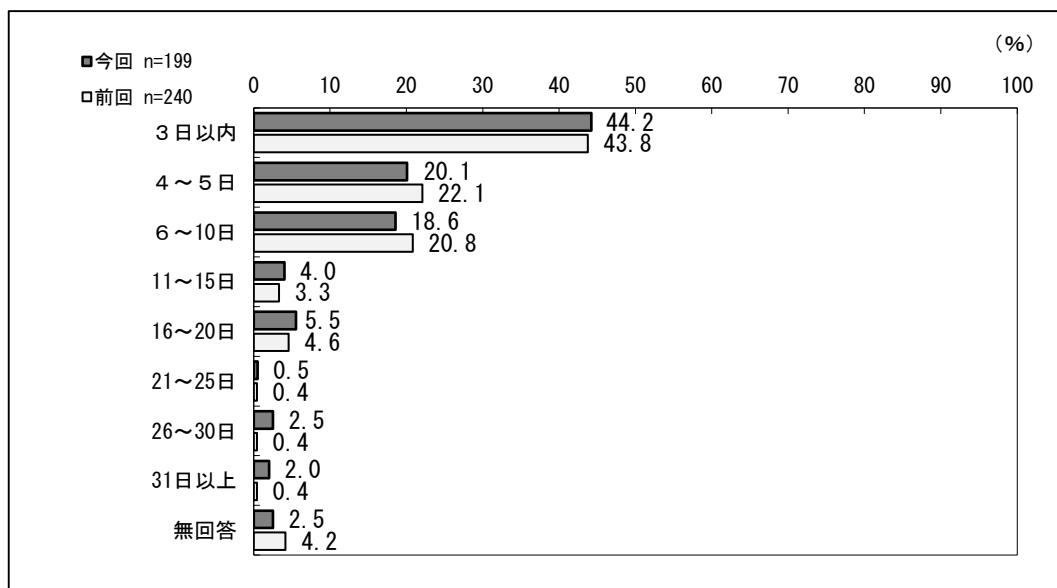
■父親が休んだ日数■



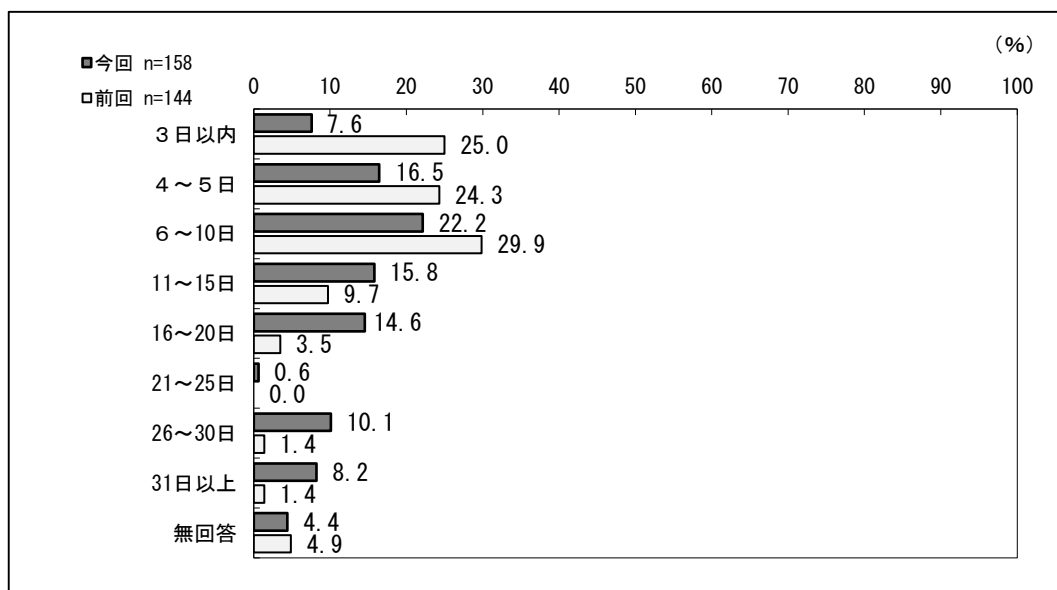
■母親が休んだ日数■



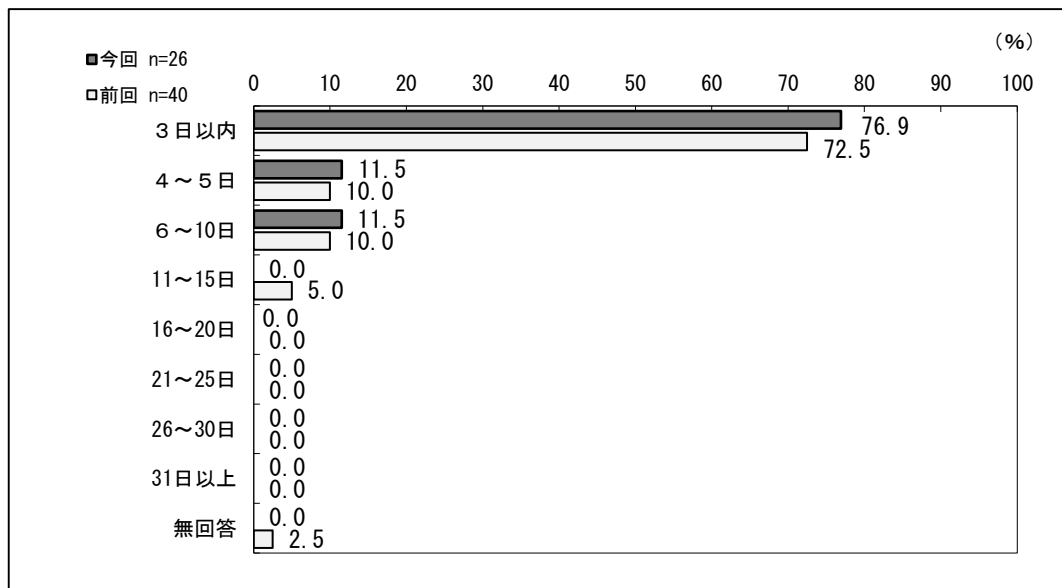
■親族・知人に子どもをみてもらった日数■



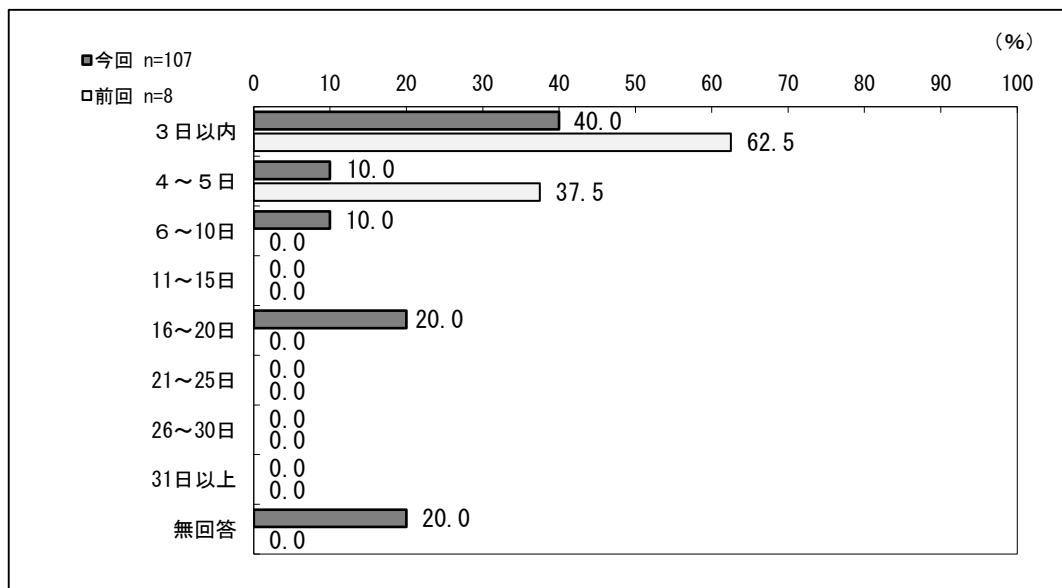
■就労していない方が子どもをみた日数■



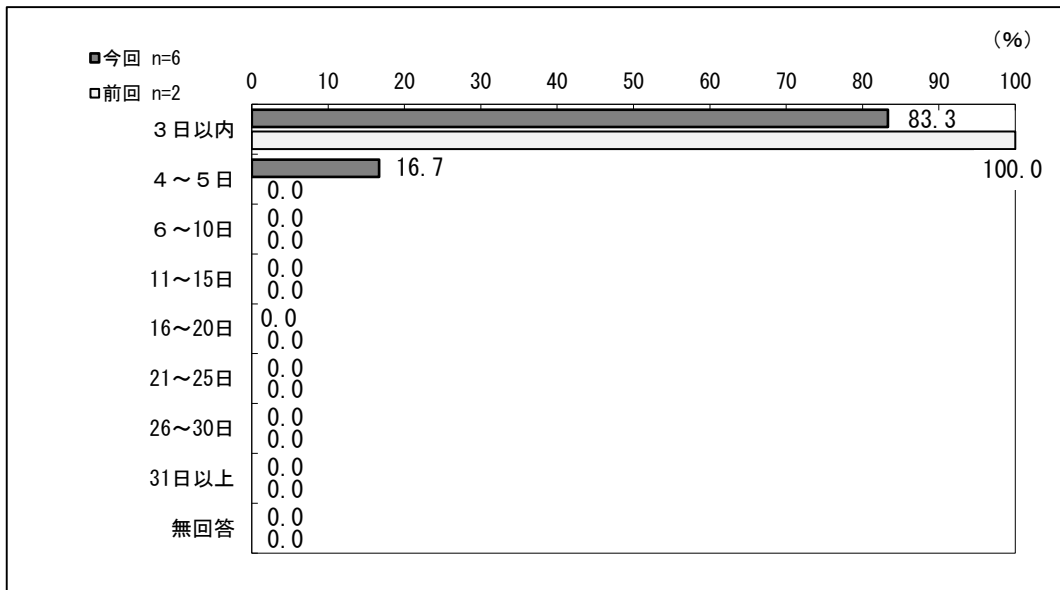
■病児・病後児の保育を利用した日数■



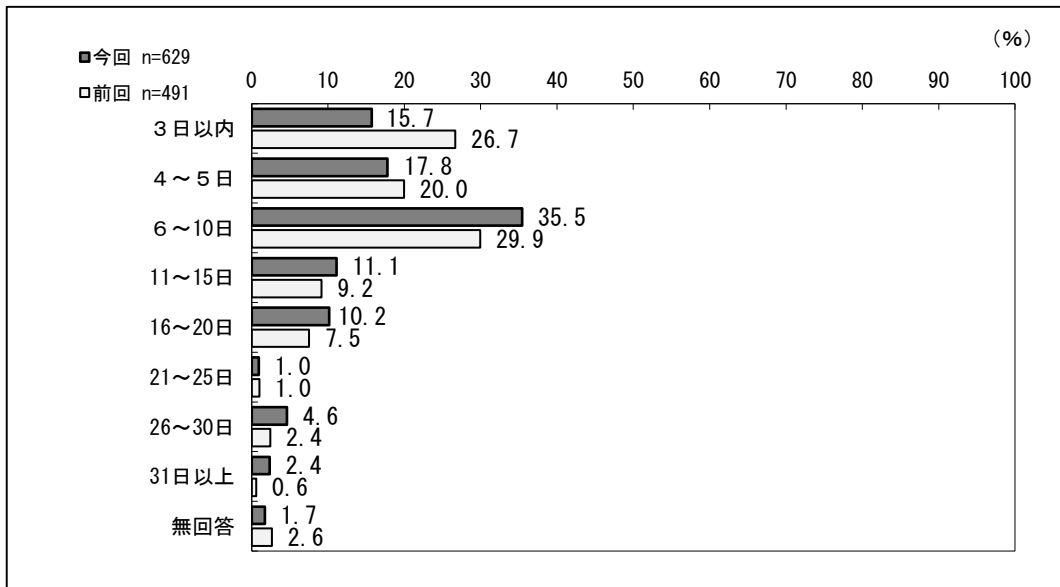
■ベビーシッターを利用した日数■



■子どもだけで留守番をさせた日数■



■その他■



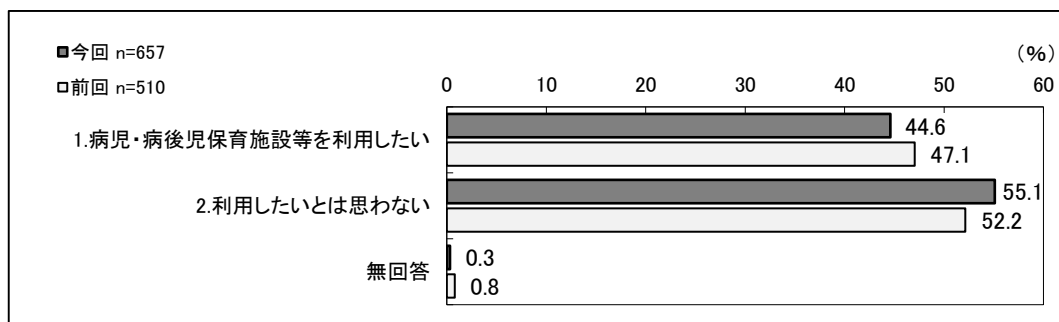
(4) 病児・病後児保育の利用意向

※ 問 30-1 で「1」または「2」のいずれかに○をつけた方のみ
問 30-2 今後、「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いますか。



「利用したいとは思わない」(55.1%)、「病児・病後児保育施設等を利用したい」(44.6%)。
前回調査結果との顕著な違いはみられない。

■病児・病後児保育の利用意向■



(5) 利用希望日数／年

問 30-2-1 利用希望日数／年

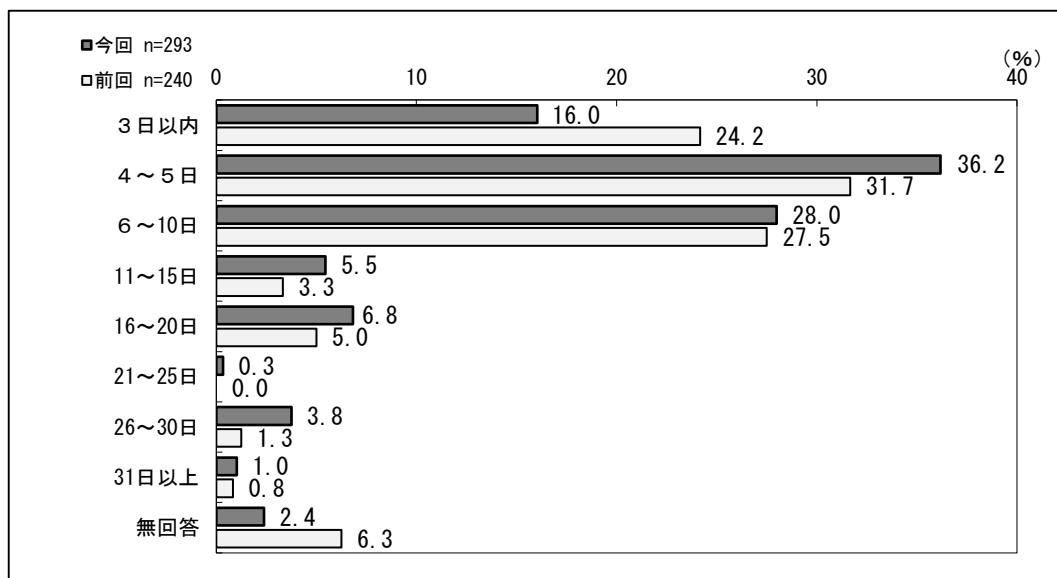


利用希望日数は「年 4～5 日」が最も高い割合を占めている。

■集計結果 利用希望日数／年■

n=293	利用希望日数／年
平均値	8.78 日
最大値	60.00 日
最小値	0.00 日
無回答数	4 件

■病児・病後児保育の利用希望日数／年■



(6) 利用したいと思わない理由

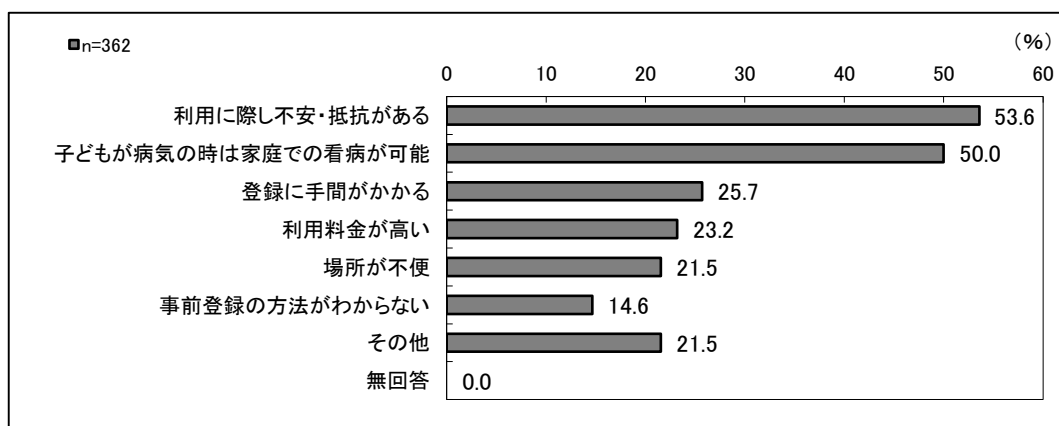
※ 問 30-2 で「2. 利用したいと思わない」に○をつけた方のみ
問 30-3 利用したいと思わない理由をお答えください。【複数回答】



「利用に際し不安・抵抗がある」(53.6%) が最も高い割合を占めている。

「子どもが病気の際は家庭での看病が可能」(50.0%), 「登録に手間がかかる」(25.7%), 「利用料金が高い」(23.2%), 「場所が不便」(21.5%), 「事前登録の方法がわからない」(14.6%), 等がこれに続く。

■ 利用したいと思わない理由 ■



12. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 不定期に利用している事業

問 31 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している（利用したことがある）事業や今後利用したい事業について伺います。

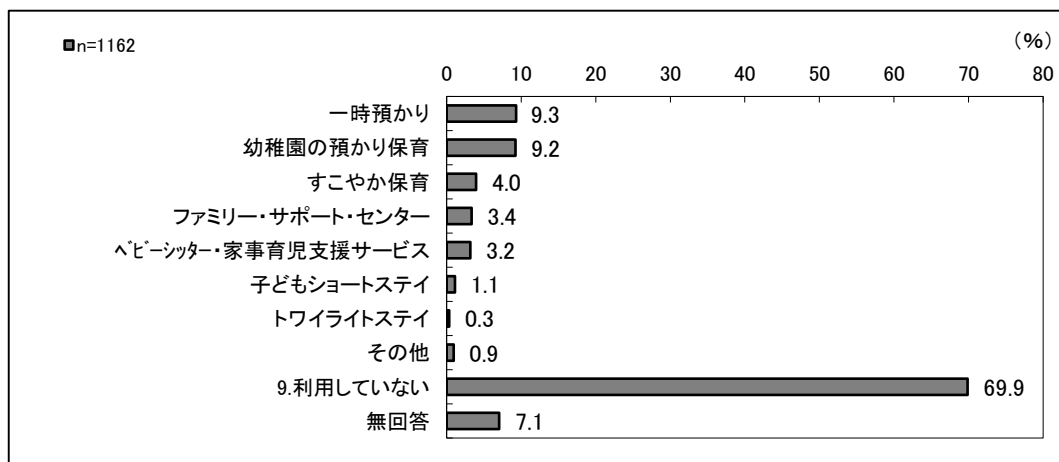
次のうち、利用している（利用したことがある）事業についてあてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）を□内に数字でご記入ください。

前回調査結果に引き続き、「利用していない」（69.9%）が最も高い割合を占めている。

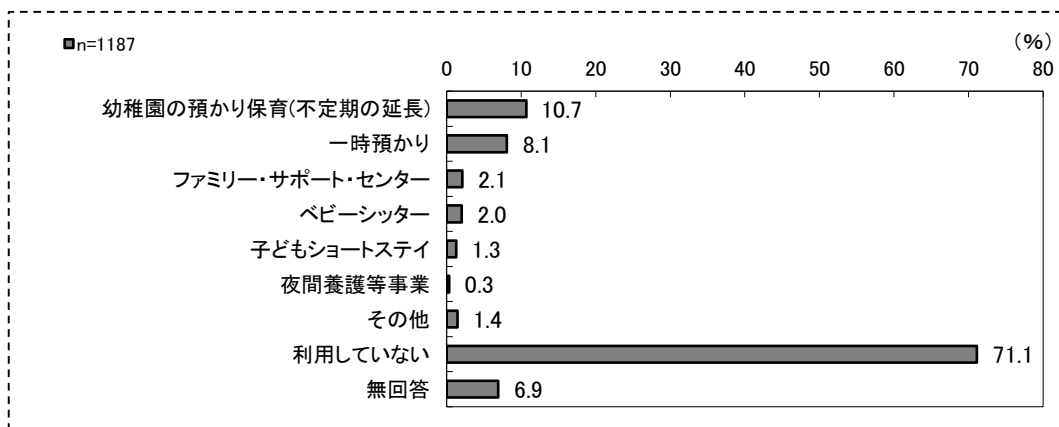
「一時預かり」（9.3%）、「幼稚園の預かり保育」（9.2%）、「すこやか保育」（4.0%）等がこれに続く。

■不定期に利用している事業■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(2) 不定期に利用している事業の利用日数

問 31 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している（利用したことがある）事業や今後利用したい事業について伺います。

次のうち、利用している（利用したことがある）事業についてあてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）を□内に数字でご記入ください。

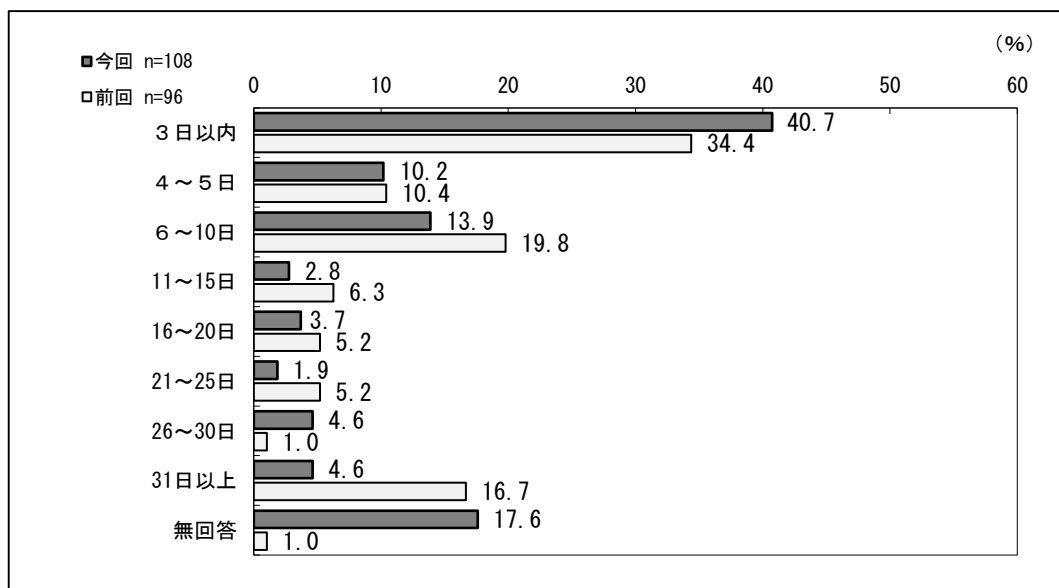


サービスごとの年間利用日数は以下のとおり。

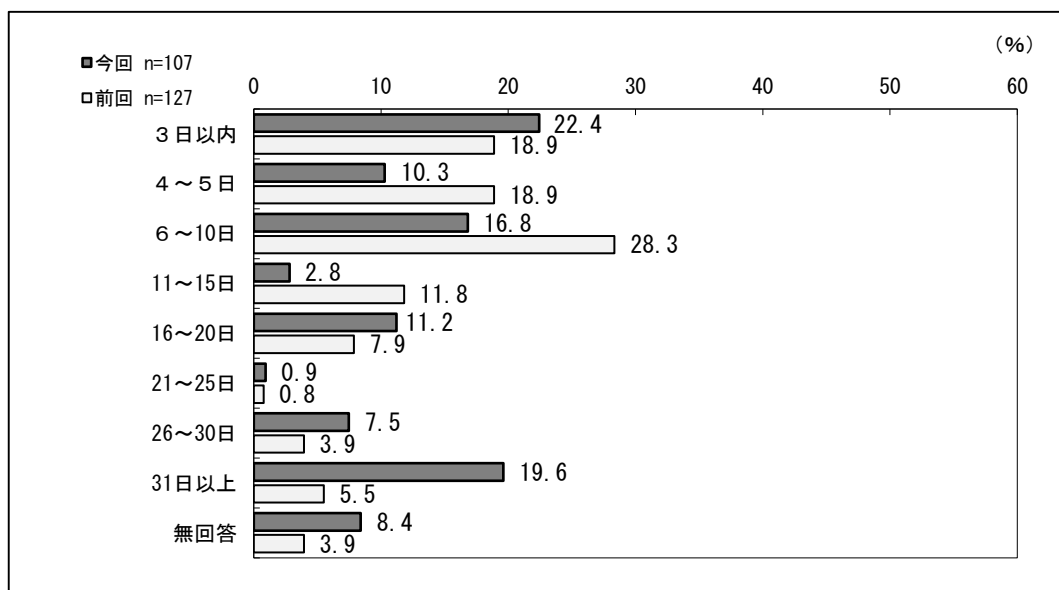
■集計結果 不定期に利用している事業の利用日数／年■

	1 (n=108) 一時預かり	2 (n=107) 幼稚園の預かり保育	3 (n=39) ファミリー・サポート・センター	4 (n=46) すこやか保育	5 (n=4) トワイライトステイ	6 (n=13) 子どもショートステイ	7 (n=37) 家事育児支援サービス ベビーシッター	8 (n=11) その他
平均値	10.03 日	26.85 日	7.64 日	5.66 日	8.00 日	8.92 日	9.34 日	9.45 日
最大値	108.00 日	201.00 日	50.00 日	50.00 日	20.00 日	48.00 日	50.00 日	30.00 日
最小値	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日
無回答数	15 件	9 件	11 件	9 件	1 件	2 件	4 件	2 件

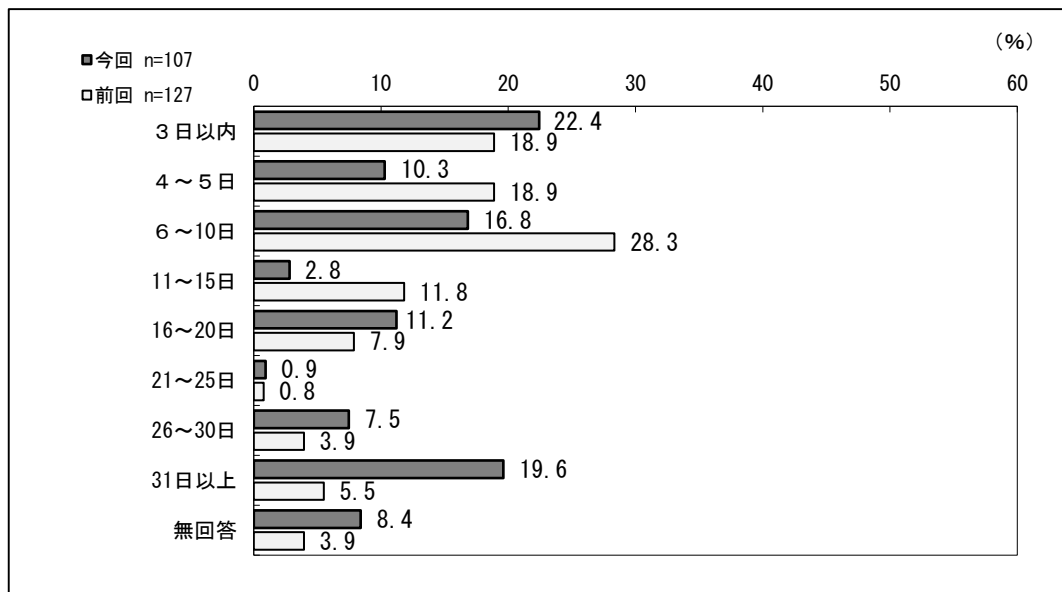
■一時預かり利用日数／年■



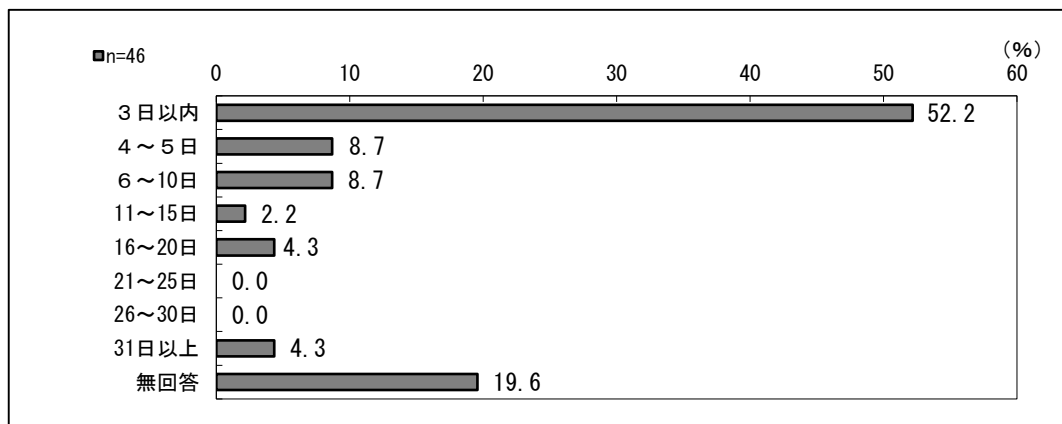
■幼稚園の預かり保育利用日数／年■



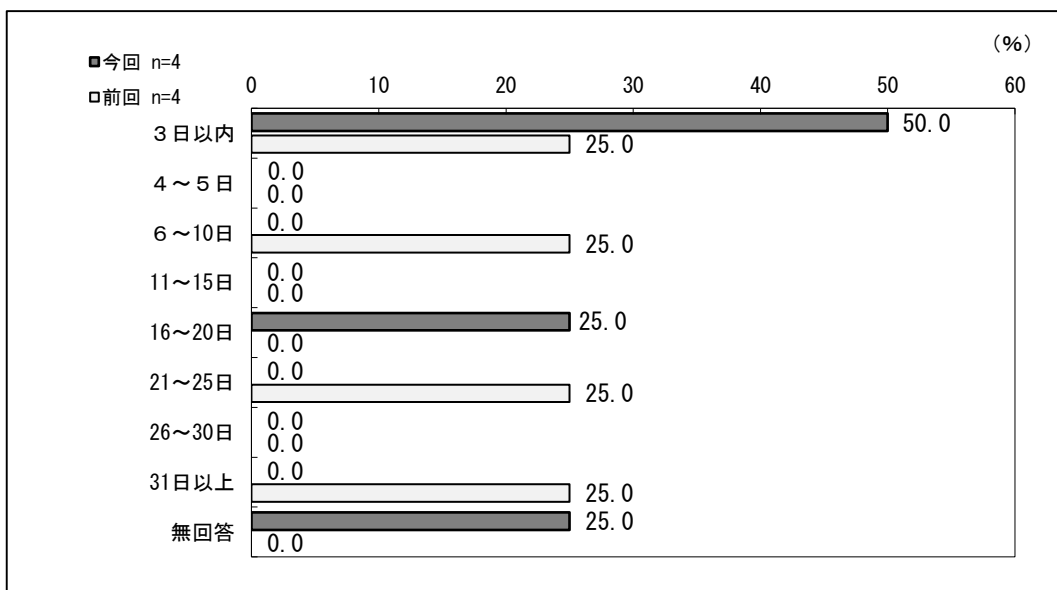
■ファミリー・サポート・センター利用日数／年■



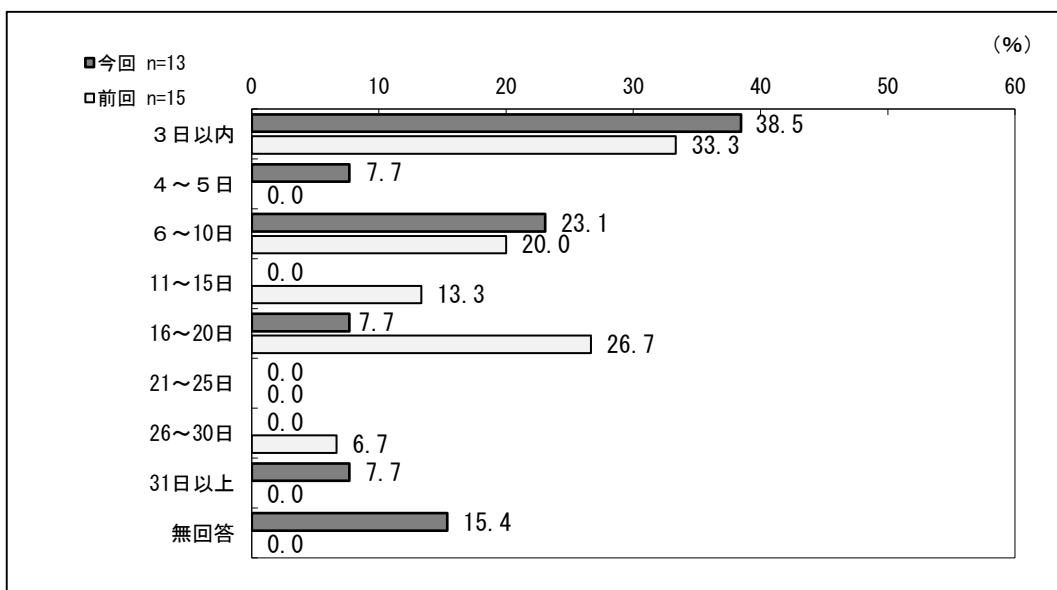
■すこやか保育利用日数／年■



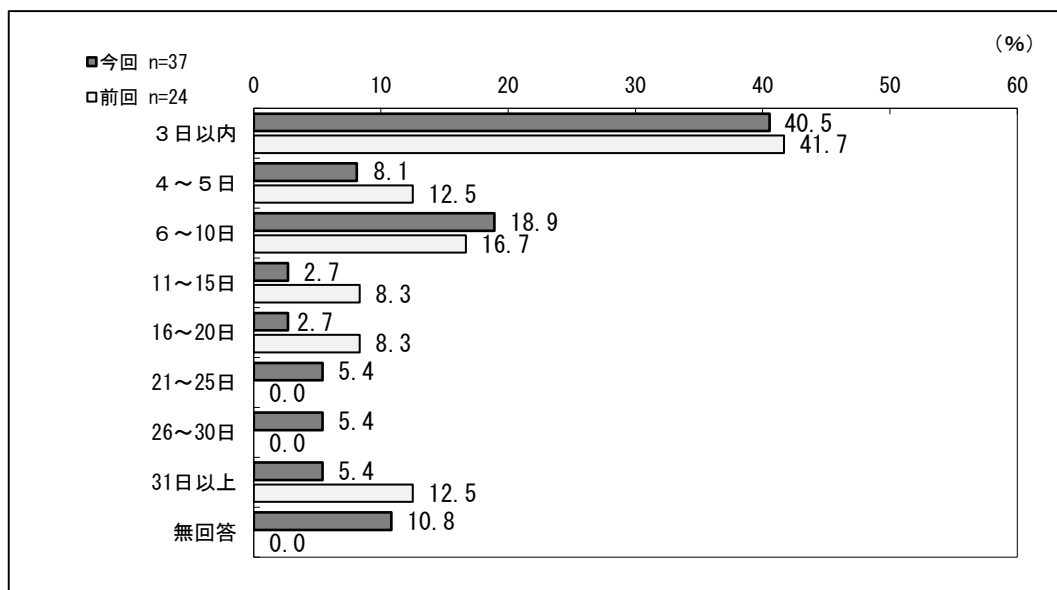
■トワイライトステイ利用日数／年■



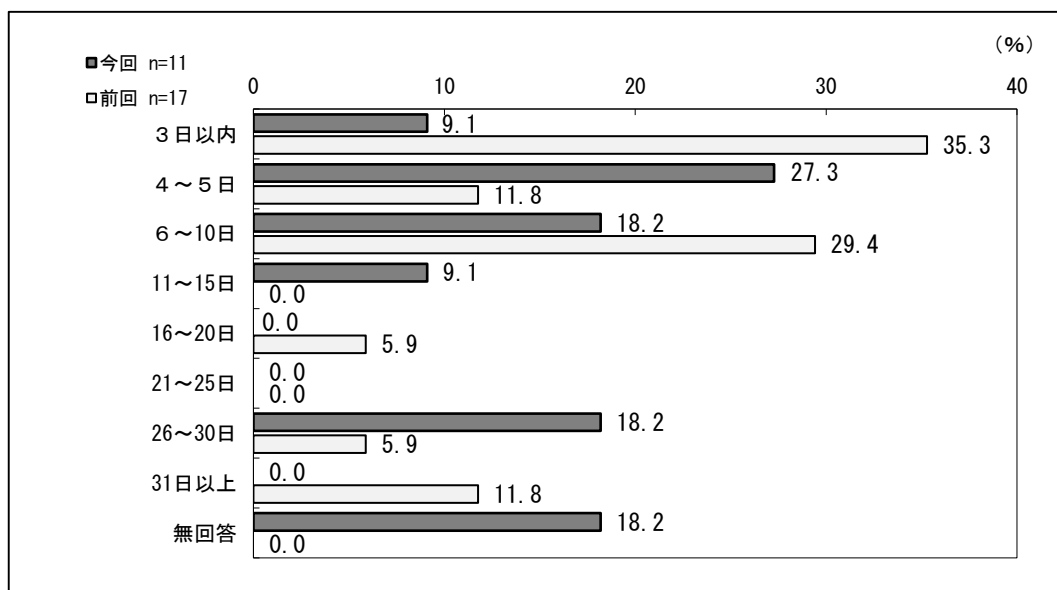
■子どもショートステイ利用日数／年■



■ベビーシッター・家事育児支援サービス利用日数／年■



■その他利用日数／年■



■「その他」への回答内容（参考）■

- パイオニアキッズちょうふ園一時あずかり
- 発達センター幼児グループ
- 子供発達センター緊急一時
- 保育園
- 両親に預ける
- 病児保育
- 金子レディースクリニック託児所
など

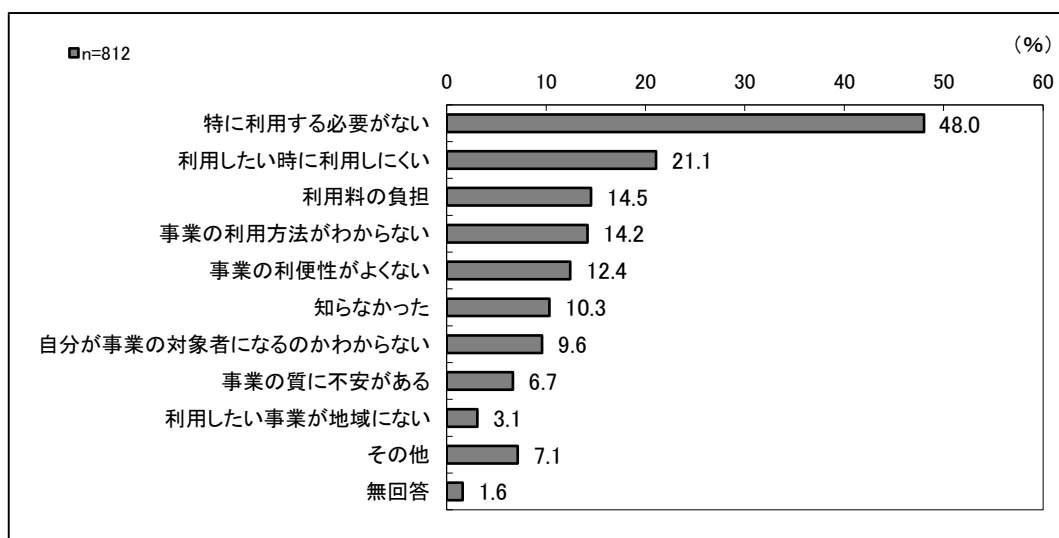
(3) 利用していない理由

※ 問 31 で「9. 利用していない」に○をつけた方のみ
問 31-1 利用していない理由をお答えください。



「特に利用する必要がない」(48.0%) 最も高い割合を占めている。
「利用したい時に利用しにくい」(21.1%), 「利用料の負担」(14.5%), 「事業の利用方法がわからない」(14.2%) 等がこれに続く。

■利用していない理由■



(4) 今後利用したい事業

※ 問 31 で「9. 利用していない」に○をつけた方のみ

問 31-2 次のうち、今後利用したい事業についてあてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）を□内に数字でご記入ください。

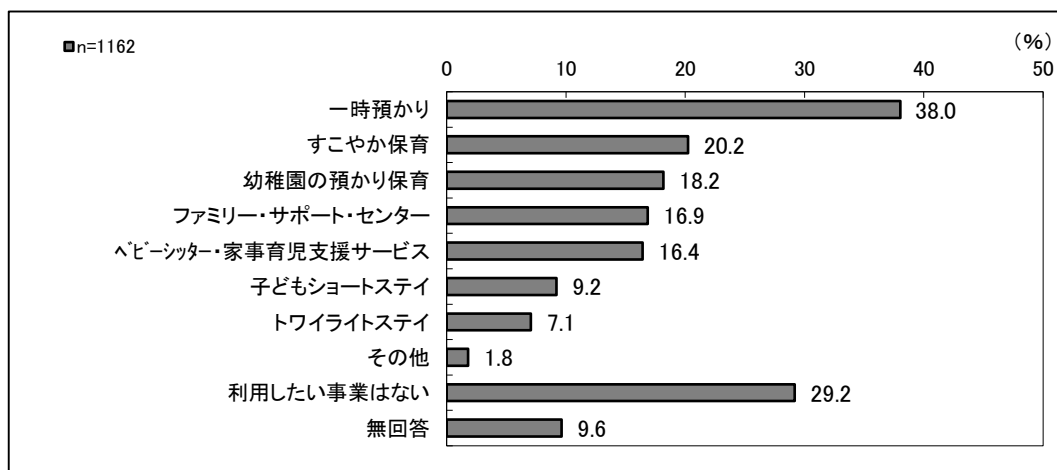


「一時預かり」(38.0%) が最も高い割合を占めている。

「すこやか保育」(20.2%)、「幼稚園の預かり保育」(18.2%)、「ファミリー・サポート・センター」(16.9%) 等がこれに続く。

「利用したい事業はない」は 29.2%。

■ 今後利用したい事業 ■



(5) 今後利用したい事業の利用希望日数

※ 問 31 で「9. 利用していない」に○をつけた方のみ

問 31-2 次のうち、今後利用したい事業についてあてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）を□内に数字でご記入ください。

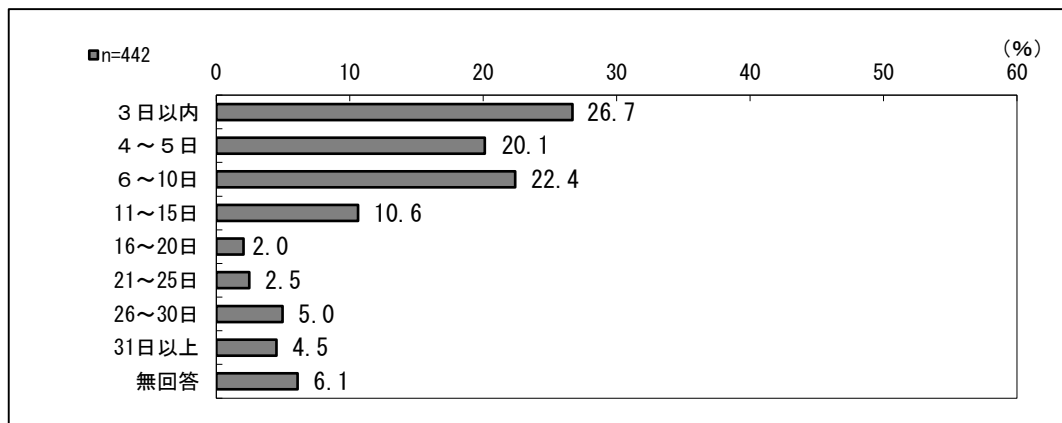


サービスごとの年間利用希望日数は以下のとおり。

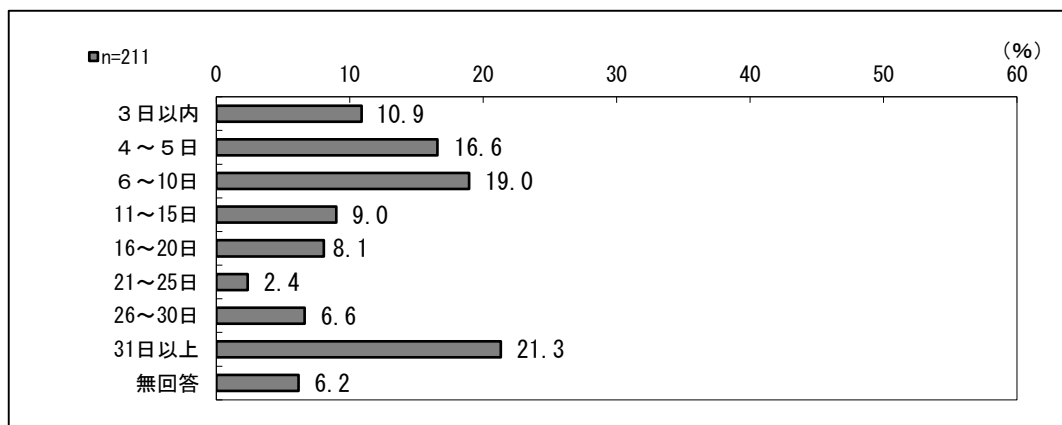
■集計結果 今後利用したい事業の利用希望日数／年■

	1 (n=442) 一時預かり	2 (n=211) 幼稚園の預かり保育	3 (n=196) ファミリー・サポート・センター	4 (n=235) すこやか保育	5 (n=82) トワイライトステイ	6 (n=107) 子どもショートステイ	7 (n=191) 家事育児支援サービス ベビーシッター	8 (n=21) その他
平均値	12.35 日	32.90 日	25.64 日	9.38 日	7.49 日	5.84 日	12.04 日	19.47 日
最大値	340.00 日	255.00 日	240.00 日	192.00 日	100.00 日	50.00 日	200.0 日	200.00 日
最小値	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日	1.00 日
無回答数	27 件	13 件	22 件	18 件	6 件	12 件	11 件	10 件

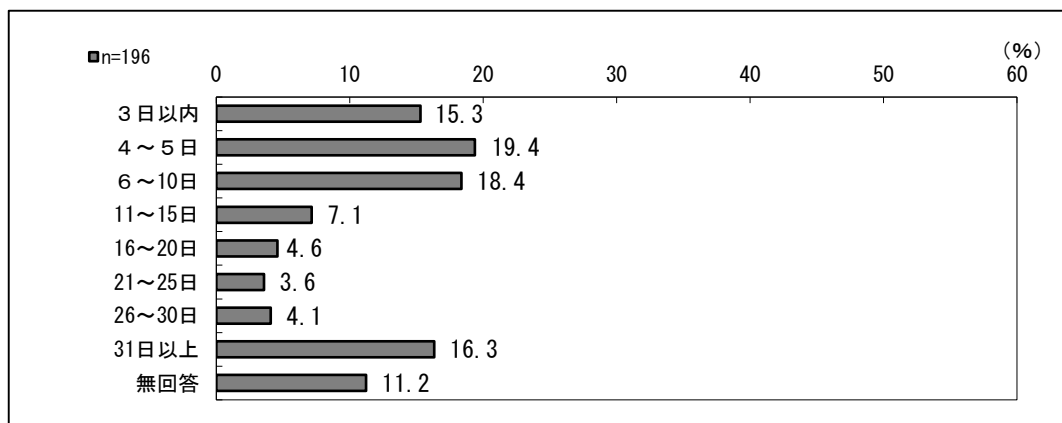
■一時預かり利用希望日数／年■



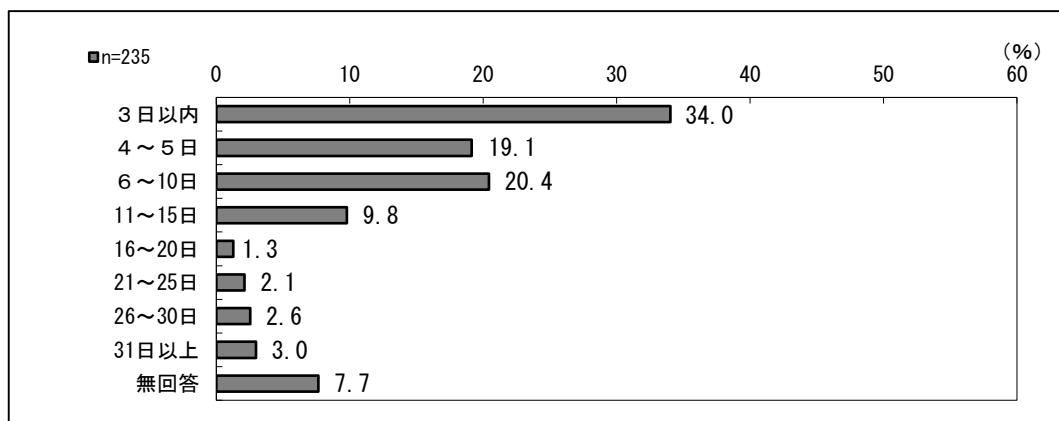
■幼稚園の預かり保育利用希望日数／年■



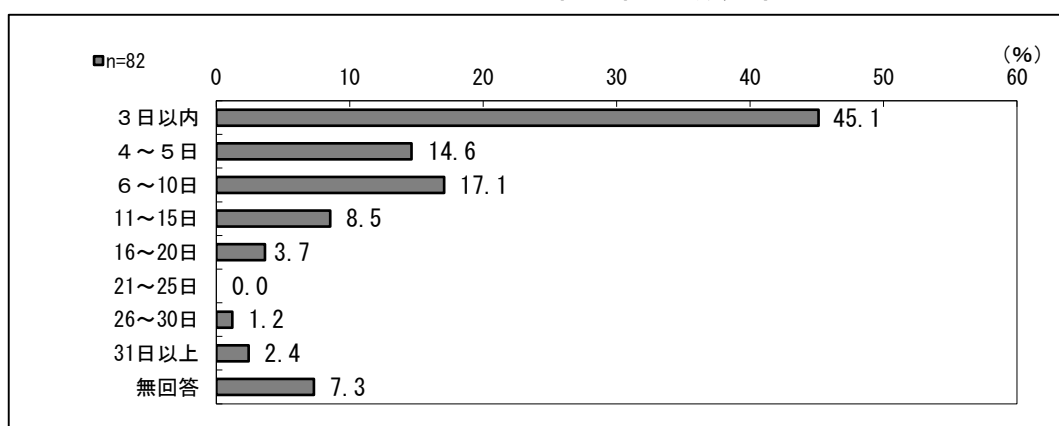
■ファミリー・サポート・センター利用希望日数／年■



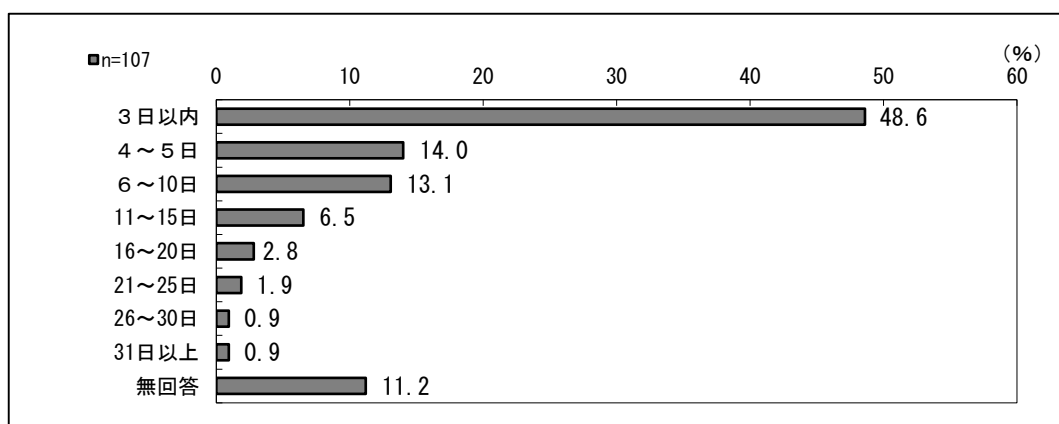
■すこやか保育利用希望日数／年■



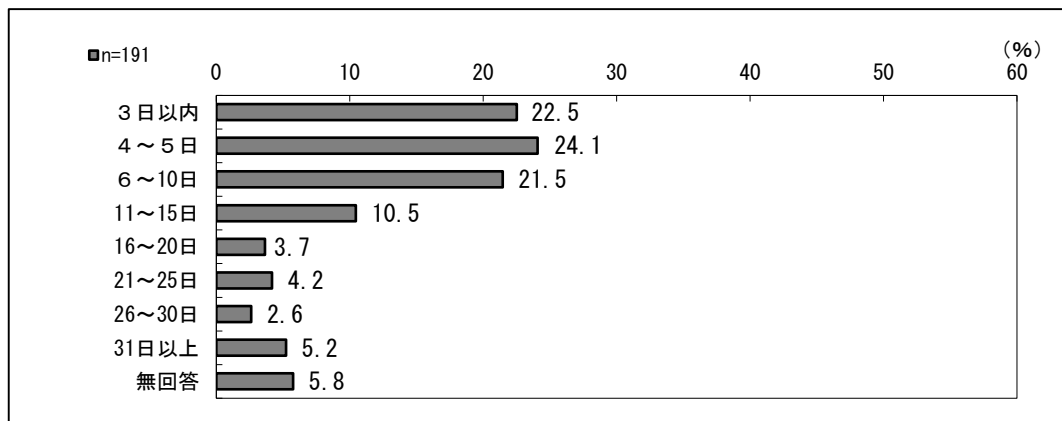
■トワイライトステイ利用希望日数／年■



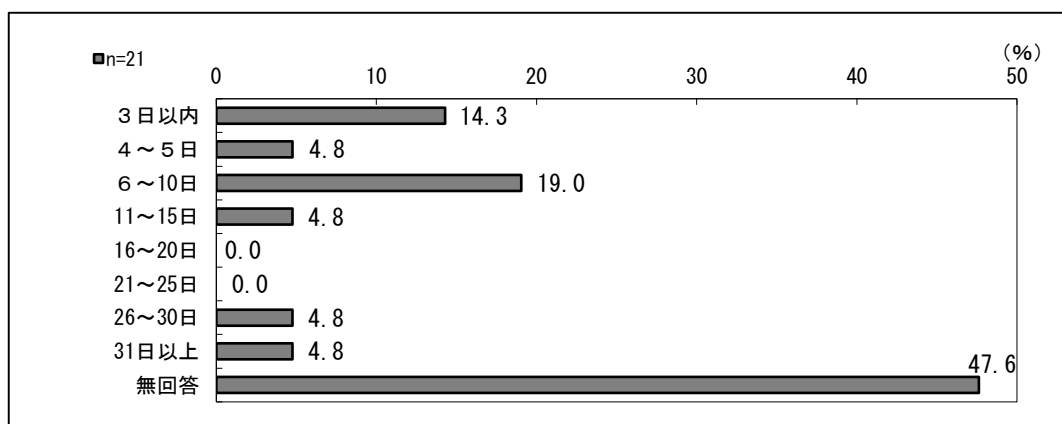
■子どもショートステイ利用希望日数／年■



■ベビーシッター・家事育児支援サービス利用希望日数／年■



■その他利用希望日数／年■



■「その他」への回答内容（抜粋）■

- 配偶者が休日出勤であれば、片方の親が在宅でも、通園している保育園で預かれる事業。
- 病児のシッター。
- 学童保育の延長。
- お金の負担がない、家からの距離ちかい、当日でも受け入れてくれる（急な熱でも）。
- 発達センターの一時預かり。
- 子供発達センター 一時預かり事業
- 発達特性上グレーゾーンでも安心安全に利用できる事業がわからない
- 子供が不安になりそうで利用できない。
- 医療的ケアが必要なので、安易に預けたり出来ない。
- 小学生になるので夏休み冬休みなどアソビバなどで預かりをしてもらいたいなと思いました。
- 休日保育（土日祝日）の利用を充実させて欲しい。

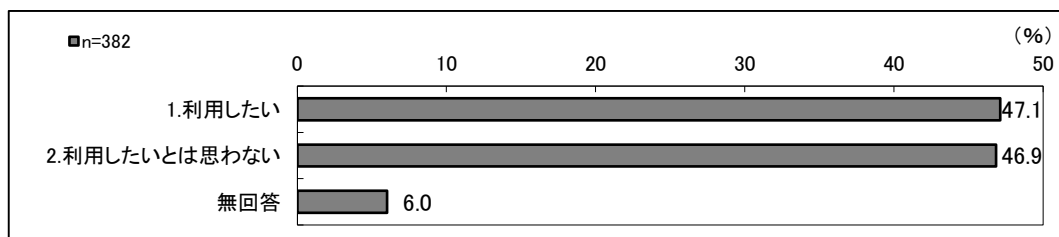
(6) 定期預かり事業の利用意向

※ 宛名のお子さんが0歳児から2歳児（令和2年4月2日以降生まれ）の方のみ
問 32 宛名のお子さんについて、定期預かり事業（(仮称) こども誰でも通園制度※）の利用希望はありますか。



「利用したい」（47.1%）、「利用したいとは思わない」（46.9%）。

■ 定期預かり事業の利用意向 ■



(7) 定期預かり事業の利用希望

※ 問 32 で、「1. 利用したい」に○をつけた方のみ

問 32-1 (1) 利用希望日数および利用希望時間と、(2) 利用開始を希望する子どもの年齢をそれぞれお答えください。

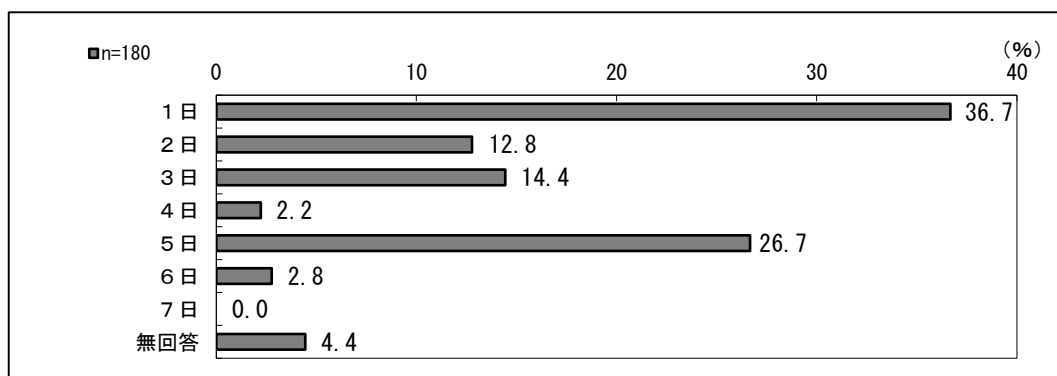
(1) - 1 利用希望日数/週

定期預かり事業の利用希望は以下のとおり。

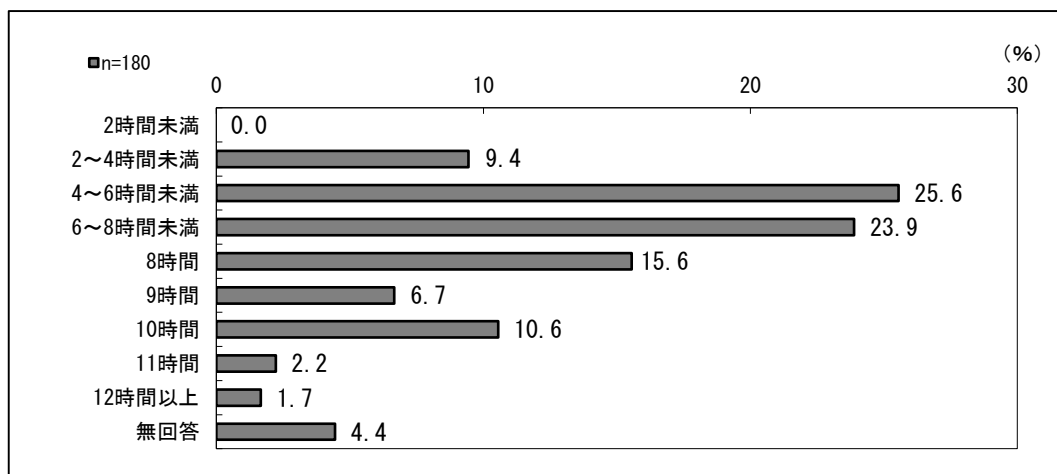
■集計結果 定期預かり事業 利用希望日数および利用希望時間■

n=180	利用希望日数/週	利用希望時間/日
平均値	2.77 日	6.59 時間
最大値	6.00 日	12.00 時間
最小値	1.00 日	2.00 時間
無回答数	8 件	8 件

■定期預かり事業の利用希望日数/週■



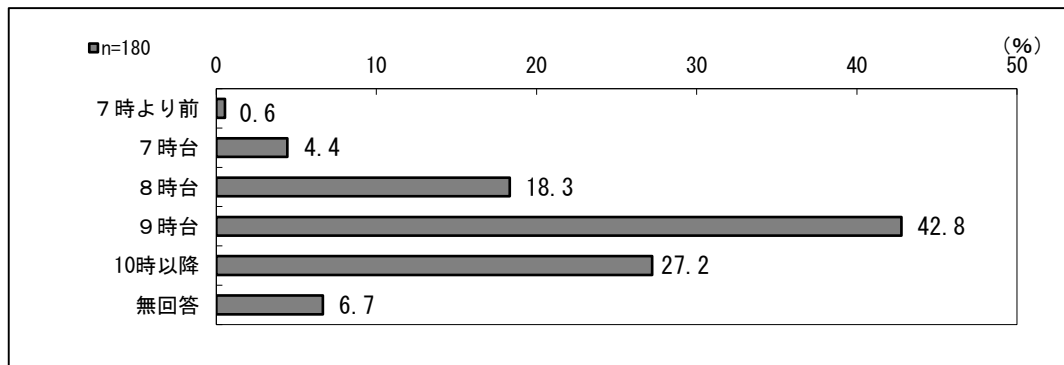
■定期預かり事業の利用希望時間/日■



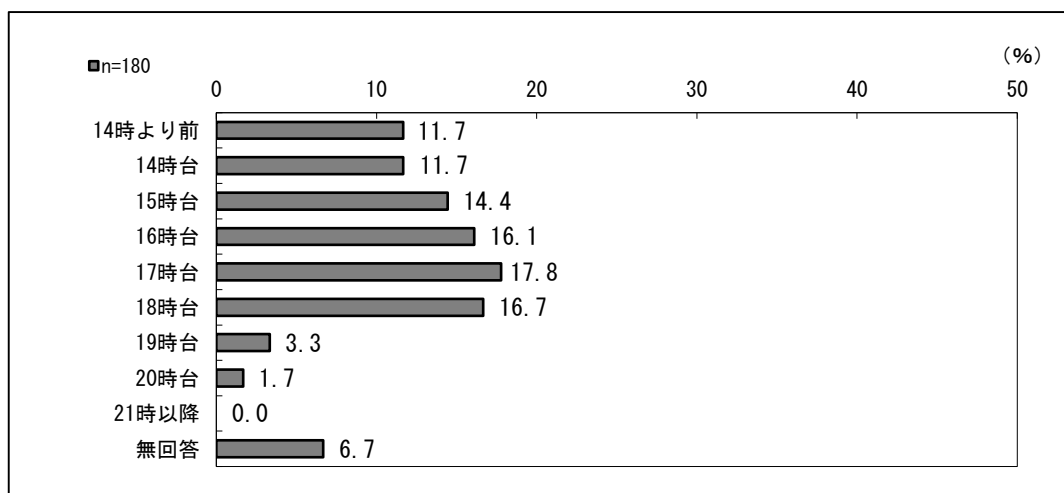
■集計結果 定期預かり事業 希望開始時刻および希望終了時刻■

n=180	希望開始時刻	希望終了時刻
最大値	17:00	20:00
最小値	6:00	8:00
無回答数	12 件	12 件

■定期預かり事業の希望開始時刻■



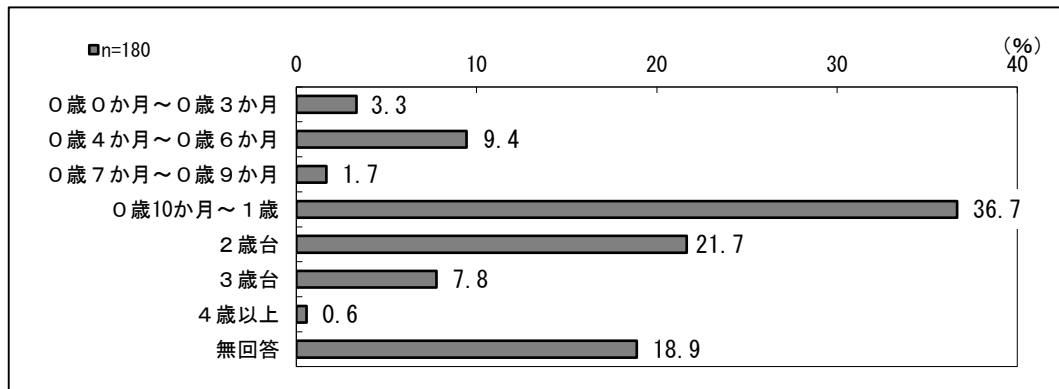
■定期預かり事業の希望終了時刻■



■集計結果 利用開始希望年齢■

n=180	利用開始希望年齢
平均値	1歳7か月
最大値	4歳0か月
最小値	0歳0か月
無回答数	34件

■定期預かり事業の利用開始希望年齢■



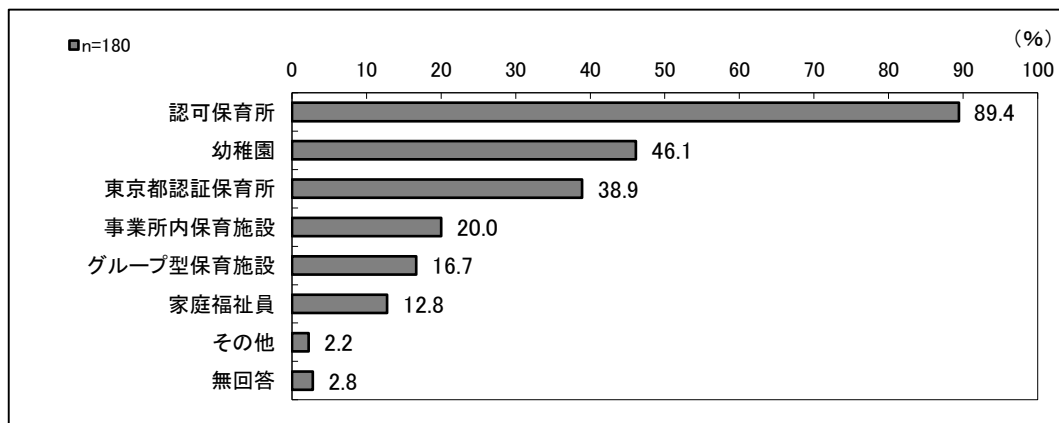
(8) 定期預かり事業を利用したい場所

問 32-2 現在の希望として、定期預かり事業（(仮称) こども誰でも通園制度）をどこで利用したいですか。【複数回答】



「認可保育所」(89.4%) が最も高い割合を占めている。
 「幼稚園」(46.1%)、「東京都認証保育所」(38.9%)、「事業所内保育施設」(20.0%) 等がこれに続く。

■定期預かり事業を利用したい場所■



(9) 定期預かり事業を利用したい理由

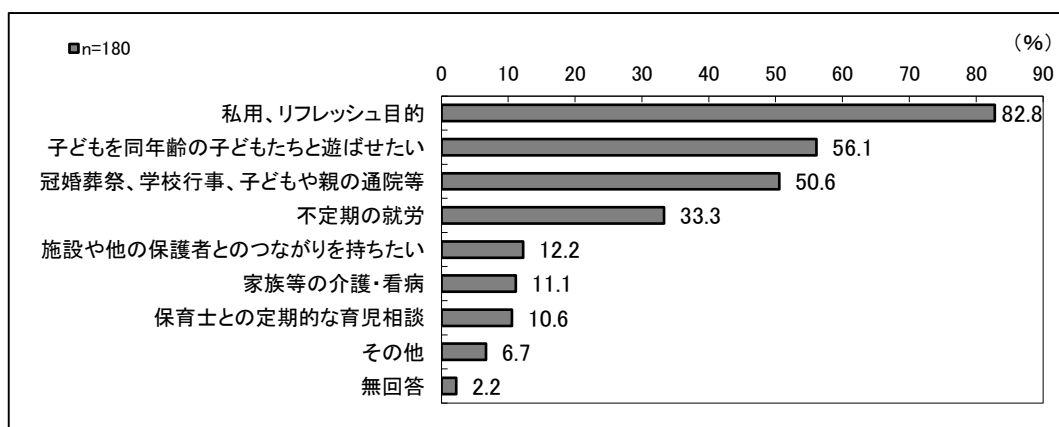
問 32-3 定期預かり事業（(仮称) こども誰でも通園制度）の利用を希望する理由をお答えください。【複数回答】



「私用、リフレッシュ目的」（82.8%）が最も高い割合を占めている。

「子どもを同年齢の子どもたちと遊ばせたい」（56.1%）, 「冠婚葬祭, 学校行事, 子どもや親の通院等」（50.6%）, 「不規則の就労」（33.3%）等がこれに続く。

■定期預かり事業を利用したい理由■



13. 体験の状況について

(1) 過去1年間の体験

問 33 過去1年間において、あなたのご家庭で、お子さんは次のような体験をしましたか。

【複数回答】

①アウトドア（海水浴やキャンプ、山、川等）に行く、②動物園・水族館・美術館・映画館等に行く、③遊園地やテーマパークに行く、④幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育、⑤習い事をする



過去1年間の体験については以下のとおり。

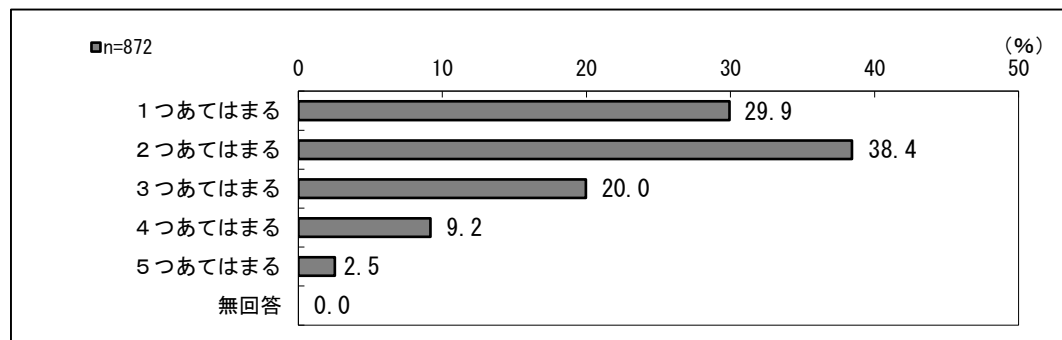
「幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育」、「習い事をする」については、「ない」の割合が「ある」の割合を上回る。

また、「ない」に該当する項目数を集計したところ、「3つ以上あてはまる」が31.7%となった。

■過去1年間の体験■

(%)	ある	ない	無回答	n
アウトドアに行く	66.2	29.8	4.0	1162
動物園・水族館・美術館・映画館等に行く	89.0	6.3	4.7	1162
遊園地やテーマパークに行く	80.7	14.8	4.5	1162
幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育	34.6	60.4	5.0	1162
習い事をする	44.5	50.8	4.7	1162

■「ない」該当数■

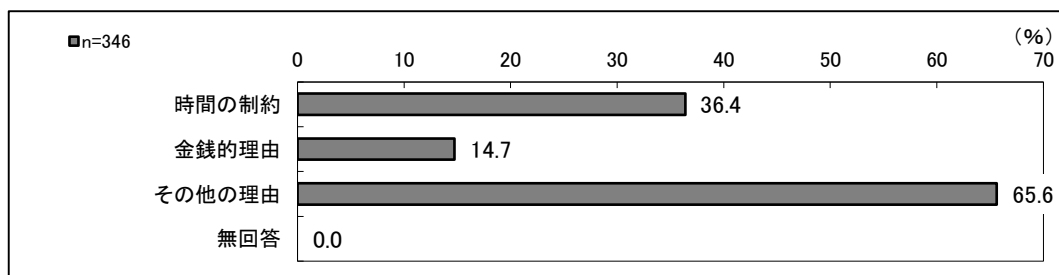


(2) ない理由 ① アウトドアに行く

① アウトドアに行く【複数回答】

「時間の制約」(36.4%)が「金銭的理由」(14.7%)を上回る。

■ない理由 ① アウトドアに行く■

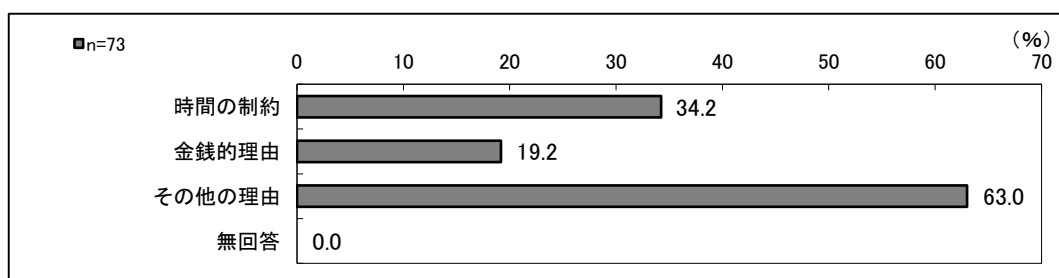


(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く

② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く【複数回答】

「時間の制約」(34.2%)が「金銭的理由」(19.2%)を上回る。

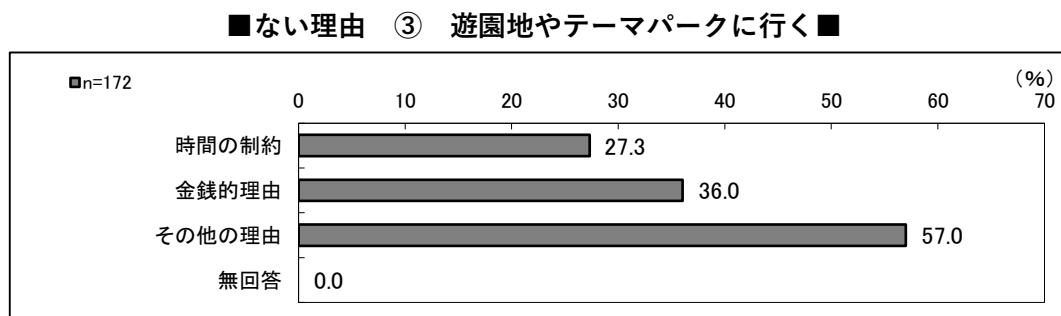
■ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く■



(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く

③ 遊園地やテーマパークに行く【複数回答】

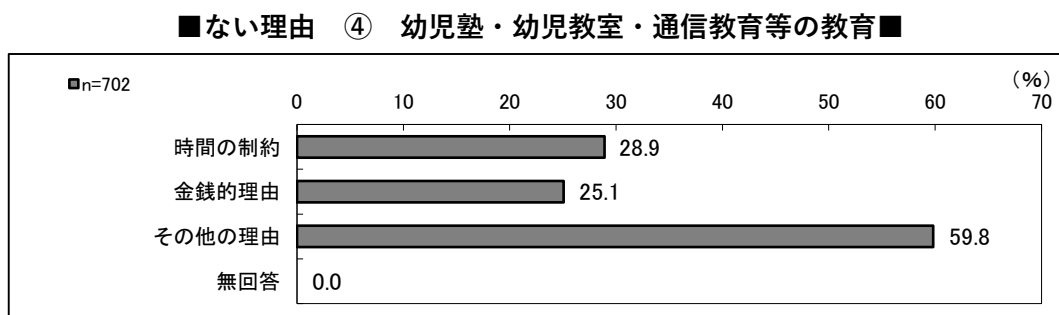
「金銭的理由」(36.0%)が「時間の制約」(27.3%)を上回る。



(5) ない理由 ④ 幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育

④ 幼児塾・幼児教室・通信教育等の教育【複数回答】

「時間の制約」(28.9%)が「金銭的理由」(25.1%)を上回る。



14. 児童虐待について

(1) 児童虐待の認知状況

問 34 児童虐待について次のことを知っていますか。



前回調査結果と比較して、児童虐待防止法の認知状況は 10.8 ポイント増加しており、通報先や相談機関の認知状況は 5 割未満で、顕著な違いは見られない。

■ 児童虐待の認知状況 ■

【今回調査】

(%)	知っている	知らない	無回答	n
児童虐待防止法	74.9	21.0	4.1	1162
児童虐待発見時の通報先	47.2	48.5	4.2	1162
虐待に関する相談機関	48.9	47.0	4.1	1162

【前回調査（参考）】

(%)	知っている	知らない	無回答	n
児童虐待防止法	64.1	34.0	1.9	1187
児童虐待発見時の通報先	44.9	53.4	1.7	1187
虐待に関する相談機関	45.2	53.2	1.5	1187

(2) 児童虐待を発見した際の通告・通報先

問 35 児童虐待を発見した場合には、以下、選択欄のどちらにも通告や通報等ができます。その中でも、あなたは、どちらに連絡しようと思いますか。

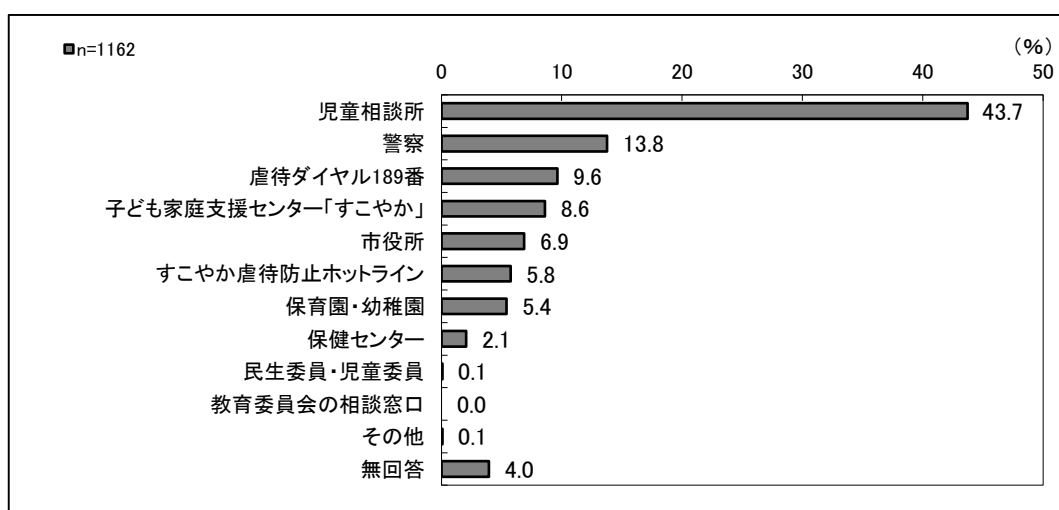


「児童相談所」(43.7%) が最も高い割合を占めている。

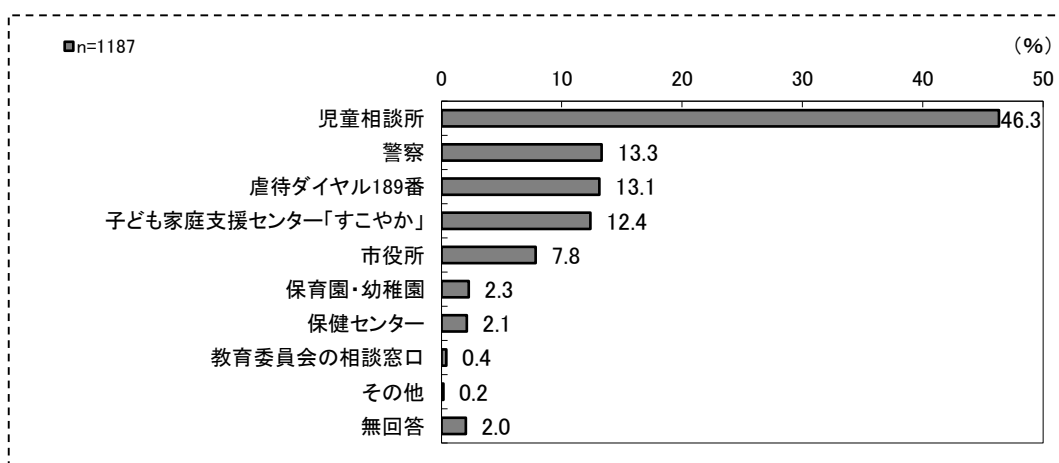
「警察」(13.8%), 「虐待ダイヤル 189 番」(9.6%), 「子ども家庭支援センター「すこやか」」(8.6%), 「市役所」(6.9%) 等がこれに続く。

■ 児童虐待を発見した際の通告・通報先 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



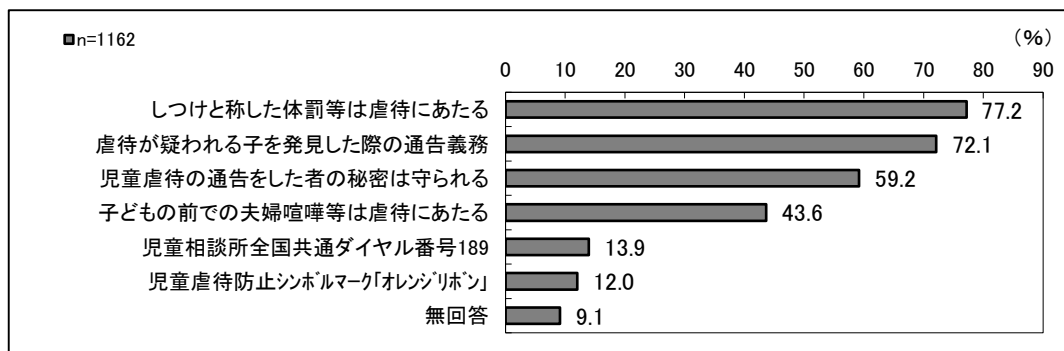
(3) 児童虐待について知っていること

問 36 児童虐待について、あなたは以下のことを知っていますか。【複数回答】

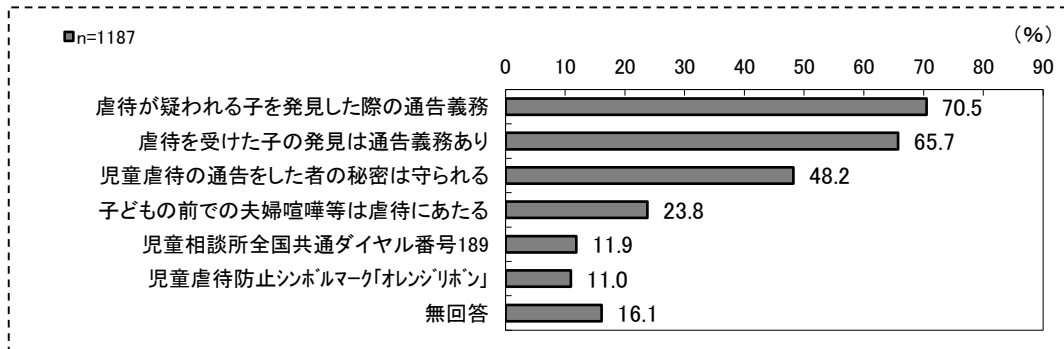
「しつけと称した体罰等は虐待にあたる」(77.2%)、「虐待が疑われる子を発見した際の通告義務」(72.1%)、「児童虐待の通告をした者の秘密は守られる」(59.2%)、「子どもの前での夫婦喧嘩等は虐待にあたる」(43.6%)の回答が高い割合を占めている。

■児童虐待について知っていること■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



15. ヤングケアラーについて

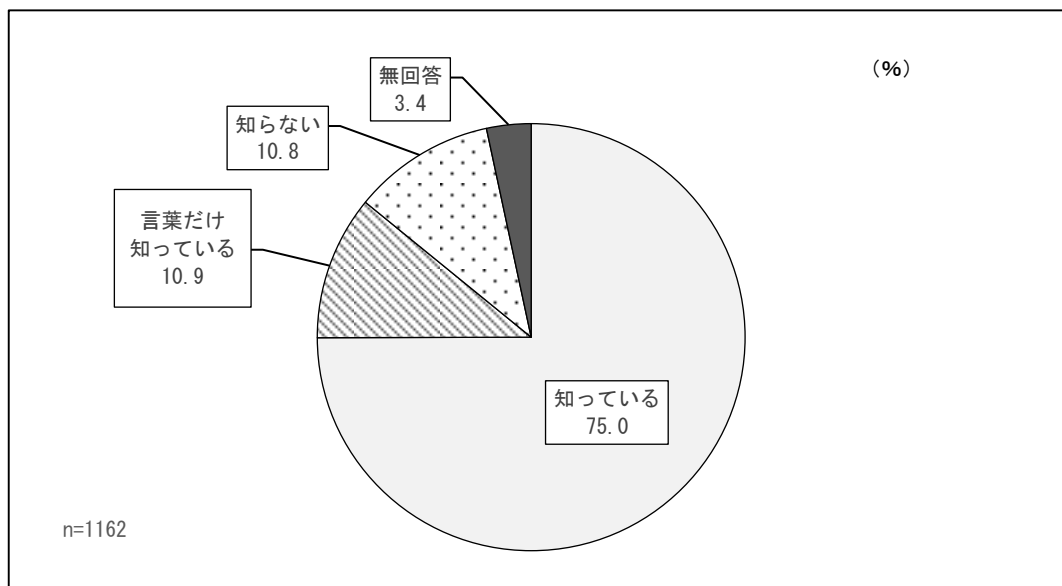
(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか

問 37 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。

「知っている」(75.0%)、「言葉だけ知っている」(10.9%)、「知らない」(10.8%)。と回答者の7割以上が「知っている」と回答している。

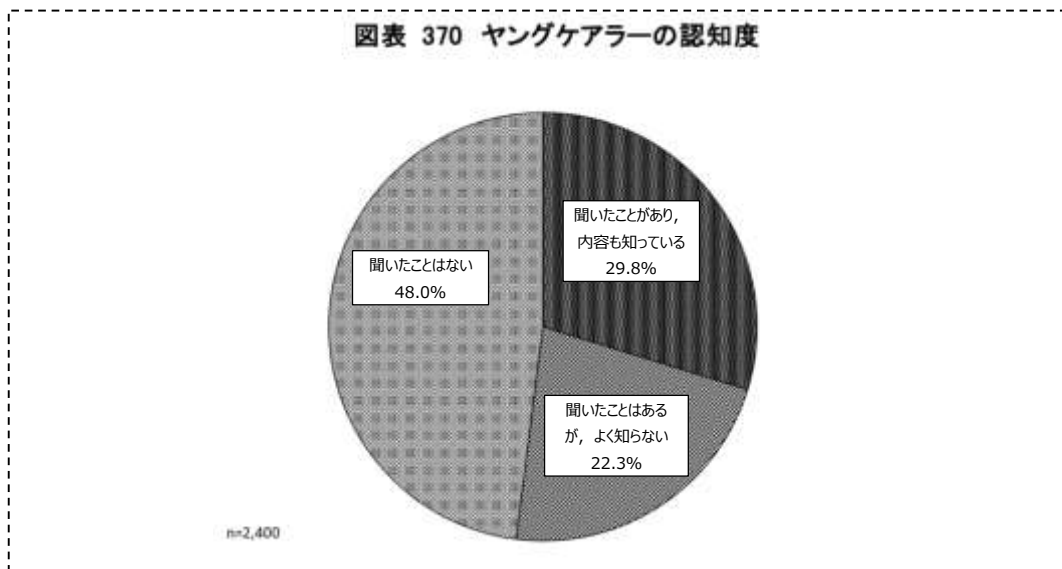
■ヤングケアラーという言葉を知っているか■

【今回調査】



【(株)日本総合研究所 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 (参考)】

図表 370 ヤングケアラーの認知度



調査対象：日本全国の20代から70代以上の男女
調査期間：2021年12月17日～2021年12月20日

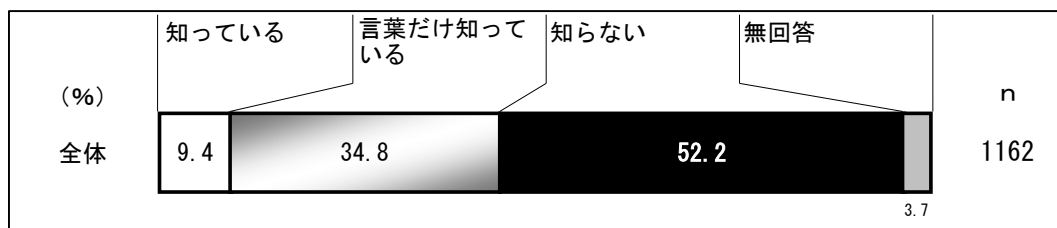
16. 調布市子ども条例及び子どもの権利について

(1) 調布市子ども条例を知っているか

問 38 あなたは、「調布市子ども条例」について知っていますか。

「知らない」(52.2%)、「言葉だけ知っている」(34.8%)、「知っている」(9.4%)。
回答者の過半数が「知らない」と回答している。

■調布市子ども条例を知っているか■



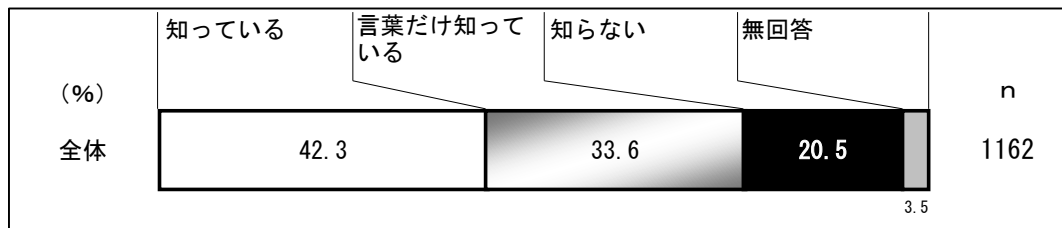
(2) 子どもの権利を知っているか

問 39 あなたは、「子どもの権利」を知っていますか。

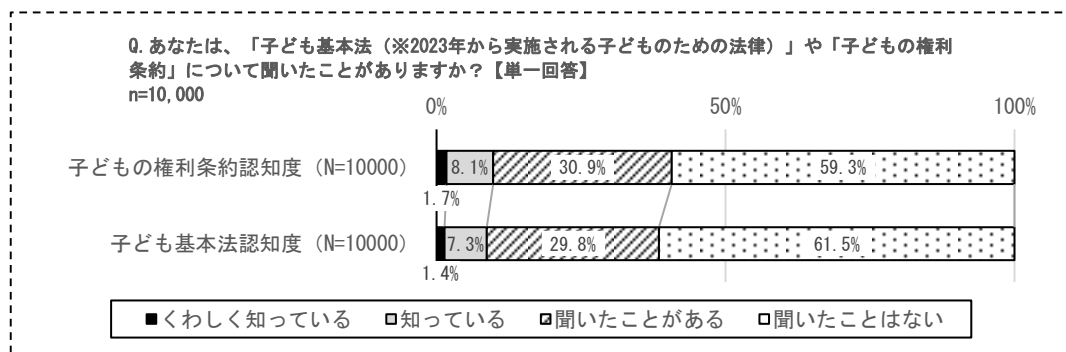
「知っている」(42.3%), 「言葉だけ知っている」(33.6%), 「知らない」(20.5%)。
 回答者の過半数が「言葉だけ知っている」、「知らない」と回答している。

■子どもの権利を知っているか■

【今回調査】



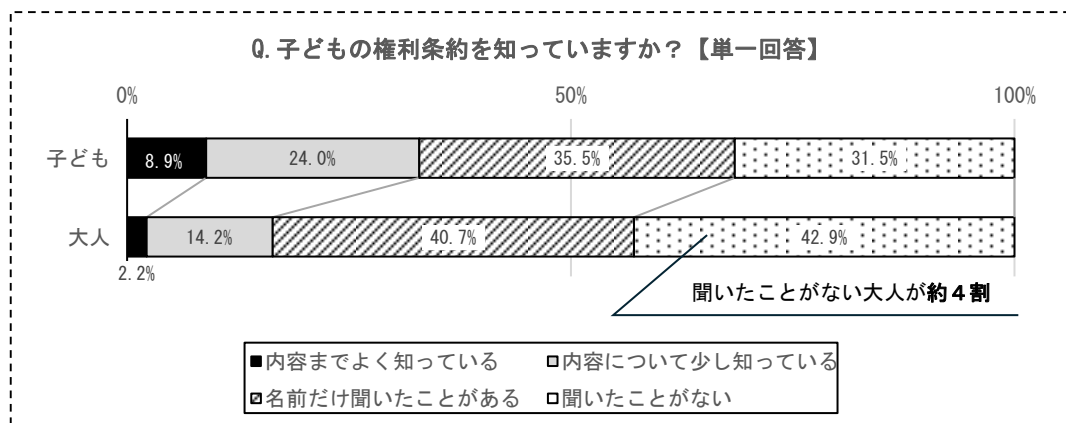
【公益財団法人 日本財団 こども1万人意識調査 (参考)】



調査対象：全都道府県男女 10～18 歳

調査期間：2023 年 3 月 6 日～ 3 月 12 日

【セーブ・ザ・チルドレン 3万人アンケートから見る子どもの権利に関する意識】



調査対象：全国 15 歳 (中学生除く) ～80 代

調査期間：2019 年 8 月 5 日～2019 年 8 月 10 日

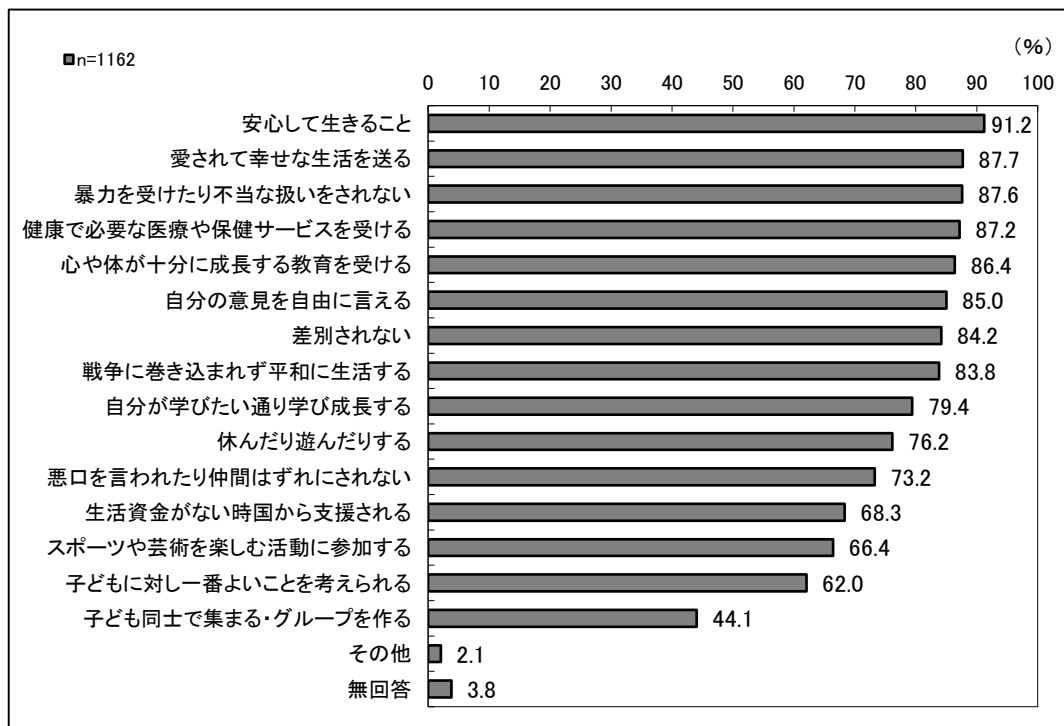
(3) 大切だと思う子どもの権利

問 39-1 子どもにとって大切だと思う「子どもの権利」として、あてはまるものは次のうちどれですか。【複数回答】



「安心して生きること」が91.2%で最も高い割合を占めている。
「愛されて幸せな生活を送る」(87.7%)、「暴力を受けたり不当な扱いをされない」(87.6%)、「健康に必要な医療や保健サービスを受ける」(87.2%)、「心や体が十分に成長する教育を受ける」(86.4%)等がこれに続く。
「子ども同士で集まる・グループを作る」(44.1%)を除くすべての選択肢で回答割合が50%を超えており、どの選択肢も重要であると認識されている。

■大切だと思う子どもの権利■



(4) 行政や関係機関の取組として必要なこと

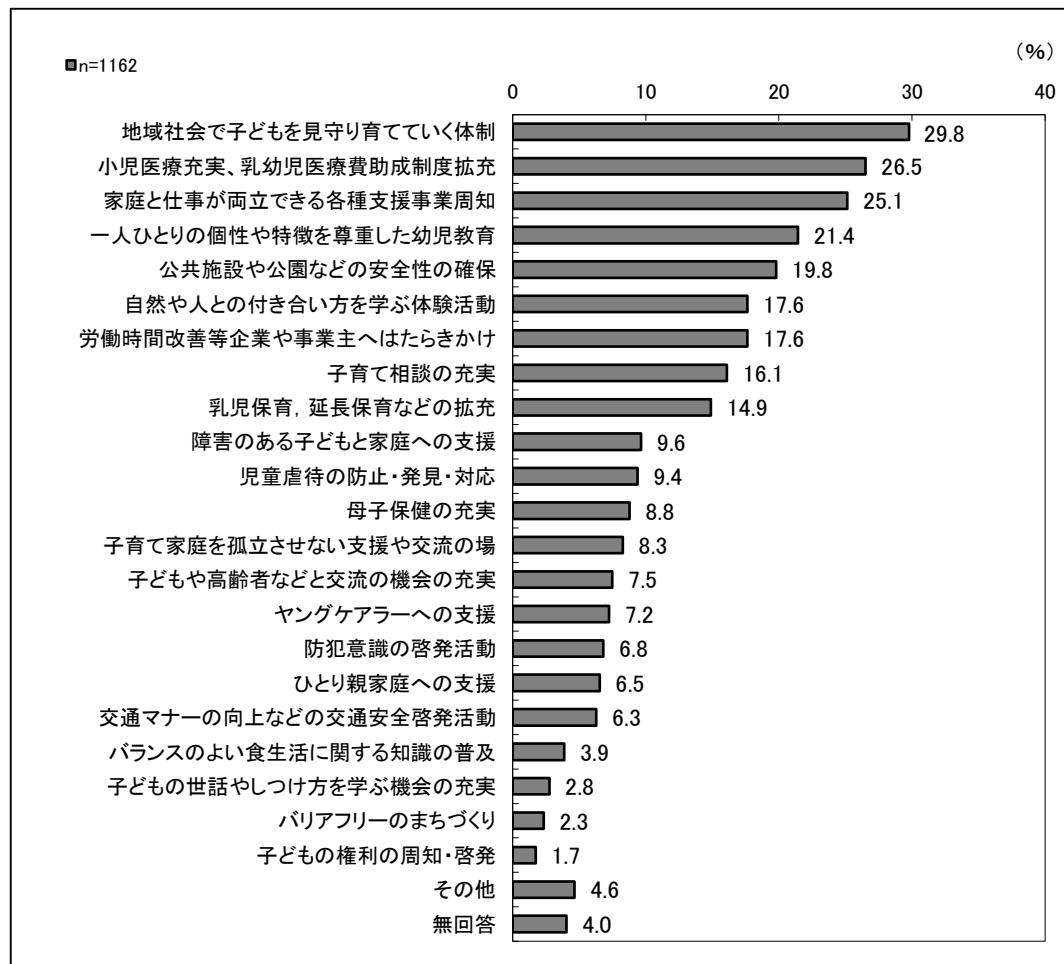
問 40 子育てについて考えたとき、今後、行政や関係機関の取組として必要と思うこと、重要と思うことは何ですか。【複数回答】

「地域社会で子どもを見守り育てていく体制」が29.8%で最も高い割合を占めており、“地域ぐるみで子どもの育ちを支える”取組が重要とされている。

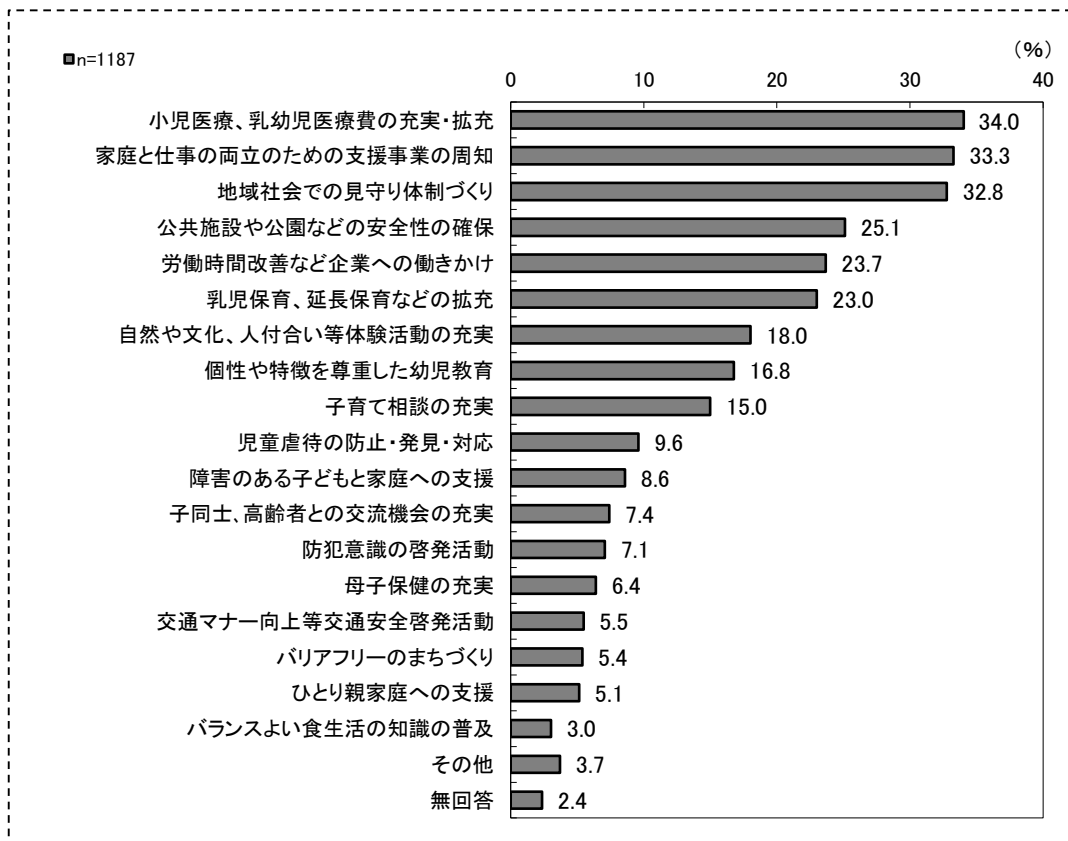
また、「小児医療充実、乳幼児医療費助成制度拡充」(26.5%)、「家庭と仕事が両立できる各種支援事業周知」(25.1%)、「一人ひとりの個性や特徴を尊重した幼児教育」(21.4%)で回答が2割を超える。

■行政や関係機関の取組として必要なこと■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(5) 市の子育て環境や支援への満足度

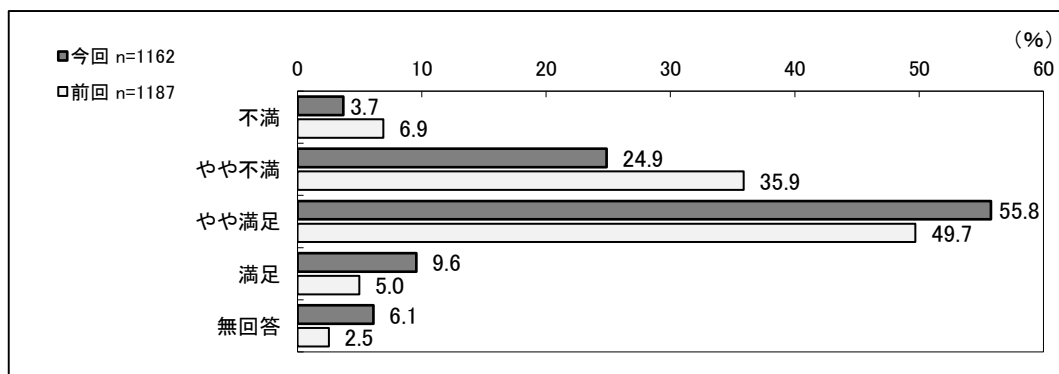
問 41 調布市における子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。



「やや満足」(55.8%)と「満足」(9.6%),を足し合わせた“満足”が65.4%,「やや不満」(24.9%)と「不満」(3.7%)を足し合わせた“不満”が28.6%と回答している。

前回調査結果と比較して,“満足”が10.7ポイントの増加。“不満”が14.2ポイントの減少となった。

■市の子育て環境や支援への満足度■



(6) 魅力的だと思う、他自治体の子育て支援環境

問 42 これまでに、「転居を検討したくなるほど魅力的」に感じた、他自治体の子育て支援策や子育て環境があれば、お教えてください。



以下のような意見があげられた。(一部抜粋)

※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

【学童】

- 実家の近くに引越してきたので、これ以上魅力的な町はない。しかし、狛江は学童に通う色々な制限が調布程厳しくなく、4年生でも沢山利用している子がいると聞き、良いなと感じた。
- 世田谷区では学童保育での給食選択制度が導入されたそうです。同様のサービスを希望します。

【相談】

- 明石市、おむつ定期便。おむつが無料でもらえることよりも、定期的に相談を聞いてくれる人が訪問してくれることに魅力的を感じました。センターなどに相談の予約をとる程でもないけど、ちょっと気になることなど相談できる環境が魅力的でした。

【遊び場】

- 三鷹市”つくつく広場”は他市の人も受け入れてくれる。乳児の遊び場を提供してくれて助かっている。
- 仙台市：ポールを使える公園がたくさんある。
- 清瀬のころぼっくる、とても良いです。パーキングもあり。
- 八王子市の親子ひろば。

【経済的支援】

- 杉並子育て応援券。
- 稲城市の公園駐車料金無料券配布。
- 子育て支援パスポート。子育てアプリ（千葉県松戸市）。
- ショートステイ・トワイライトステイ（東京都板橋区）。すくすくカード(東京都板橋区)。はぐみんカード（愛知県一宮市）。
- 港区→出産育児一時金の全額支援。和歌山県北山村→18歳までの医療費無料、小中学校の給食費無料、保育料無料、住宅取得補助、保育園での英会話教室実施、中学生全員の海外留学支援。
- 多胎児家庭支援の充実。世田谷区のツインプラスサポート（ヘルパー訪問事業）や府中市の母子栄養品支給(粉ミルク)など。
- 三鷹市は就労家庭でも認可外保育施設を利用する場合は月3万円の補助ができる。国の補助と合わせれば、認可外施設の利用もそこまで負担ではない。

【予防接種】

- 世田谷区のインフルエンザ予防接種助成。毎年うけなくてはいけないし、自費で家族全員受けたら、25,000円もかかるから、受けない選択をしてしまう。
- 狛江市:インフルエンザ予防接種無料。

【医療】

- 病児保育が調布市は少なく使いにくいです。大阪吹田市はたくさんあり、またアプリで空き状況、場所、連絡先が確認でき、使いやすく便利でした。共働きも多い時代なのでぜひ検討頂きたいです。人数も多い自治体なので、それに対しての支援が少し少ない気がします。また調布市に比べ小児科が多く、日曜日、祝日に毎週やっている病院も多い。子供の数に対して病院を充実させてほしい。
- 府中市のような夜間の小児救急を診てくれる病院(小児総合医療センター)を持っている自治体。調布市は慈恵で22:00まで診てくれるが、その後診てくれるところがない。

【障がい】

- 23区では、障害児訪問保育を利用できるようなので、選択肢として用意していただきたいです。

【保育園・幼稚園】

- 府中市：日曜日の保育事業が充実している。日曜でも20人くらいいて、無料、給食もある。
- 調布市では難しい(無理)という前提だが、今年「保育園留学」という民間のサービスで行った石川県の保育園はとても広く、雨の日でも園の体育館のようなホールで遊べ、虫や動物とのふれあいも多く、稲刈りなどの体験もでき、魅力的だった(←保育園留学で行った子供専用のプログラムではなく、向こうの園児は日常的にこのような環境にいる)。
- 流山市の「送迎保育ステーション」は良い取り組みに感じる。"
- タスミィ(ハウス食品グループ)。保育園に設置のおかず自販機。利用してみたい!!(流山市などにある)。そこの園に通ってなくても利用できる形で、調布市にも欲しい!!
- 千葉県船橋市では、船橋市内の保育園などで働く保育士(※正規職員に限らず、フルタイムのパート職員も対象)に対して、給与とボーナスに年合計585,460円の上乗せがある「ふなばし手当」が実施されています。また、採用から9年目までの常勤保育士に対して月額上限69,000円の家賃補助も行われています。

【家庭全般】

- 兵庫県明石市。駅前に図書館や支援センター、一時保育がひとつになっている施設があり、便利だなと感じた。
- (東京都港区)歩道が十分な広さがあり、整備されている。大きな公園が多くあり、整備されている。2人以上いる家庭や妊婦へのタクシー券の配布。出産手当補助金が60万円まで補填。

- (千葉県松戸市)妊婦へのタクシー券配布。電動自転車購入補助金。

【妊娠・出産】

- 港区では不妊治療の助成金が30万だった。
- 世田谷区。産後ケアセンター。

【インフラ】

- きれいな公園がたくさんあり、トイレもキレイな街。また、中心駅の商業施設も充実しており、住みやすそうな環境であるように思います。
- 流山おおたかの森のように、子育てを重視したまちづくり。また、子育てタクシーなど公共機関が充実しているところはいいなと思います。

【居場所】

- 世田谷区は住民主催の子育て広場があり、親に寄りそった支援がある。子育て中の孤独感を強く感じている親の居場所があり、とても魅力を感じた。プレーパークも自然やいろいろな世代の人との交流もでき、近所であればぜひ行ってみたい。

【図書館】

- 和歌山市駅にある市民図書館。絵本は多くて親子でゆっくり本を読んだりくつろげる場所もあり最高だった。
- おもちゃ図書館がある自治体。図書館が綺麗な自治体。豊洲区。

【生涯学習】

- 三鷹市。健康相談、スバル（プール）整備の充実度。
- 板橋こども動物園の「こども動物クラブ」！！調布市でも単発のイベントでも良いので、動物園でのお仕事体験や、馬とのふれあい合宿などあったらいいと思う。
- 狛江市：商工会や小田急がよくイベントを行っており、子どもといっしょに楽しめるため。地域の個人経営や中小規模のお店巡りが楽しい。調布駅エリアも小さいお店が増えてほしい。
- 富士吉田市にある「キポキポ」という森林学習施設。子どもも大人も安心して思いきりおもちゃや遊具で遊ぶことができます。
- 以前荒川区に住んでいたが、無料でおもちゃの図書館やおもちゃの病院を利用できてとても助かった。おもちゃが壊れるたびにおもちゃの病院を利用できたら…と思います。

【政策全般】

- 千葉県流山市の「送迎保育ステーション」「認可外保育施設等保育料助成」。

(7) 市の子育て支援や子育て環境における課題と改善策

問 43 調布市における子育て支援や子育て環境に関して、(1) 課題だと思うこと、(2) どう改善すべきかについて、考えがあればお書きください。



以下のような回答があげられた。(一部抜粋)
 ※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

■自由意見■

分類	課題	改善策
給食	長期休みにおける学童での弁当 or 給食提供。仕事又は親の健康又は子の健康に支障がありすぎる。(就学後の話で恐縮ですが、意見を伝える機会がないので書かせて頂きました)。	週1回でもよいので試行的に導入して欲しい。学校の給食室の使える日だけ、学童から学校に移動して食べる等、やり方は色々あるはず。希望者だけ弁当を注文できる形もある。
保育	ファミリーサポートの利用方法。	利用したい時、マッチングした相手へ頼むしかなく、急遽頼みたいときに、利用できない場合がある(例、兄弟が体調不良で保育園送りを頼みたい、など)。自宅周辺で頼みたい時にすぐ利用できる方が分かる様なサービスがあると助かります。
相談	支援機関があっても調べたり施設などがある場所まで行ったりするまでに身体的なハードルがある(余力・気力がないなど)。	子育て中の家庭に向けて、流行のSNSを活用した情報発信、もしくは人員が必要になるが関係職員やスタッフによる定期的かつ直接的なアプローチも必要と思われる(ただし、アプローチも家庭によって程度のバランスが必要)。
相談	母親は割と悩みを打ち明けやすいが、父親が自分から話しにくいと思うので、パパのケアや話を聞いてくれやすいところがあればいいと思う。	全く知らない人に話すのもいいが、ある程度子供のことを知っている人がいればいいなと思っているので、通っている保育園や学校などの職員や先生と話す機会を設けてもらえたら助かるかと思えます。
相談	教育相談をしている中で、具体的な援助がない。利用しようとする援助があっても何回も同じ説明をする必要がある。	相談、適正検査、みらいなど、たてのつながりがいいのか利用する度にはじめから説明する必要があり、負担なので、内部で話をつなげてもらいたい。

分類	課題	改善策
遊び場	子供（特に小・中学生）がサッカー、野球を自由に出来る公園や公共の場が少なすぎる。	サッカー、野球が自由に出来る公園を作る。
遊び場	屋内の遊び場の充実（幼児）児童館が古い。すこやかは幼児が遊ぶには物足りない。	児童館をもう少しきれいにしてほしい。学童以外の幼児が遊びやすいようにしてほしい。すこやかにもう少し幼児向けのおもちゃスペースがほしい。
遊び場	公園にきれいで使いやすいトイレがあること。調布市内の公園はトイレがない場合が多く、あっても和式で子供が使いづらいことがある。	トイレを設置、清掃を行う。
遊び場	夏のアツイ時、子供を遊ばせる場が少ない。	水遊び場の充実。 市営プールもおむつの子は入れず兄弟を連れて母だけで行くことができないので困る。
経済的支援	オムツ袋の配布場所の少なさ	小児科や保育園にも置いて欲しい
経済的支援	公園の駐車場代が高い	子育て世代に割引きチケットを配る
経済的支援	送り迎えの安全性と時間短縮	タクシー利用の補助
予防接種	小児インフルエンザワクチンの自費負担	一部公費負担をしていただきたいです
予防接種	各種ワクチンに補助金を出すべき。	補助金を出す。
医療	夜間小児救急がない	病院を作るか、日祝のように夜間の当番医を作る 一番いいのは少し大きめの小児救急診れる病院を作ること
医療	病児保育施設の利用時間	8時半開始を8時より開始
住宅	ひとり親家庭の住居確保	都営住宅など、抽選や都内に何年以上住居しているかではなく、収入など家庭環境に応じて優先的に住めるなど考慮して欲しい
住宅	子供がいる家庭の住宅手当	ローンまたは家賃の補助
障がい	医療的ケアがあっても保育園に通わせたい	医療的ケアがあっても両親主体ではなく、市役所主体で保育園探しをしてほしい

分類	課題	改善策
家庭全般	土日、平日とも、未就学児向けの児童館解放時間が午前中しかなく、使いにくかった	終日解放してほしい。 また土日は月一ではなく、もっと解放してほしい。
家庭全般	ヤングケアラーへの支援	孤立しないための取り組みの周知や支援
妊娠・出産	妊娠・出産にかかる助成が少ない	妊娠時の検診から出産までにかかる各種医療費の全額助成
妊娠・出産	子育て支援が電話や場に行かなくてはならず忙しい働く保護者が利用しづらい	インターネットでの相談、予約受付の拡充
情報	情報発信の拡充と発信方法。	従来の紙面での発信はもとより、インターネットやSNSを活用すべき。調布市のアプリを作成して、情報発信を分かりやすく、見やすく、検索しやすくしたものを作成、発信すべき。
情報	市内の保育所を利用しているが、利用者の声を市の保育課に伝えるルートがない。	利用者の困りごとなどを受け付けてくれるメール等。窓口があると良いと思う。とはいえ伝えても改善は期待できないのかもしれませんが。
情報	一時預かり保育園における報告書類	全てアプリで完結する報告書にしないと、複数の施設を利用する家庭では対応が困難。
生涯学習	0歳児の時は親子あそび等イベントが充実しているが、それ以降になると急に減ってしまうので、保育園に通わない子の親は不安に思ったりもするのではないのでしょうか。	にこにこぱんだ、すくすくぱんだ（支援センター）の開催頻度を増やす、申込み制をやめる等で参加しやすくしてもらおう、とか。
生涯学習	子育て講座やイベントがほとんど平日なので共働家庭は参加できない。すこやかも閉まる時間が早い。	土日開催を増やして欲しい。
生涯学習	核家族が多く、高齢者との接点が少ない。多様な人と関わる機会が増えると良い。	公民館でやっているようなサークルに子どもと高齢者が一緒に活動できるプログラムも増やし広報する。本人が参加したいと思うプログラムがあれば定期的に参加させたい。
生涯学習	子供がいる世帯向けの災害発生時講座。	ぜひ、月一ペース（土日もやって欲しい）でやってくれたら。必要になったら困る事だけど、知識は絶対必要かと。

分類	課題	改善策
その他	ベビーカー、チャイルドシート、ベビーベッドのかし出し。	すぐに壊れることやダメになることはあまりないので支援センターで無料でかし出しする制度作ってほしいです。
その他	ICT 環境の不足。	保育園の紙ベースのコミュニケーションだったり、保育園の申請や毎年の提出書類をオンラインにして負担を軽減してほしい。
政策全般	連絡（保育園や小学校）や書類提出のデジタル化。	紙でのやりとり，提出をやめデジタル化する。
政策全般	双子の移動サポート（交通費）を増額。 又は，深大寺地区の子ども広場，児童館を増やしてほしい。	関係機関へ通いやすい（相談しやすい）ようにしてほしい。

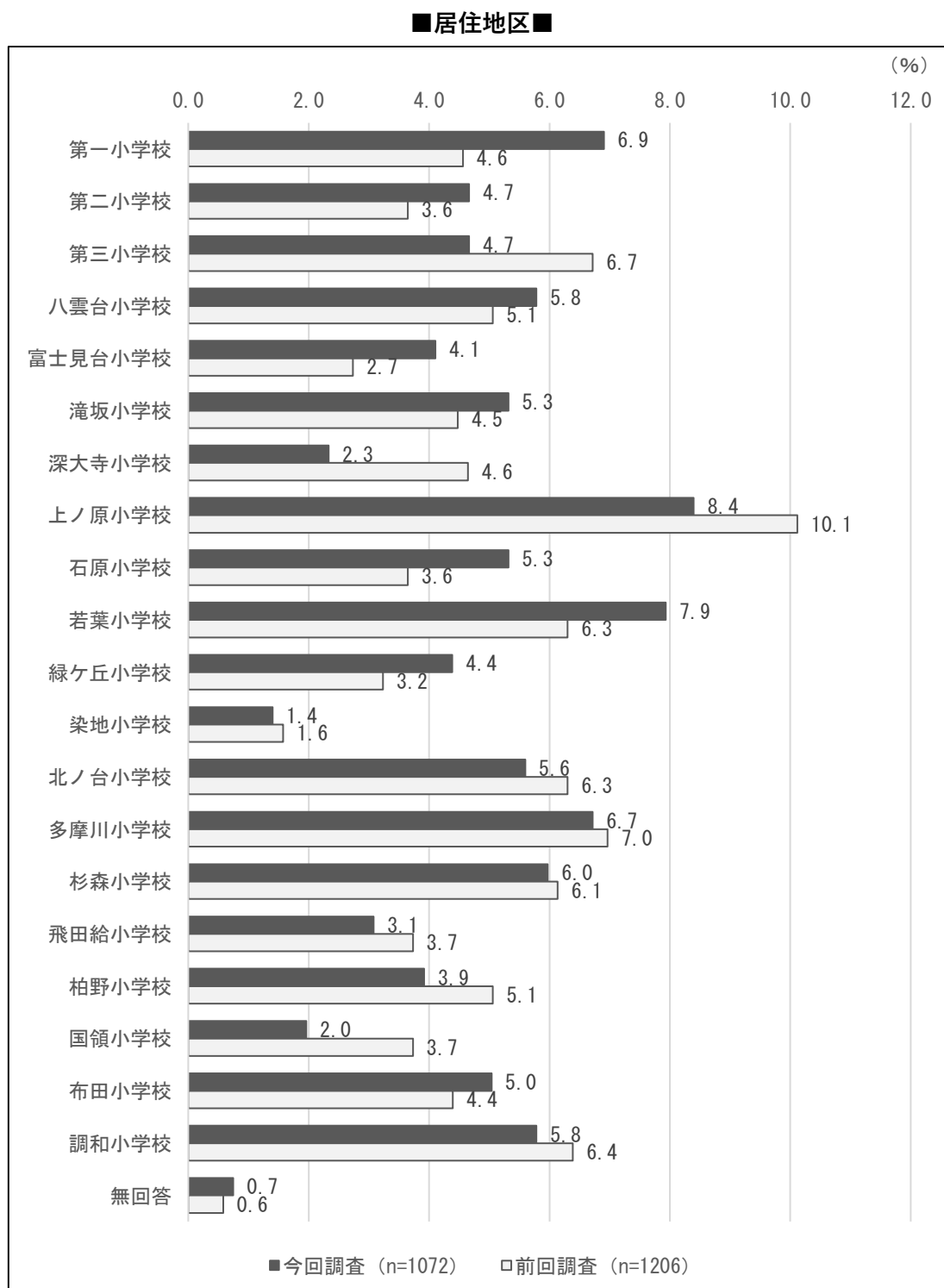
第3部 小学生の保護者対象調査

子ども・子育て支援に関するニーズ調査【小学生の保護者】

1. 居住地区について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地区としてあてはまるのは次のうちどれですか。



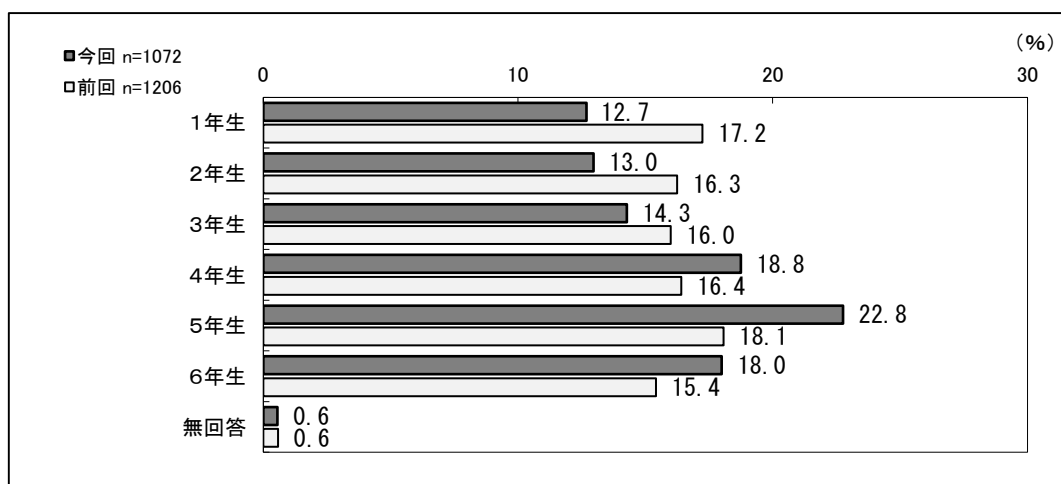
2. 本人と家庭の状況について

(1) 学年

問2 宛名のお子さんは、現在何年生ですか。

「5年生」(22.8%), 「4年生」(18.8%), 「6年生」(18.0%), 「3年生」(14.3%), 「2年生」(13.0%), 「1年生」(12.7%)。

■学年■



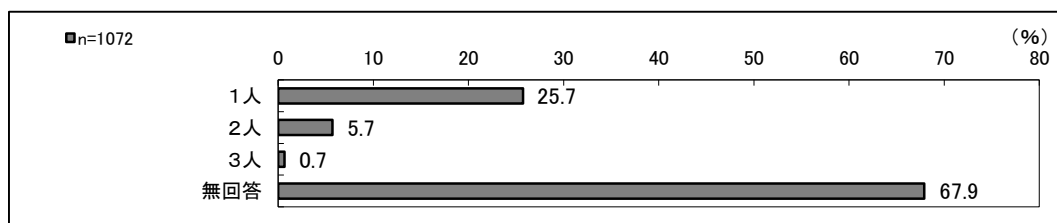
(2) 兄・姉の人数

問3 宛名のお子さんのきょうだいについて人数でお答えください。

(1)宛名のお子さんの兄・姉

「1人」(25.7%), 「2人」(5.7%), 「3人」(0.7%)。

■兄・姉の人数■

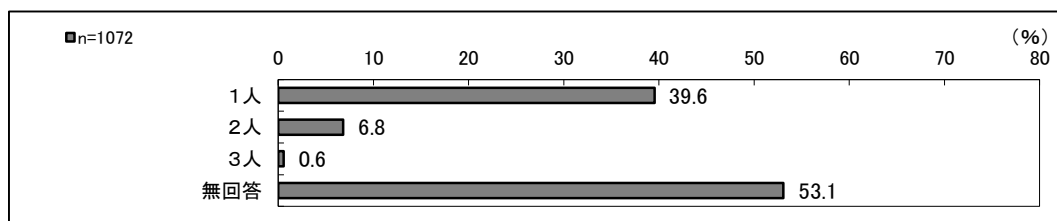


(3) 弟・妹の人数

(2)宛名のお子さんの弟・妹

「1人」(39.6%), 「2人」(6.8%), 「3人」(0.6%)。

■ 弟・妹の人数 ■

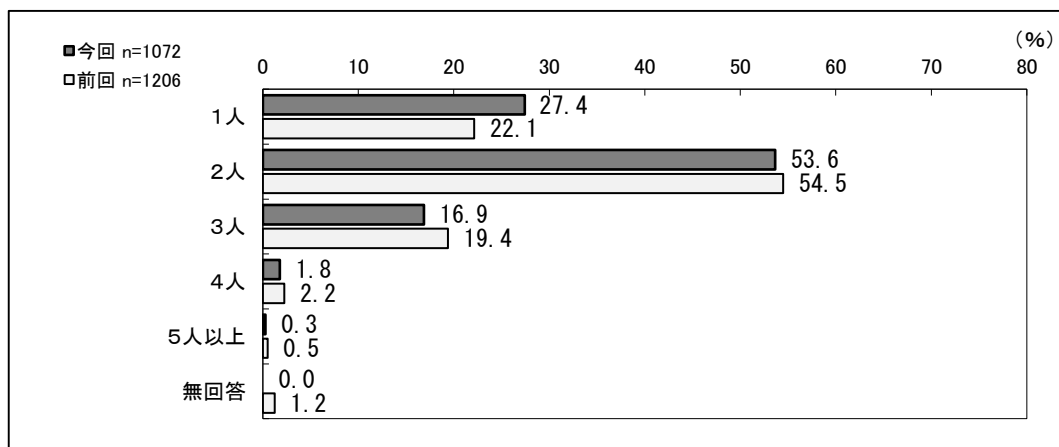


(4) きょうだいの人数

問3(1), (2)の回答から宛名のお子さんを含むきょうだいの人数を算出したところ、「1人」(27.4%), 「2人」53.6%, 「3人」(16.9%), 「4人」(1.8%), 「5人」(0.3%)となった。

前回調査結果と比べると、きょうだいの人数が「1人」の割合が5.3ポイント増加しており、「2人以上」(72.6%)の割合は4.0ポイント減少している。

■ きょうだいの人数 ■



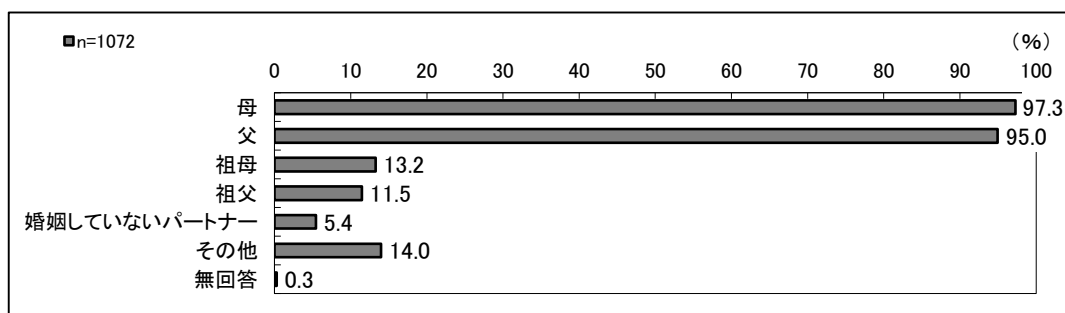
(5) 生計を一にする家族

問4 宛名のお子さんと生計を一にするご家族はどなたですか。【複数回答】

「母」(97.3%), 「父」(95.0%), 「祖母」(13.2%), 「祖父」(11.5%), 「婚姻していないパートナー」(5.4%), 「その他」(14.0%)。

■生計を一にする家族■

【今回調査】



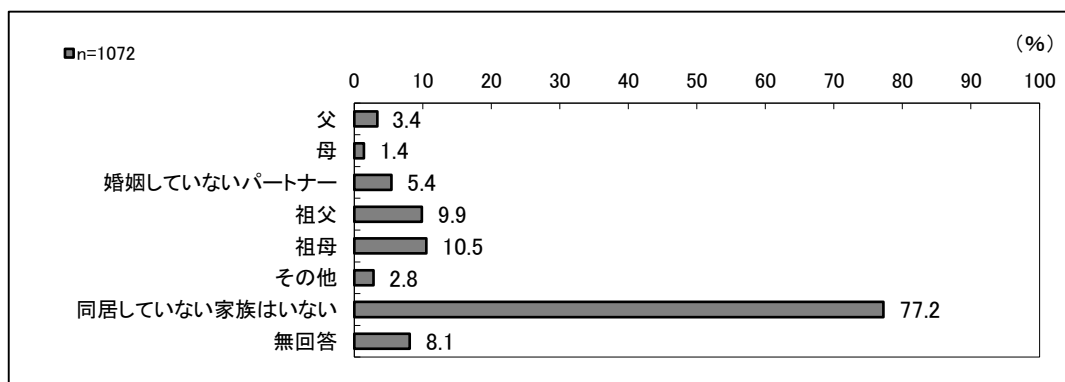
(6) 生計を一にするが同居していない家族

問5 宛名のお子さんと生計を一にするご家族のうち同居していない方はいますか。

【複数回答】

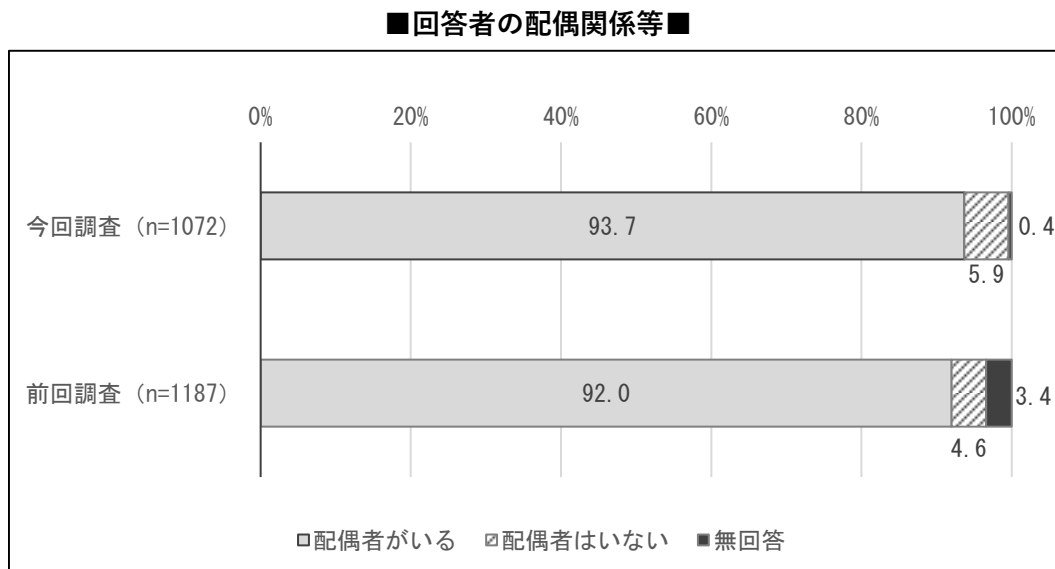
「祖母」(10.5%), 「祖父」(9.9%), 「婚姻していないパートナー」(5.4%), 「父」(3.4%), 「母」(1.4%), 「その他」(2.8%), 「同居していない家族はいない」(77.2%)。

■生計を一にするが同居していない家族■



(7) 回答者の配偶関係等

問4, 問5の回答結果等から, 回答者の配偶関係を整理した結果は次のとおりとなっている。
前回調査結果との顕著な違いはみられない。



(8) 住まいの形態

問6 宛名のお子さんの現在のお住まいについて、あてはまるものは次のうちどれですか。

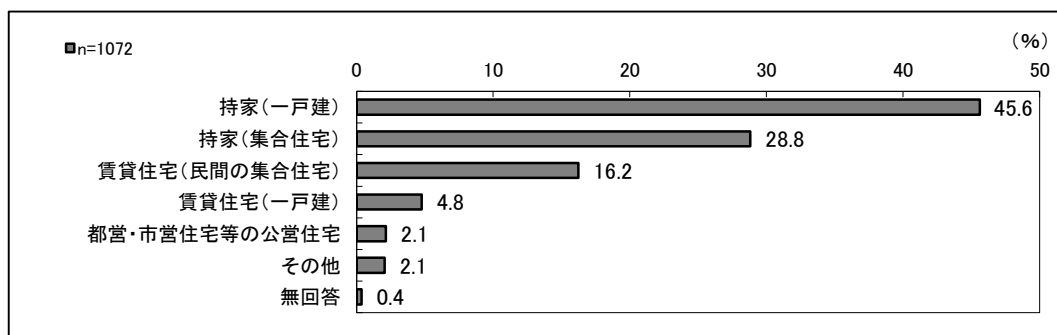
【複数回答】



「持家（一戸建）」（45.6%）, 「持家（集合住宅）」（28.8%）, 「賃貸住宅（民間の集合住宅）」（16.2%）, 「賃貸住宅（一戸建）」（4.8%）, 「都営・市営住宅等の公営住宅」（2.1%）, 「その他」（2.1%）。「持家（一戸建）」, 「持家（集合住宅）」の割合が74.4%で7割以上を占めている。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収（税込）“400万円未満”では「賃貸住宅（民間の集合住宅）」の割合が高く、“400万円以上”では「持家（一戸建）」, 「持家（集合住宅）」の割合が高まることがわかる。

■住まいの形態■



■世帯年収と住まいの形態とのクロス集計表■

	合計	問6 住まいの形態						無回答
		賃貸住宅 (一戸建)	賃貸住宅 (民間の 集合住宅)	持家(一 戸建)	持家(集 合住宅)	都営・市 営住宅等 の公営住 宅	その他	
全体	1072	51	174	489	309	23	22	4
	100.0%	4.8%	16.2%	45.6%	28.8%	2.1%	2.1%	0.4%
問8 世帯年収	収入なし	6	0	3	0	0	3	0
		100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	100万円未満	8	1	4	3	0	0	0
		100.0%	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	100万円～200万円未満	12	2	2	4	1	3	0
		100.0%	16.7%	16.7%	33.3%	8.3%	25.0%	0.0%
	200万円～300万円未満	30	1	11	10	5	3	0
		100.0%	3.3%	36.7%	33.3%	16.7%	10.0%	0.0%
	300万円～400万円未満	46	3	17	15	5	6	0
		100.0%	6.5%	37.0%	32.6%	10.9%	13.0%	0.0%
	400万円～500万円未満	63	3	21	21	16	1	1
		100.0%	4.8%	33.3%	33.3%	25.4%	1.6%	1.6%
	500万円～600万円未満	80	5	20	33	17	4	1
	100.0%	6.3%	25.0%	41.3%	21.3%	5.0%	1.3%	
600万円～700万円未満	89	0	25	34	28	1	1	
	100.0%	0.0%	28.1%	38.2%	31.5%	1.1%	1.1%	
700万円～800万円未満	109	8	14	56	27	1	3	
	100.0%	7.3%	12.8%	51.4%	24.8%	0.9%	2.8%	
800万円～1,000万円未満	225	11	16	123	62	3	10	
	100.0%	4.9%	7.1%	54.7%	27.6%	1.3%	4.4%	
1,000万円以上	385	15	40	180	146	1	3	
	100.0%	3.9%	10.4%	46.8%	37.9%	0.3%	0.8%	

3. 子育て環境について

(1) 日頃子どもをみてもらえる人の有無

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる（学童クラブや塾・習い事のお迎え、勉強や宿題をみてる、食事や入浴の世話、家事のお手伝いなど）親族・知人はいますか。

【複数回答】

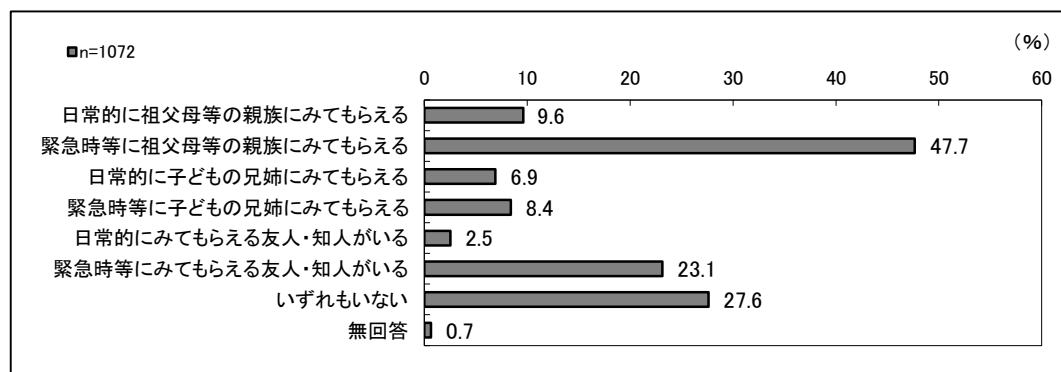


「緊急時等に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が47.7%で約半数を占めている。

「緊急時等にみてもらえる友人・知人がいる」(23.1%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(9.6%)、「緊急時等に子どもの兄姉にみてもらえる」(8.4%)、「日常的に子どもの兄姉にみてもらえる」(6.9%)、「日常的にみてもらえる友人・知人がいる」(2.5%)等がこれに続く。

「いずれもない」の割合は27.6%で全体の3割弱となっている。

■日頃子どもをみてもらえる人の有無■



4. 保護者の就労状況等について

(1) 世帯年収

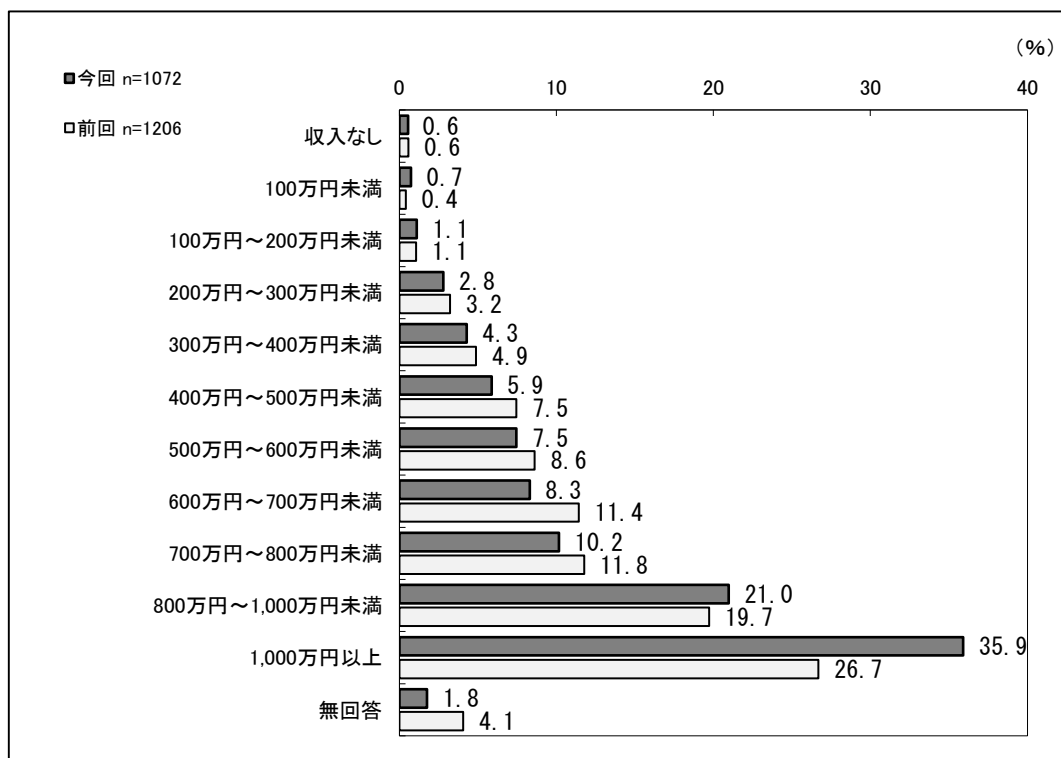
問8 世帯の年収（税込）は次のうちどれにあたりますか。

「1,000万円以上」が35.9%と前回調査結果に引き続き最も高い割合となった。

「800万円～1,000万円未満」（21.0%）, 「700万円～800万円未満」（10.2%）, 「600万円～700万円未満」（8.3%）, 「500万円～600万円未満」（7.5%）, 「400万円～500万円未満」（5.9%）, 「300万円～400万円未満」（4.3%）, 「200万円～300万円未満」（2.8%）, 「100万円～200万円未満」（1.1%）, 「100万円未満」（0.7%）, 「収入なし」（0.6%）がこれに続く。

前回調査結果に引き続き世帯年収（税込）“800万円以上”が全体の約半数を占めるが、およそ10世帯に1世帯は“400万円未満”の世帯となっている。

■世帯年収■



(2) 経済的理由のために世帯で持っていないもの

問9 次のうち、経済的理由のためにあなたの世帯で持っていないものはありますか。

【複数回答】



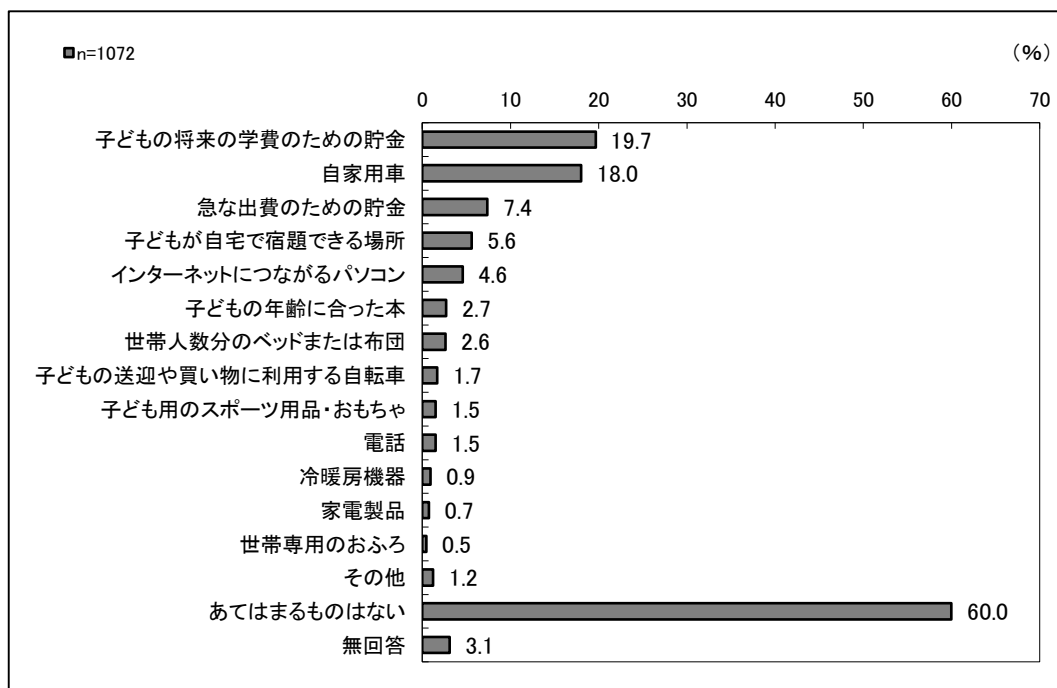
「あてはまるものはない」が60.0%で最も高い割合を占めている。

あてはまるものとしては、「子どもの将来の学費のための貯金」(19.7%),「自家用車」(18.0%)への回答が多くなった。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収(税込)“500万円未満”で「子どもの将来の学費のための貯金」又は「自家用車」が最も高い割合を占める。

一方、世帯年収(税込)“500万円以上”では「あてはまるものはない」が最も高い割合を占める。

■ 経済的理由のために世帯で持っていないもの ■



■世帯年収と経済的理由のために世帯で持っていないものとのクロス集計表■

	合計	問9 経済的理由のために世帯で持っていないもの								
		子どもの年齢に合った本	子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	子どもが自宅で宿題できる場所	子どもの送迎や買い物に利用する自転車	冷暖房機器	家電製品	電話	インターネットにつながるパソコン	
全体	1072	29	16	60	18	10	8	16	49	
	100.0%	2.7%	1.5%	5.6%	1.7%	0.9%	0.7%	1.5%	4.6%	
問8 世帯年収	収入なし	6	0	2	1	1	0	0	0	
	100万円未満	8	2	3	2	0	0	0	4	
	100万円～200万円未満	12	0	1	2	1	1	1	1	
	200万円～300万円未満	30	6	2	3	1	1	0	8	
	300万円～400万円未満	46	3	0	6	0	0	2	5	
	400万円～500万円未満	63	2	0	7	2	1	0	9	
	500万円～600万円未満	80	4	2	7	1	0	0	6	
	600万円～700万円未満	89	1	1	6	1	1	1	3	
	700万円～800万円未満	109	5	4	12	3	2	2	6	
	800万円～1,000万円未満	225	5	2	6	3	2	1	2	
	1,000万円以上	385	1	2	6	2	1	1	4	
		100.0%	0.3%	0.5%	1.6%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	1.0%

	合計	問9 経済的理由のために世帯で持っていないもの								
		世帯専用のおふろ	世帯人数分のベッドまたは布団	自家用車	子どもの将来の学費のための貯金	急な出費のための貯金	その他	あてはまるものはない	無回答	
全体	1072	5	28	193	211	79	13	643	33	
	100.0%	0.5%	2.6%	18.0%	19.7%	7.4%	1.2%	60.0%	3.1%	
問8 世帯年収	収入なし	6	0	1	3	1	0	2	0	
	100万円未満	8	0	3	7	4	0	0	0	
	100万円～200万円未満	12	1	3	8	4	0	3	0	
	200万円～300万円未満	30	0	2	10	8	1	5	1	
	300万円～400万円未満	46	1	2	19	18	9	15	0	
	400万円～500万円未満	63	0	1	21	20	12	21	0	
	500万円～600万円未満	80	0	2	27	28	6	32	1	
	600万円～700万円未満	89	0	2	24	24	6	38	3	
	700万円～800万円未満	109	2	4	22	27	14	58	2	
	800万円～1,000万円未満	225	1	3	32	30	9	157	6	
	1,000万円以上	385	0	5	30	26	3	309	10	
		100.0%	0.0%	1.3%	7.8%	6.8%	0.8%	1.6%	80.3%	2.6%

(3) 経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったもの

問 10 過去1年間において、経済的理由のためにやむを得ず購入や契約、支払いを見送ったものはありますか。【複数回答】



「あてはまるものはない」が76.3%で最も高い割合を占めている。

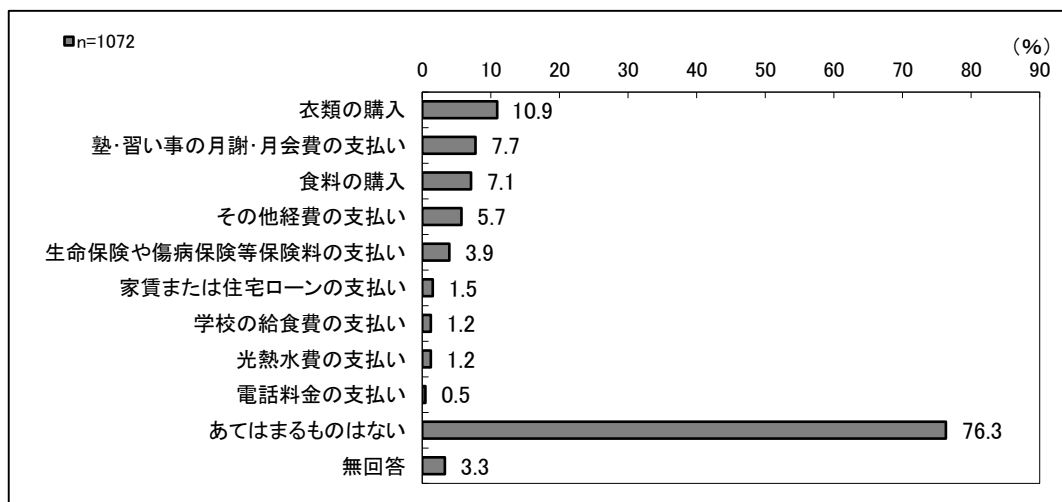
あてはまるものとしては、「衣類の購入」(10.9%)、「塾・習い事の月謝・月会費の支払い」(7.7%)、「食料の購入」(7.1%)への回答が多くなった。

「生命保険や傷病保険等保険料の支払い」(3.9%)、「家賃または住宅ローンの支払い」(1.5%)、「学校の給食費の支払い」(1.2%)、「光熱水費の支払い」(1.2%)、「電話料金の支払い」(0.5%)等がこれに続く。

問8の世帯年収とのクロス集計結果をみると、世帯年収(税込)が低くなるにつれて、「あてはまるものはない」が減少する。

世帯年収(税込)“700万円未満”までの回答者の1割以上が、「衣類の購入」、「塾・習い事の月謝・月会費の支払い」を見送ったことがあると回答している。

■経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったもの■



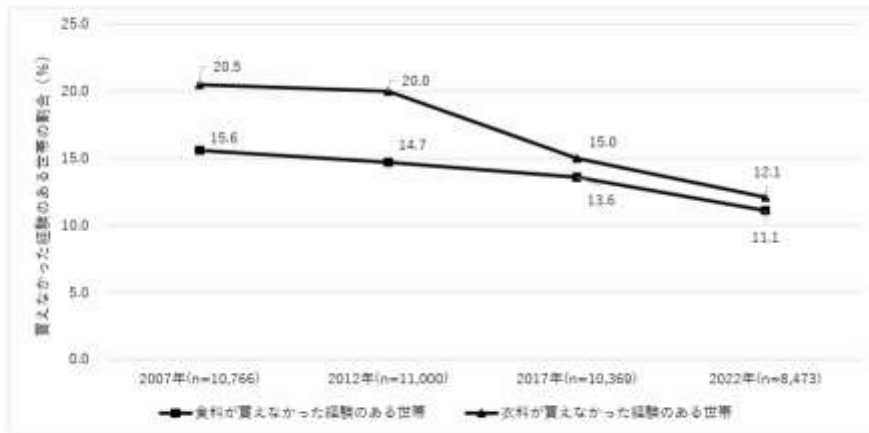
■世帯年収と経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったものとのクロス集計表■

	合計	問10 経済的理由のために購入・契約・支払いを見送ったもの							
		衣類の購入	食料の購入	学校の給食費の支払い	塾・習い事の月謝・月会費の支払い	家賃または住宅ローンの支払い	光熱水費の支払い	電話料金の支払い	生命保険や傷病保険等保険料の支払い
全体	1072 100.0	117 10.9	76 7.1	13 1.2	83 7.7	16 1.5	13 1.2	5 0.5	42 3.9
問8 世帯年収									
収入なし	6 100.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
100万円未満	8 100.0	5 62.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	4 50.0
100万円～200万円未満	12 100.0	4 33.3	1 8.3	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
200万円～300万円未満	30 100.0	14 46.7	10 33.3	2 6.7	4 13.3	4 13.3	2 6.7	0 0.0	7 23.3
300万円～400万円未満	46 100.0	11 23.9	9 19.6	2 4.3	9 19.6	1 2.2	1 2.2	1 2.2	6 13.0
400万円～500万円未満	63 100.0	13 20.6	6 9.5	2 3.2	7 11.1	2 3.2	3 4.8	2 3.2	4 6.3
500万円～600万円未満	80 100.0	15 18.8	12 15.0	2 2.5	12 15.0	3 3.8	4 5.0	0 0.0	4 5.0
600万円～700万円未満	89 100.0	14 15.7	5 5.6	2 2.2	10 11.2	4 4.5	2 2.2	2 2.2	5 5.6
700万円～800万円未満	109 100.0	7 6.4	6 5.5	2 1.8	9 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 2.8
800万円～1,000万円未満	225 100.0	18 8.0	14 6.2	0 0.0	17 7.6	1 0.4	0 0.0	0 0.0	7 3.1
1,000万円以上	385 100.0	13 3.4	8 2.1	0 0.0	12 3.1	1 0.3	0 0.0	0 0.0	2 0.5

	合計	問10 経済的理由のために購		
		その他経費の支払い	あてはまるものはない	無回答
全体	1072 100.0	61 5.7	818 76.3	35 3.3
問8 世帯年収				
収入なし	6 100.0	0 0.0	3 50.0	0 0.0
100万円未満	8 100.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
100万円～200万円未満	12 100.0	2 16.7	5 41.7	0 0.0
200万円～300万円未満	30 100.0	5 16.7	12 40.0	0 0.0
300万円～400万円未満	46 100.0	5 10.9	26 56.5	1 2.2
400万円～500万円未満	63 100.0	6 9.5	41 65.1	0 0.0
500万円～600万円未満	80 100.0	5 6.3	49 61.3	2 2.5
600万円～700万円未満	89 100.0	8 9.0	61 68.5	4 4.5
700万円～800万円未満	109 100.0	5 4.6	91 83.5	1 0.9
800万円～1,000万円未満	225 100.0	10 4.4	179 79.6	7 3.1
1,000万円以上	385 100.0	12 3.1	343 89.1	10 2.6

【国立社会保障・人口問題研究所 生活と支え合いに関する調査（参考）】

図表 II-1 食料・衣料の困窮経験のある世帯の割合（2007年～2022年）



注) 世帯票により集計している。合計に無回答を含む。

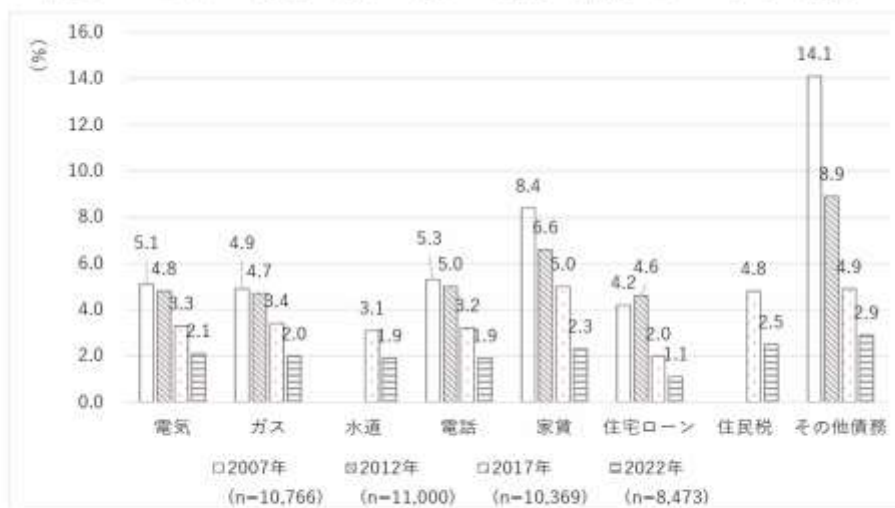
調査対象：令和4年国民生活基礎調査（厚生労働省実施）の調査地区 5,530 地区（令和2年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から選ばれた 300 地区内の全ての世帯の世帯主及び 18 歳以上の世帯員（世帯主を含む）

調査時期：2022年7月1日を調査の基準日としたもの

※ 「こども大綱」における“こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標”の1つ

【国立社会保障・人口問題研究所 生活と支え合いに関する調査（参考）】

図表 II-4 過去1年間に料金の未払い・債務の滞納があった世帯の割合



注) 世帯票により集計している。「あった」とした世帯数 / (「該当しない」と無回答を除く世帯数)。サンプルサイズは無回答と「該当しない」を除外する前の数値である。

調査対象：令和4年国民生活基礎調査（厚生労働省実施）の調査地区 5,530 地区（令和2年国勢調査区から層化無作為抽出）の中から選ばれた 300 地区内の全ての世帯の世帯主及び 18 歳以上の世帯員（世帯主を含む）

調査時期：2022年7月1日を調査の基準日としたもの

※ 「こども大綱」における“こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標”の1つ

(4) 母親の就労状況

※ 主に母親の状況について

問 11 宛名のお子さんの「母親」の現在の就労状況（自営業、農業、家族従事者含む）についてお答えください。



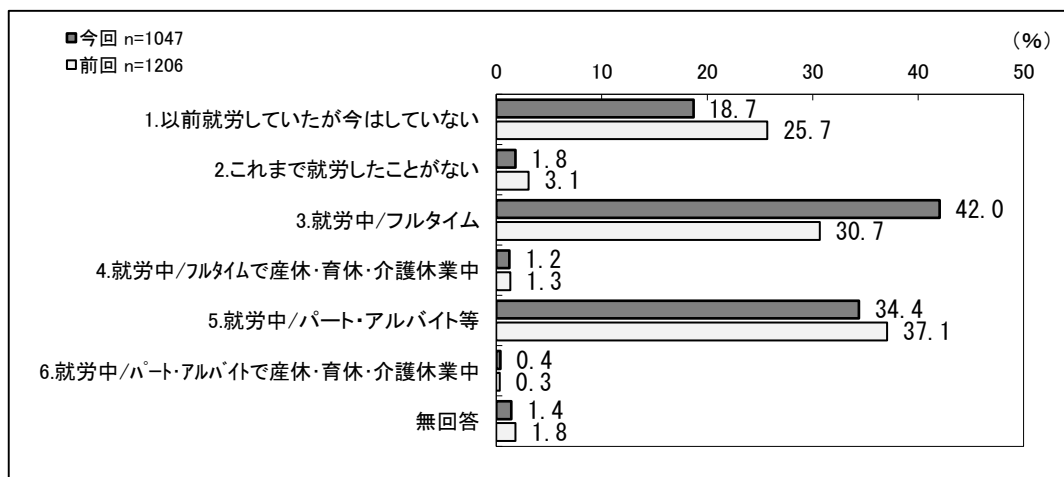
「就労中／フルタイム」(42.0%)、「就労中／パート・アルバイト等」(34.4%)、「以前就労していたが今はしていない」(18.7%)、「これまで就労したことがない」(1.8%)、「就労中／フルタイムで産休・育休・介護休業中」(1.2%)、「就労中／パート・アルバイトで産休・育休・介護休業中」(0.4%)。

前回調査結果と比較して、「以前就労していたが今はしていない」が7.0ポイント減少している。一方、「就労中／フルタイム」が11.3ポイント増加しており、フルタイム就労の割合が高くなっている。

世帯年収700万円以上の世帯では、「就労中／フルタイム」の割合が高い。

また、ひとり親家庭では「就労中／フルタイム」の割合が高い。

■母親の就労状況■



(5) 母親の就労希望について

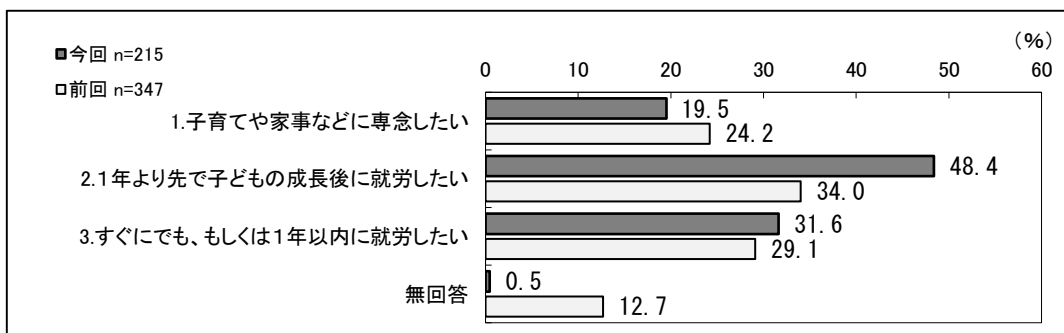
※ 問 11 で「1」または「2」に○をつけた方のみ

問 11-1 就労したいという希望はありますか。

「1年より先で子どもの成長後に就労したい」(48.4%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(31.6%)、「子育てや家事などに専念したい」(19.5%)。

前回調査結果と比較して、「1年より先で子どもの成長後に就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が増加しており、就労意向の割合が高くなっている。

■ 母親の就労希望について ■



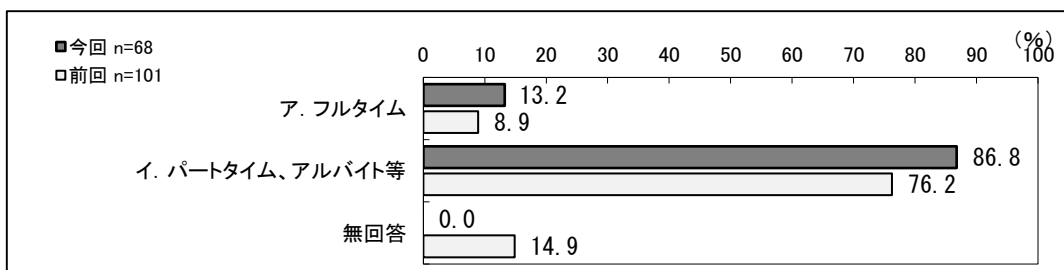
(6) 母親：希望の就労形態

※ 問 11-1 で「3」に○をつけた方のみ

問 11-1-1 希望の就労形態

「パートタイム、アルバイト等」(86.8%)、「フルタイム」(13.2%)。

■ 希望の就労形態 ■



(7) 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望

※ 問 11-1-1 で「イ」に○をつけた方のみ

問 11-1-2 母親：希望就労日数／週

問 11-1-3 母親：希望就労時間／日

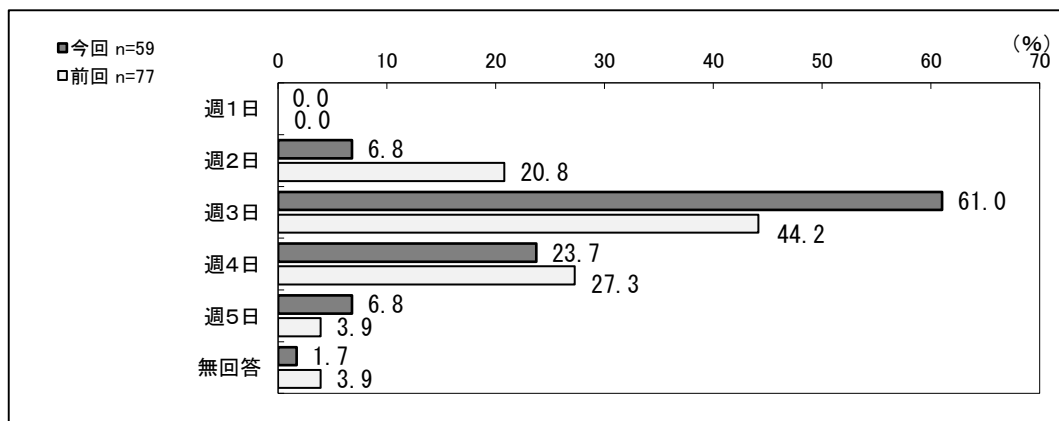


パート・アルバイトとしての母親の1週当たり希望就労日数は「週3日」(61.0%)，1日当たり希望就労時間は「4～6時間」(71.2%)が最も高い割合を占めている。

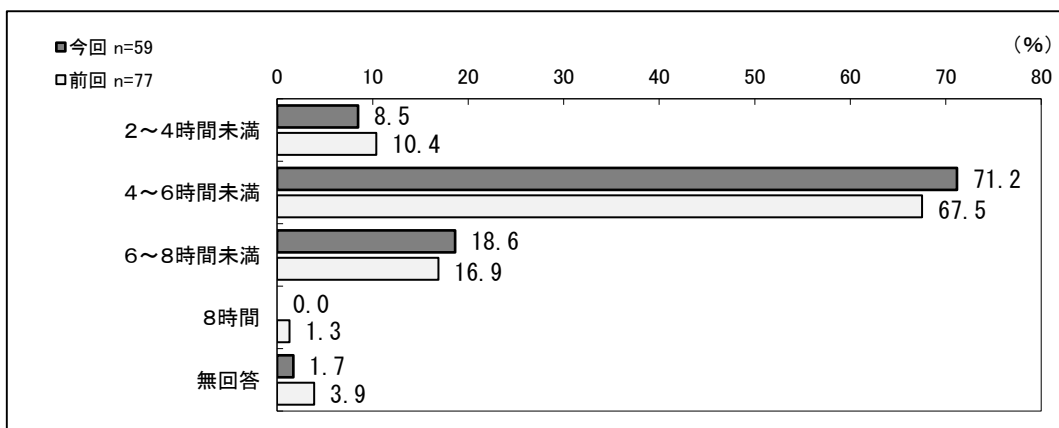
■集計結果 母親：パートタイム・アルバイト等就労の希望■

n=59	希望就労日数／週	希望就労時間／日
平均値	3.31 日	4.83 時間
最大値	5.00 日	7.00 時間
最小値	2.00 日	3.00 時間
無回答数	1 件	1 件

■母親：希望就労日数／週■



■母親：希望就労時間／日■



(8) 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問11で「3」～「6」に○をつけた方のみ

問11-2 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 母親：週当たり就労日数
- ② 母親：1日当たり就労時間

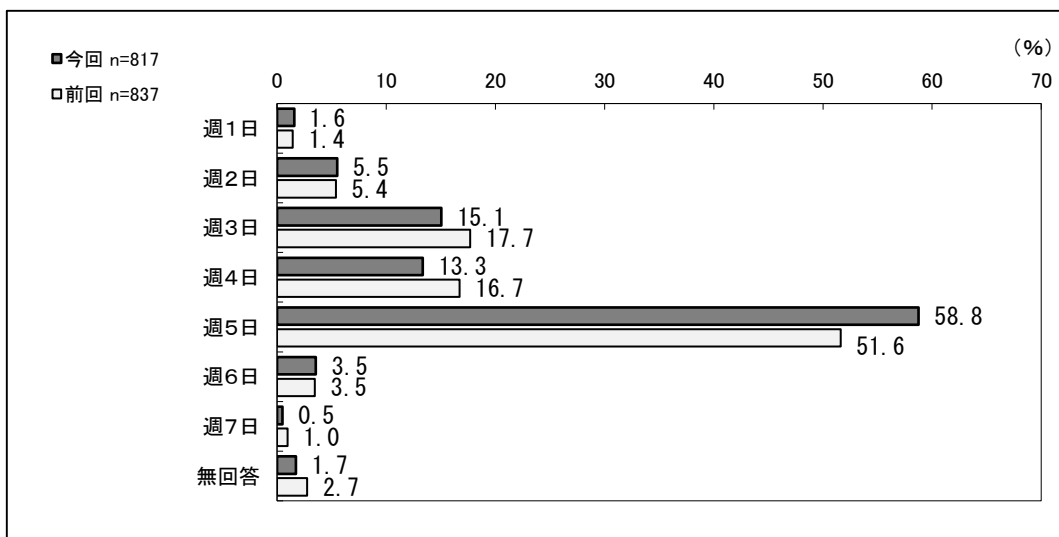


前回調査結果に引き続き、母親の1週当たり労働日数は「週5日」、1日当たり就労時間は“6～8時間”（「6～8時間未満」と「8時間の合計」）が過半数を占めている。
回答者の13.4%は、1日当たり就労時間が“9時間以上”となっている。

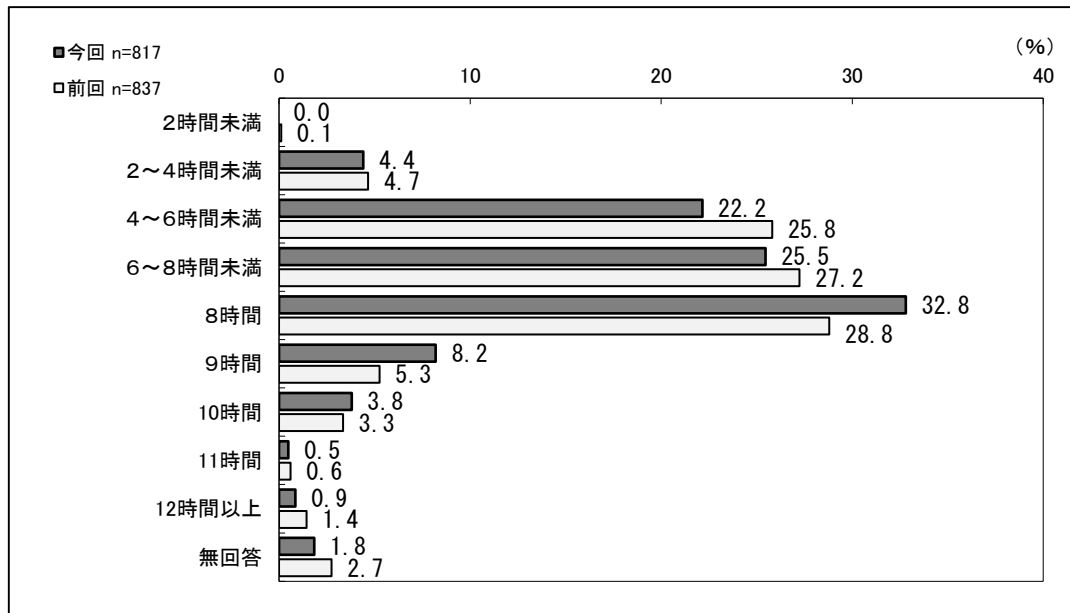
■集計結果 母親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間■

n=817	現在の就労日数/週	現在の就労時間/日
平均値	4.37 日	6.85 時間
最大値	7.00 日	18.00 時間
最小値	1.00 日	2.00 時間
無回答数	14 件	15 件

■母親：週当たり就労日数■



■母親：1日当たり就労時間■



(9) 母親のフルタイムへの転換希望

※ 問11で「5」「6」に○をつけた方のみ

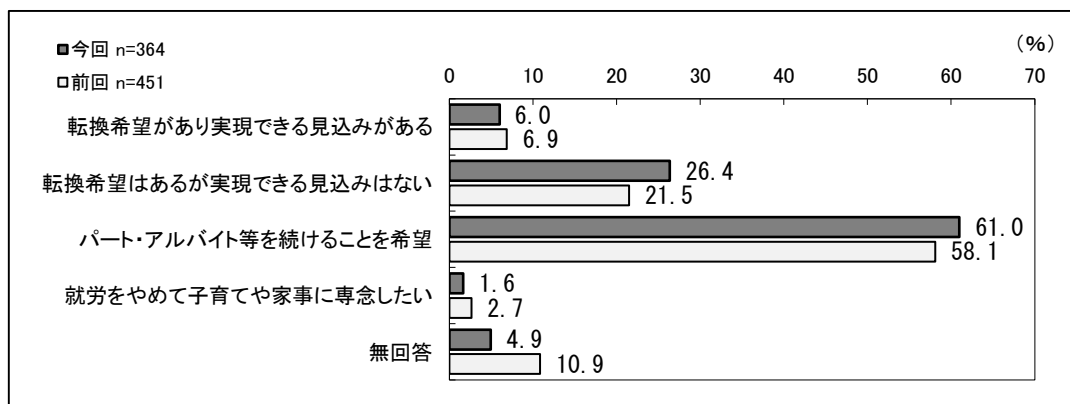
問11-3 フルタイム（1週5日程度，1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



「パート・アルバイト等続けることを希望」（61.0%）、「転換希望はあるが実現できる見込みはない」（26.4%）、「転換希望があり実現できる見込みがある」（6.0%）、「就労をやめて子育てや家事に専念したい」（1.6%）。

前回調査結果に引き続き、「パート・アルバイト等続けることを希望」が約6割を占めている。

■母親のフルタイムへの転換希望■



(10) 父親の就労状況

※ 主に父親の状況について

問 12 宛名のお子さんの「父親」の現在の就労状況（自営業，農業，家族従事者含む）についてお答えください。

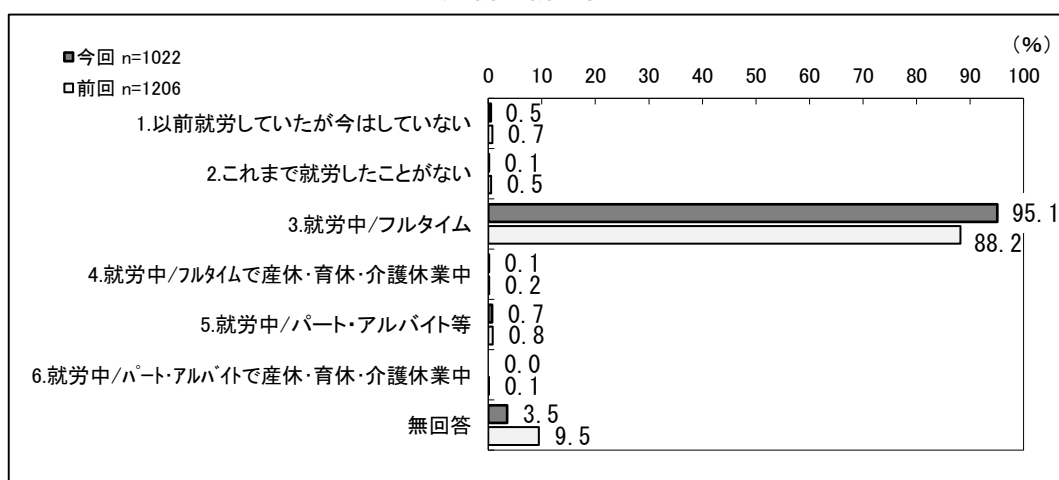


「就労中/フルタイム」が95.1%で大半を占める。

「就労中/パート・アルバイト等」(0.7%)，「以前就労していたが今はしていない」(0.5%)，「これまで就労したことがない」(0.1%)，「就労中/フルタイムで産休・育休・介護休業中」(0.1%)がこれに続く。

前回調査結果と比較して，「就労中/フルタイム」が6.9ポイント増加している。

■父親の就労状況■



(11) 父親の就労希望について

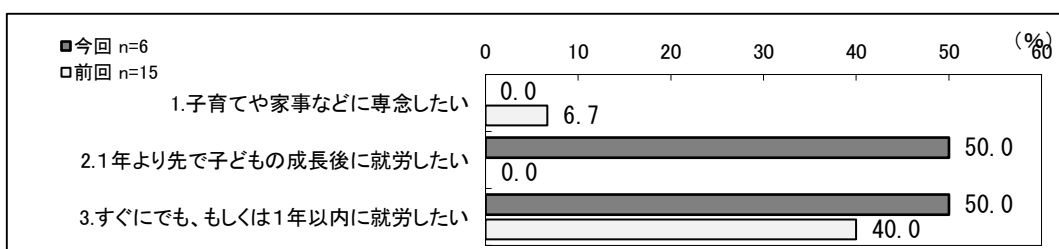
※ 問 12 で「1」または「2」に○をつけた方のみ

問 12-1 就労したいという希望はありますか。



「1年より先で子どもの成長後に就労したい」(50.0%)，「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(50.0%)。

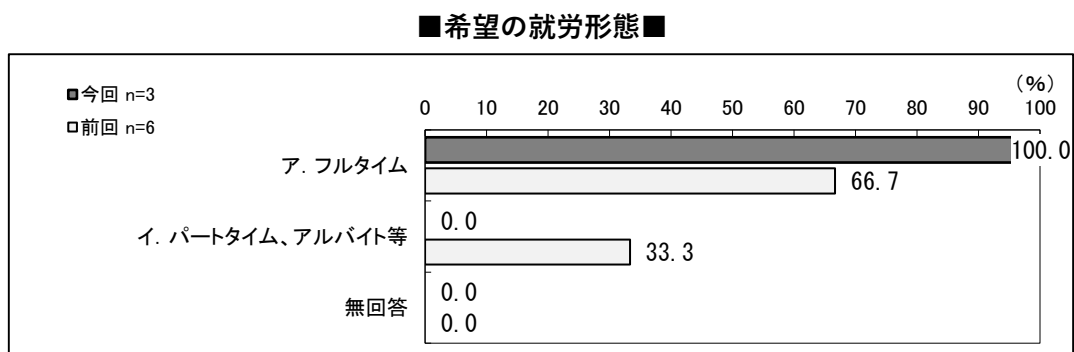
■父親の就労希望について■



(12) 父親：希望の就労形態

※ 問 12-1 で「3」に○をつけた方のみ
問 12-1-1 希望の就労形態

「フルタイム」(100.0%)。



(13) 父親：パートタイム・アルバイト等就労の希望

※ 問 12-1-1 で「イ」に○をつけた方のみ
問 12-1-2 父親：希望就労日数/週
問 12-1-3 父親：希望就労時間/日

該当者なし。

(14) 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間

※ 問12で「3」～「6」に○をつけた方のみ

問12-2 現在の、1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

- ① 父親：週当たり就労日数
- ② 父親：1日当たり就労時間



父親の1週当たり労働日数は「週5日」（80.7%）、1日当たり就労時間は「8時間」（36.5%）が最も高い割合を占めている。

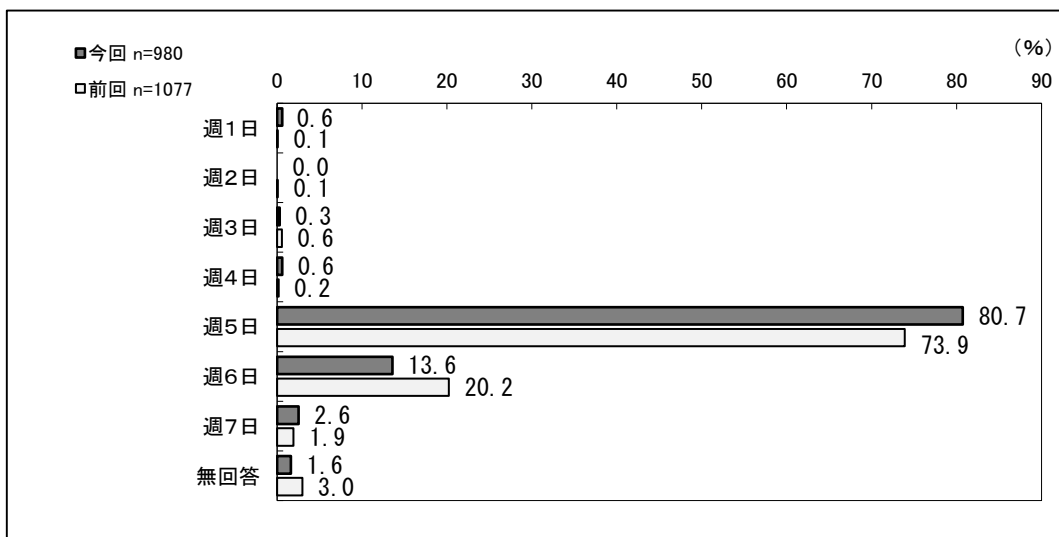
回答者の41.2%は、1日当たり就労時間が“10時間以上”となっている。

前回調査結果と比較して、就労時間が“10時間以上”の割合は、15.6ポイント減少している。

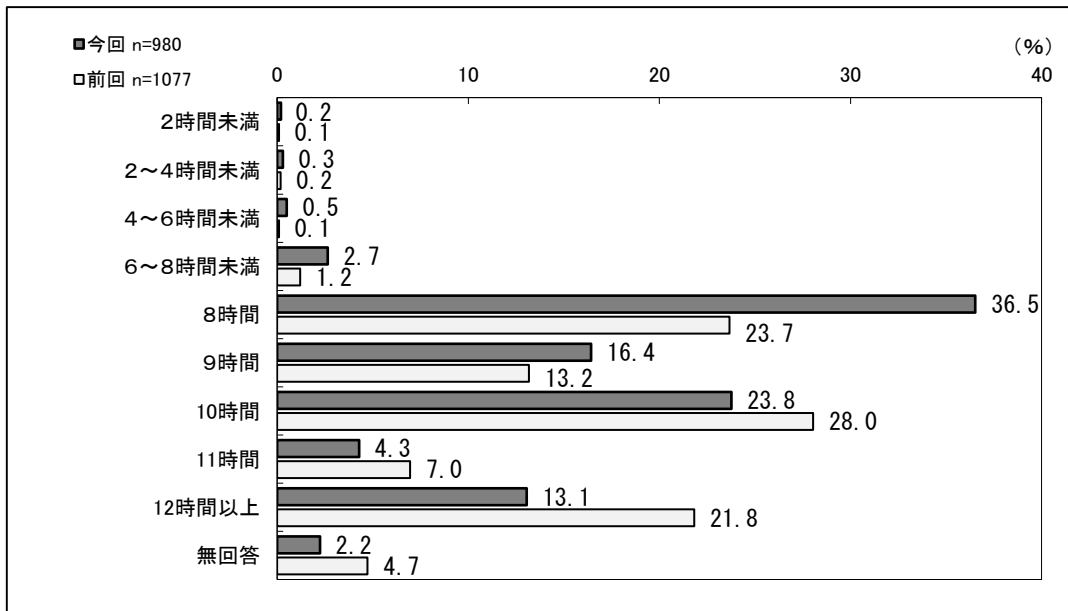
■集計結果 父親：現在の1週当たり就労日数および1日当たり就労時間■

n=980	現在の就労日数／週	現在の就労時間／日
平均値	5.15 日	9.35 時間
最大値	7.00 日	24.00 時間
最小値	1.00 日	1.00 時間
無回答数	16 件	22 件

■父親：週当たり就労日数■



■父親：1日当たり就労時間■



(15) 父親のフルタイムへの転換希望

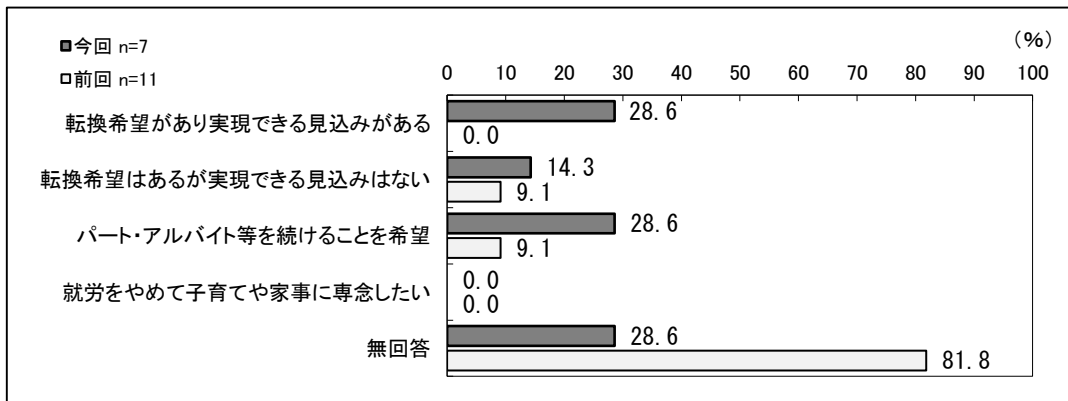
※ 問12で「5」「6」に○をつけた方のみ

問12-3 フルタイム（1週5日程度，1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。



「転換希望があり実現できる見込みがある」(28.6%)，「パート・アルバイト等続けることを希望」(28.6%)，「転換希望はあるが実現できる見込みはない」(14.3%)。

■父親のフルタイムへの転換希望■



5. 子育ての不安・悩み等について

(1) 子育てでの不安や悩み

問 13 あなたは、子育てでどのような不安や悩みを持っていますか。【複数回答】

「子どもの進路や進学のこと」(52.2%)、「子どもの学費のこと」(42.5%)、「子どもの学力のこと」(36.0%)と、子どもの教育・進路に関する不安や悩みが上位3位までを占める。

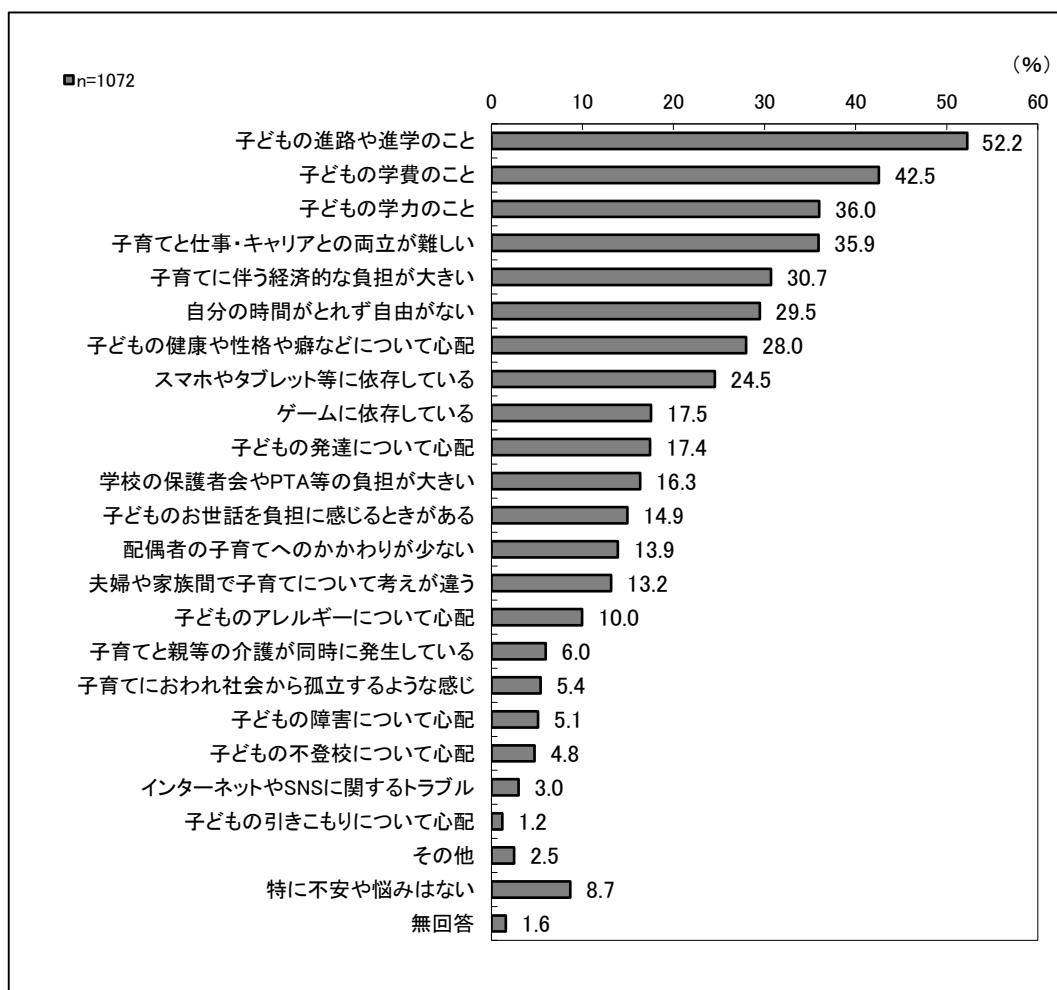
「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」(35.9%)、「子育てに伴う経済的な負担が大きい」(30.7%)、「自分の時間がとれず自由がない」(29.5%)、「子どもの健康や性格や癖などについて心配」(28.0%)等がこれに続く。

「特に不安や悩みはない」は8.7%。

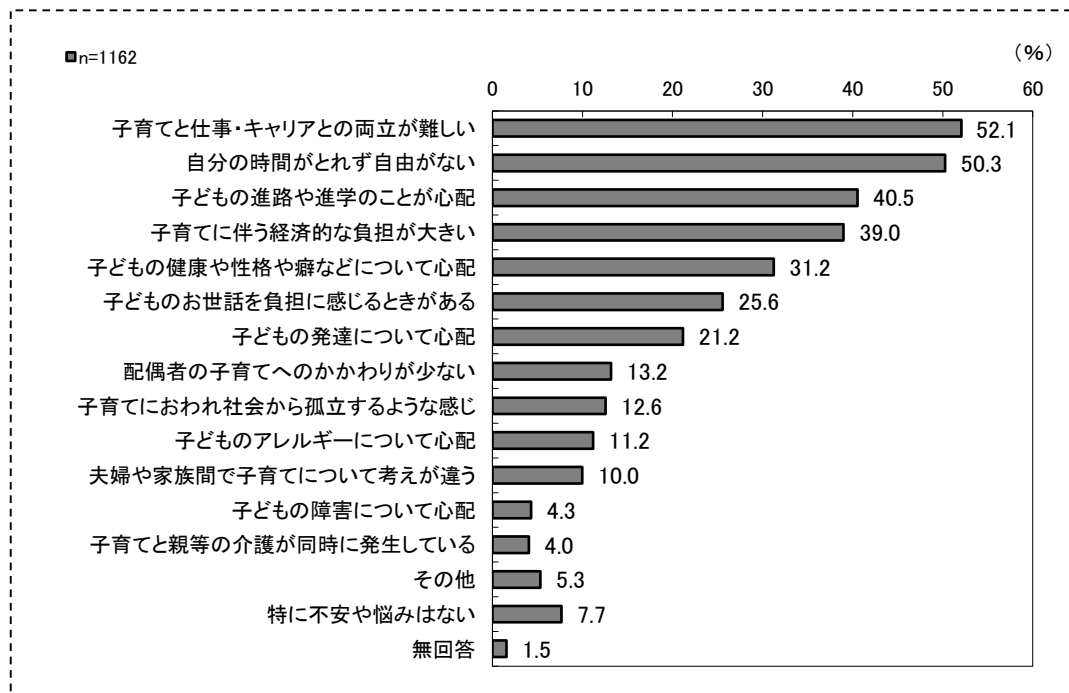
未就学児保護者調査で最も回答割合の高かった、「子育てと仕事・キャリアとの両立が難しい」については、小学生の保護者の回答でも上位となっているものの、回答割合は16.2ポイント減少している。

■子育てでの不安や悩み■

【小学生の保護者対象調査の結果】



【未就学児の保護者対象調査の結果】



(2) 気軽に相談できる相談先

問 14 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人（場所）は誰（どこ）ですか。【複数回答】

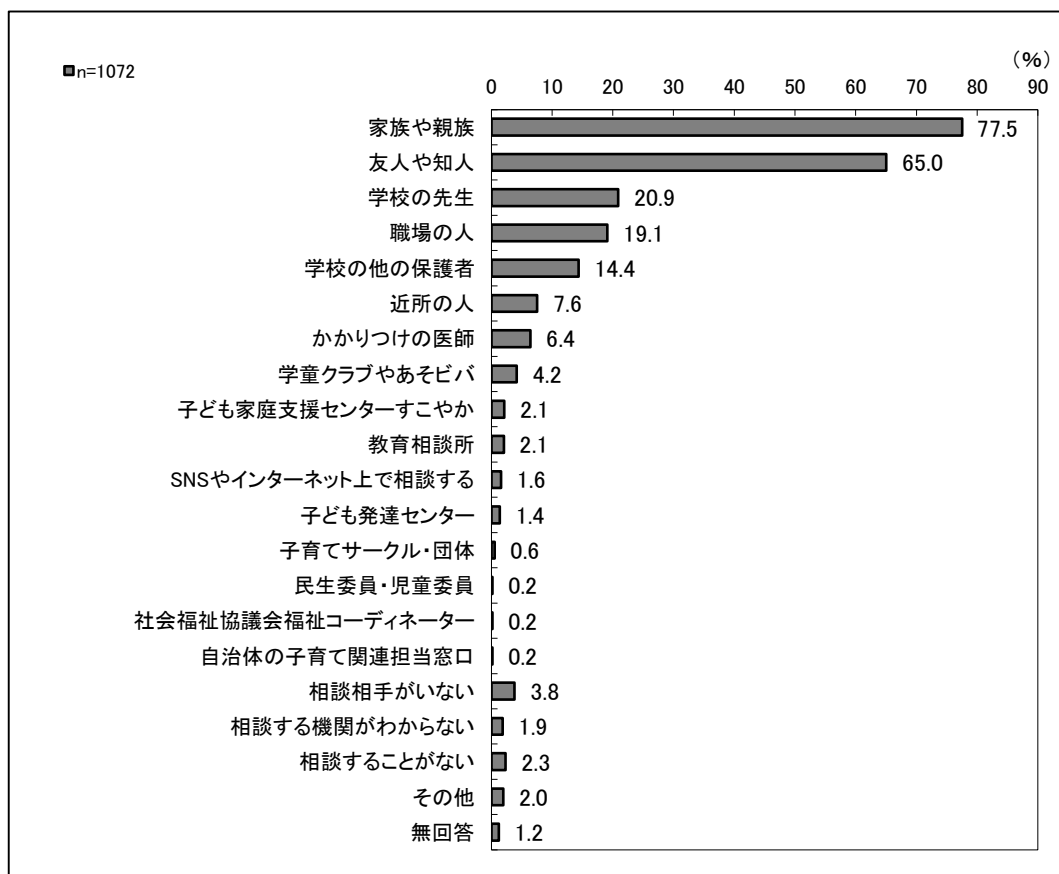


「家族や親族」(77.5%)、「友人や知人」(65.0%) が回答の半数以上を占め身近な人を相談先とする傾向が強い。

「学校の先生」(20.9%)、「職場の人」(19.1%)、「学校の他の保護者」(14.4%) 等がこれに続く。

「相談相手がない」とする回答は 3.8%となっている。

■ 気軽に相談できる相談先 ■



(3) 地域交流の場の利用の有無

問 15 地域との繋がりや交流ができる，次のような地域交流の場を利用したことがありますか。【複数回答】

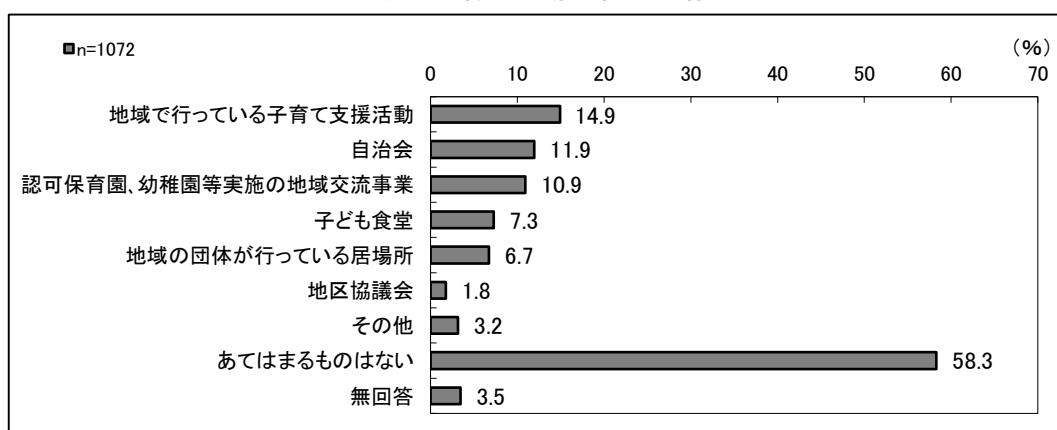


「あてはまるものはない」が 58.3%で地域での活動や場を利用したことがない回答が約6割を占める。

「地域で行っている子育て支援活動」(14.9%)，「自治会」(11.9%)，「認可保育園、幼稚園等実施の地域交流事業」(10.9%)，「子ども食堂」(7.3%)，「地域の団体が行っている居場所」(6.7%)等がこれに続く。

地域での活動や場をしたことがある回答は2割未満となっている。

■地域での活動や場の利用の有無■



(4) あるとよいと思う地域の活動

問 15-1 地域との繋がりや交流ができる場には、どのような活動があると良いと思いますか。

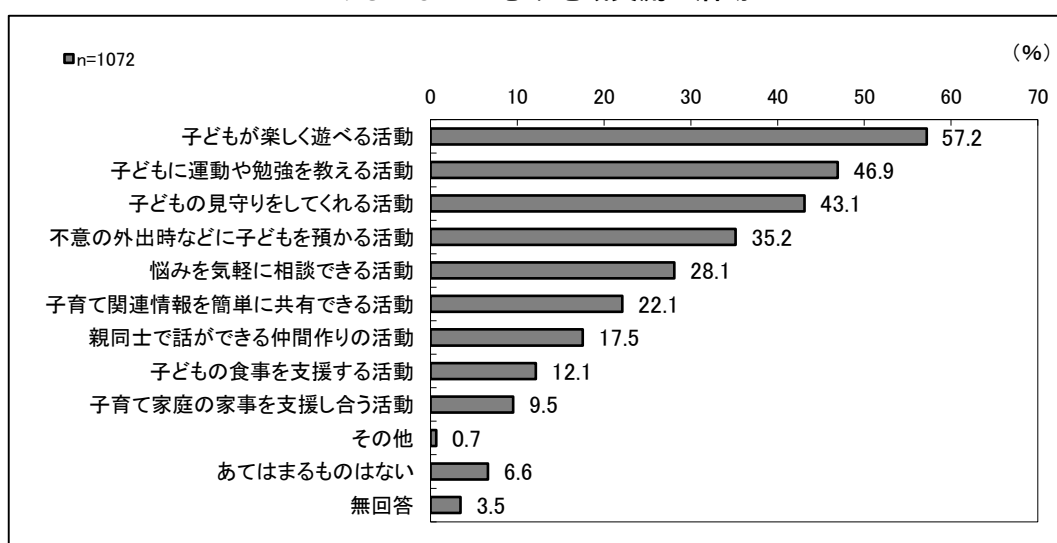
【複数回答】



「子どもが楽しく遊べる活動」(57.2%)、「子どもに運動や勉強を教える活動」(46.9%)、「子どもの見守りをしてくれる活動」(43.1%)が上位3位までを占める。

「不意の外出時などに子どもを預かる活動」(35.2%)、「悩みを気軽に相談できる活動」(28.1%)、「子育て関連情報を簡単に共有できる活動」(22.1%等がこれに続く。

■あるとよいと思う地域交流の活動■



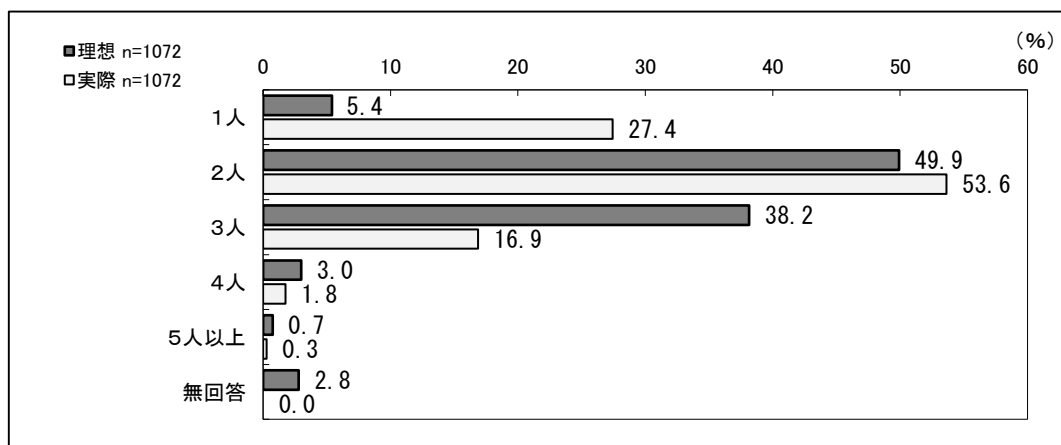
(5) 理想とする子どもの人数

問 16 理想とするお子さんの人数は何人くらいですか。

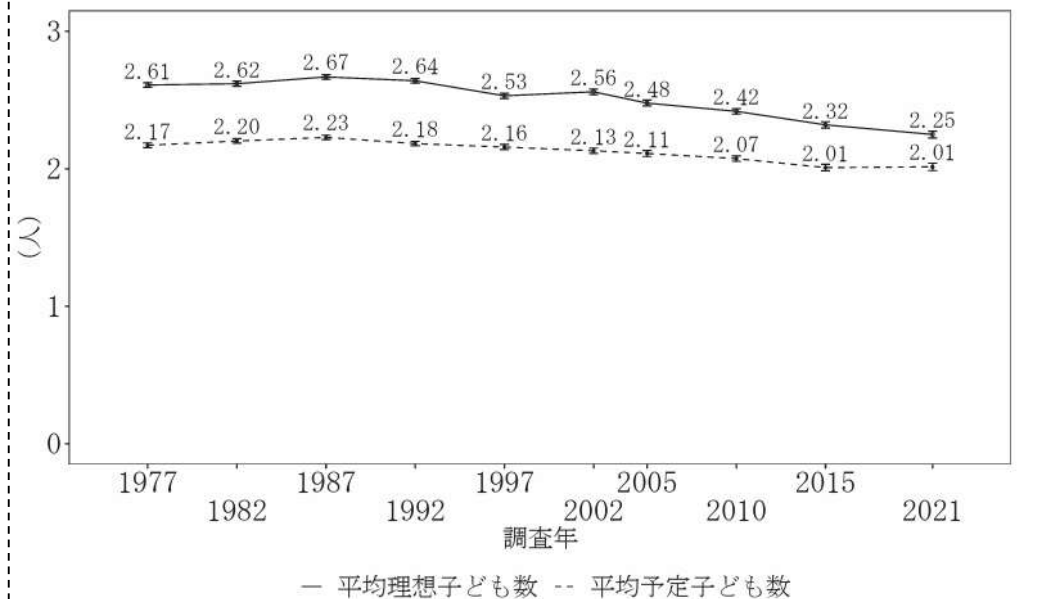
「2人」(49.9%), 「3人」(38.2%), 「1人」(5.4%), 「4人」(3.0%), 「5人以上」(0.7%)。 “2人”以上の回答が91.8%で大半を占める。一方で、問3(1), (2)の回答から算出した(4)きょうだいの人数と比較すると理想とする子どもの人数よりも実際のきょうだいの人数は少ない。

参考資料「国立社会保障・人口問題研究所 出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」をみると、調布市の調査結果と同様、国全体としても「平均予定子ども数」が「平均理想子ども数」を下回っている。

■理想とする子どもの人数■



図表 7-1-1 調査別に見た、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数



注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。理想・予定子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。なお、未婚女性の希望子ども数との比較の観点から、妻の年齢を35歳未満に限定すると、平均理想子ども数は第7回（1977）2.52、第8回（1982）2.59、第9回（1987）2.61、第10回（1992）2.54、第11回（1997）2.43、第12回（2002）2.43、第13回（2005）2.40、第14回（2010）2.41、第15回（2015）2.43、第16回（2021）2.29、平均予定子ども数は、第7回（1977）2.18、第8回（1982）2.25、第9回（1987）2.31、第10回（1992）2.21、第11回（1997）2.18、第12回（2002）2.11、第13回（2005）2.15、第14回（2010）2.24、第15回（2015）2.28、第16回（2021）2.17である。設問①理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」（0. 子どもはいない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上（ ）人）。②予定子ども数：「そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。」（0. 子どもは持たない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上（ ）人）。

【報告書図表7-1-1 調査別に見た、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数】

調査対象：「令和3年国民生活基礎調査」で設定された調査区から無作為に選ばれた全国1,000調査区に居住する18歳以上55歳未満の独身者と妻の年齢が55歳未満の夫婦（回答者は妻）

調査時期：2021年6月（6月30日現在の事実）

※ 「こども大綱」における「こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標」の1つ

(6) 理想とする人数の子どもを育てやすくなるための課題

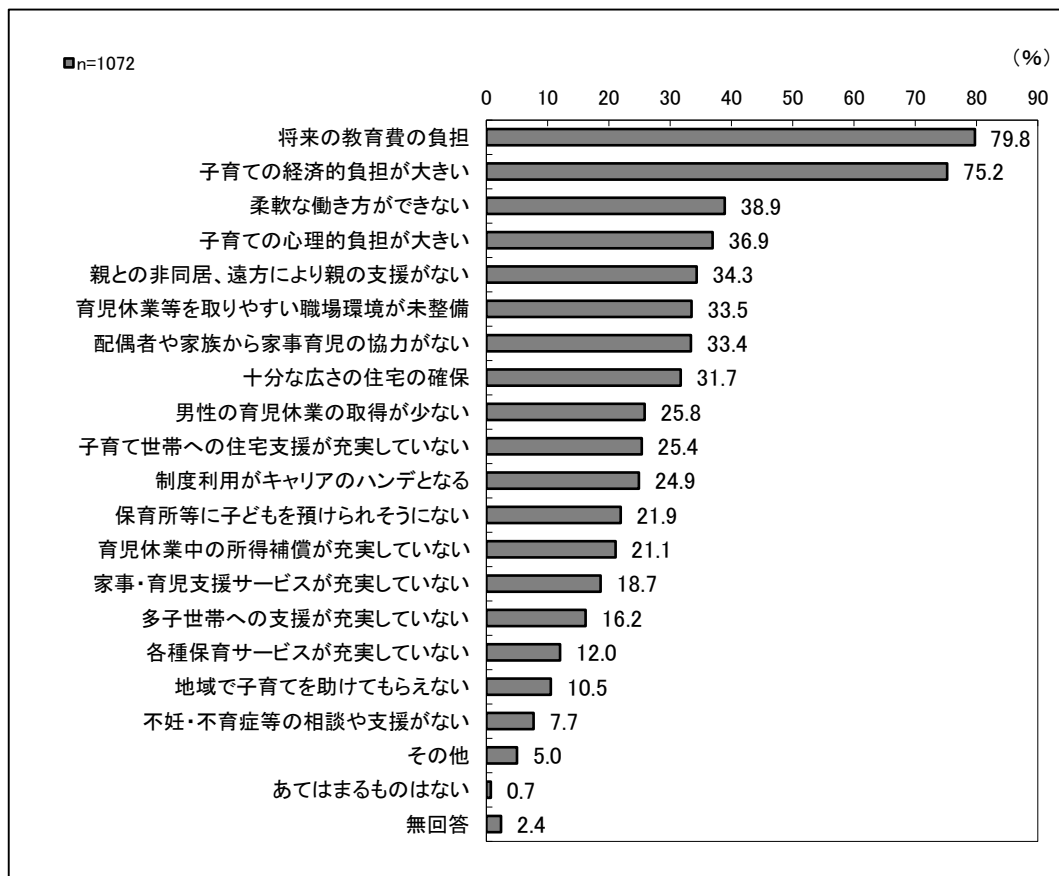
問 16-1 すべての人が理想とする人数の子どもを育てやすくなるためには、どのようなことが課題になるとお考えですか。【複数回答】



「将来の教育費の負担」(79.8%)、「子育ての経済的負担が大きい」(75.2%)が回答者の7割以上を占める。子どもを育てやすくなるためには、経済的な要因の改善が必要と回答する傾向が強い。

「柔軟な働き方ができない」(38.9%)、「子育ての心理的負担が大きい」(36.9%)、「親との非同居、遠方により親の支援がない」(34.3%)、「育児休業等を取りやすい職場環境が未整備」(33.5%)等がこれに続く。

■理想とする人数の子どもを育てやすくなるための課題■



6. 市の子育て支援サービス等について

(1) 子育てに関する情報の入手先

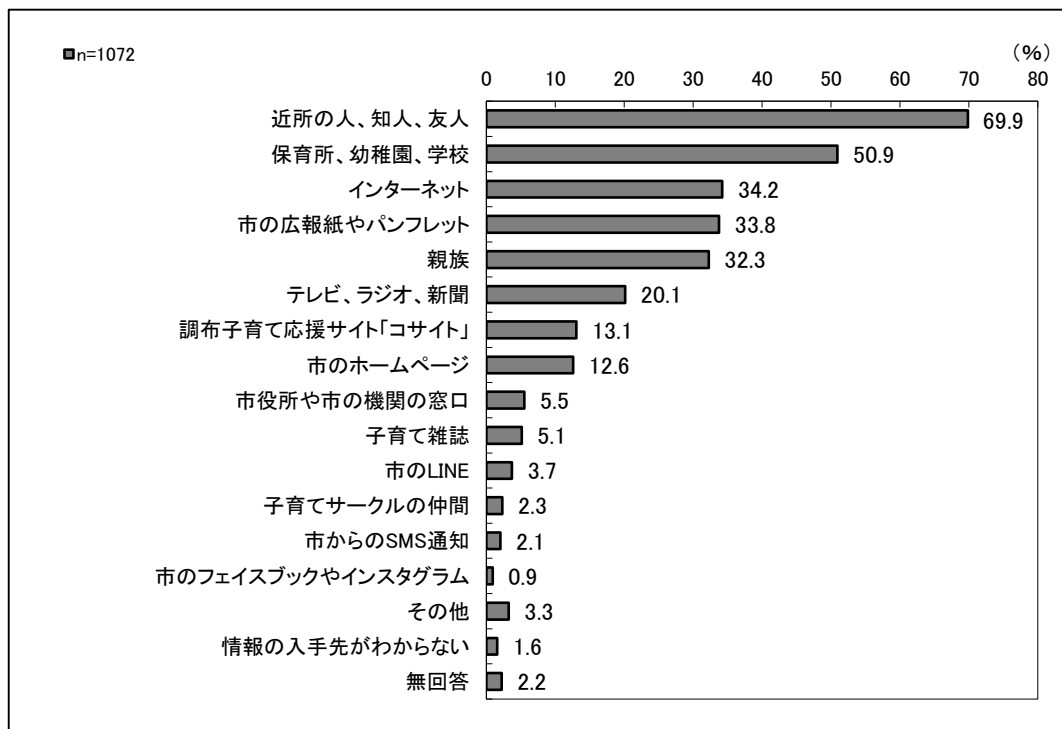
問 17 あなたは、子育てに関する情報をどこ（誰・何）から入手していますか。【複数回答】

「近所の人、知人、友人」が69.9%で約7割を占める。

「保育所、幼稚園、学校」(50.9%)、「インターネット」(34.2%)、「市の広報紙やパンフレット」(33.8%)、「親族」(32.3%)、「テレビ、ラジオ、新聞」(20.1%)等がこれに続く。

「情報の入手先がわからない」への回答が1.6%であるほか、市のホームページ、フェイスブックやインスタグラム、LINEなどのSNSなどの情報発信による情報の入手が少ない傾向にある。

■子育てに関する情報の入手先■



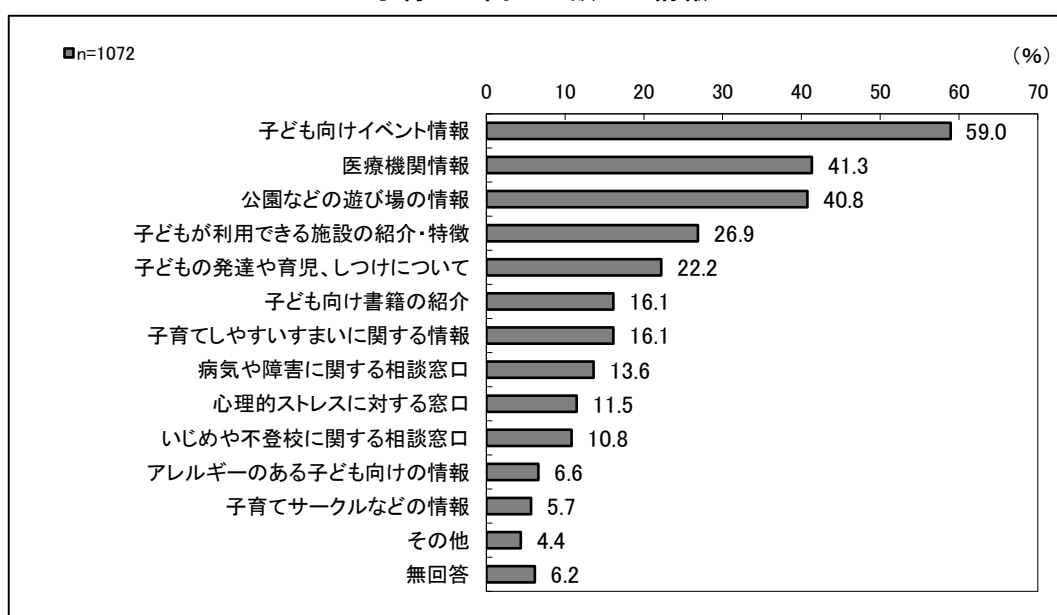
(2) 子育てに関して欲しい情報

問 17-1 あなたは、子育てに関するどのような情報が欲しいですか。【複数回答】

「子ども向けイベント情報」(59.0%)、「医療機関情報」(41.3%)、「公園などの遊び場の情報」(40.8%)が上位3位を占める。

「子どもが利用できる施設の紹介・特徴」(26.9%)、「子どもの発達や育児、しつけについて」(22.2%)、「子ども向け書籍の紹介」(16.1%)、「子育てしやすいすまいに関する情報」(16.1%)等がこれに続く。

■子育てに関して欲しい情報■



(3) 事業・サービス等の認知状況

問 18 次の施設やサービス等で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

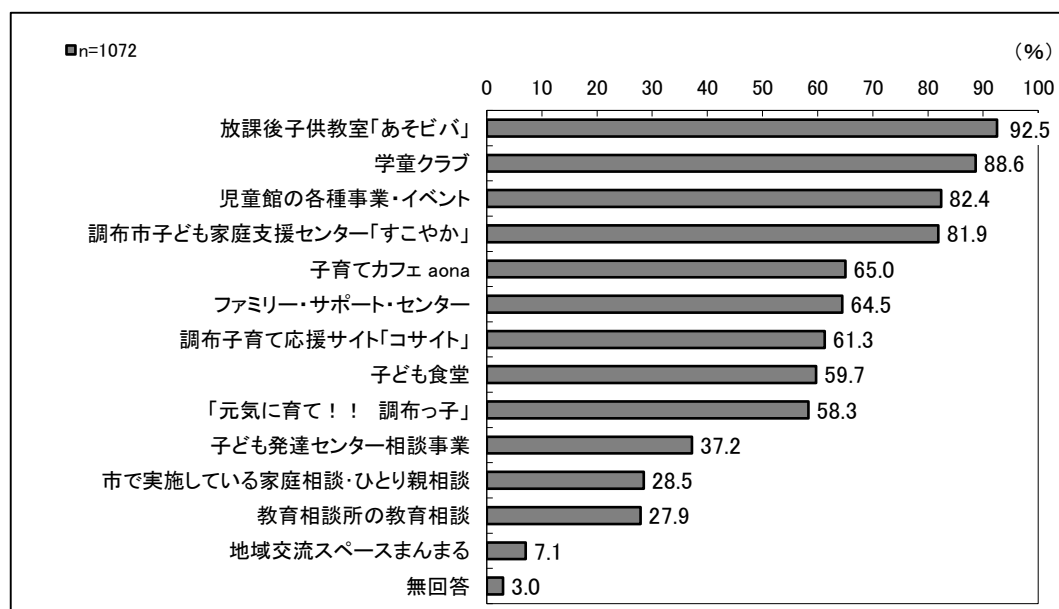
A 事業・サービス等の認知状況【複数回答】

前回調査結果に引き続き、最も認知状況が高かったのは「放課後子供教室「あそびバ」」で、92.5%の回答者に認知されている。

「学童クラブ」(88.6%)、「児童館の各種事業・イベント」(82.4%)、「調布市子ども家庭支援センター「すこやか」」(81.9%)、「子育てカフェ aona」(65.0%)等がこれに続く。

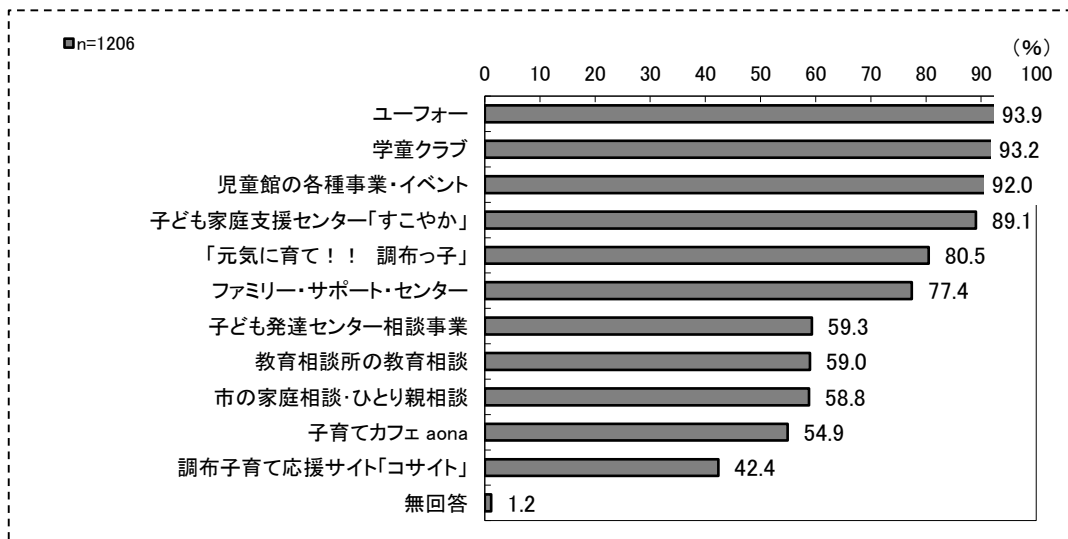
■ 事業・サービス等の認知状況 ■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(4) 事業・サービス等の利用状況

B 事業・サービス等の利用状況【複数回答】

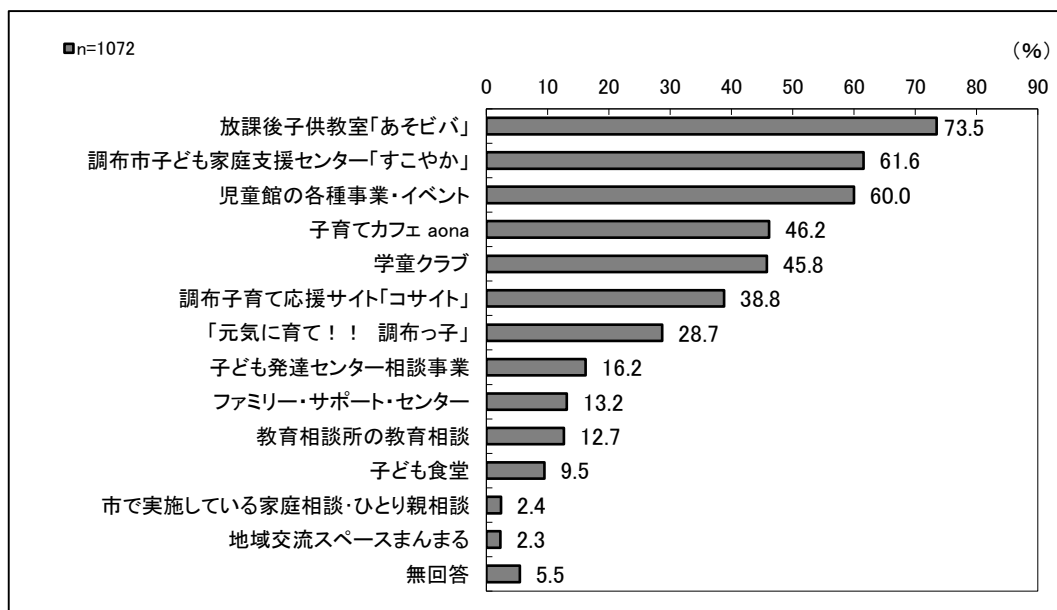
最も利用されているのは「放課後子供教室「あそびバ」」で、73.5%の回答者が「利用経験あり」としている。

「調布市子ども家庭支援センター「すこやか」」(61.6%)、「児童館の各種事業・イベント」(60.0%)、「子育てカフェ aona」(46.2%)、「学童クラブ」(45.8%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して、「元気に育て！！調布っ子」(18.1ポイント減)、「児童館の各種事業・イベント」(13.0ポイント減)、「放課後子供教室「あそびバ」」(7.8ポイント減)等の「利用経験あり」が減っている。

また、子どもの学年と事業・サービス等の利用状況とクロス集計し、子どもの学年別に「児童館の各種事業・イベント」,「放課後子供教室「あそびバ」」,「調布市子ども家庭支援センター「すこやか」」に着目してみると過半数が「利用経験あり」としている。

■事業・サービス等の利用状況■



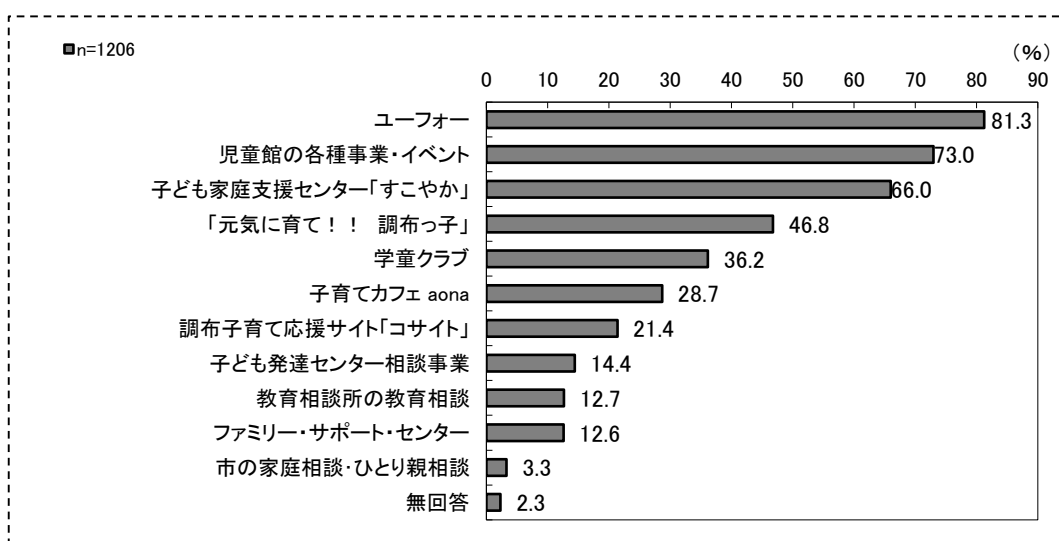
※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

■子どもの学年と事業・サービス等の利用状況とのクロス集計表■

	合計	問18 B 事業・サービス等の利用状況								
		児童館の各種事業・イベント	放課後子供教室「あそびバ」	学童クラブ	調布市子ども家庭支援センター「すこやか」	ファミリー・サポート・センター	市で実施している家庭相談・ひとり親相談	教育相談所の教育相談	「元気に育て！！調布っ子」	
全体	1072 100.0%	643 60.0%	788 73.5%	491 45.8%	660 61.6%	141 13.2%	26 2.4%	136 12.7%	308 28.7%	
学年	1年生	136 100.0%	69 50.7%	103 75.7%	67 49.3%	80 58.8%	16 11.8%	0 0.0%	13 9.6%	38 27.9%
	2年生	139 100.0%	79 56.8%	88 63.3%	85 61.2%	84 60.4%	17 12.2%	4 2.9%	17 12.2%	31 22.3%
	3年生	153 100.0%	92 60.1%	109 71.2%	75 49.0%	94 61.4%	17 11.1%	4 2.6%	25 16.3%	42 27.5%
	4年生	201 100.0%	113 56.2%	154 76.6%	77 38.3%	127 63.2%	26 12.9%	9 4.5%	19 9.5%	60 29.9%
	5年生	244 100.0%	158 64.8%	185 75.8%	107 43.9%	145 59.4%	28 11.5%	2 0.8%	33 13.5%	71 29.1%
	6年生	193 100.0%	129 66.8%	146 75.6%	78 40.4%	126 65.3%	37 19.2%	7 3.6%	28 14.5%	66 34.2%

	合計	問18 B 事業・サービス等の利用状況						
		調布子育て応援サイト「コサイト」	子育てカフェ aona	子ども発達センター相談事業	子ども食堂	地域交流スペースまんまる	無回答	
全体	1072 100.0%	416 38.8%	495 46.2%	174 16.2%	102 9.5%	25 2.3%	59 5.5%	
学年	1年生	136 100.0%	62 45.6%	72 52.9%	26 19.1%	10 7.4%	4 2.9%	2 1.5%
	2年生	139 100.0%	52 37.4%	56 40.3%	19 13.7%	8 5.8%	5 3.6%	9 6.5%
	3年生	153 100.0%	71 46.4%	82 53.6%	21 13.7%	13 8.5%	4 2.6%	8 5.2%
	4年生	201 100.0%	81 40.3%	101 50.2%	27 13.4%	26 12.9%	2 1.0%	10 5.0%
	5年生	244 100.0%	76 31.1%	102 41.8%	43 17.6%	23 9.4%	4 1.6%	18 7.4%
	6年生	193 100.0%	73 37.8%	80 41.5%	38 19.7%	22 11.4%	6 3.1%	10 5.2%

【前回調査（参考）】



(5) 事業・サービス等の利用意向

C 事業・サービス等の利用意向【複数回答】

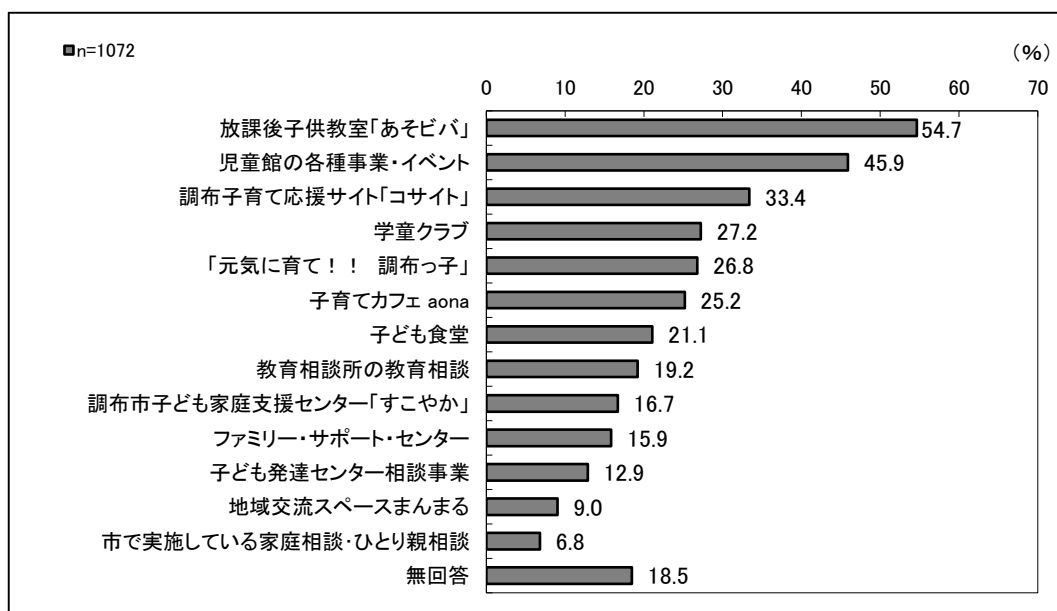
「放課後子供教室「あそびバ」(54.7%)の利用意向が半数以上を占めている。

「児童館の各種事業・イベント」(45.9%),「調布子育て応援サイト「コサイト」」(33.4%),「学童クラブ」(27.2%),「「元気に育て!! 調布っ子」」(26.8%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して、「放課後子供教室「あそびバ」(7.9ポイント減),「児童館の各種事業・イベント」(15.0ポイント減)の利用意向は他と比較すると高いものの,回答割合は減少している。

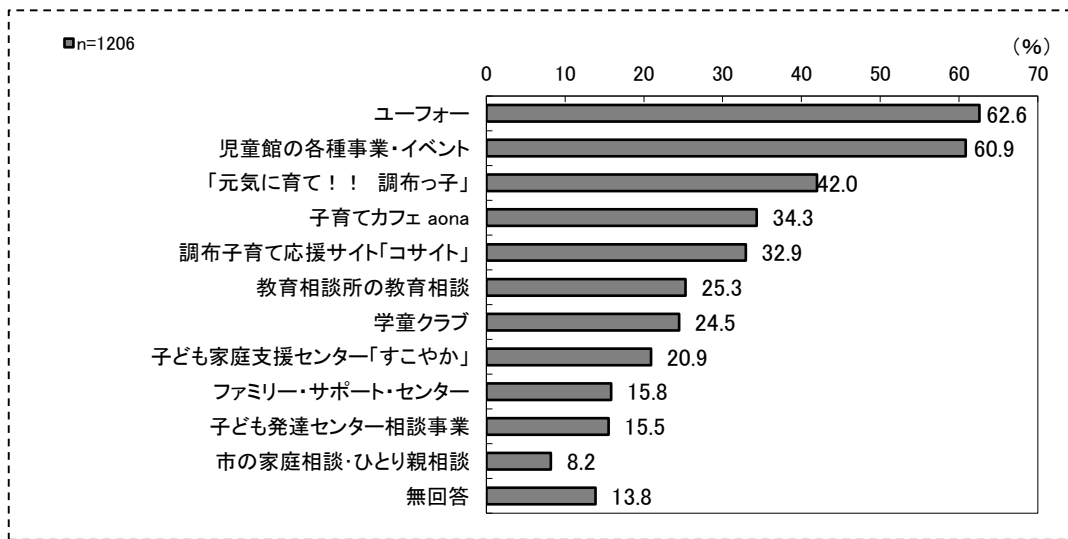
■事業・サービス等の利用意向■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は,令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



7. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

(1) 現状 ① 学校終了後～17:00

問 19 宛名のお子さんについて、現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか。

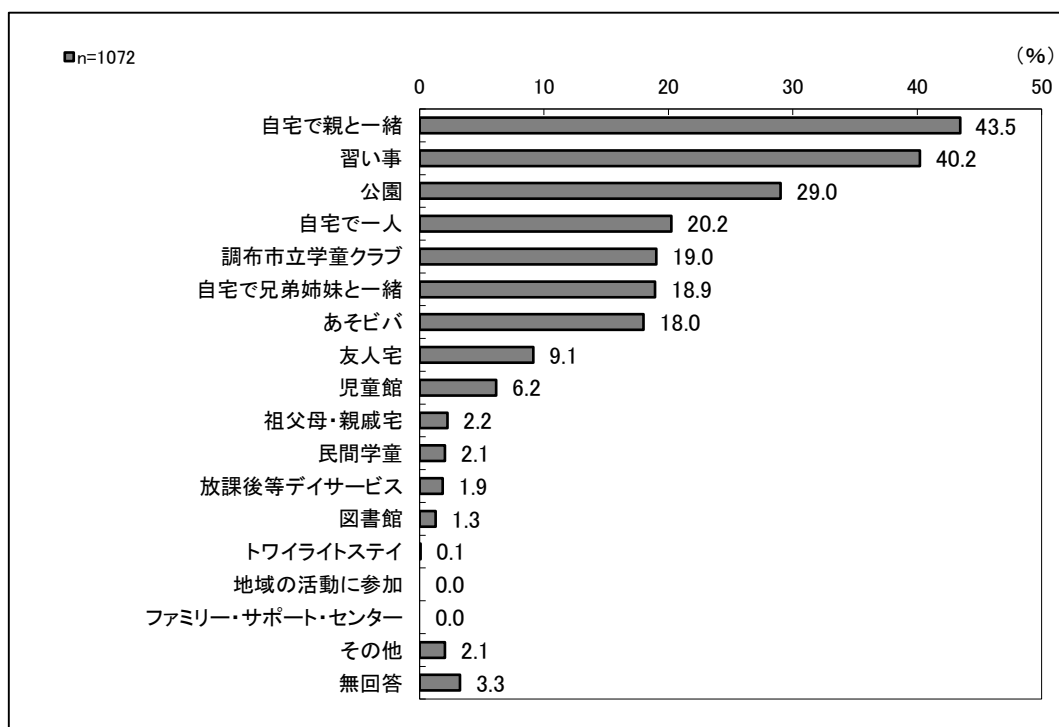
(1) 学校終了後～17:00【複数回答】

「自宅で親と一緒に」が43.5%、「習い事」が40.2%で高い割合を占めている。
「公園」(29.0%)、「自宅で一人」(20.2%)、「調布市立学童クラブ」(19.0%)、「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(18.9%)、「あそびバ」(18.0%)等がこれに続く。

前回調査結果と比較して、「自宅で親と一緒に」、「習い事」、「公園」、「自宅で一人」等への回答割合が増加している。

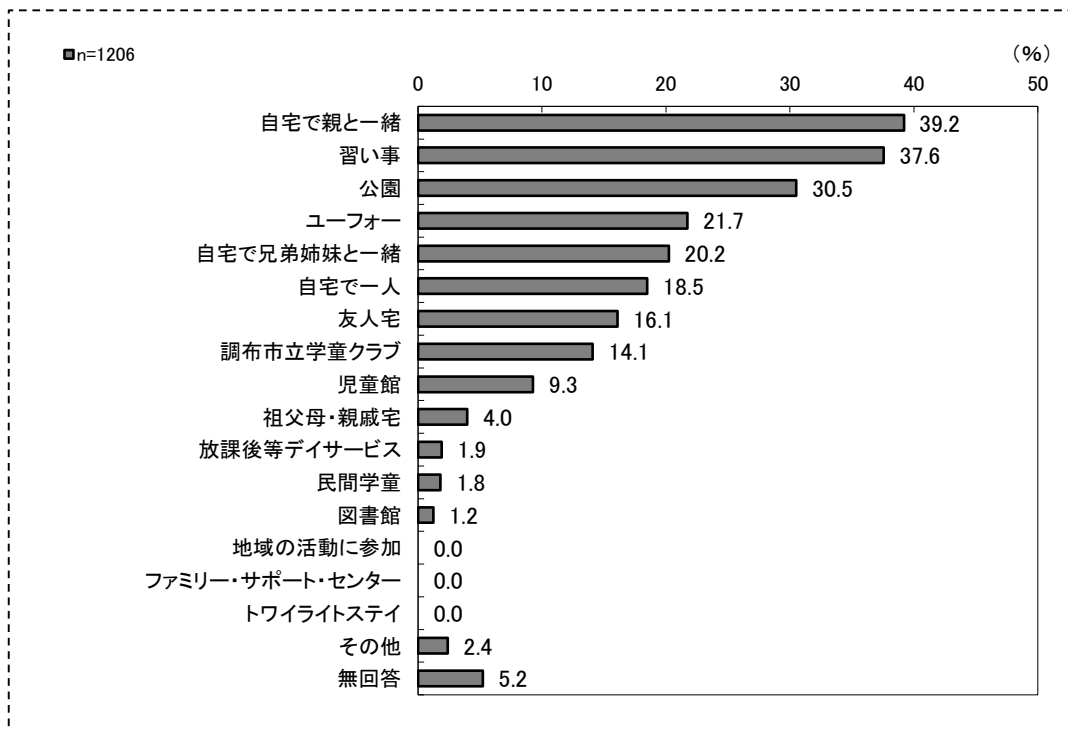
■現状 (1) 学校終了後～17:00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



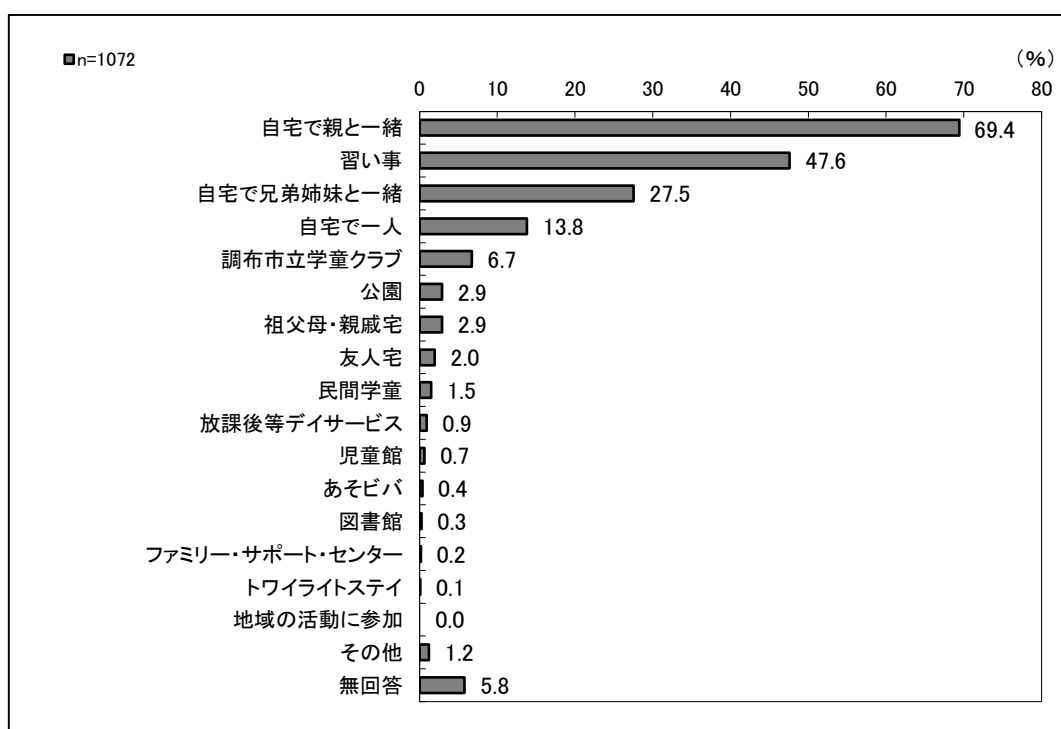
(2) 現状 ② 17:00~19:00

(2) 17:00~19:00【複数回答】

「自宅で親と一緒に」が69.4%、「習い事」が47.6%で高い割合を占めている。
「習い事」(47.6%)、「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(27.5%)等がこれに続く。
前回調査結果と比較して、「自宅で親と一緒に」、「自宅で兄弟姉妹と一緒に」、「自宅で一人」等への回答割合が増加している。

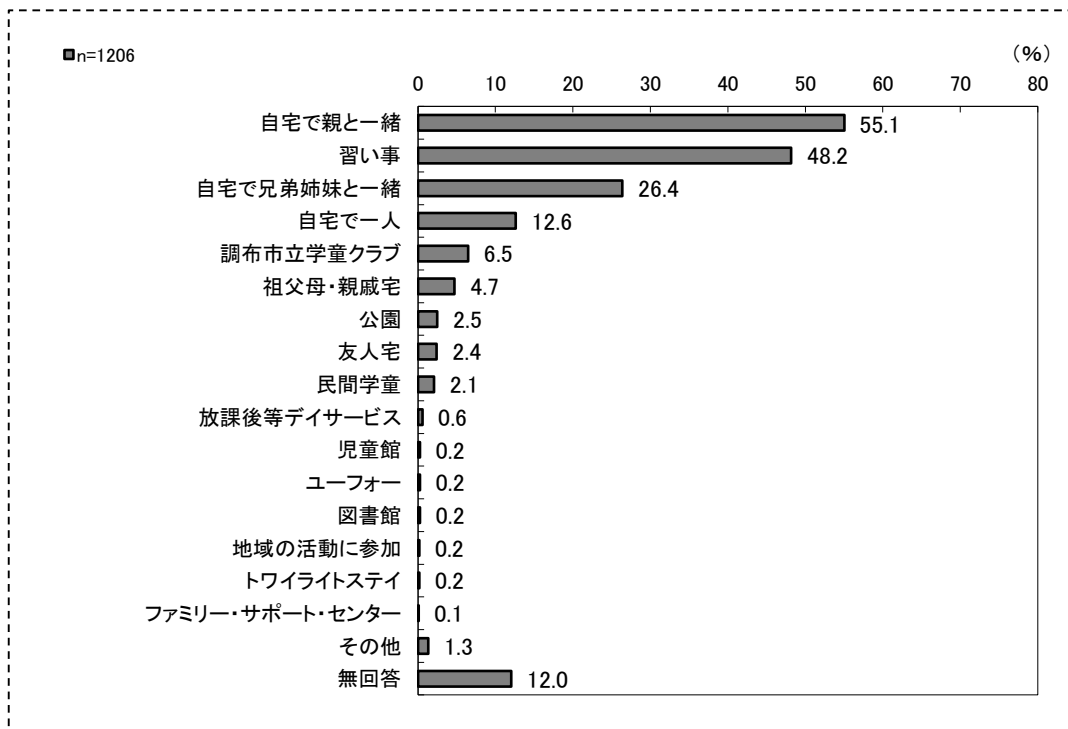
■現状 (2) 17:00~19:00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(3) 現状 ③ 19:00～

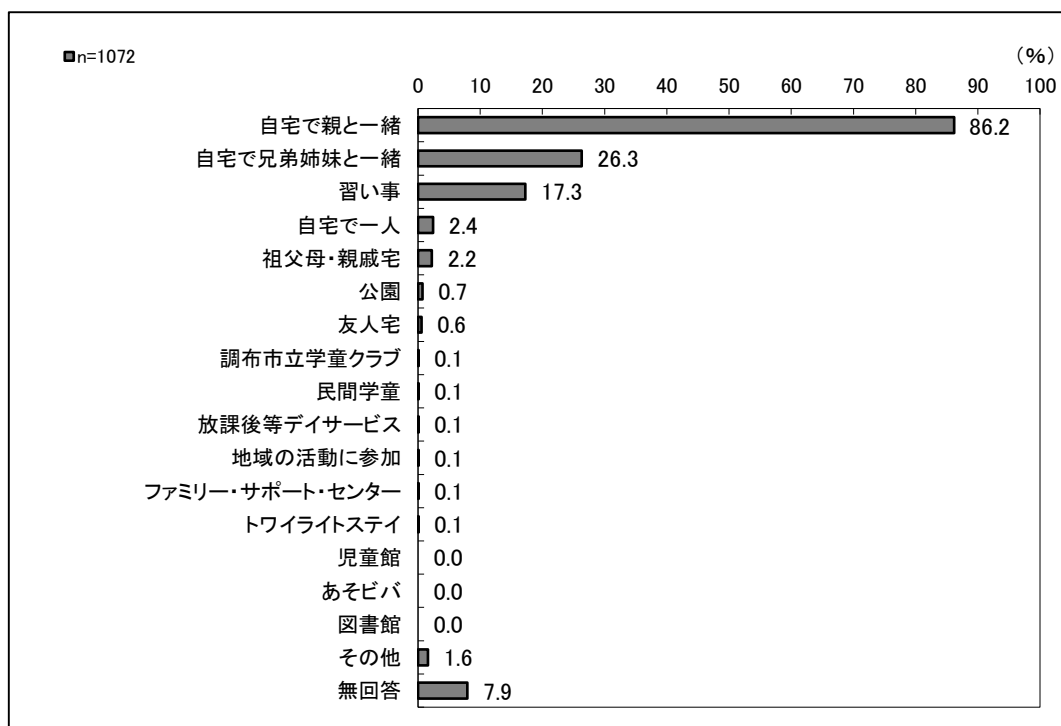
(3) 19:00～【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(86.2%)が最も高い割合で、前回調査結果から17.9ポイント増加している。

「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(26.3%),「習い事」(17.3%)等がこれに続く。

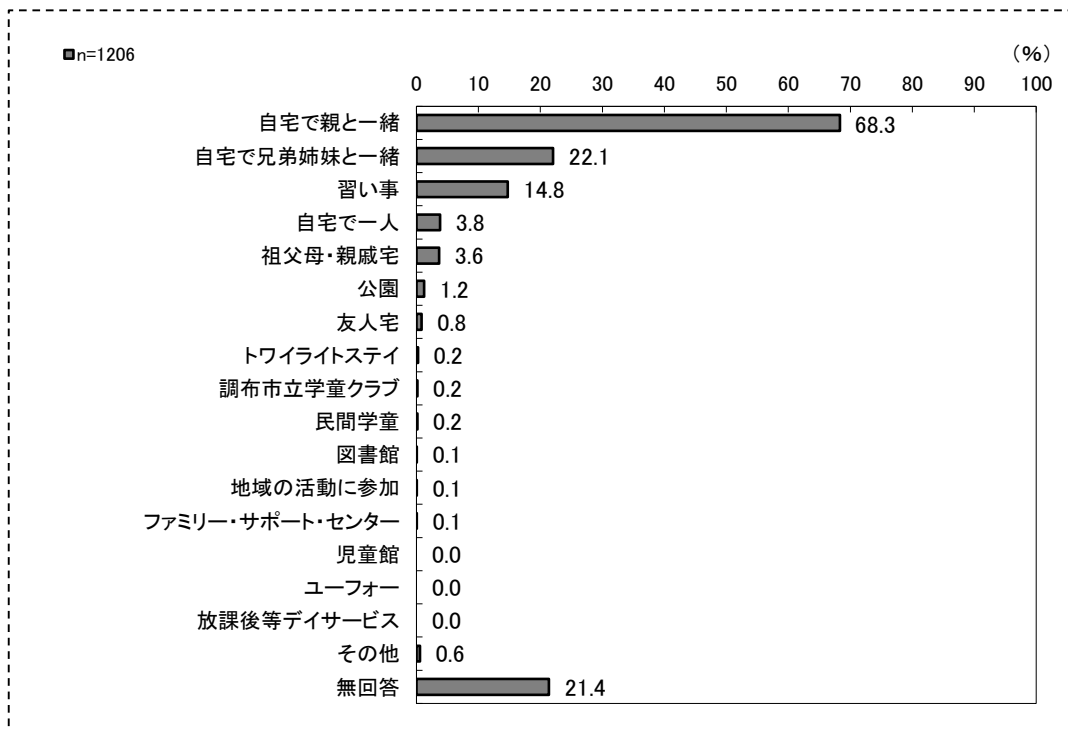
■現状 (3) 19:00～■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(4) ① 現在低学年：希望－低学年 (1) 学校終了後～17：00

※ 小学校1年生～3年生の方のみ

問 19-1 放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。
 小学校低学年(1～3年生)の場合と小学校高学年(4～6年生)になった場合について、
 下記(1)～(3)の時間帯ごとに、あてはまるもの3つまでに○をつけてください。高学
 年については、先のことになりますが、現在お持ちの考えでお答えください。

① 現在低学年：希望－低学年 (1) 学校終了後～17：00【複数回答】

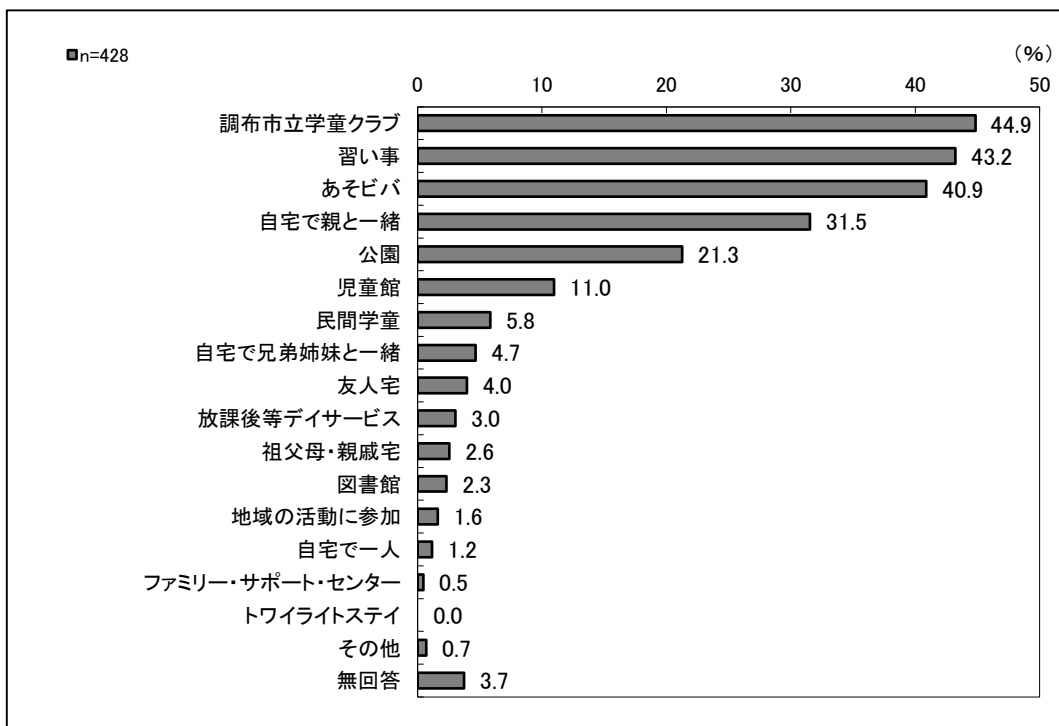
「調布市立学童クラブ」(44.9%)、「習い事」(43.2%)、「あそびバ」(40.9%)の回答が高い割合を占めている。

「自宅で親と一緒に」(31.5%)、「公園」(21.3%)、「児童館」(11.0%)等がこれに続く。

低学年時における「調布市立学童クラブ」(44.9%)は、前回調査結果と比較して16.3ポイント増加している。

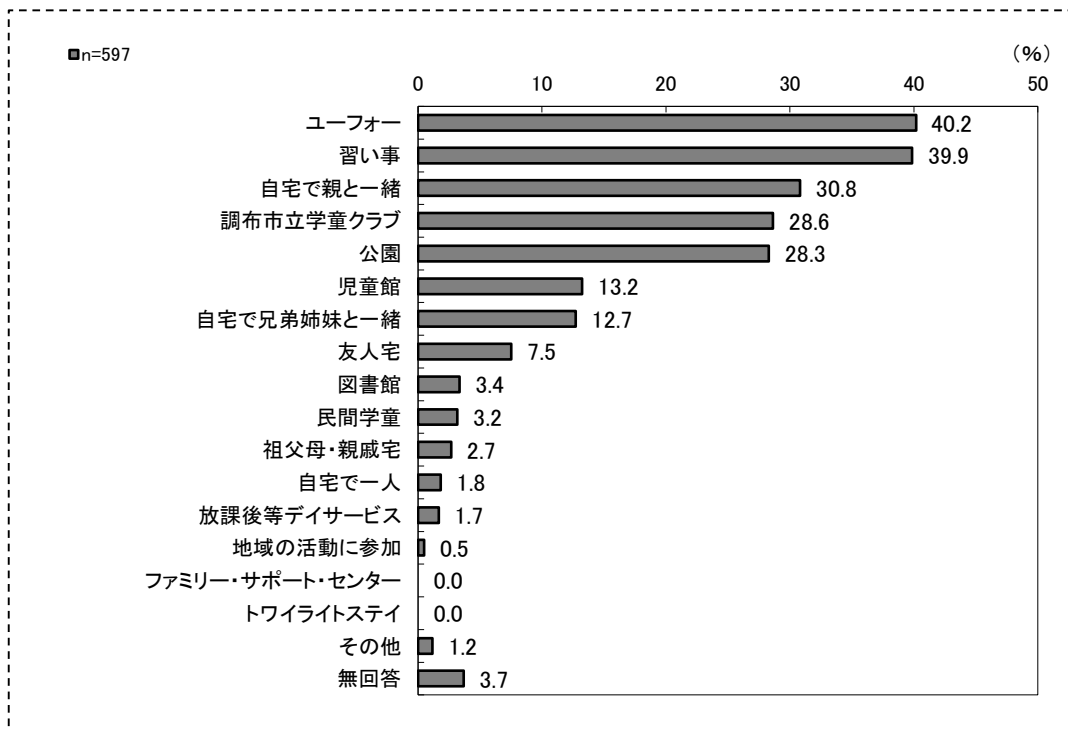
■① 現在低学年：希望－低学年 (1) 学校終了後～17：00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(5) ① 現在低学年：希望－低学年 (2) 17:00～19:00

① 現在低学年：希望－低学年 (2) 17:00～19:00【複数回答】

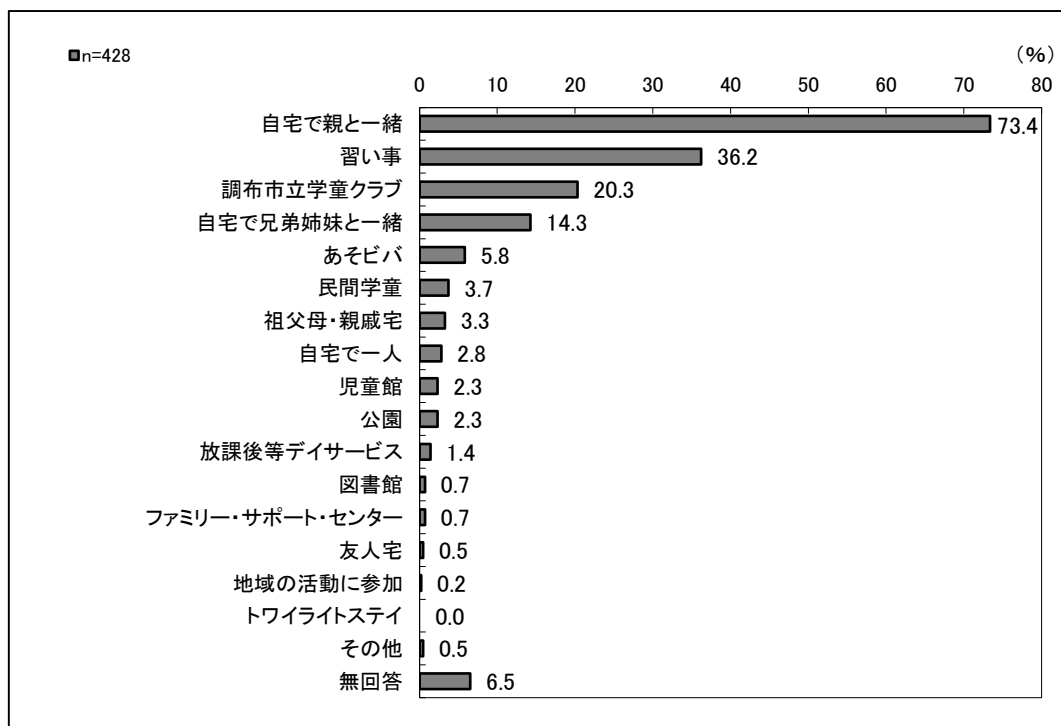
「自宅で親と一緒に」(73.4%)が最も高い割合で、前回調査結果から16.8ポイント増加している。

「習い事」(36.2%)、「調布市立学童クラブ」(20.3%)、「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(14.3%)、等がこれに続く。

「調布市立学童クラブ」(20.3%)は、前回調査結果と比較して4.2ポイント増加している。

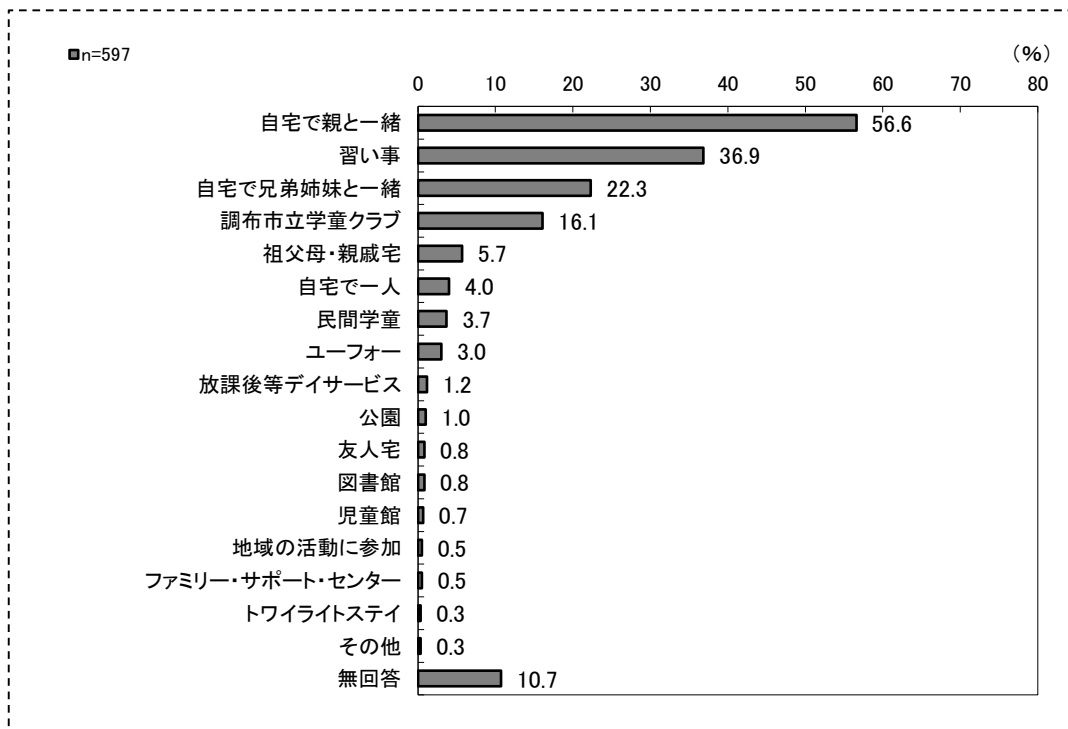
■① 現在低学年：希望－低学年 (2) 17:00～19:00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(6) ① 現在低学年：希望－低学年 (3) 19:00～

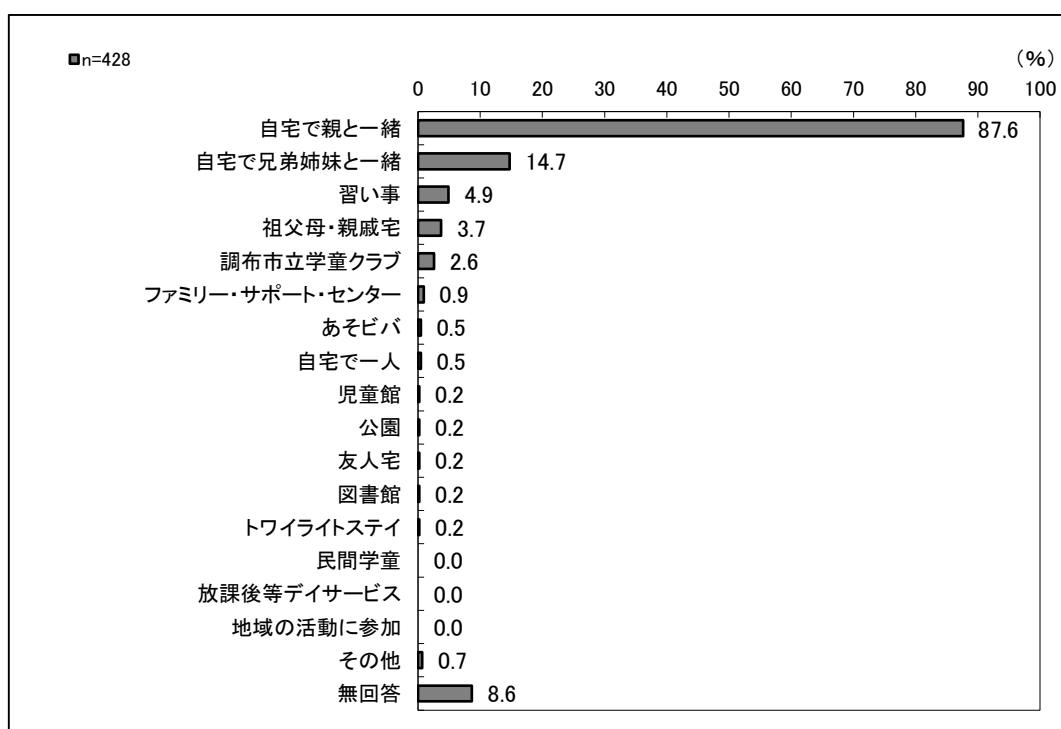
① 現在低学年：希望－低学年 (3) 19:00～【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(87.6%)が最も高い割合で、前回調査結果から15.9ポイント増加している。

「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(14.7%)、「習い事」(4.9%)、「祖父母・親戚宅」(3.7%)等がこれに続く。

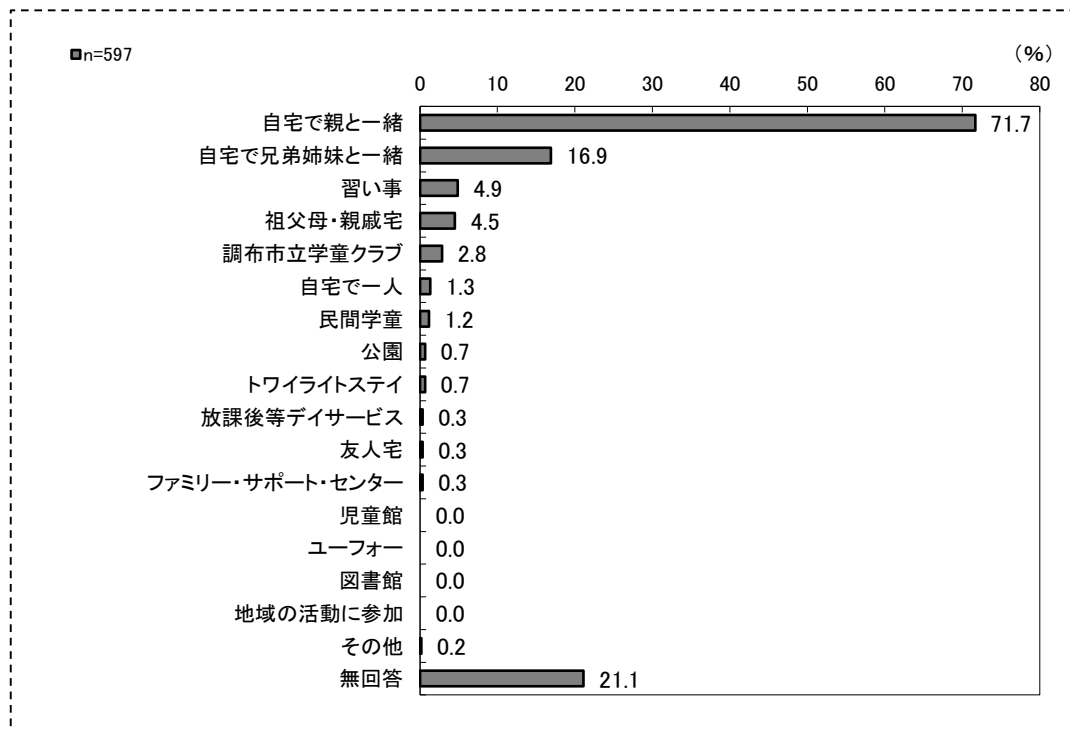
■① 現在低学年：希望－低学年 (3) 19:00～■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



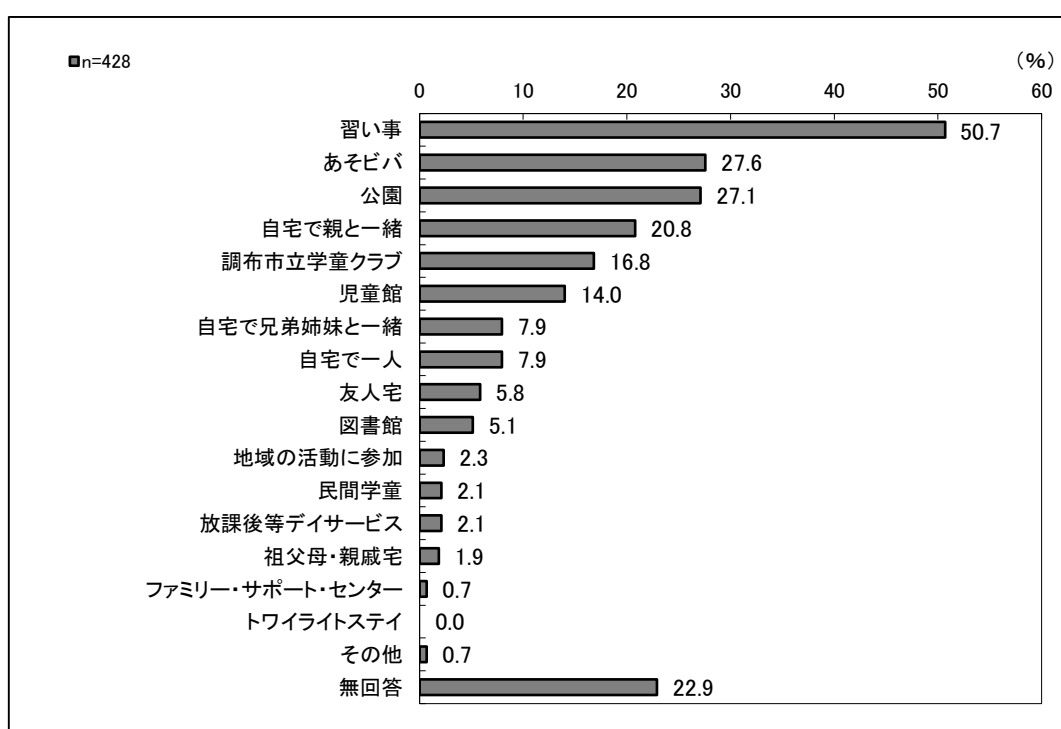
(7) ② 現在低学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17：00

② 現在低学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17：00 【複数回答】

「習い事」(50.7%)が最も高い割合で、前回調査結果から6.5ポイント増加している。
「あそびバ」(27.6%)、「公園」(27.1%)、「自宅で親と一緒に」(20.8%)、「調布市立学童クラブ」
(16.8%)、「児童館」(14.0%)等がこれに続く。
「あそびバ」(27.6%)は、前回調査結果と比較して5.3ポイント増加している。

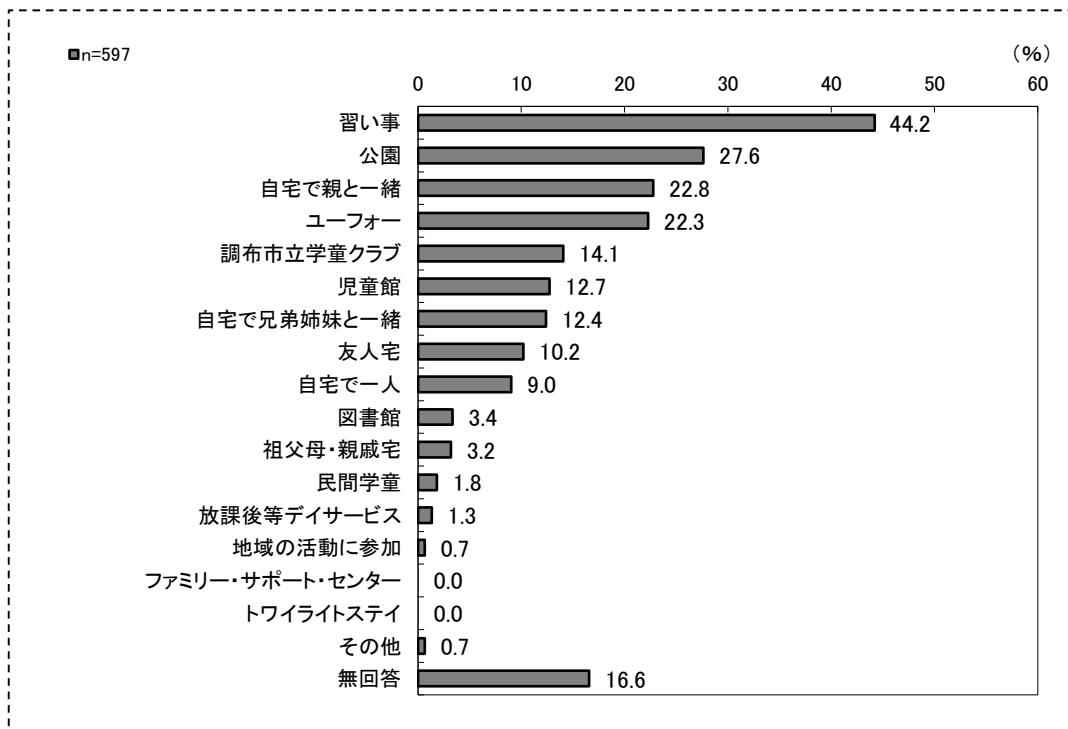
■② 現在低学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17：00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



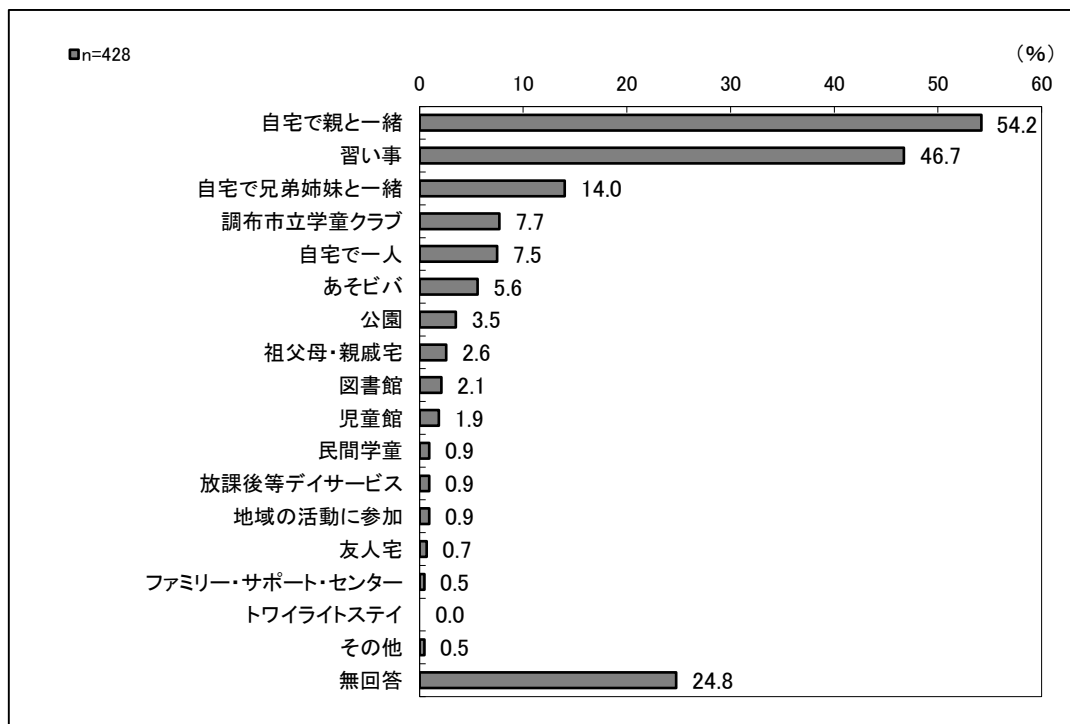
(8) ② 現在低学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00

② 現在低学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(54.2%)、「習い事」(46.7%)に回答が高い割合を占めている。
「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(14.0%)、「調布市立学童クラブ」(7.7%)、「自宅で一人」(7.5%)、「あそびバ」(5.6%)等がこれに続く。
「自宅で親と一緒に」(54.2%)は、前回調査結果と比較して9.5ポイント増加している。

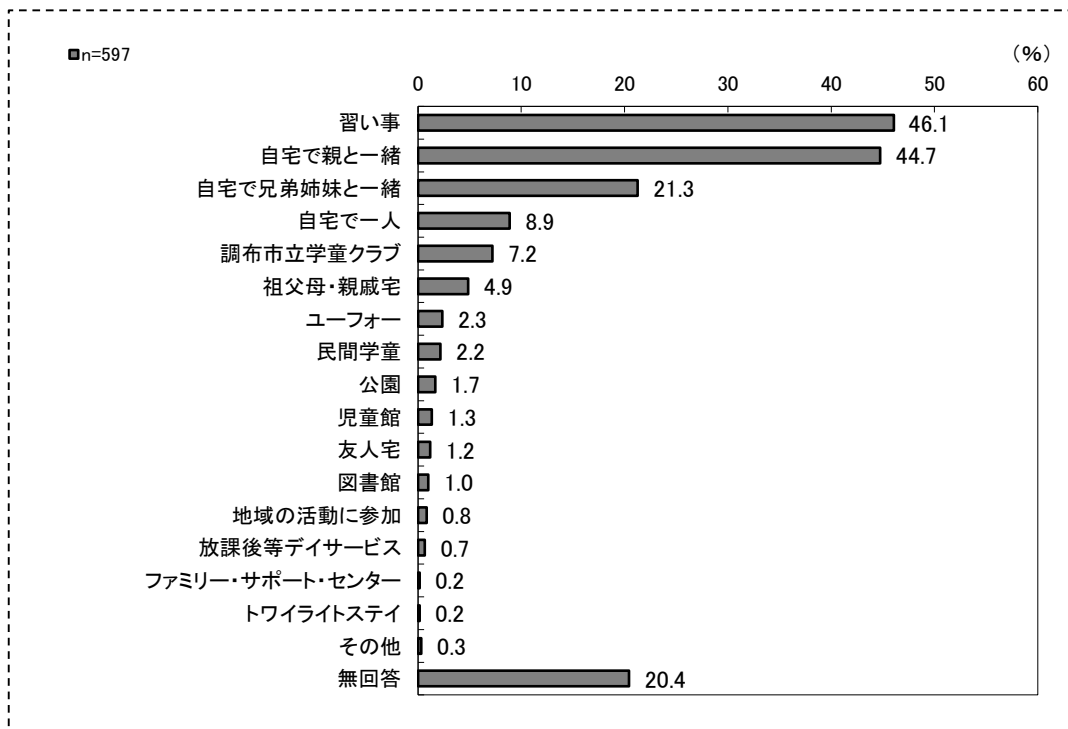
■② 現在低学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(9) ② 現在低学年：希望－高学年 (3) 19:00～

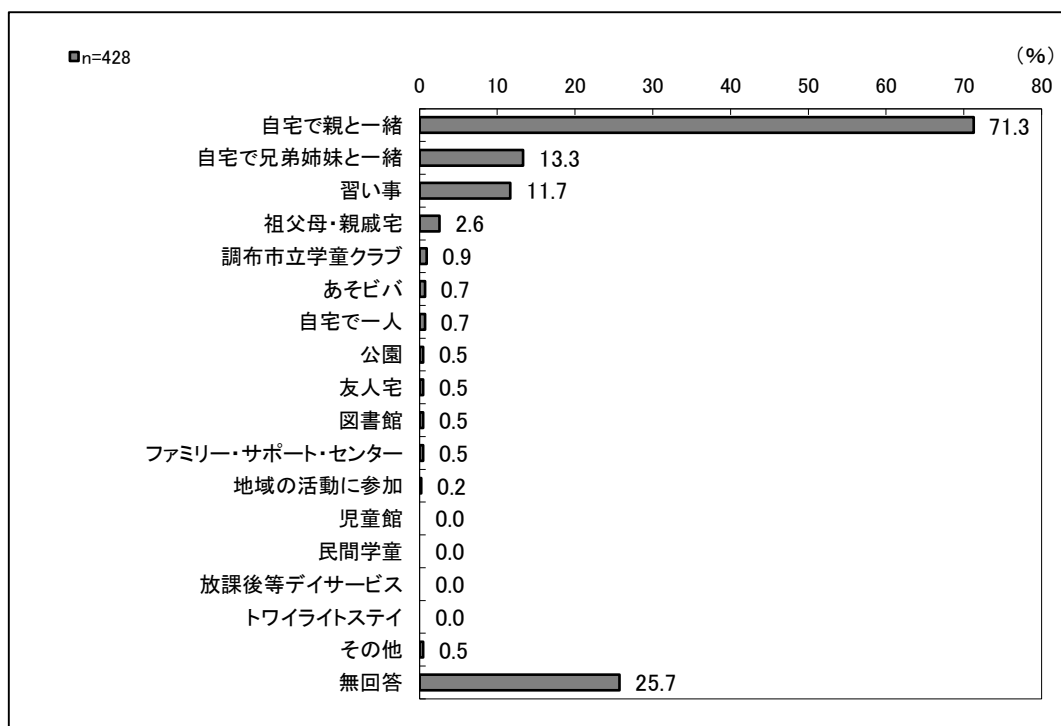
② 現在低学年：希望－高学年 (3) 19:00～【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(71.3%)が最も高い割合で、前回調査結果から8.5ポイント増加している。

「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(13.3%),「習い事」(11.7%)等がこれに続く。

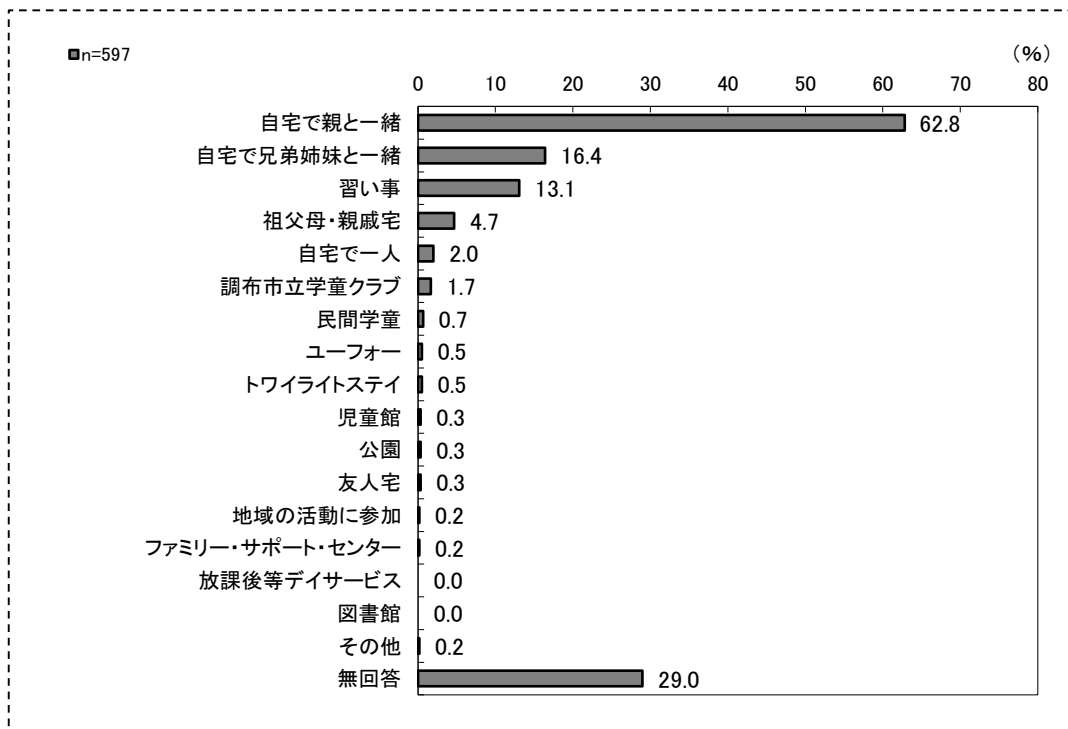
■② 現在低学年：希望－高学年 (3) 19:00～■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(10) 現在高学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17：00

※ 小学校4年生～6年生の方のみ

問 19-2 放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

【複数回答】

(1) 学校終了後～17：00 【複数回答】

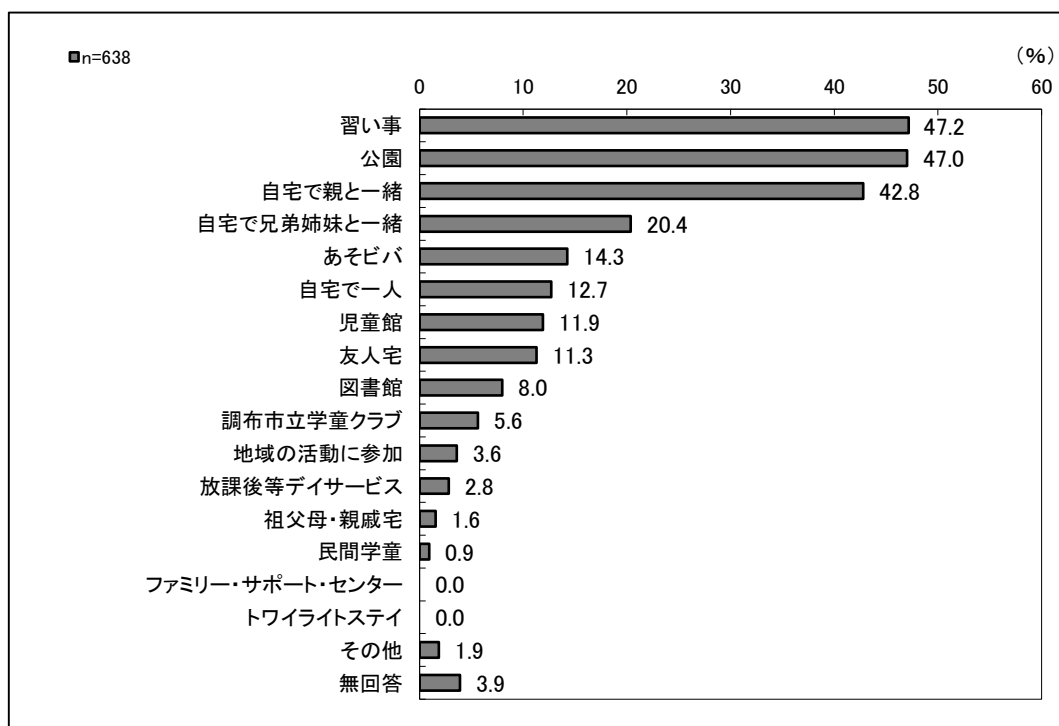
「習い事」(47.2%)、「公園」(47.0%)、「自宅で親と一緒に」(42.8%)に回答が高い割合を占めている。

「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(20.4%)、「あそびバ」(14.3%)、「自宅で一人」(12.7%)、「児童館」(11.9%)、「友人宅」(11.3%)等がこれに続く。

「自宅で親と一緒に」(47.2%)は、前回調査結果と比較して12.8ポイント増加している。

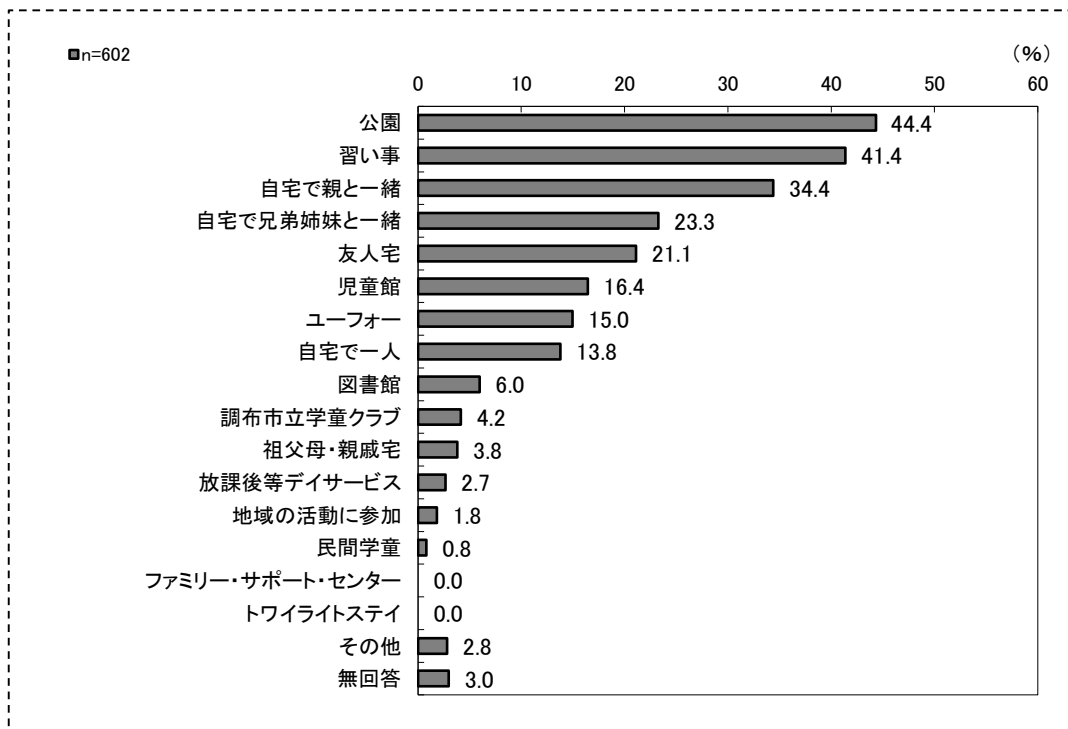
■現在高学年：希望－高学年 (1) 学校終了後～17：00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(11) 現在高学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00

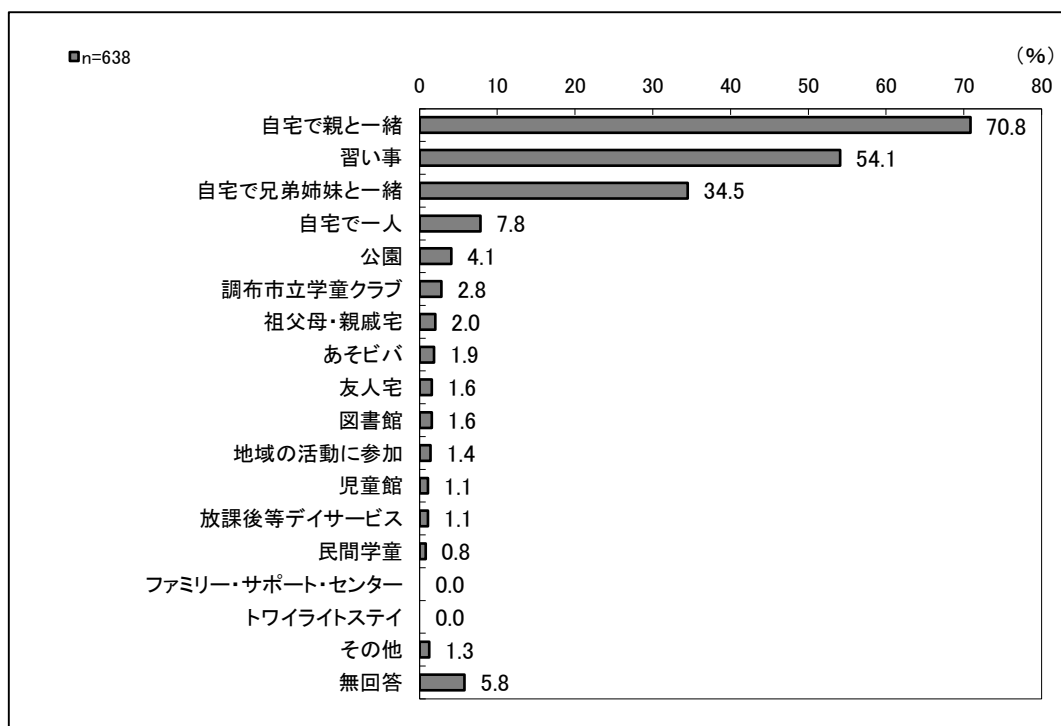
(2) 17:00～19:00【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(70.8%)が最も高い割合で、前回調査結果から11.5ポイント増加している。

「習い事」(54.1%)、「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(34.5%)等がこれに続く。

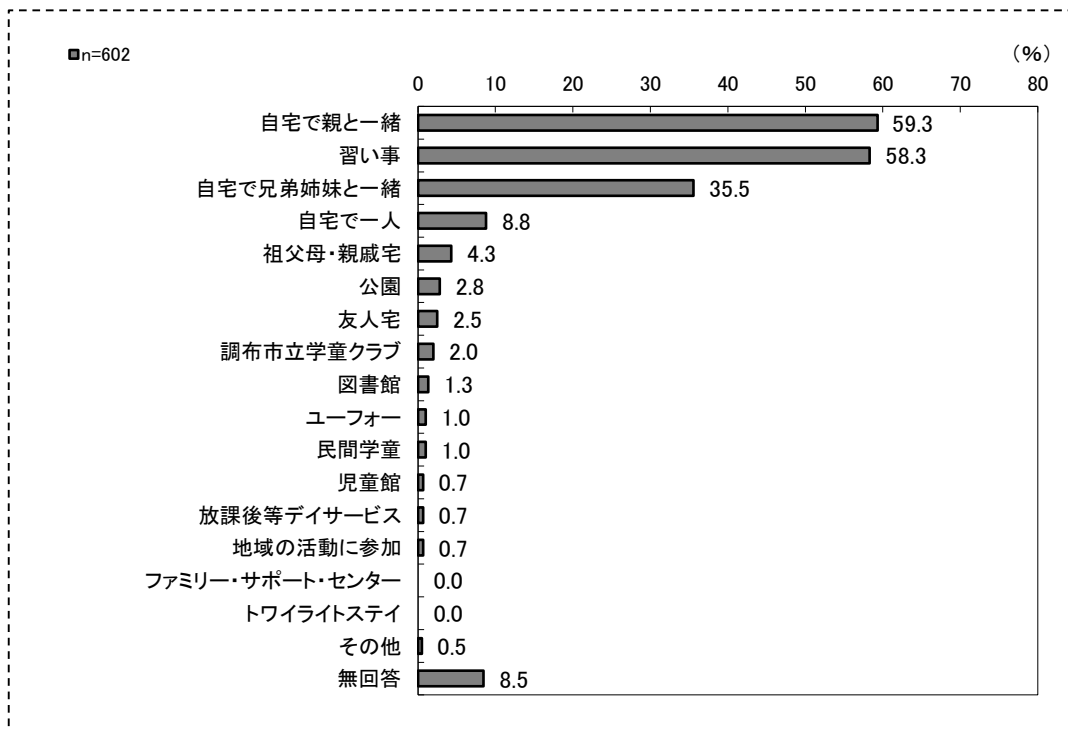
■現在高学年：希望－高学年 (2) 17:00～19:00■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユーフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(12) 現在高学年：希望－高学年 (3) 19:00～

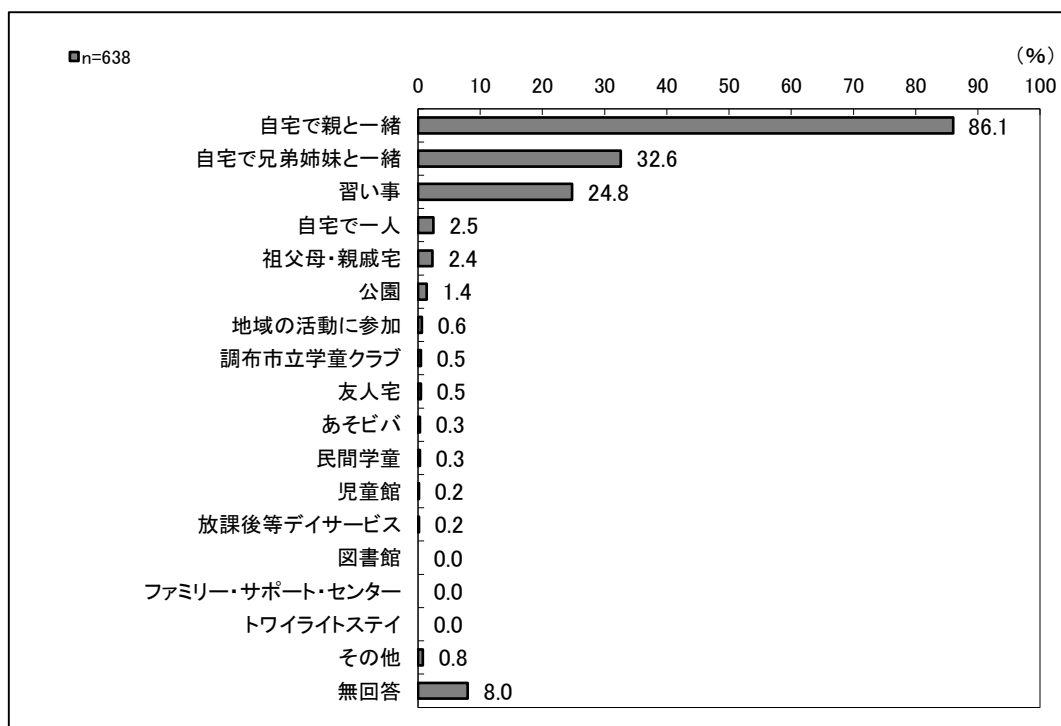
(3) 19:00～【複数回答】

「自宅で親と一緒に」(86.1%)が最も高い割合で、前回調査結果から12.7ポイント増加している。

「自宅で兄弟姉妹と一緒に」(32.6%)、「習い事」(24.8%)等がこれに続く。

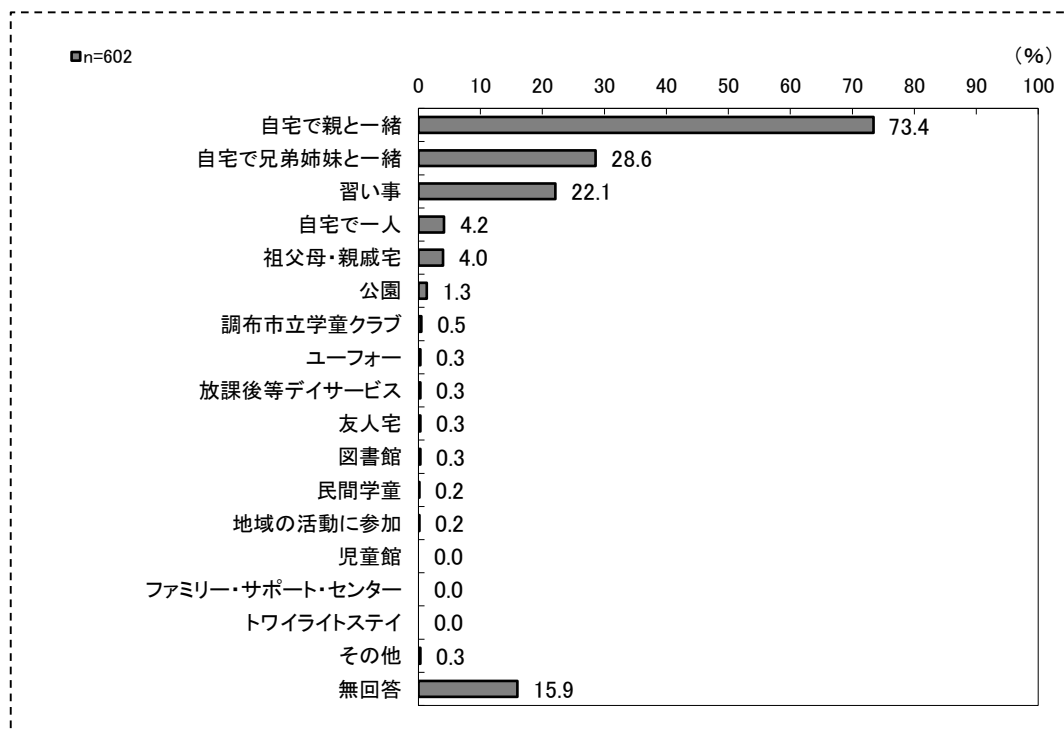
■現在高学年：希望－高学年 (3) 19:00～■

【今回調査】



※放課後子供教室「ユフォー」は、令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

【前回調査（参考）】



(13) 学童クラブ：利用希望学年

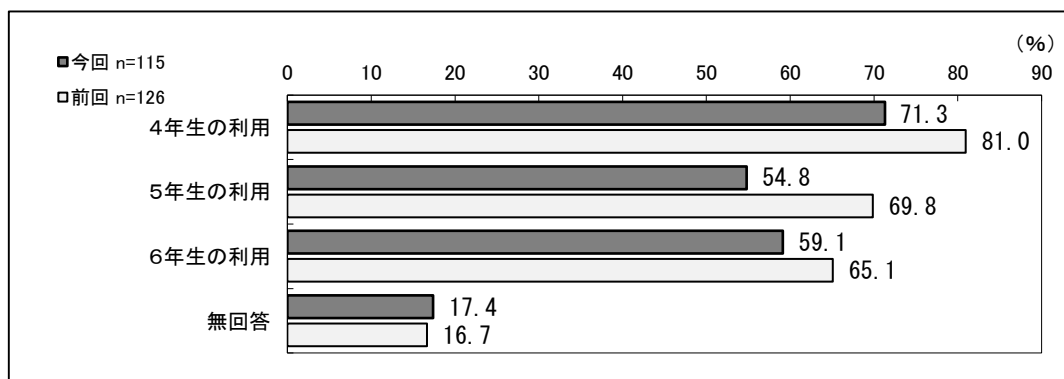
※ 問 19-1 または問 19-2 で小学校高学年（4～6年生）時に、「3. 調布市立学童クラブ」に○をつけた方のみ

問 19-3 （1）何年生まで学童クラブの利用希望がありますか。【複数回答】



「4年生の利用」(71.3%)、「6年生の利用」(59.1%)、「5年生の利用」(54.8%)。
 前回調査結果から若干利用意向が低下したものの、回答者の過半数が6年生までの継続利用を希望している。

■学童クラブ：利用希望学年■



(14) 学童クラブ：利用希望時期 4年生

※ 問 19-1 または問 19-2 で小学校高学年（4～6年生）時に、「3. 調布市立学童クラブ」に
○をつけた方のみ

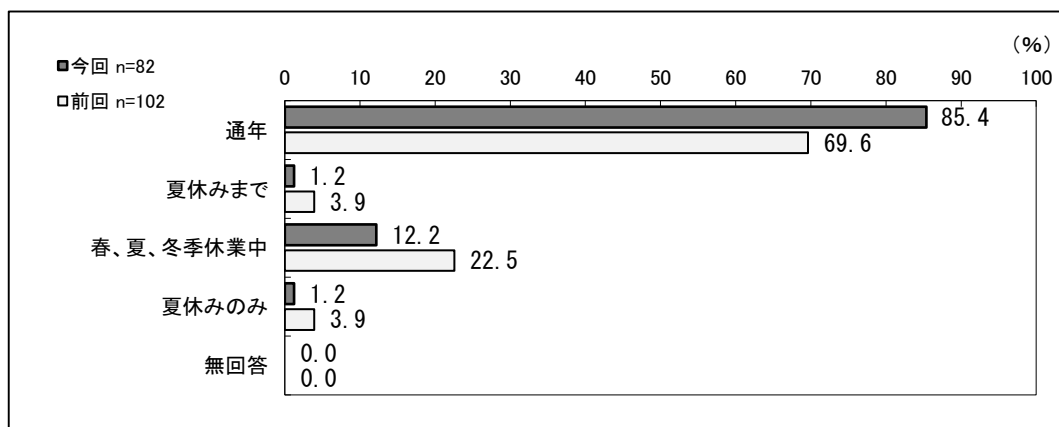
問 19-3 (2)-1 学童クラブ：利用希望時期 4年生



「通年」（85.4％）の利用希望が大半を占めているが、10世帯に1世帯程度が「春、夏、冬季休業中」（12.2％）の利用を希望している。

前回調査結果と比較して、「通年」（15.8ポイント増）、「春、夏、冬季休業中」（8.3ポイント増）の利用希望が増えている。

■学童クラブ：利用希望時期 4年生■



(15) 学童クラブ：利用希望時期 5年生

※ 問 19-1 または問 19-2 で小学校高学年（4～6年生）時に、「3. 調布市立学童クラブ」に
○をつけた方のみ

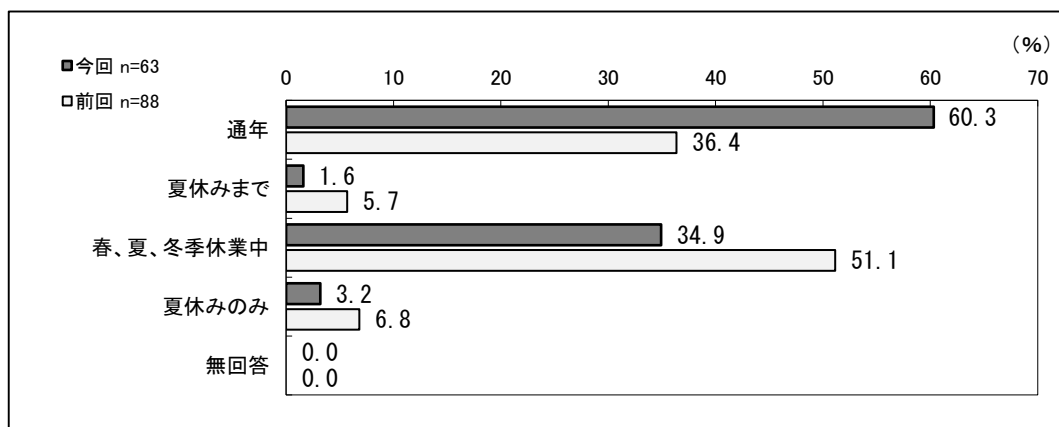
問 19-3 (2)-2 学童クラブ：利用希望時期 5年生



「通年」(60.3%)の利用希望が過半数を占め、「春、夏、冬季休業中」(34.9%)の利用希望が3割以上となっている。

前回調査結果と比較して、「春、夏、冬季休業中」(14.2ポイント減)の利用希望が減り、「通年」(23.9ポイント増)の利用希望が増えている。

■学童クラブ：利用希望時期 5年生■



(16) 学童クラブ：利用希望時期 6年生

※ 問 19-1 または問 19-2 で小学校高学年（4～6年生）時に、「3. 調布市立学童クラブ」に
○をつけた方のみ

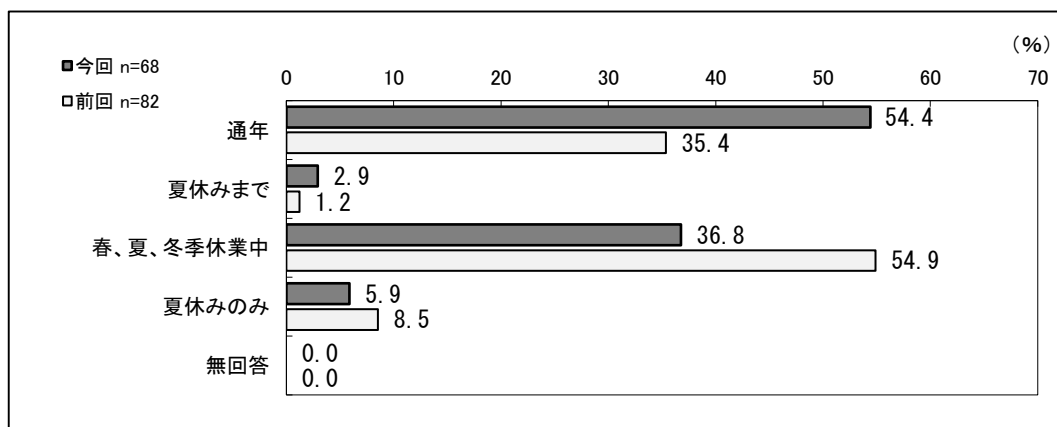
問 19-3 (2)-3 学童クラブ：利用希望時期 6年生



「通年」(54.4%) の利用希望が過半数を占め、「春、夏、冬季休業中」(36.8%) の利用希望が
3割以上となっている。

前回調査結果と比較して、「春、夏、冬季休業中」(18.1ポイント減) の利用希望が減り、「通
年」(19.0ポイント増) の利用希望が増えている。

■学童クラブ：利用希望時期 6年生■



(17) 学童クラブ：利用していない理由

※ 問 19 で「3. 調布市立学童クラブ」を選択していない方のみ

問 19-4 現在、宛名のお子さんが学童クラブを利用していない理由は何ですか。【複数回答】



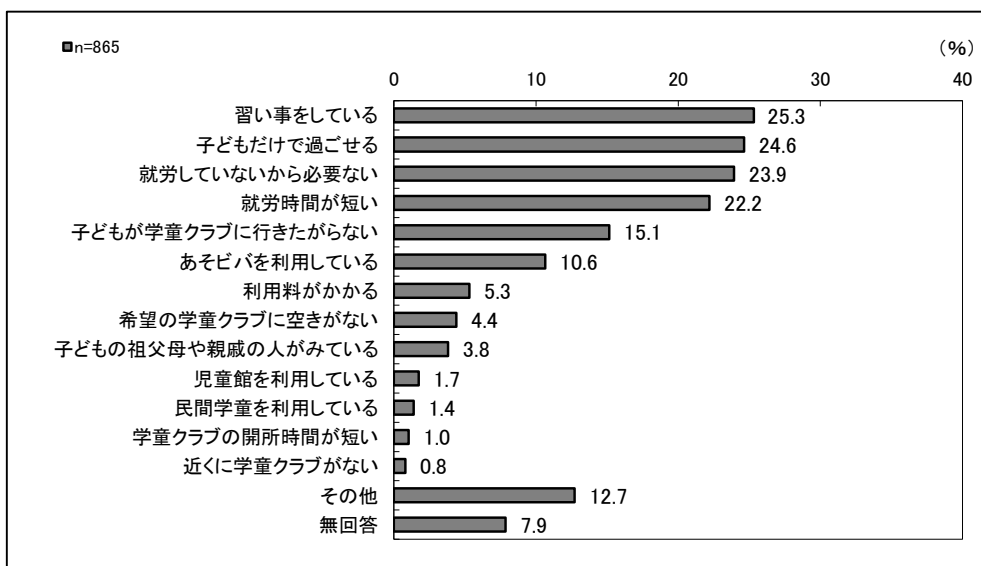
「習い事をしている」が 25.3% で最も高い割合を占めている。

「子どもだけで過ごせる」(24.6%)、「就労していないから必要ない」(23.9%)、「就労時間が短い」(22.2%)、「子どもが学童クラブに行きたがらない」(15.1%)、「あそびバを利用している」(10.6%) 等がこれに続く。

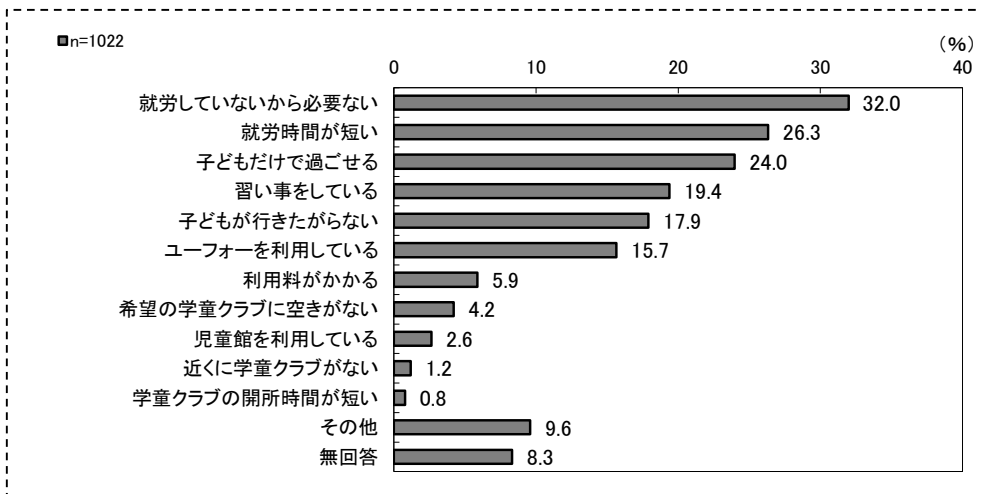
前回調査で最も高い割合となった「就労していないから必要ない」は 8.1 ポイント減少している。

■学童クラブ：利用していない理由■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



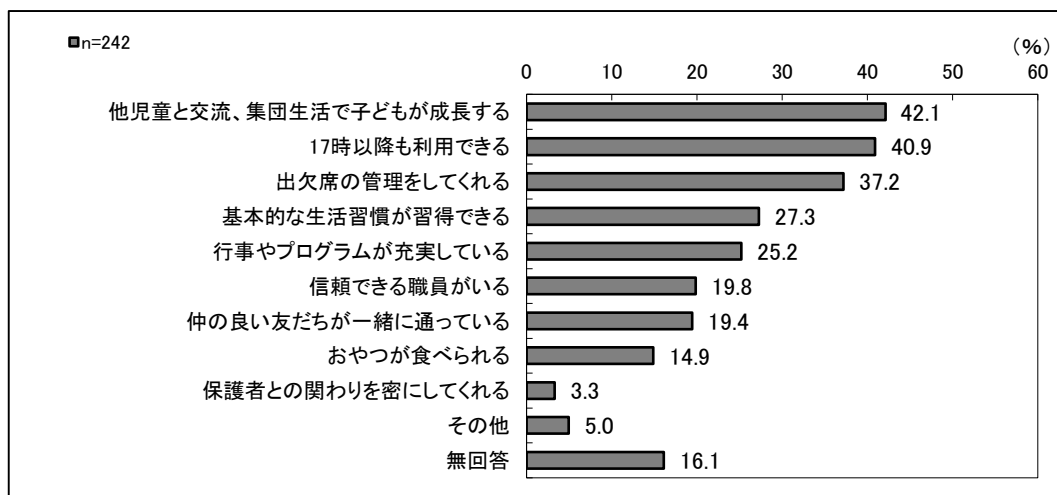
(18) 学童クラブ：利用したい理由

※ 問 19-1 または問 19-2 で「3. 調布市立学童クラブ」に○をつけた方
問 19-5 利用したい理由についてお答えください。【複数回答】

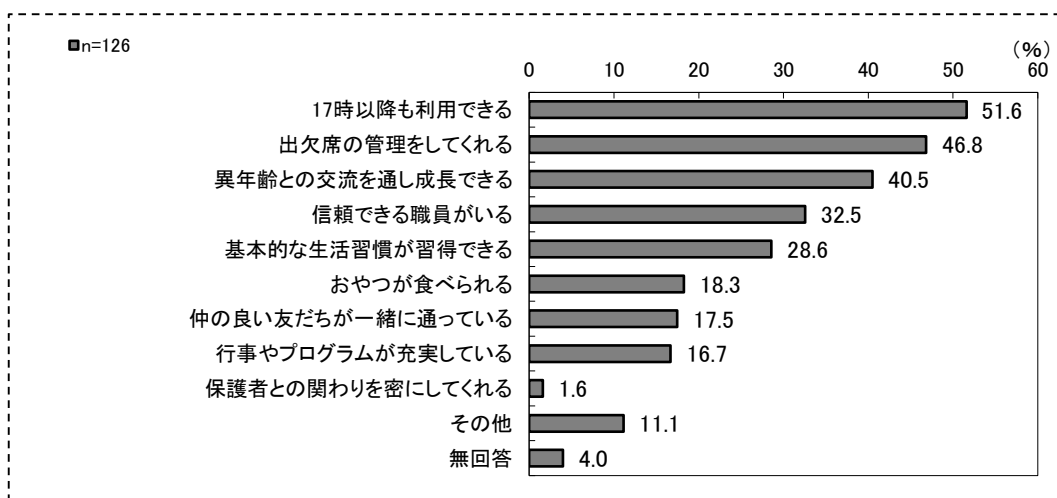
「他児童と交流、集団生活で子どもが成長する」が42.1%で最も高い割合を占めている。
「17時以降も利用できる」(40.9%)、「出欠席の管理をしてくれる」(37.2%)、「基本的な生活習慣が習得できる」(27.3%)、「行事やプログラムが充実している」(25.2%)等がこれに続く。
前回調査で最も高い割合となった「17時以降も利用できる」は10.7ポイント減少している。

■学童クラブ：利用したい理由■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(19) あそびバへの登録, 利用の有無

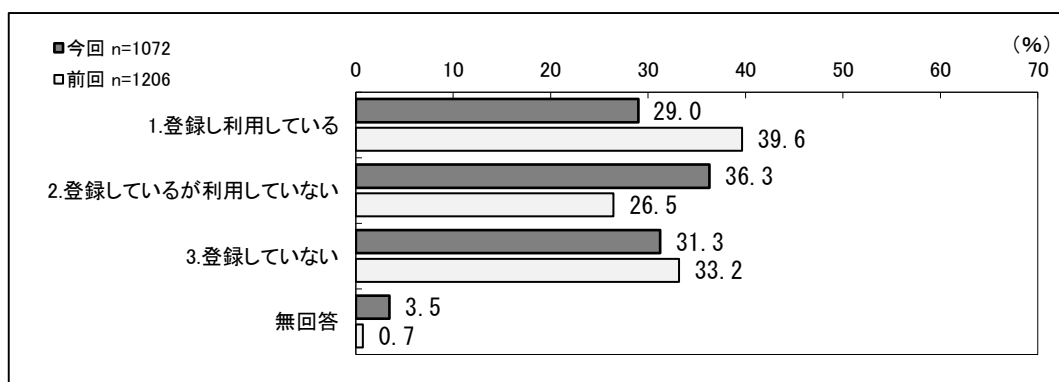
問 20 現在, 宛名のお子さんはあそびバに登録し, 利用していますか。

「登録しているが利用していない」(36.3%), 「登録していない」(31.3%), 「登録し利用している」(29.0%)。

「登録しているが利用していない」は前回調査と比較して9.8ポイント増加している。

※ 放課後子供教室「ユフォー」は, 令和5年度から名称が「あそびバ」へと変更されました。

■あそびバへの登録, 利用の有無■



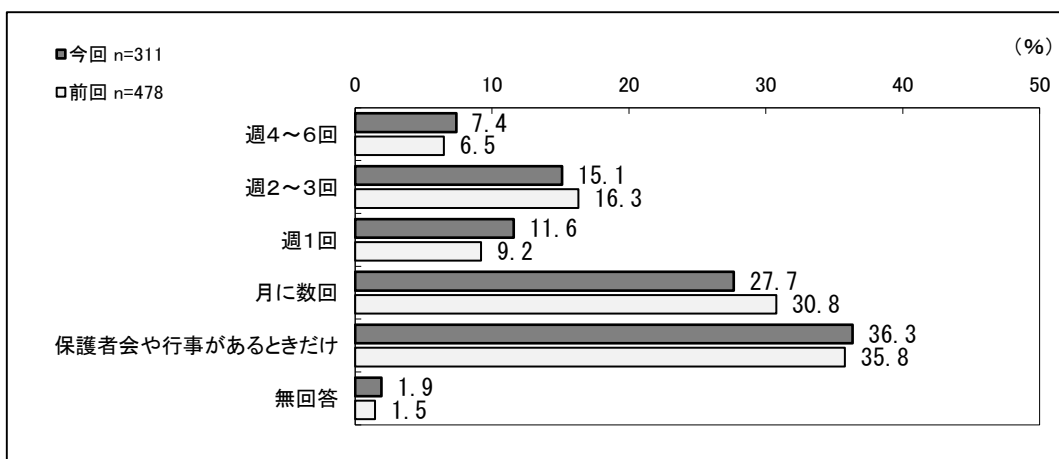
(20) 利用回数/週

※ 問 20 で「1. 登録し, 利用している」に○をつけた方のみ

問 20-1 あそびバに週何回ぐらい行きますか。

前回調査結果に引き続き, 「保護者会や行事があるときだけ」(36.3%), 「月に数回」(27.7%), 「週2~3回」(15.1%) が上位3位を占めている。

■利用回数/週■



(21) あそびバ：利用している理由

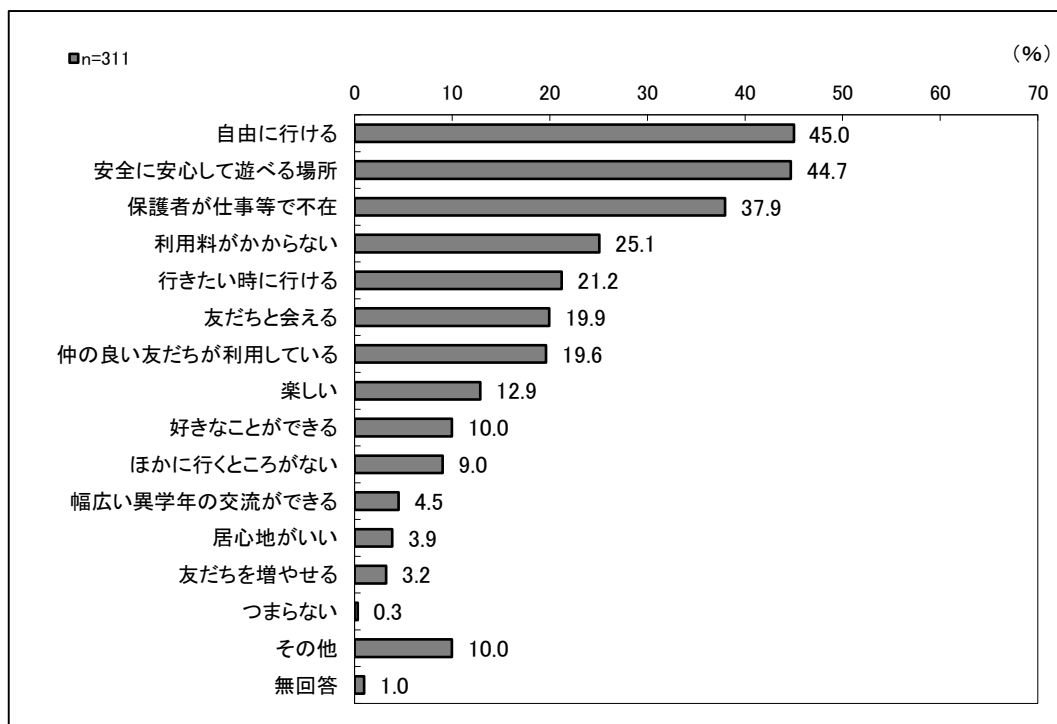
問 20-2 あそびバを利用している理由は何ですか。【複数回答】

前回調査結果に引き続き、「自由に行ける」(45.0%)、「安全に安心して遊べる場所」(44.7%)が高い割合を占めている。

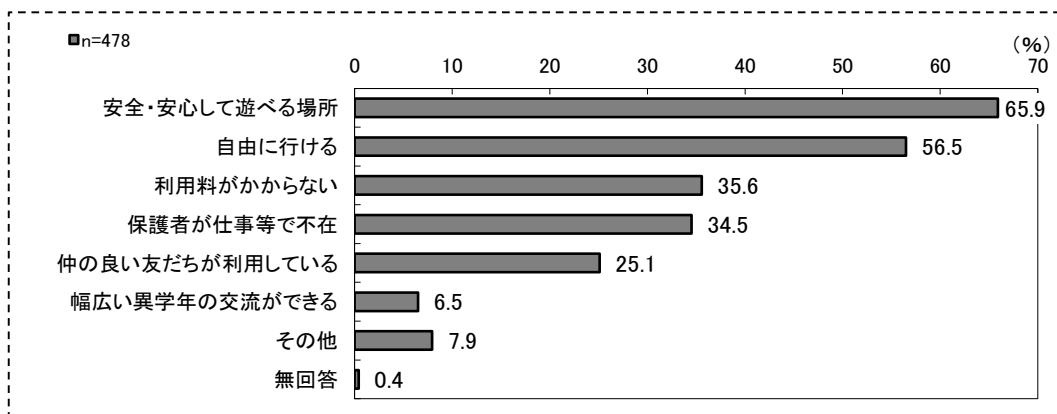
「保護者が仕事等で不在」(37.9%)、「利用料がかからない」(25.1%)、「行きたい時に行ける」(21.2%)、「友だちと会える」(19.9%)、「仲の良い友だちが利用している」(19.6%)等がこれに続く。

■ あそびバ：利用している理由 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



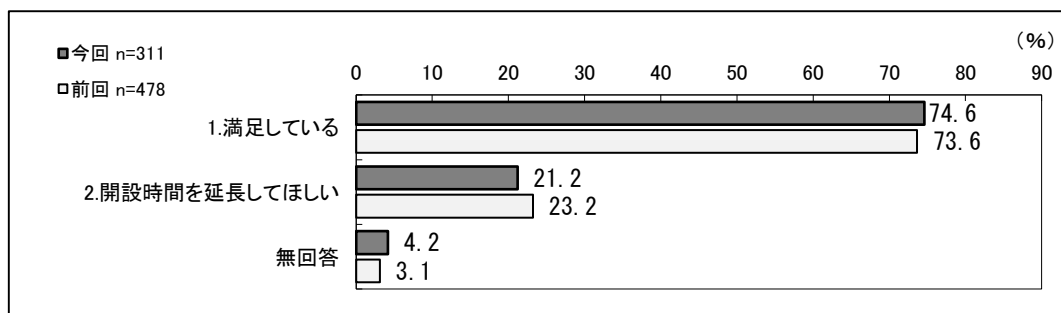
(22) 現状のあそビバの開設時間帯をどう感じているか

問 20-3 現状のあそビバの開設時間帯をどう感じていますか。



前回調査結果に引き続き、回答者の7割以上が「満足している」と回答している一方で、2割以上が「開設時間を延長してほしい」と回答している。

■現状のあそビバの開設時間帯をどう感じているか■



(23) あそビバ：利用希望時間 (1) 学校がある日

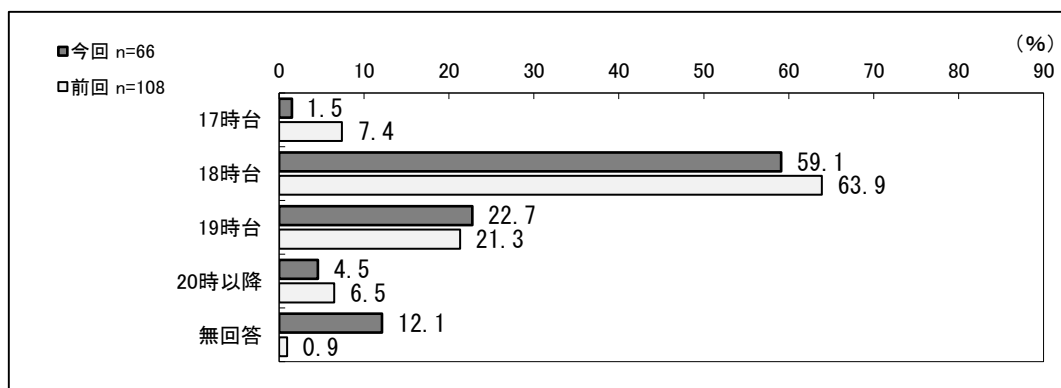
※ 問 20-3 で「2. 開設時間を延長してほしい」に○をつけた方のみ

問 20-4 希望する開設時間について、数字でご記入ください。

(1) 学校がある日

希望終了時刻

■集計結果 あそビバ：利用希望時間 (1) 学校がある日 終了時刻■



(24) あそびバ：利用希望時間 (2) 学校が休みの日

※ 問 20-3 で「2. 開設時間を延長してほしい」に○をつけた方のみ

問 20-4 希望する開設時間について、数字でご記入ください。

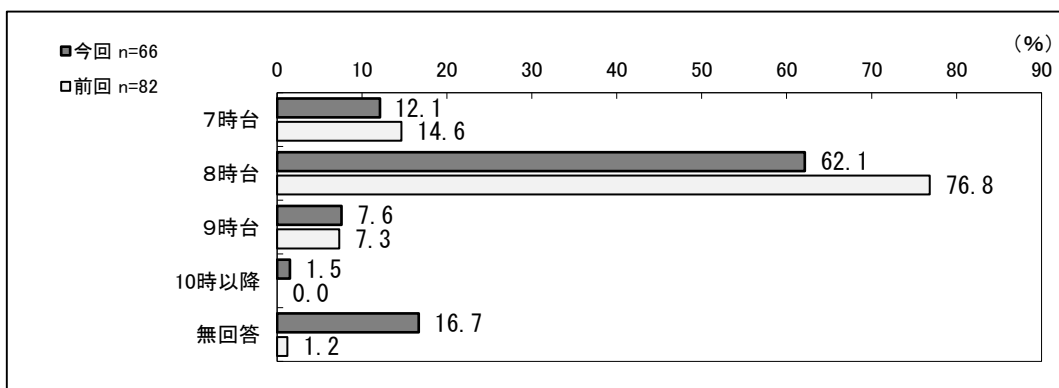
(2) 学校が休みの日

ア. 開始時刻

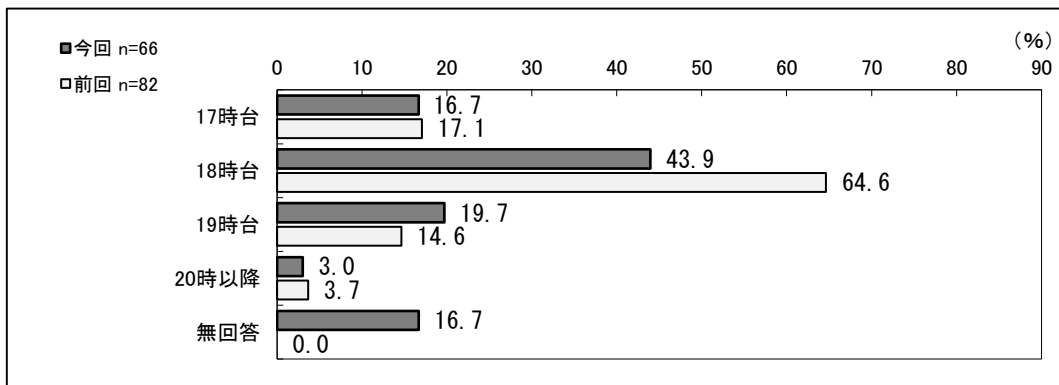
イ. 終了時刻

■集計結果 あそびバ：利用希望時間 (2) 学校が休みの日■

【開始時刻】



【終了時刻】



(25) あそびバ：利用・登録していない理由

※ 問 20 で「2. 登録しているが、利用していない」または「3. 登録していない」に○をつけた方のみ

問 20-5 あそびバを利用・登録していない理由は何ですか。【複数回答】

「家にいる方がいい」が 37.0% で最も高い割合を占めている。

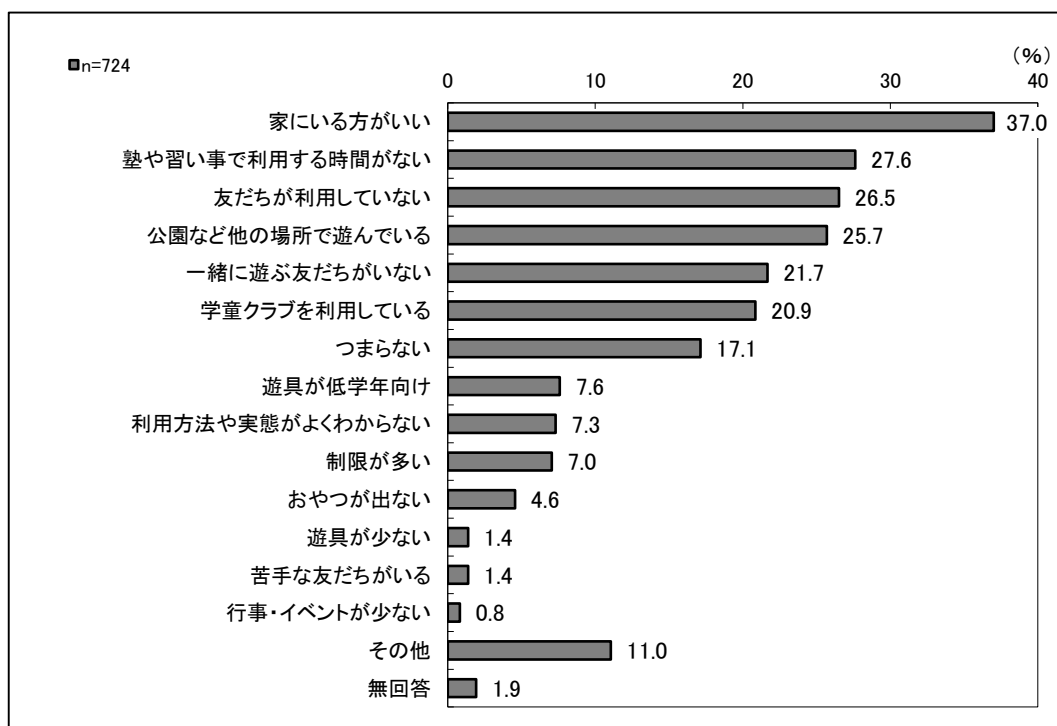
「塾や習い事で利用する時間がない」(27.6%)、「友だちが利用していない」(26.5%)、「公園など他の場所で遊んでいる」(25.7%)、「一緒に遊ぶ友だちがいない」(21.7%)、「学童クラブを利用している」(20.9%) 等がこれに続く。

7.3% が「利用方法や実態がよくわからない」と回答している。

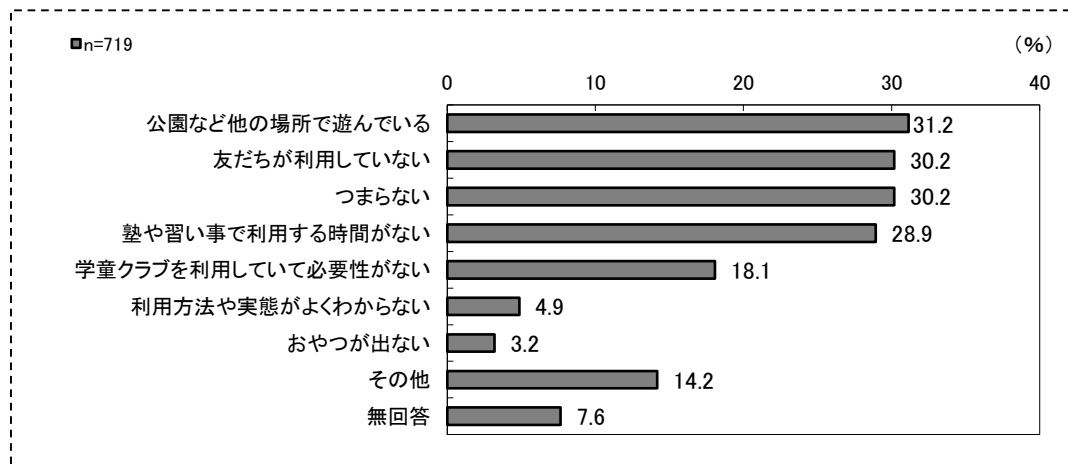
前回調査結果と比較して、「つまらない」(17.1%) の回答は 13.1 ポイント減少している。

■あそびバ：利用・登録していない理由■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



(26) 児童館：利用していない理由

※ 問 19 で「1. 児童館」を選択していない方のみ

問 21 現在、宛名のお子さんが児童館を利用していない理由は何ですか。【複数回答】

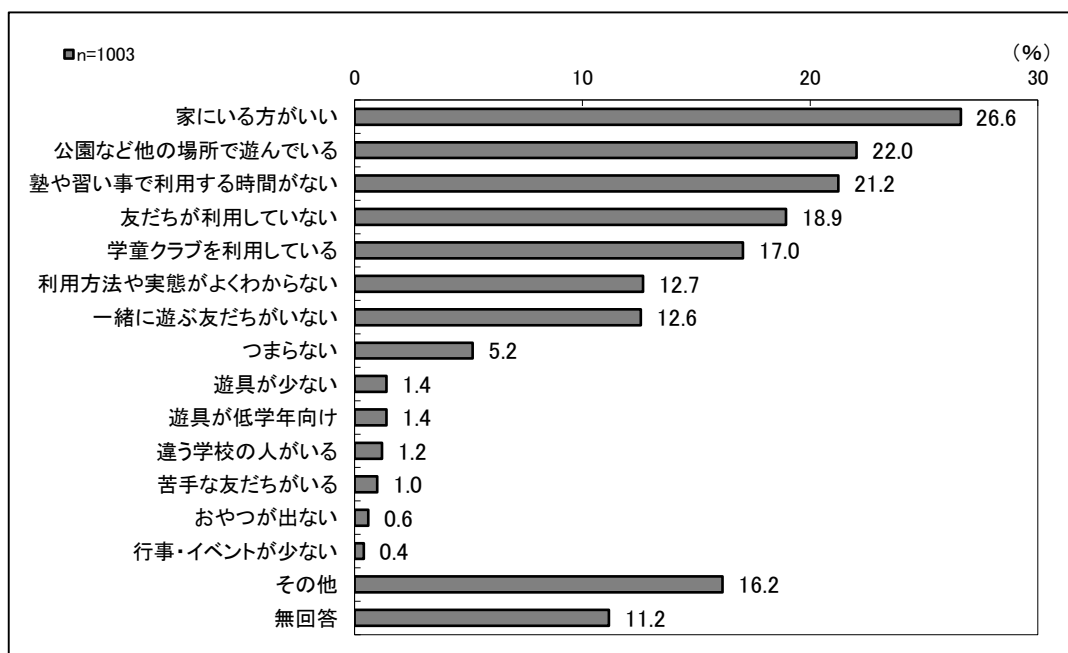


「家にいる方がいい」が 26.6% で最も高い割合を占めている。

「公園など他の場所で遊んでいる」(22.0%)、「塾や習い事で利用する時間がない」(21.2%)、「友だちが利用していない」(18.9%)、「学童クラブを利用している」(17.0%)、「利用方法や実態がよくわからない」(12.7%)、「一緒に遊ぶ友だちがいない」(12.6%) 等がこれに続く。

12.7% が「利用方法や実態がよくわからない」と回答している。

■ 児童館：利用していない理由 ■

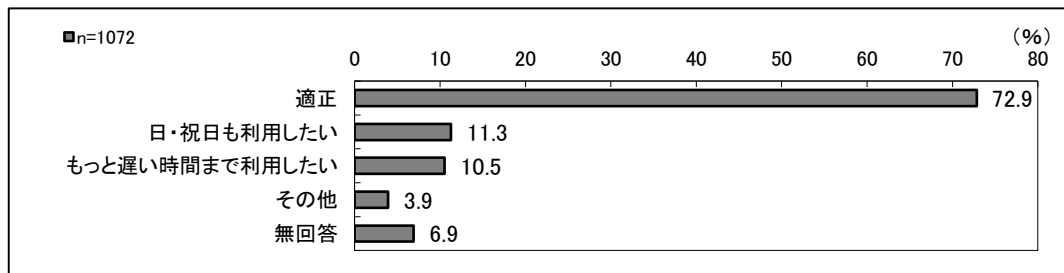


(27) 現状の児童館の開設時間帯をどう感じているか

問 22 現状の児童館の開設時間帯をどう感じますか。【複数回答】

回答者の7割以上が「適正」(72.9%)と回答している一方で1割以上が「日・祝日も利用したい」(11.3%)、「もっと遅い時間まで利用したい」(10.5%)と回答している。

■現状の児童館の開設時間帯をどう感じているか■

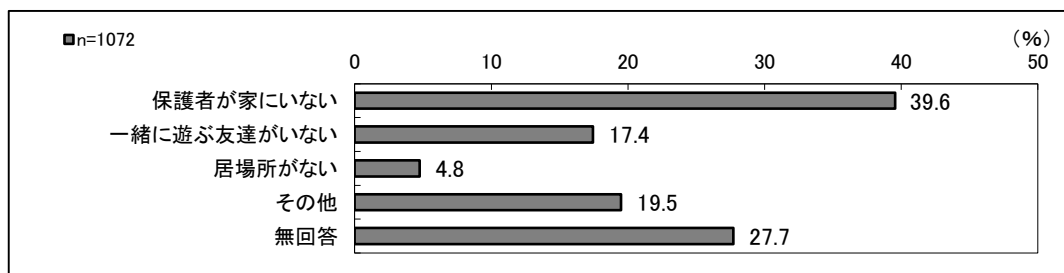


(28) 放課後の過ごし方について心配なこと

問 23 宛名のお子さんの放課後の過ごし方について、心配なことは何ですか。【複数回答】

「保護者が家にいない」が39.6%で最も高い割合を占めている。「一緒に遊ぶ友達がいない」(17.4%)、「居場所がない」(4.8%)等がこれに続く。

■放課後の過ごし方について心配なこと■

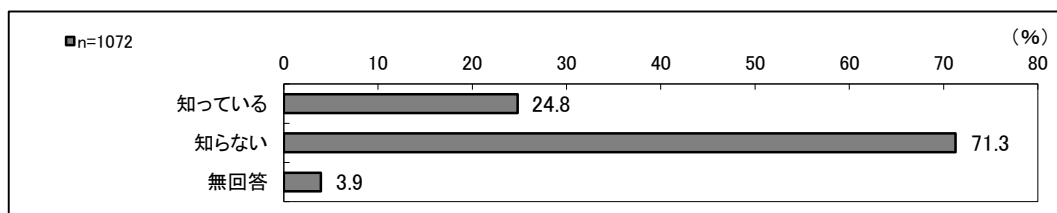


(29) 「調布市青少年ステーション CAPS」を知っているか

問 24 「調布市青少年ステーション CAPS」のことを知っていますか。

回答者の7割以上が「知らない」と回答している。

■ 「調布市青少年ステーション CAPS」を知っているか ■



8. 体験の状況について

(1) 過去1年間の体験

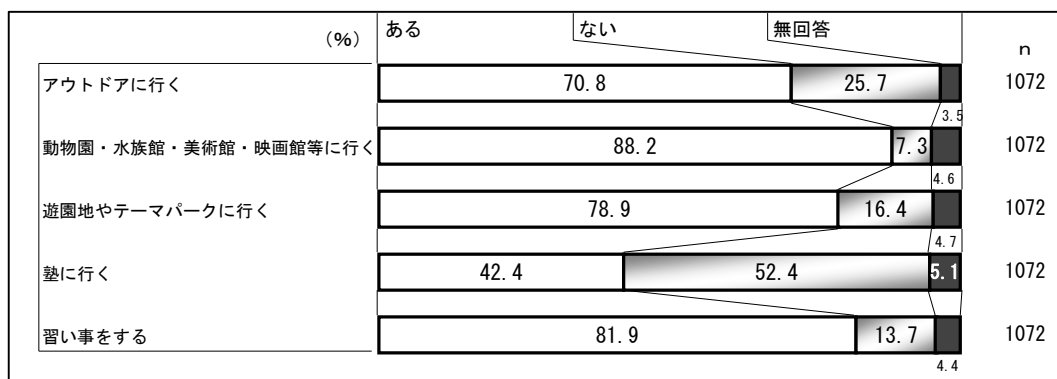
問 25 過去1年間において、あなたのご家庭で、お子さんは次のような体験をしましたか。
【複数回答】

①アウトドア（海水浴やキャンプ、山、川等）に行く、②動物園・水族館・美術館・映画館等に行く、③遊園地やテーマパークに行く、④塾に行く、⑤習い事をする

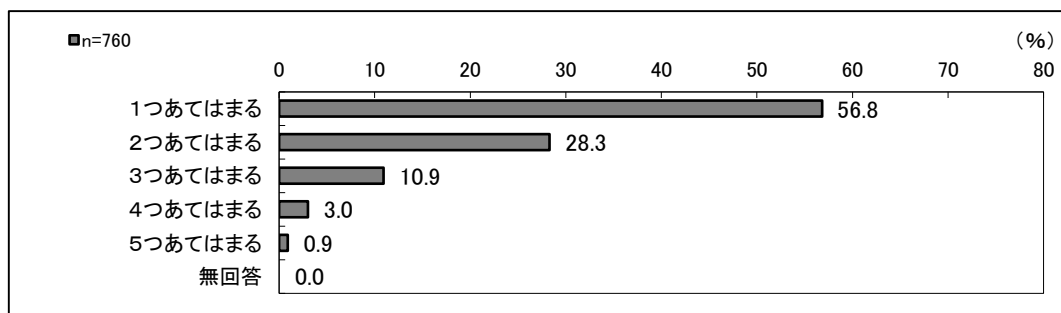
「アウトドア（海水浴やキャンプ、山、川等）に行く」(70.8%)、「動物園・水族館・美術館・映画館等に行く」(88.2%)、「遊園地やテーマパークに行く」(78.9%)、「習い事」(81.9%)と体験が「ある」の回答が7割以上を占める。

「塾に行く」が「ある」(42.4%)とした割合は、「ない」(52.4%)とした割合よりも低い。また、「ない」に該当する項目数を集計したところ、“3つ以上あてはまる”が14.8%となった。

■ 過去1年間の体験 ■



■ 「ない」 該当数 ■

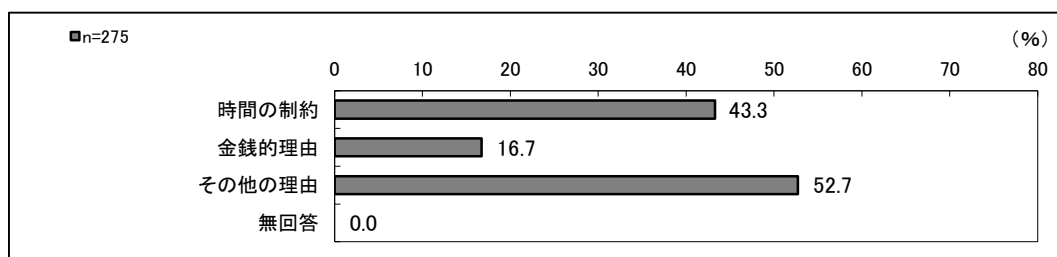


(2) ない理由 ① アウトドアに行く

① アウトドアに行く【複数回答】

「時間の制約」(43.3%)が「金銭的理由」(16.7%)を上回る。

■ ない理由 ① アウトドアに行く ■

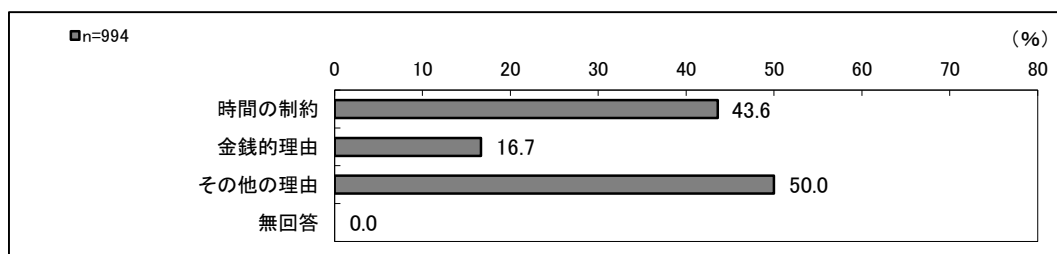


(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く

② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く【複数回答】

「時間の制約」(43.6%)が「金銭的理由」(16.7%)を上回る。

■ ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く ■

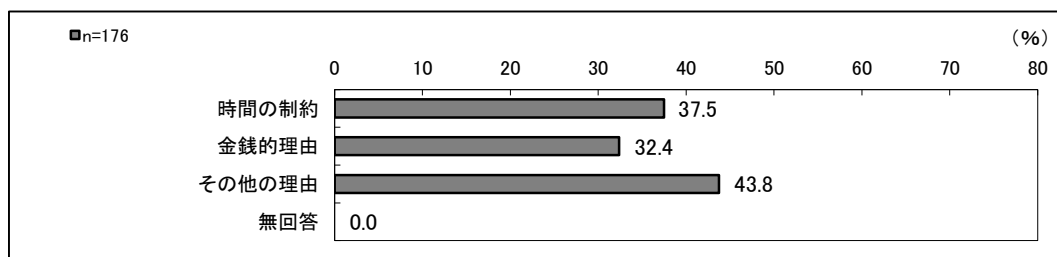


(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く

③ 遊園地やテーマパークに行く【複数回答】

「時間の制約」(37.5%)が「金銭的理由」(32.4%)を上回る。

■ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く■

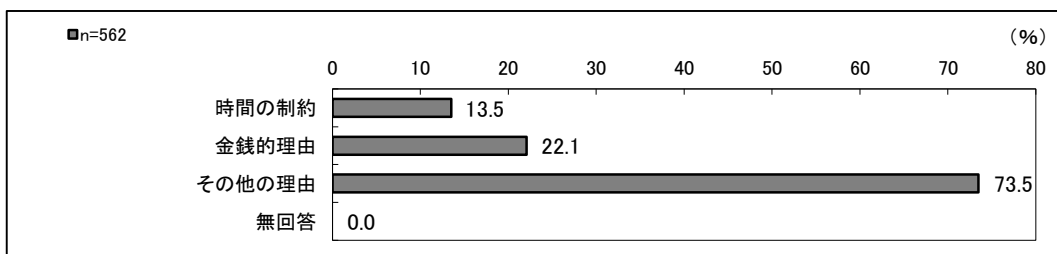


(5) ない理由 ④ 塾に行く

④ 塾に行く【複数回答】

「金銭的理由」(22.1%)が「時間の制約」(13.5%)を上回る。

■ない理由 ④ 塾に行く■

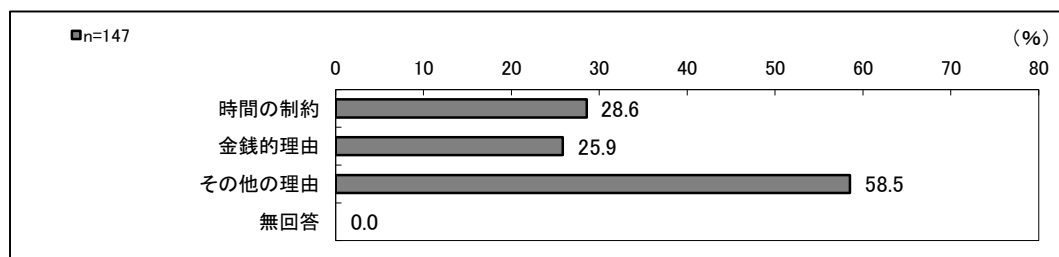


(6) ない理由 ⑤ 習い事に行く

⑤ 習い事に行く【複数回答】

「時間の制約」(28.6%)が「金銭的理由」(25.9%)を上回る。

■ない理由 ⑤ 習い事に行く■



9. 児童虐待について

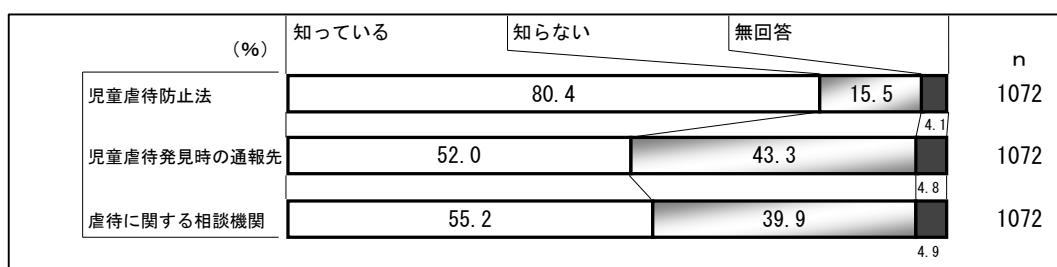
(1) 児童虐待の認知状況

問 26 児童虐待について次のことを知っていますか。

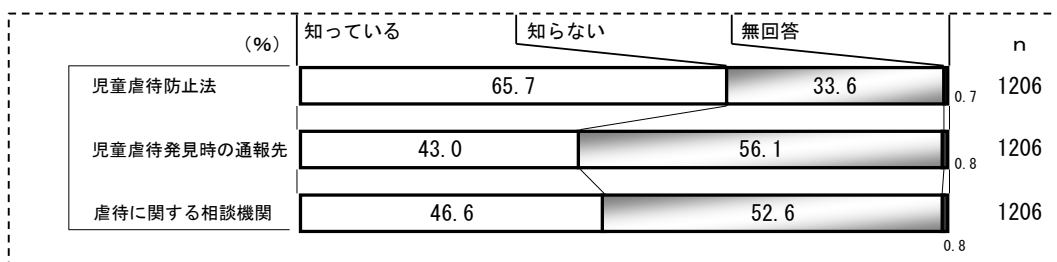
前回調査結果と比較して、「児童虐待防止法」(14.7ポイント増),「児童虐待発見時の通報先」(9.0ポイント増),「虐待に関する相談機関」(8.6ポイント増)の認知状況は上がっている。

■児童虐待の認知状況■

【今回調査】



【前回調査(参考)】



(2) 児童虐待を発見した際の通告・通報先

問 27 児童虐待を発見した場合には、以下、選択欄のどちらにも通告や通報等ができます。その中でも、あなたは、どちらに連絡しようと思いますか。

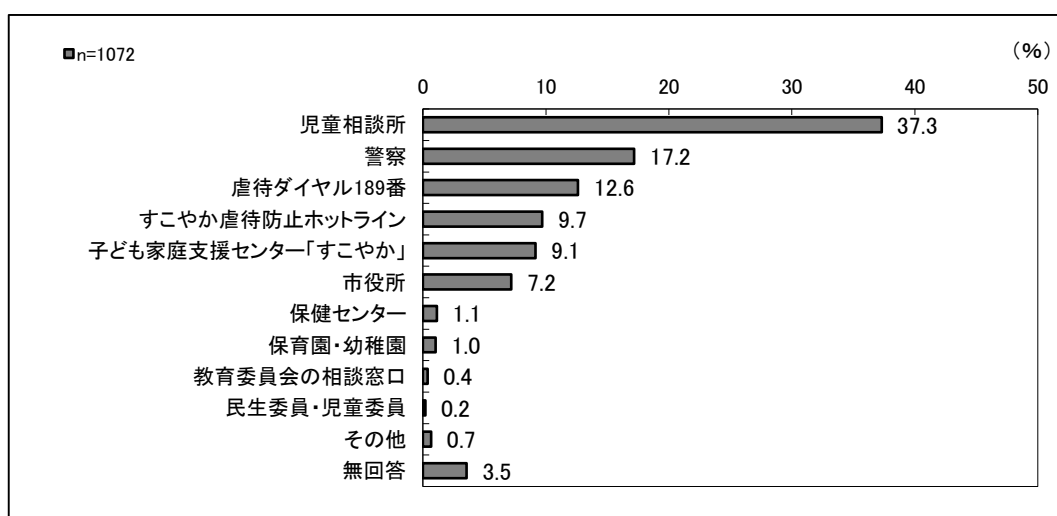


前回調査結果に引き続き、「児童相談所」(37.3%)が最も高い割合を占めている。

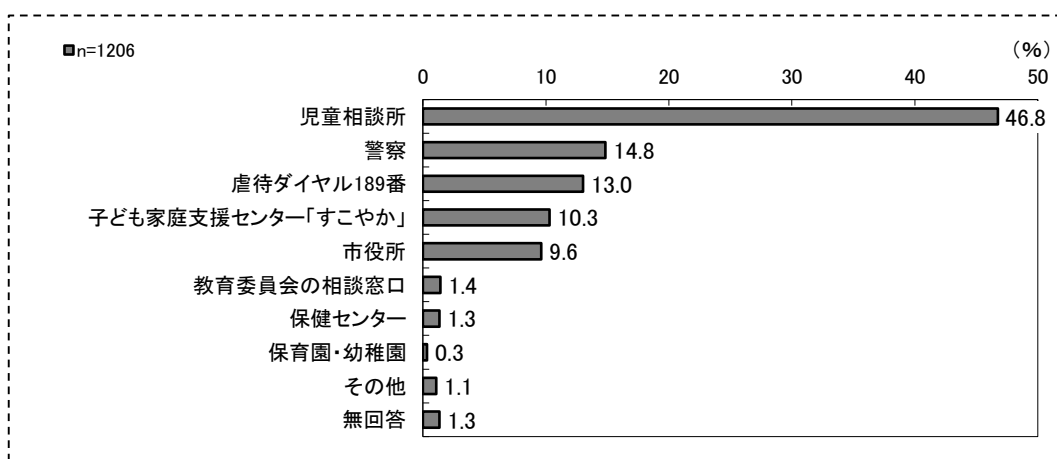
「警察」(17.2%),「虐待ダイヤル189番」(12.6%),「すこやか虐待防止ホットライン」(9.7%),「子ども家庭支援センター「すこやか」」(9.1%)等がこれに続く。

■児童虐待を発見した際の通告・通報先■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(3) 児童虐待について知っていること

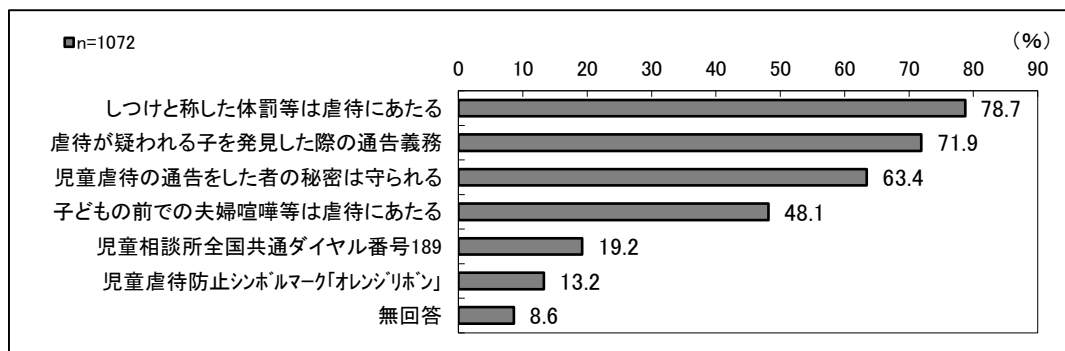
問 28 児童虐待について、あなたは以下のことを知っていますか。【複数回答】

「しつけと称した体罰等は虐待にあたる」(78.7%)が最も高い割合を占める。

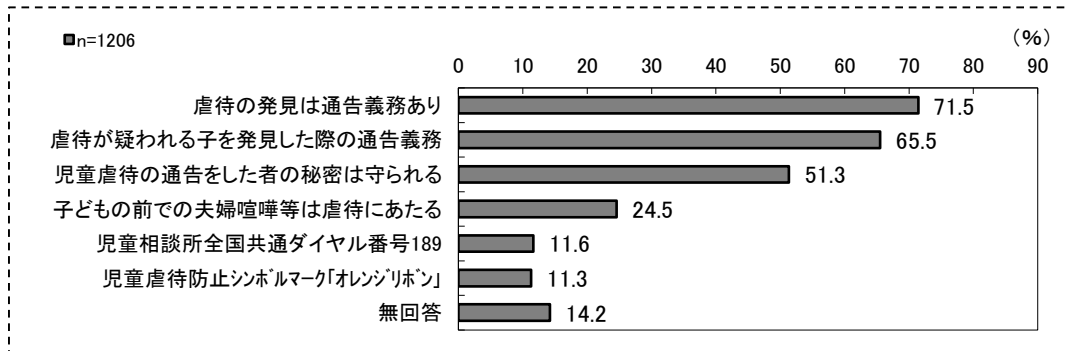
「虐待が疑われる子を発見した際の通告義務」(71.9%)、「児童虐待の通告をした者の秘密は守られる」(63.4%)、「子どもの前での夫婦喧嘩等は虐待にあたる」(48.1%)等がこれに続く。

■児童虐待について知っていること■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



10. ヤングケアラーについて

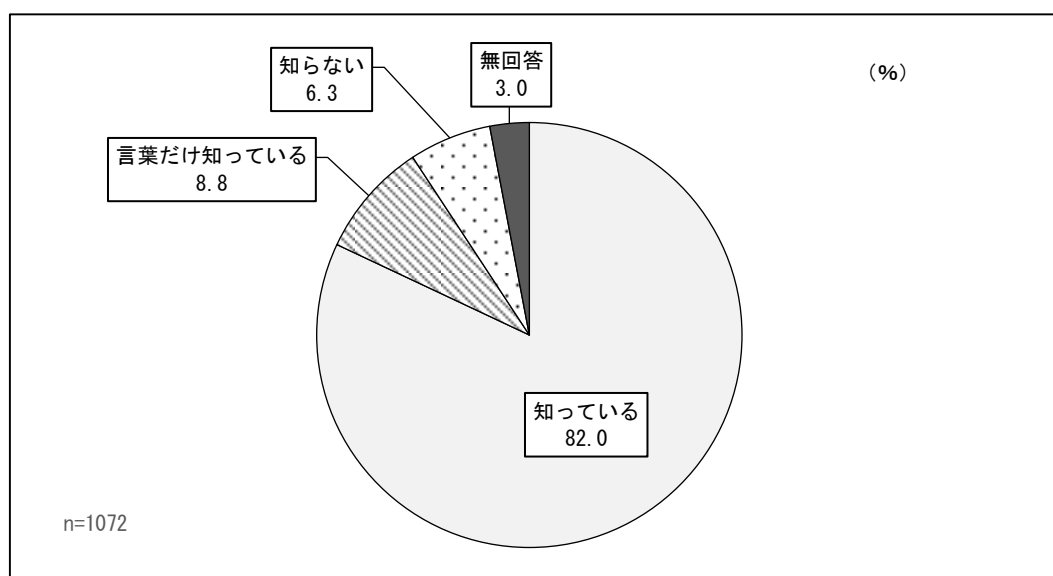
(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか

問 29 あなたは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。

「知っている」(82.0%), 「言葉だけ知っている」(8.8%) と回答者の8割以上が「知っている」と回答している。

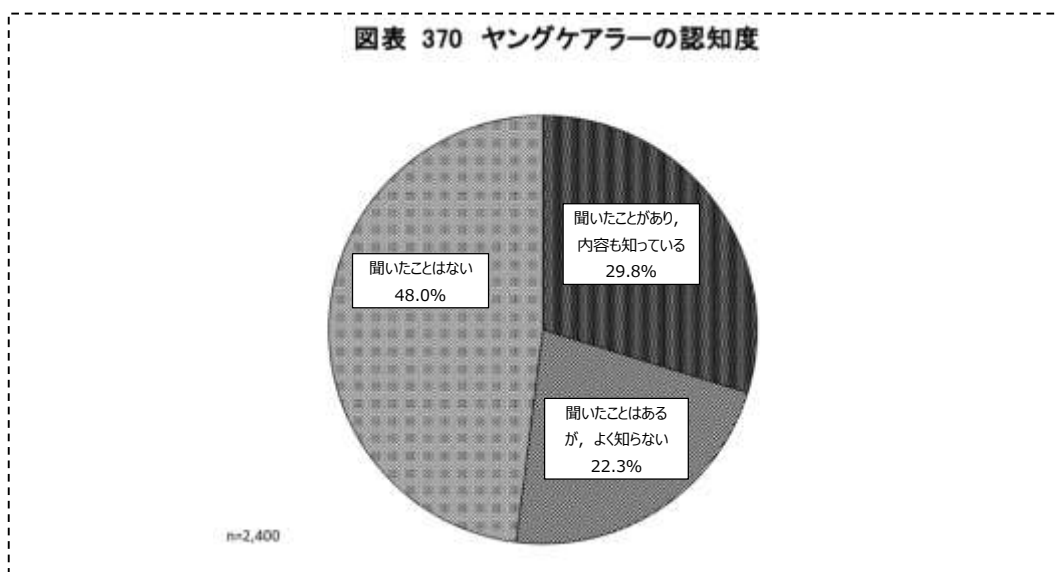
■ヤングケアラーという言葉を知っているか■

【今回調査】



【(株)日本総合研究所 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 (参考)】

図表 370 ヤングケアラーの認知度



調査対象：日本全国の20代から70代以上の男女
調査期間：2021年12月17日～2021年12月20日

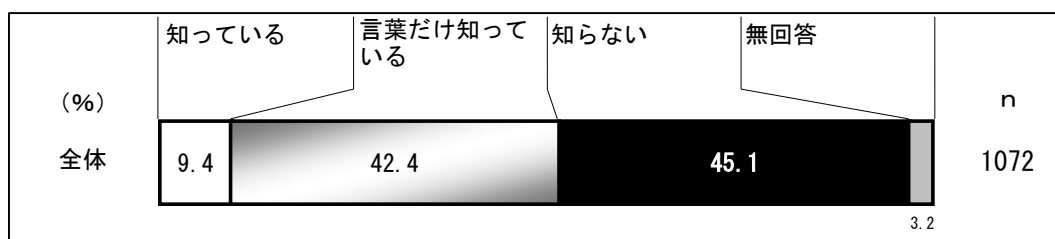
11. 調布市子ども条例及び子どもの権利について

(1) 調布市子ども条例を知っているか

問 30 あなたは、「調布市子ども条例」について知っていますか。

「知らない」(45.1%)、「言葉だけ知っている」(42.4%)、「知っている」(9.4%)。
回答者の半数近くが「知らない」と回答している。

■調布市子ども条例を知っているか■



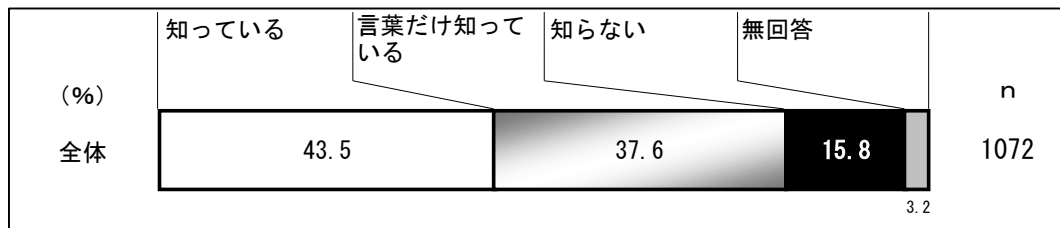
(2) 子どもの権利を知っているか

問 31 あなたは、「子どもの権利」を知っていますか。

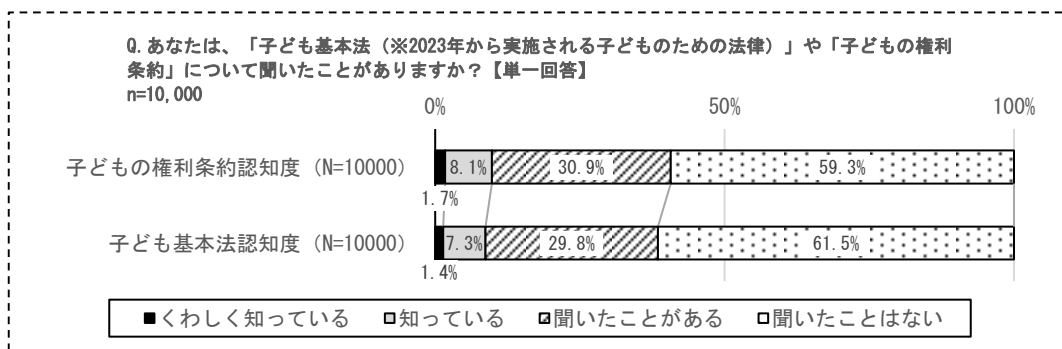
「知っている」(43.5%), 「言葉だけ知っている」(37.6%), 「知らない」(15.8%)。
 回答者の過半数が「言葉だけ知っている」、「知らない」と回答している。

■子どもの権利を知っているか■

【今回調査】



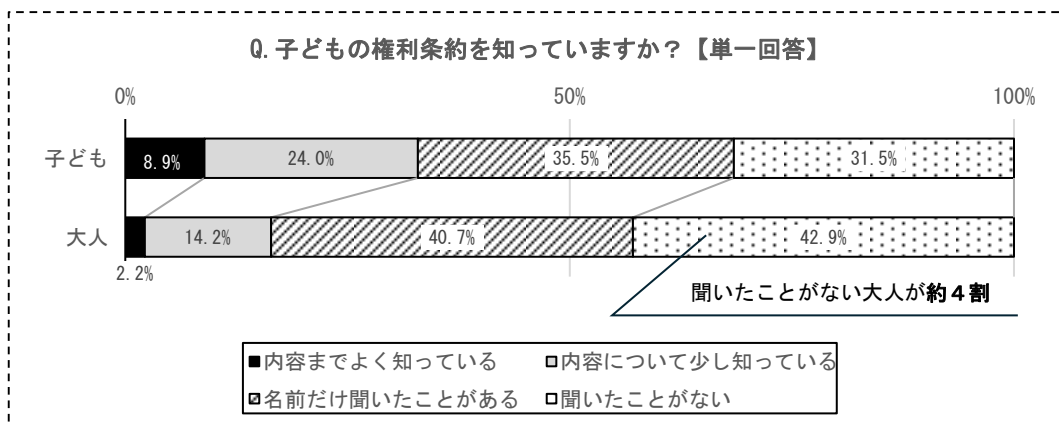
【公益財団法人 日本財団 こども1万人意識調査 (参考)】



調査対象：全都道府県男女 10～18 歳

調査期間：2023 年 3 月 6 日～3 月 12 日

【セーブ・ザ・チルドレン 3万人アンケートから見る子どもの権利に関する意識】



調査対象：全国 15 歳 (中学生除く) ～80 代

調査期間：2019 年 8 月 5 日～2019 年 8 月 10 日

(3) 大切だと思う子どもの権利

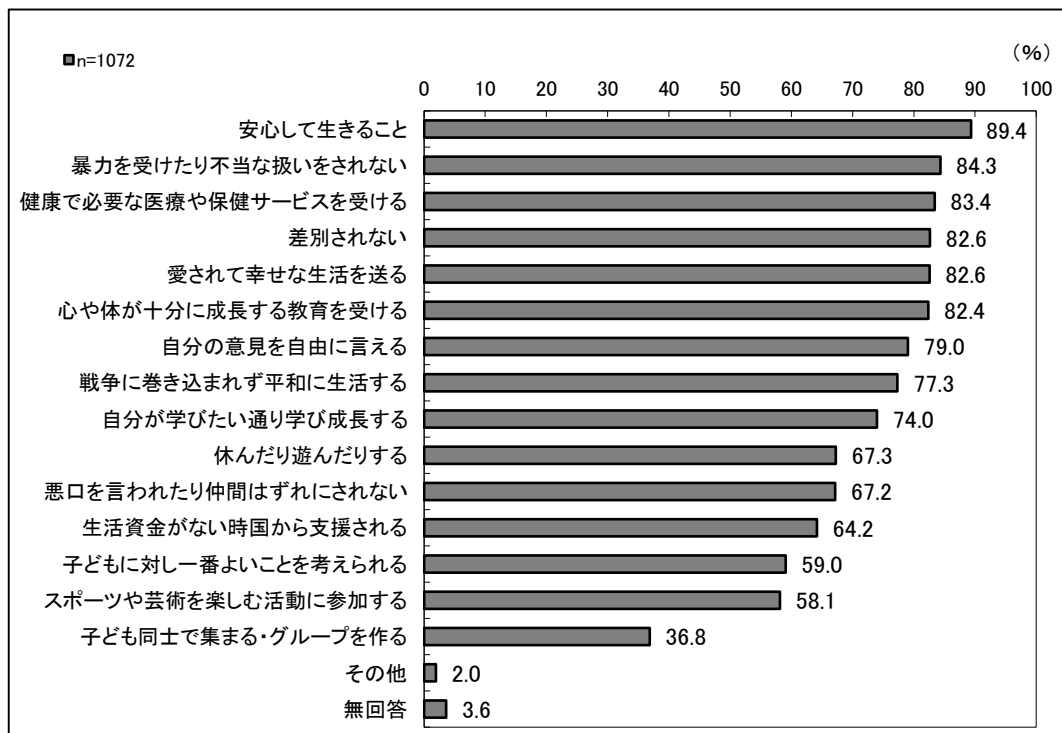
問 31-1 子どもにとって大切だと思う「子どもの権利」として、あてはまるものは次のうちどれですか。【複数回答】

「安心して生きること」が 89.4%で最も高い割合を占めている。

「暴力を受けたり不当な扱いをされない」(84.3%)、「健康に必要な医療や保健サービスを受ける」(83.4%)、「差別されない」(82.6%)等がこれに続く。

「子ども同士で集まる・グループを作る」(36.8%)を除くすべての選択肢で回答割合が 50%を超えており、どの選択肢も重要であると認識されている。

■大切だと思う子どもの権利■



(4) 行政や関係機関の取組として必要なこと

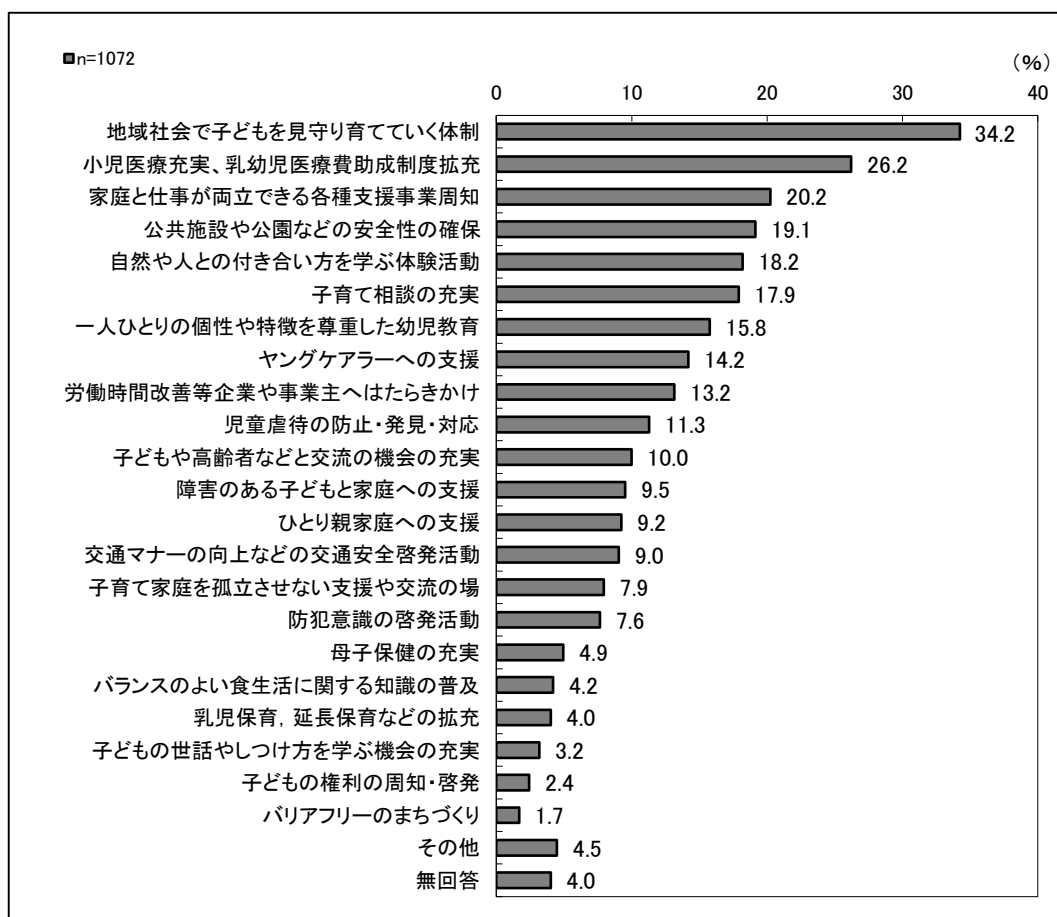
問 32 子育てについて考えたとき、今後、行政や関係機関の取組として必要と思うこと、重要と思うことは何ですか。【複数回答】



「地域社会で子どもを見守り育てていく体制」が34.2%で最も高い割合となり、“地域ぐるみで子どもの育ちを支える”取組が重要とされている。

その他、「小児医療充実、乳幼児医療費助成制度拡充」(26.2%)、「家庭と仕事が両立できる各種支援事業周知」(20.2%)、「公共施設や公園などの安全性の確保」(19.1%)等がこれに続く。

■行政や関係機関の取組として必要なこと■



(5) 市の子育て環境や支援への満足度

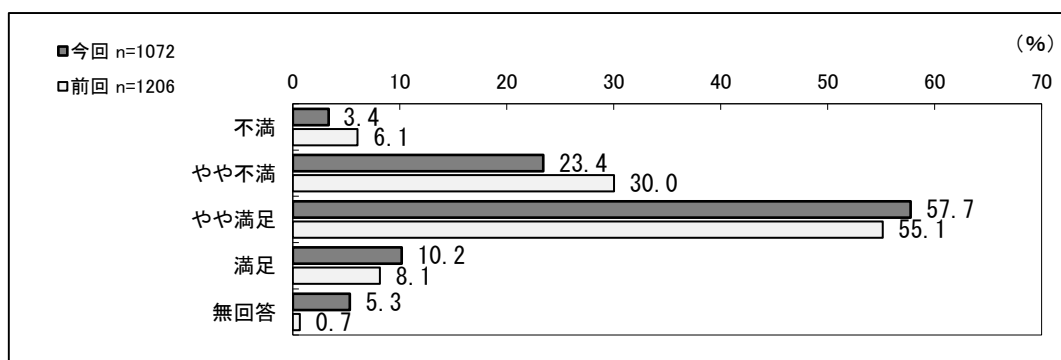
問 33 調布市における子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。



「やや満足」(57.7%)と「満足」(10.2%), を足し合わせた“満足”が 67.9%, 「やや不満」(23.4%)と「不満」(3.4%) を足し合わせた“不満”が 26.8%となっている。

前回調査結果と比較して, “満足”が 4.7 ポイントの増加。“不満”が 9.3 ポイントの減少となった。

■市の子育て環境や支援への満足度■



(6) 魅力的だと思う、他自治体の子育て支援環境

問 34 これまでに、「転居を検討したくなるほど魅力的」に感じた、他自治体の子育て支援策や子育て環境があれば、お教えてください。



以下のような意見があげられた。(一部抜粋)

※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

【給食】

- 世田谷区や千葉県いすみ市のオーガニック給食。長野県伊那市伊那小のような自由な小学校がある。

【学校教育】

- 小学生が7時30分に各エリアで集団登校。朝も遊ぶ時間あり。
- 福岡市で行われている『地域学び場応援事業』。
- 千代田区。渋谷区。ICTの活用普及が充実。すべての生徒がタブレットでノートテイクが出来るなど、書く事に困難がある児童でも特別扱いでなく当たり前になっている。
- 長野県伊那市の伊那市立小学校。広島県福山市のイエナプラン導入小学校。
- 東京都北区。非常勤講師で学力アップ（区立小中学校でチームティーチング等の授業を行う「学力パワーアップ事業非常勤講師」を採用。一人ひとりの学力の向上を図る。）
- 東京都品川区。小中一貫教育（全国に先駆け、区立小中学校で一貫教育を行う。施設一体型の学校も6校ある。）

【学童】

- 世田谷区の「おでかけひろば」。出産後しばらく世田谷区に住んでいたのですが、そちらのおでかけひろばに保育園に入るまで電車で通いました。三鷹市。学童クラブで一日育成の日に昼食を（希望者は）頼める。1食550円とききました。
- 学童の夏休み等における給食の実施（八王子市）。給食の無償化。

【相談】

- 以前、渋谷区に住んでいたのですが、1日遊べたりいつでも相談できる子育て支援センターが沢山あった。
- 兵庫県西宮市にある「さぼさぼ」という施設。おもちゃが充実していて気軽に相談できる施設だった。気軽に一時保育を利用できる施設があれば良かった。西宮市では民間施設で、一時保育を行っているところが気軽に利用できた。

【経済的支援】

- 鎌倉市：令和5年9月1日からフリースクール等へ通っている児童生徒の利用料補助。
- コロナ禍の子育て家庭へのクーポン配布はありがたかったです。調布市も子育てしやすい街です！！

- 江戸川区（私立入園金補助一律 8 万円）（給食無償化） & 府中市。
- ランドセルの支給（茨城県日立市）。
- 渋谷区に以前住んでいた。乳児期の支援センターが調布よりもキレイで遊具等も充実していた。インフルエンザ予防や医療費が 18 才まで無料，保育料も調布の半分程度，3 才以上は完全無料（副食費もなし）だったので，調布では子育てにお金がかかる。港区は出産費用の 70 万まで助成があると聞いた。
- 港区の修学旅行費の支援。
- うらやす子育て支援パスポート。
- 保育園に入れないときに，武蔵野市等の無認可保育園助成金は羨ましく感じた。
- 世田谷区。家事代行サービス券，出生後母子の健康管理のための宿泊施設。

【予防接種】

- インフルエンザワクチンなど特別区は助成があり差がある（医療）。
- オランダに住んでいた事があります。自治体のほとんどの手続きがオンラインで可能でカード決済もできとても便利でした。
- HPV ワクチン接種の無料接種券を男子にも配布していた。
- 世田谷区のインフルエンザワクチン助成制度。

【障がい】

- 武蔵野市の武蔵野市立第一中学校のエコルーム（難聴学校）。
- 国分寺・町田，特別支援教育で情緒級のある小学校がある点。通級制度では本人の負担が大きく，知的支援級では成長の場として物足りなさを感じる子供の居場所が無いと感じます。

【保育園・幼稚園】

- 多摩市は一時保育が充実していて，当日でも空きがあるので，親の急用や，急病に対応できるのがうらやましい。
- 以前世田谷の上北沢のこぐま保育園の中で行っている「グミの木」という子育て支援センターに行っていました。当時子供は 2 才で，保育園には通っていませんが，保育園児と一緒に給食を食べるイベントや水遊び，しし舞い etc 沢山の行事を楽しみました。食育にも力を入れていて素敵な場所でした。

【妊娠・出産】

- 港区→不妊治療助成金。

【妊娠・出産】

- 多摩センター。ペディストリアンデッキで道に出ず，安全に学校まで行ける。車や自転車をきにせず歩いて，ベビーカーのお出かけも安全で便利。相模野市。広くてきれいな公園が沢山ある。（相模原公園，麻溝公園など）。

- 千葉県流山市の送迎保育ステーション，買い物環境（複合商業施設），遊び場（多年齢対応施設），医療環境（土日診療）の充実度。
- 愛知県刈谷市，市内の小学校から塾，習い事先，又は自宅への送迎を子供たちのみで利用する事ができる相乗りタクシーを作り，試験的に運行させて男女平等に働けるよう積極的な取り組みを行っていると感じました。

【居場所】

- 不登校対策ですでに多くの自治体で取り組んでいるようですが，例えば板橋区の中学校のSBSルーム。学校内に作られた部屋で，時間割はなく不登校の子が自由に過ごせる場所。足立区にある駄菓子屋 irodori。駄菓子屋の奥にフリースペースがあり，大学生ボランティアさんがいて子供達が過ごせるそうです。少し上の世代のお兄さんお姉さんは将来の良いロールモデルになると思います。

【図書館】

- 日本一の図書館がある大和市。親も子ども学んで過ごせる「シリウス」のような場所を調布でも作ってほしいです。
- 図書館の充実→書籍の数と種類が多い。子どもの勉強スペースや習い事スペースがある。杉並区。

【生涯学習】

- 千葉県のアフタースクール事業。月額も調布市よりも安く，また就労にかかわらず利用できて体操や英語などもやってくれるのを知り，学童のあと習い事に行く子どもたちの負担も減るし，何より就労関係なく子どもの居場所があるのがすごく魅力だと思う。

【防犯】

- 府中市のGPS配布制度。
- まもるっち（区内小学生を対象にGPS機能付緊急通報装置「まもるっち」を配布。緊急通報時には生活安全サポート隊や近くの協力者が子どもの安全を見守る。）

(7) 市の子育て支援や子育て環境における課題と改善策

問 35 調布市における子育て支援や子育て環境に関して、(1) 課題だと思ふこと、(2) どう改善すべきかについて、考えがあればお書きください。



以下のような意見があげられた。(一部抜粋)

※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

■自由意見■

分類	問 35 課題	問 35 改善策
給食	学童で昼食の提供がないこと(あそび場も含む)。	学校給食がない時は、給食センターを当番制などで稼働。市内の学童、あそび場へ配達。虐待等を考えると無料提供としてどの児童も食べられるようにする！！(子ども食堂の意味も込めて)。
給食	食物アレルギーに対して、しっかりと対応してくれる地域であるはずですが、給食を出してもらえない子供もいます。アレルギー対応の給食室の意味がわかりません。(アレルギー対応の給食室があったので滝坂小区域に引っ越してきましたが、重度という事で毎日お弁当です)。	子供全員に、平等であたたかい食事ができる様にしてほしい。重度のアレルギーの子でも、平等に給食が食べる環境を与えてほしい。アレルギー対応の給食を作る人員確保が出来ていないとも言われました。調布市として、どの子供にも平等に、食事が出来る様に、各学校に対応できる方を配置して頂きたいです。何のためにアレルギー対応給食室を作ったのか、がわかりません。必要としている子供の為の給食室だと思うので、活用し、平等にあたたかい食事の提供を願います。
給食	調布市は農家さんも多いと思うので学校の給食に安心安全な野菜を提供してくれる方を募って地産地消の大切さを伝え、実施して欲しい。	地元農家と協力してオーガニック野菜を使用したメニュー開発に取り組む。
学校教育	長期休みの際の子どもの居場所作り。	学童を利用しない(利用しなくても良い)子どももいるため、夏休みだけ、過去に学童を利用した子の受け入れをしてほしい。

分類	問 35 課題	問 35 改善策
学校教育	小学校の校舎に入れる時間が 8:15,雨の日は傘をさしたまま待たなくてはいけないこと。朝の時間の過ごし方。	三鷹市の校庭開放のように朝早く来ても居場所があると安心。どうしても朝の出勤が早い日など学校に少しでも早く行って安全な場所で待つことができると助かる。本を読みたい子もいるので,1 教室でもフリーに使える屋内の場所があると更に良い。
学校教育	通学路の安全について。登校時間に通学路が抜け道に使われ,大変に危険な箇所があります。施設改善として,学校から提案しているはずです。	スクールゾーンの設定,通学時間帯の進入禁止。
学童	学童の不足,また学童と学校が離れている。	学校の近くにしてほしい。1 年生は移動が大変。また 3 年生までは少なくとも希望者が入れられるようにしてほしい。
学童	学童やあそびばの昼食を各自で用意しなければいけない点。あそびばでおやつが食べられない点。	給食や弁当を出してもらえるようにしてほしい。(帰ってからおやつだと夕食にさしさわる)。
学童	学童開放時間。	19 時までには帰宅できない場合の延長ができれば子ども 1 人で家でまたなくていい。また,5 時集団だけでなく 6 時集団があれば 1 人時間がへらせる。高学年は入りづらい。
学童	学童の利用できる学年の引き上げ	希望者は 6 年生まで利用できるようにして欲しい
学童	行政が運営している低学年が通えるフリースクールがない	行政が左記を運営する,或いは信頼できる民間と提携し,情報発信や通う子どもへの経済的支援を行う。
学童	助けを求めている家庭への第三者の介入	1 歳頃までは保健士が行なっている家庭訪問を 6 歳,10 歳,12 歳でも実施
相談	不登校児への対応。	年々増えている。親が相談先,どう対応するか,悩む人が多いのもっと親身に対応してもらえる先が必要。進学先の提案や支援の拡充を求めます。特に中高生の親で悩んでいる方を多数見えています。
相談	小学校生活における不安や悩みを学校に相談するも受け皿がない状態。	子供の見守りや声かけの場があると嬉しいです。

分類	問 35 課題	問 35 改善策
相談	双子,年子,三子以上への家事シッター支援,相談窓口。	人それぞれ負荷は異なるため,まずは相談しやすい環境が欲しい。
相談	発達障害児のいる家族への支援	相談先やカウンセリングの拡充
遊び場	駅前の公園がなくなり,緑や公園が減っている。	緑を増やし,子供が遊んだり集まれる公園をふやしたい。(多摩川市民広場のような公園がまたできるとよいです。球技ができる場所もへっているの)。
遊び場	気軽に屋内スポーツが出来る場所がない。	屋内施設の新設。学業のスポーツ内容の把握。 NTT 研修センターの活用など。
遊び場	子どもにとって最もなじみのある小学校の校庭で,朝も夕方も遊ぶことができない。朝は働く親が多く低学年でも1人で鍵をしめて登校する子も一定数いると思われ,安全性の不安がある。	登校前 30 分でも校庭開放して頂けると”1人でカギを閉めて出る”が改善される家庭もあると思われる。見守り要員も課題になるかと思われるが,開放している小学校の事例もあり,検討してほしい。
予防接種	インフルエンザワクチン全額負担。	高齢者と同じく公費負担していただきたい。
予防接種	インフルエンザ等の感染症の流行の防止。	インフルエンザ予防接種の費用を一部負担して接種率を上げた方がよいと思う。
医療	病院保育施設が少ない。	病児保育の施設を増やす。病児,発熱時などの保育の制限の緩和。ベビーシッターの助成金を増やす。
医療	夜間や日曜・祝日に受診できる医療機関が限られている	対応できる医療機関を増やして欲しい
障がい	発達障害児の支援	通級指導時間の拡充,相談医療機関を増やす
障がい	障がい児へのフォロー	放課後デイサービスの増設,時間の延長。フルタイムで勤務可能にしてほしい。学童と同等にして欲しい。
障がい	公立中学校の特別支援教室と通常級との交流授業がほとんど無い。	公立小中学校の特別支援学級の教員との意見交流会や,地自治体でのモデル校の取り組みを知る講習会などを設ける。
障がい	ヤングケアラーに対する支援。障がい児等に対する支援。保ゴ者。	療育施設を増やす。定員増,療育者の育成。

分類	問 35 課題	問 35 改善策
保育園・幼稚園	幼稚園の預り保育の保育料を補助してもらっているが、まだ負担が大きいと感じる。	仕事を理由に補助をしてもらう手続きをしている場合は、保育園の保育料と同程度の支払い額になる程度には補助してほしい。
保育園・幼稚園	市内の幼稚園の保育内容。	預かり保育の充実（金額の負担軽減）。 保育時間の延長（～15:00 まで等）。
保育園・幼稚園	待機児童対策ばかりで家庭内で育児している家庭へのサポートが不足	一時保育の枠を増やしてほしい。
家庭全般	市境に住んでいると、調布駅国領駅主体の行政サービスにアクセスしづらい。（調布行きバスは3時間に1本、徒歩50分）。	三鷹市など近隣自治体と相互利用可能な広域サービスの実施。
妊娠・出産	子ども授かりたいと思う人への支援。病院の紹介。	相談できるところがあると良い。
妊娠・出産	正規雇用として就労することと、妊娠出産仕事復帰のハードルが高いこと。	妊娠出産時の職場でのサポート、育児への男性の積極的な参加をマストとする社会的雰囲気醸成。
インフラ	道路整備	車道、歩行者だけでも道が狭く危ない中自転車の危険運転が目立つ為、自転車マナーについて周知させてほしい。
情報	支援政策の発信力	LINE 連携など手軽に情報を得られるシステムの導入
情報	保育園を利用しない保護者の孤立	LINE で子育てに特化した配信。地域情報も地域ごとに選べるようにする。
居場所	子ども食堂の増設。	児童館、情報館（染地）を閉館後に利用する等？（又は夕方～適正な時間帯）。
居場所	子供の居場所がない	学童、図書館、公園の充実
図書館	小学校高学年～高校生の子供が勉強できる学習スペース（自習室）が少ない。	図書館や公民館などをもっと活用しやすくしてほしい。
図書館	図書館の児童書の種類が少ないので、三鷹市や狛江市の図書館を利用しています。	児童書の種類を増やしてほしい。
図書館	図書館の居心地が悪い。あまり子供が利用していない。	武蔵野プレイスのようにカフェを併設したり、中高生が使用しやすい多目的ルームを作ってほしい。若者の利用が多く、とても良い雰囲気だった。

分類	問 35 課題	問 35 改善策
P T A	PTA 活動（就労している母が多く、時間的に余裕がない）。	外部委託。
防犯	虐待、性犯罪防止（子供を守る）の体制作り。子供に関わる仕事につく場合、採用時に過去の問題行動などないかチェックできているか疑問。	データベースの作成と当たり前のチェック体制を作ること。
防犯	中学校まで遠いので、夜部活帰りや、暗い道を通ったりが心配。通学距離等で自転車通学も認めてほしい。	街灯の設置。防犯カメラ。駐輪場（有料でも）の許可、確保。
防犯	市内の街灯を LED にして明るくしてほしい。緑ヶ丘は非常に暗く危険箇所が多々あります。	小学校周辺だけでなく、駅に向かう道を LED にして防犯のためにも明るくしてほしいです。

登録番号
(刊行物番号)

2023-258

調布市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書

発行日 令和6年3月

発行 調布市

(担当) 子ども生活部子ども政策課

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

TEL 042-481-7757

編集 株式会社ぎょうせい